





<ul><li>かん字のかくすう</li><li>二年生の漢字学習法</li></ul>	●かんじを わけて おぼえよう ●にて いる じちなま ●にて いる じ ● かんじの ちゅういてん①②:	一年生で ならう 字	かたかなの よみかきひらがなの よみかき	この辞典で使っている記号…この辞典の使いかた
91 85 84	83 77 75 62 56		i i i 30 8	6 2 1

音景総書部#ロ 漢文漢文漢文漢文教書 資し 訓を画を首に 字に字に字に字に科か料ま さささマのののの書と料ま くくく字に筆い部\*読\*なに・ ●まちがえやすい漢字………●「おおざと」と「こざと」…… まちが 年九四は類点ま 字に筆い部は読むなの順気分だみり え熟れ いいいの順気分よみ 出てくる学習漢 さく がと部首………… 書きかた…… す 0) いて 数えかた…… 0 おも な 漢文 字<sup>1</sup> 447 443 437 430 428 426 424 418 416 400 396 385 374 367 363

六多六		• • •	• 五	五三	四上	•	•	•	•	•	•	•	•	
年れ年	生等官	熟し形容読い語言のみ	0	生活	生共	同なじ	ち	本人	对於	味	2		音だが	
生せの漢字	のを	の似いかれてた	変が生され	変な		意味み					は遊り		同なし	
字なら学	字に明な	みいで意	る。習	字じ		の仲祭			味の	てい	U.	2	2	
う習	注意た	て漢な味	首はう	習法	注意	間ま						は	ば	
字じ本	点意:	变		2		読ょみ				2	:	:		
	2	わる			2	0)		:	:	ば				
		熟語				仲新間ま	:	:	:		:	:	:	
					:	:	:	:						
								:		:		:		
: : 853 352	350 339	334 310 305	202 287	286	29.4	970	250	252	245	220	220	225	910	

監修のことばかんしゅう

文学博士石井は

味のことば、形のよく似た字などは、「ちゅうい」やいまとめ、効率よく練習できるようにしてあります。本書では、そのような点について、格別にくふうをはない。 をしっかりと、正しくおぼえて、 の練習がたいせつです。はじめて学習する漢字は、ひとつれるしょう。からは、そのもとになる練習がたいせつです。すべての学習は、そのもとになる練習がたいせつです。 ひけるようにしてあります。 しました。 てあります。 これまでに習った漢字でも、使い方や意味を忘れたときには、巻末のさくいんで、すぐた。また、すべての字に成り立ちを示し、漢字にまつわるちしきを集めたコラムもあり。 また、 形のととのった字を書くときに注意をするところと、タヒヒト て、格別にくふうをこらし、小学校で学習する漢字を学年別くりかえし、使い方の練習を重ねていくことが必要です。くりかえし、使い方の練習を重ねていくことが必要です。(学習する漢字は、ひとつひとつの、読み方や使い方や書き方はる練習がたいせつです。とくに、漢字の学習では、くり返し 「ちゅうい」や「さんこう」などのらんで、 あやまりやすい筆順、ひつじゅん とくに、漢字の学習では、 便筆の字の手本を示して、簡潔に説明しんで、簡潔に説明します。 せいれい こうかん しゅうかん せっかん しゅうかん せっかん しゅうかん しゅうかん しゅうかん しょうれん すぐ

※本書は、 さし絵も改めて、 ては、「資料・さくいん」を除くすべてのページをカラーにするとともに、 初版発行以来長年にわたって、多くの読者の方々に愛用され版を重ねてきた。このたびの新版発行にあたっしょははほうちいらは祭れ より使いやすくするようにつとめた。 語例や使い方の例を全面的に検討しなおし、

どう

かこの本と友だちになって、

漢字やことばの力がしっかんじ

かりと身につくようにい

のっ

てい

# 使

\* 2 -0 0 う。 小はめ 字に学って校をあ で習得 学でう 年な漢な 別で字に 習点 字じ

ます。 べる こと II 最きが か 字じ〇 0 きます て、 ち が 2 部ぶか かた・書きかた・かた・書きかた・ か か

また、 11 資して 料学の 0 明さの ~ かい あ ジ 0 つ 0 て D 11 ま 7 字に た 0 かいてな」に 11

のなら

2 を 訓(三集) の 生まて ます。 0 0 ように 中 0 て ます め 関なー 係は・ 2 な 0 = 漢なら 字じべ 訓 7 0 あ ŧ か どう ま 11 す。 0

7 年九 80 深か年なと い生だに 漢なはなら 手でべ

В 文も 2 た ) 0 文もか 字じな は P 発きル 音だフ だ P 17 ~ を " AT ま +

ぼ 2 字にとが こ えて う 0 2 す た漢ない意い字に味みは か ら、 意いをこれ 11 ŧ を考え 0 字じで な ŧ す かい 5 漢な表すて 字じ意い を 文も一 お字に字に

字での よう 0 を見み辞じい入い出た典なく 見み辞じい 2 て 7 0 0 ま 0 す その 0 ŧ あ か しま 漢なお 2 ま 字にぼ す う のえ 0 漢な意いら 字に味みれ かい は を

漢なの

AN P あね。「姉むす

> とのかんけい)になる。 あうことをやくそく

もとの

字は「姊」。

はうの 「

るがまきつ

市と姉妹都市(申した四人姉妹の物語です

たし

市しきの

した市と

語です。

91:

に一をつけ

あわ

の 0 ŧ h n 11 0 5

あ 7 2 3 2 わ 0 字には、「すく この かい たく お 0 さな さん とに な あ 11 11 ٧ かい 0 あり 0 ます 意味み つ あ のと て ŋ 意いい 味みう わ n

とい 1= か う熟語 い。おさな 多たとう 方常 な 11 あ 2 ح いう 味なる 熟 ŋ 語 お 意い味み ます。 かい ぼ 11 えま う は、  $\neg$ 7 味べて あ い方」も参考 ます。「 幼さ

場は・・・ どの 字と t す 送 ま U す 0 11 かい 7 を -2 熟りつ 0 語こけ 0 7 2 使など てわ 使ぶれ 2 わる れ場けて 合き使か 3 わ 合きはれ なか

れい 0 参加 0 7 文だい n 0 て う 80 使力 7 わ 短なあ n 3 ま か を、 0

をお み字でえる い次である あ 3

部が画か

首

0

よ 2

び

か

5

7

ります

し数すす

0

0 が

上え首は字じ

2

順は首はに

を

0

各なぞ

一かい

行うたず画

部ぶ漢か

部ぶ下な

0

そ

0

か字じ

総さ

数すの

1

名な漢か見み

字じ

ŧ

す。

2 0

を 大蓝

2 な

1

£

字じ

80

あ

n

赤まと

小点の

11

Z える

な

ŧ

間 を

漢か 漢次 ・・ し 字に見∡読』め 0 0 音だし は 送き読ょに 2 ŋ 7 かい な す 7. 0 訓に 読は 2 h To 0

まなぶ

上えと \* ば 0 いた読 2 2 は書か # 小语表常 校うこ To を は 80 わ な ŧ 11 読ょす

この辞典の使いかた

がし 文は筆字で順 を ま 0 7 は 序りの ば を 筆さむ を な 順きれ 2 つ 11 つけ 速はい ま す い順 字じに

5

かい

す 0

2

11

お

5

2 0 7

¥

特をた

2

か

別で字じ

読ょ学がと

参

. な

知し参

0

\_

習漢ない

字が方が

00

具ぐ 7 か 体な漢かつ 各かに字い小は漢 字じた か湯ゆ漢か字じ漢かを 習 教教教 D 字じ桶を字じの 字じ書は書は 使な校らの 力を書かマ を 0 0 読ょの To 0 外がし 部ぶみ ¥ な 7 順はよ 教養体なる 表記の 分がん 0 び か 説は筆か方が部ぶ 2 字じ地ちく 0 ¥ か す to ~ かい 絵え熟り出 音がと 0 0 基き字じ漢かの か 読ょめ 3 か 本は例れ の教えつ 7 is 11 説さ な 的 を 0 類な 漢かん 訓明的 の書は 2 を 字じ 門もの 漢が体な を 7 T # せ t S 学が 象よ 明さみ 字じと 0 な 7 2 ~ 習家 11 せ プ " 部部 0 法等 7 分 な な 口 箱ぎす かい 書 0 う 2 0 11 部等主 0 の体が 書か 読ょ な な 口 11 首にす 書しの #

5

→ 指レ三 ズ 書かよ 0 あ 2 か硬 答え 字じの六 数す 参え年ねま 理りす え 1 解かが字じの 考ら生せす 手で 7 0 本は 次まち t 0 な お 下た漢かさ 子こ 0 0 11 7 指し字で部ぶて 記書 # 0 0 導等形は分流 is  $\sigma$ h 5 To 硬さに 向む生い 0 0 整点使し筆かつ 外がし 0 Z 2 用きのい 0 た な 7 手てて 2 11 正だて本は 0 主 ち す 0 11 11 3 か 11 11 漢が記きめ 漢が漢が ま 1 字じ号でし 字じ字じ 向む 7 7 0 がを

1

・このさくいんは、漢字を曲数 様にな らべたものです。同じ画数の漢字は、 学学順にならべています。 ・ 丸数字は、その漢字を学習する学学 総画さくいん をあらわしています。 51 @打 184 @处 382 @羽 128 ②丸 113 ②切 141 ①左 ②万 117 ②午 90 ①目 55 @北 200 ⑥於 412 ②丙 129 ②号 126 ②友 100 ①生 73 ③排 178 ⑤庁 397 ⑤自 100 40 ②工 109 ②太 185 ①白 78 @由 207 @穴 365 @色 111 ●このきしいんは、漢字を命管別になる べたものです。 ・九泉寺は、その漢字を学習する学年 部首さくいん をあらわしています。 ・本のついた漢字は、本泉は2ほかの作首 403 @ 19 132 ⑤制 [----385 ④停 344 ④健 165 ④倒 263 ⑤ 再 310 ②前 A) ( trans ( ) 374 ⑤ 剛 258 ②阿\* 137 ⑥割 43 ②于 208 ③他 184 ⑤情 このきくいんは、漢字を読みかたの五 たが同じ漢字は、条数頭になってい 音訓さくいん ●カタカナは音読み、ひらがなは訓読み です。赤い字は送りがなてす。 ●丸数字は、その漢字を学習する学年。 DE 50 SE の後 132 ●第 230 あな ⑥穴365 あらわれる ③表200 @#I 89 AI: (0.39F 305)

かい す 0 ŧ 5 か す かい ま b わ 6 6 使なか 読ょう か 0 画か か な 首 数すべ on to 11 ¬ が 7 2 0 音がわ 数なジ 訓えか 使なさ え 数寸 X 0 かい か かい 11 か、 せ 数 ŧ 4 8 が 11 11 3 t 何答 7 漢なし h 順品 字じめ 0 + 部ぶて かさ に使なに 3 首はい 部ぶれ いは 1= 首にて 属さす ŧ 2 11 う 4 2 ベレ 四

②兄 98 @蒙 216 あ5 ①字 74 Ata ②姉 99 ある ③有 207

⑥美 255 ALF (

⑤基 347

③相 182 あさい

3 総きジ 0 七 0 る 3 7 0 5 0 かい る 3 す を る 調は字じ か か 部ぶら 読ょ合むし 0 首はの る 学が す んが 年な 2 7 あ 11 思む な 8 かい 画 正差主 2 る 0 わ x 字じ かい か 7 = ふら を 11 11 画なを ち 0 参える 8 sh 数き使かん が 0 0 × + のいか す 2 や 2 少す + # Y 注意 7 あ す 四 # や な 11 四 読は注 h す t' かい 六 よ = う 11

0

引いさ

0

~ 29



はらう

3

う

-

11



まがる

とめる

まげてとめる 1 おれる (一度とめて)

// はらう はらう〈右〉 ほうこう 形の注意 画の方向

わりあい ○空ける 才長さの割合

漢から 字じん 0 0 執い \* 0 語ご 0 11 熟りの はい



です。また、筆順や筆使いは、漢字の書き方の基書く語(=外来語)をたくさん覚えることが大いから、お子さんは苦手なものですから、片仮名で大きにない。 がららず から、お子さんは苦手なものですから、片仮名で大きにない。 からしゃん まずかん は しい触れる機会が少ない

0

させる

「仮名」 片仮名は、目に触れる機会などの練習をします。 などの練習をします。

半濁音・

物促音

長ちょう 音ん コは

を

言葉が、楽しい詩

一覧表には、その文字の入ったいちらんひょう

や字形の取り方の注意も載った。楽しい詩と共に載せてあり

ます。また、 ます。

の開け方の写真をまれて練習まず、「あいうえお」の母音の発

えお」の母音の発音を、正しい取り方の注意も載っています

口台

ように、言葉の中で覚えていていくわけではありません

[平仮名]

お子さんがたは、文字を単独に

がたは、文字を単独に覚えんがたは、文字を単独に覚え

おうちの

か

た



かっ

る記号

漢字の意味 は (訓読み (訓読み (訓読み) 読ょ 2

部為

分は送りがな

0 赤字の

漢か (字のでき方かた

たなちり

ŧ

いみ

その漢字のことばと、

熟じの

語ご

0

使用例

書き方や使 かた きゅいてんかた ちゅういてん

の熟語

0 点

0

位置を少

しはな

○どの線も少しずつななめに書

□二画目は

右上がりに書きます



えの えを えを えんそくに か 11

おりがみ みんな おてだま おもしろい おえかき おはじき あそび

●おうちのかたへ●平仮名の | 字 | 字について正しい発音、字形、 書き順などをしっかり習得させま しょう。各文字についている詩を読み、楽しく発音や言葉を身につけさせましょう。筆順や字形は、

#### ひらがなの よみかき

あひるさん

あさです

₩棒は少し曲げて書かせまし あさがお さきました

ます。り ならない

たべまし

つぱ





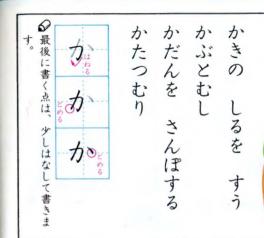


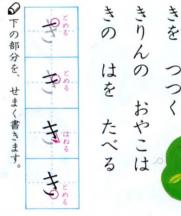
注意を参考にしてください。「あ・い・う・え・お」は基本になる音ですから、写真のように正しい口 形ではっきり発音させましょう。

け・こ

の縦線は、

ひらがな









「おれ」 は

0



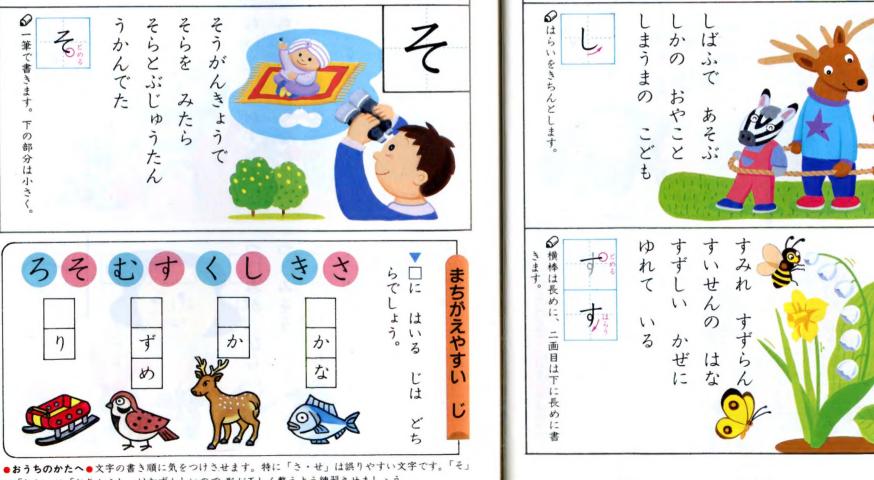
おうちのかたへ●カ行の音をはっきり発音することが大切です。口をしっかりあけて、「か・き・く・ け・こ」の入った言葉を言わせましょう。また,「はねる」「とめる」をしっかり覚えさせましょ

2

ŧ

せ・そ



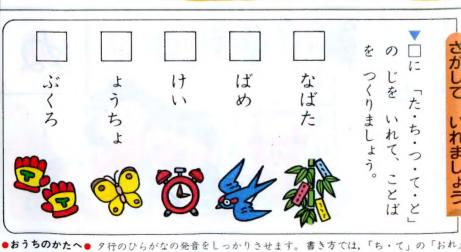




と「おりかえし」はむずかしいので 形が正しく整うよう練習させましょう。



15





をしっかりさせます。書き方では、「ち・て」の「おれ」 て何回も練習させましょう。つは小さい「つ」と大きさを区別して、

ます目に大きくきちんと書かせます。

₩の棒を少し短くななめに書き、「結

₩線を長く書きます。

10

10

をていねいにします。

いるのは

だれかな

のびのび

あそぶ

₩線を長く書くと字の形が整います。

⇔字の形が○になるように気をつけて書

ね

17

ねころぶ

こねこ

ŧ 0

だい

すき

ねこの

かぞくね

ねむっ

7

いる

のはらで

あそぼう

おっぱい

ねだっ

のみもの

のりまき



にゅうどうぐもも まけちゃった にっこり め わらって

82

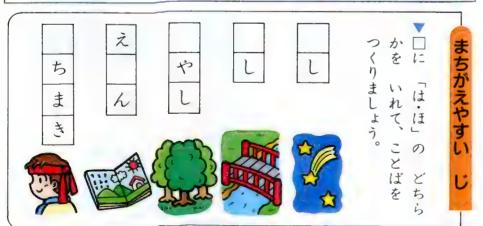
◇字の形に注意して書きます。 ぬらす ぬのを ねる ぬう ぬり D しに らでしょう。 えを ぐるみを ず か 2 ね じは どち

●おうちのかたへ●「ナ行」は字形がむずかしく、バランスよく書かせることが大切です。縦線の長さ (「に・ね」)、結びの形 (「な・ぬ・ね」) に注意して書かせましょう。「の」は丸い形に、バランスよく

書くようにします。

ひらがな





**●おうちのかたへ●** ハ行のひらがなを, はっきり発音させます。「は→あ」「ひ→い」「ふ→う」「へ→ え」「ほ→お」に聞こえないよう、口をあけて言わせます。「ふ」の形は正しく書くのがむずかしいので



何回も練習させましょう。

左右

170

まねする

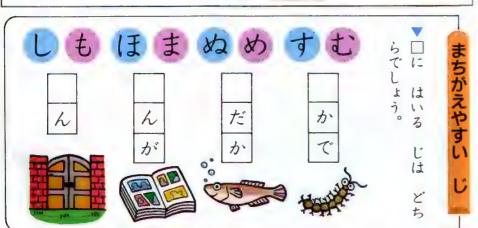
ま

き

まつりの

まちかどで





●おうちのかたへ●マ行は形を正しく書くことが大切です。特に「み、む、め」の文字をバランスよ 「み」は横長に書くと形よく書けます。「む」は点の位置に気をつけ



させましょう。

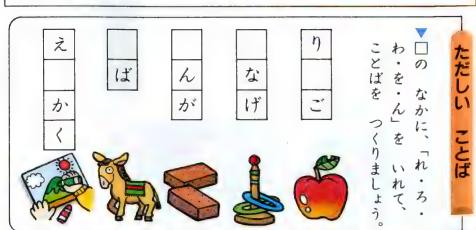




●おうちのかたへ●「や・ゆ・よ」は小さく書く「ゃ・ゅ・ょ」があるので、ます目にきちんと書かせます。「ゆ」を正しく書くのはむずかしいので、お手本をよく見て練習させましょう。

を・ん





・おうちのかたへ●「れ」「わ」は形が似ていますが、「わ」は「和」が字源です。2 画めの右側を横長に書くと形よく書けます。「を」と「ん」は使い方がそれぞれきまっていますので、文例をいくつか参



考にして、正しく使うことができるようにしてください。

つ

ΚÞ

0

ゆ

は

to to

んをま

とろう

13

### 0 が (だくおんと はんだくおん

よんで が じに なれましょう。

ばだびざ がぎぐ がぎぐ ぜぞ

ともだち な いかよく 0 きて おそぼう あるく 11 4 ち

むか しえて じいさんが しの ごまあそび ぶんごまに あそびに れた

ち

さく

か

よんで

ちいさく

かく

なれましょう。



ば 750 ::

ぷしたん いほ 13 :: かわの たげ うかが .:

なが あば めら がぱ b つ る 13 つ 13 0





きか ってても 0 たべ きて

ひろっ こまを つ

きの

2

を

きょ

うそうだ

おお

ような

17

てる

んぎょうげき

みて

きょ

ゆ



う

たを

たっ

なかよく

なっ









ば遊びの詩をくり返し続きせて、正しい発音ができるようにさせてください。

■おうちのかたへ■濁音、半濁音、拗音、促音は、子どもさんには発音がむずかしいものです。こと

### のばす おん

は、

のばす

おんです。

のばす

おんの

かきかたを

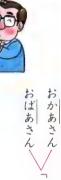
おぼえましょう。

ひらがな

#### ゆうはんを かぞく 7 たべ る

おばあさん おねえさん おにいさん おじいさん おかあさん おとうさん おとうと





のばす

おん➡「あ」と

かきます。

1= ち

2 つ

ね 7 す

せ

助詞の「は・へ・を」は例文を使って何回も書くことが大切です。

17

はひ な た 7

II 0)

t ·i.

3

3

D

おじいさん おにいさん ح' のばす おんりい」と かきます。

ゆうやけ ゆうはん >「ウー」と のばす おんし「う」と かきます。

おねえさんー - 「 ガー」と のばす おん➡「え」と かきます。

おとうと いもうと おとうさん のばす おんし「う」と





「え」と [ \ ]

つぎの

ぶんを

よんで

みましょう。

「は」と

ヘ」と

「を」

2 「へ」も、ことばを よみます。 つなぐ ときには、 T H L

びが こちら は つ 30

「お」と 「を」

29

ましょう。

11

ちねんせいです。

O の

なかに、「は」か

「わ」を

11

れて

3

つかいます。

「ワ」は、ことばと

ことばを つなぐ

ときに

よみかたが

あります。

「は」の

じには、

「ハ」

۲

ヮヮ

0)

ふたつの

あれりは

ハはとだ。

なぐ どちらも「オ」と ときには、 「を」を よみますが、 つかいます。 ことばを

かお・ あらう。

#### 2 「ぢ」 「ず」 2 「づ」

ばや、 ふたつの つかいます。 おとが ことばが つづく < っついて ときには、 「ぢ」や できた 「づ」 こと

ひらがな



じしん じしゃ

ちぢむ はな

ぢ

すずめ ちず





おり づる

つづく

つ まず書き方の原則を覚えさせることが大切です。「おねえさん」「こおり」「おおきい」「とおい」な な

おうちのかたへ●のばす音(長音)は、

かたかな





おうちのかたへ●かたかなには直線が多く使われています。この表で、かたかなで書くことばに親しませましょう。かたかなの語い数をふやすことが大切です。

ヤッケ

ユーフォー

ヨーグルト

ライオン ランドセル

リボン

リュックサ

7

1

70

3

3

 $\exists$ 

ラ

め・はね・はらいなどは、正しく確実に覚えるように練習させましょう。

ルーズリ

レモン レーンコ

ロボット

ワワイ

ペンツ

パンカチ

1

7

7

マヨネーズ

ミキサ ミシン

4

8

4 4

メメ ダロン

モーター

ボル

E

3





つぎの かたかなにも よんで、 \*\* よみかたに カギ つく ものが なれましょう。 あります。

●おうちのかたへ●かたかなで書く音にも濁音、半濁音があります。濁点(。)半濁点(。)の有無

3

ユ

スに

1

7

### のばす おんと ち さく か

かきあらわ かたかな 0 します。 0 ばす おんは、 で

ホ

丰

ユ "

7 ケ

> 丰 to 1 ラ 12 " いク れに 7

カ ŧ 丰 う to 3 ラ  $\supset$ プ きた 0 フ たく ル ムに

ゆ ったは つだフ 7.

どメ

たしべに

ŧ

のも

2

つ

6 0) -

な

だ

11

すき



ユ 3

ツ

ヤ

あります。

ち

いさく

か

<

じが

はいる

ことばも

ア

1

ゥ

I.

オ

かきじ

ゆん

かたかなの

かきかた

7/

よこに ならぶ うえから したへ

1/

たてに ならぶ

えへ

11/

ひだりから

た

11/

うえから

したへ

0

か

たち

でない

3

でる

3

叉 でない

叉でる

7 11 3

1=

ナ 2 2 エメ

ユワ 2 2 コク

アテ 2 2

マチ

ケセ 2 2 クヤ

さい 5 ごに かきます。 したの っまる は、 かきましょう。 いちばん

●おうちのかたへ●字形が似ているためにまちがえやすいかたかなの字を掲げてあります。かたかな

書きかたは、ひらがなの場合とはちがっています。のばす音は長音記号(一)を使うことを意識させ

ランドセル

ガラス

ゴオラ

フランス.

1911

スイス・

アルプス

アメリカ・

ワシントン

## かたかな か

かたかなで か ことばです。 が いこく きた ことば(=がい らいご)と、 ものおとや なきごえを

小が いこく 0 とち 0

なまえ、 どの P × 1) なまえは、 P カ ルプス、 ニュ 3 ル 7 など、 など、 がが 11 11 こく 00 やまや to まちの かわな

くのジ

ひとの かきます

なまえは、

3

メ

1]

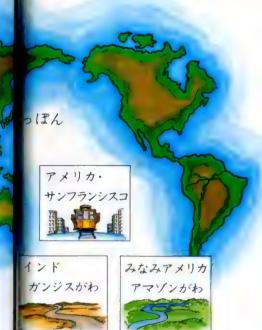
11

0

0

なで

フ















4

11 3

11

ろな

ものおと

ガチ コ

"

7

ポチャ

えプー

アフリカ

サハラさばく

ボタ

ガ

モー

ワンワン

ユ

3

LV

から

きた

ことば

カステラ

んは

かたかなで

かきます。

ことばが

ありますか。

が

から

きた

ことば





おうちのかたへ●片仮名は、 1・2年で文字の読み書きを習得し、 ます。片仮名で書く語を区別するのはむずかしいので、常に語句として学習し。

**⑤**どう

دُ ڏ۔

なきごえ

かたか れるようにすることが大切です。チョコレートやチューリップなど、のばす音 (一) の書き方は特に むずかしいので、日常生活の中で意識づけさせるように

# 年生の漢字学習法

### ○学校での勉強

次に、平仮名・片仮名をふくむ文 まず、小学校の文字学習の基礎と して、机にすわって書く姿勢や、鉛 響の持ち方を指導します。

はね・はらい・おれなどの画や、点など、はね・はらい・おれなどの画や、点など、はれいはいいのがあいら始まりますが、横・縦・関の初めから始まりますが、横・縦・関の初めから始まりますが、横・縦・関の初めから始まりますが、横・縦・はね・はらい・おれなどの画や、点など、はね・はらい・おれなどの画や、点など、はね・はらい・おれなどの画や、点など、はね・はらい・おれなどの画や、点など、はね・はらい・おれなどの画や、点など、はね・はらい・おれなどの画や、点など、

も意識して書く習慣をつけさせます。はれ・はらい・おれなどの画や、点など、はれ・はらい・おれなどの画や、点など、漢字の構成要素をしっかり意識しながら、漢数字などの簡単な字の学習がら、漢数字などの簡単な字の学習

## ○家庭学習のポイント

①体で覚える筆順

この時期に、基礎的漢字の筆順をこの時期に、基礎的漢字の筆順を一年生は、繰り返し練習する学習

②はね・とめ・はらいの指導が最も大切です。ごの時期に、基礎的漢字の筆順を

その漢字がテストで正解不正解ということではなく、教科書と見比べいうことも大切です。そうした学習をることも大切です。そうした学習をることも大切です。そうした学習をあことが、「ごういうところははらう」とか、「こういうところははらう」とか、「こういうところははらう」ということを理屈や知識としてではなりにイメージし、獲得することになりにイメージし、獲得することになります。

③漢字の意味の理解

漢字を学習すると、その漢字を使

しまう誤りです。 名の使い方と同じものとして使って名の使い方と同じものとして使って

ことを理解させることも必要です。ことを理解させることを指導する必要した、たとえば「松・梅・桜」などを例にしたり、はた、たとえば「松・梅・桜」などと例にして、「木」が植物の木であるととを理解させることも必要です。



# 一年生で ならう 字



=

===

ラサン

3かく [一・2かく]

(いち)

Va み・みつ・みっ

角形・三しん・三日・三日月」②さんはなけいえ かっこは (三わ)・三台・三さ・三本・三回・三は (三わ)・三台・三さ・三本・三回・三は (三わ)・三台・三さんばん えがいえ

3

(三わ)・三台・三は(三わ)・三台・三

んめ。「三学期・三女・三男」

かた・メロンを 三まい

三つ

もらっ

る。

うちには、

しまった。マニかく

さんこうとく

よみかた。「三味線」

みっ

7

ある。

きってを

かいました。

U

よこが

三えば

います。

> 三きゅう三しんして

れんしゅうを





とう」るおなど

たなり ちがえた。 さんこう おんどを かけっこて、 たんじょう日で、 ぼんの よみかた。「一 よこせん)て、 なりまし た。 とった。 マー月

あらわ

またに もう すぐ 二学期が ~~ふた・ふたつ ナ)」「ニナ日」「ニ人」「 い・二本・二ひき・二回・二わ」②にはい・二本・二ひき・二回・二わ」②によいにはませんにより、こまり、これのの「二ま んめ。 えんぴつを ねえさんと 二(=にほんの 「二学期・二月」 わかれて 二に年と おにぎりを (10) いる。 けずっ ニっ よこせん)て、 よみかた。「二十歳(二 はじまります。 ▼夏休みが ニっつ はなれて スちが ふたつを おわり、

西とシ 5かく [□・2かく] (くにがまえ)

いとよつ・よっつ・よん へ・四つかど・四 数分の 29

四

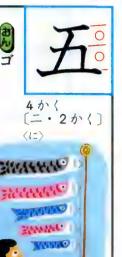
かくい・四わ・四ひ よっ 四北

ばんめ。「四月・四男」 四かくい 四にぼくの 四つかどの ねこの たくぼくは 子が テーブルで、 ひっこしを ポスト 四ひきも まえから ごはんを 、はがきを入れた。 うまれました。 四ばんめてす。 たべます。

口(= あわせて、 くち)とハ(= よっ かれる かたち)を あらわし

「一」を「壱」とかくことがある。これはなんのため? かんじクイス





できいつ・ ٧N つつ

こ・五ひき・五本・五わ・五人・五円・五八章 一数の 5。いつつ。「五 50 つ。

名」②ごばんめ。「五月五日・五年生」 かか

子どもの日です。 いかた

・おとうとは みんなて 五人です。 ゆうがた 五さいてす。 五じに、 ▼五月五日は、 いえに

かえった。

されたう たな ちり X = す)から、 とくべつな かたつの せんが 「五つ よみかた。「五月晴れ」 なっ まじ か かない。

五の



2かく

4かく

(はち)

くかむ・むつ・むっつ・ ・六足・六本・六わ(六ば)・六ひきのとなっている。なっつ。「六 むい

(六ぴき)・六円」2ろくばんめ。「六

ろえんぴ テレビを とまって じ・六年生」 つかいかた マすず 六月六日です。 つを マラソンを 見ます。 います。 六年生の ゆうがた わたしの いる。 本入りのでんせん たちが、 たちが、校 たんじょ

う日は、

ていて た なり おお なり かたち)から を あらわす。

とややや つ・ 2かく 4 (はち) 0 つ・

見いチ

るシチ

2かく

(いち)

[一・1かく]

くれなな・ななつ・なの

八重ざくら」2はちばんめ。「八十十十八わ(八ば)・八ひき(八び)・八ひき(八び)・八なき(八びん)はなりはなり、はないのではなほん

いな数なりのの



43

め。「七月七日」 2しちばん

ななほんしたほんしちごさんではんしたほんした

動数の

ななつ。

おこる わるくて、 八重ばが 出ます。 かたくたこの こと)を ハつあたり(=だれにかわいらしい 女の子 した。 **>まいあさ** 足は、 女の子。一本人は、八本人 八じには、 ▼きげんが ある。

五三の

いわいを

七夕てす。

さんこうとくべつな

よみかた。

いた」「ひち」と

よまない

こと。

る。

あすて

せつに

なります。

七月七日は、

金ぎょを

七ひき

かって

月八日・八じ」

さんこう とくべつな 八(=みぎと ひだりに よみかた。 0 つを 「八百屋」 る あらわす。 かたち)

セ・ハ

たなり

じっ

字を

切る

かたち)から

字に

なり、

ななつを

あらわす。

た なり

かんじクイス

円玉

百



ラジュウ・ジッ

2かく [十・0かく]

くんとお・と

きゅうほん 九重」②きゅうばんめ。 上てす。 ひき・九本・ いかた・ねえさんは、 さんすうて、 「九月九日」 ぼくより

なり ゅうは、 r は、 んじょう日は にわに、 も(=手を 九時から して九のつ」と かかない 九人ずつて にわとりが 九月九日です。 まげた はじまります。 おこない 九わいます。 かたち)から 九九を ならった。 います。マテス **・**やき

●数の

10

とお。

十円・

九つも てきた。 つぶって うばんめ。「十月十日 本・十ぴき・

十月十日はぼくの

かぞえる。

▼けんすいが

ロナ

おにごっこの

おにが、

目を

たなり よむ。「じゅっ」とは 「十本」「十ぴき」「十ぱ」は、 ためこうとくべつな 歲」「二十日」 (=ふとい せん)の よまない よみかた。「二十」「二はくのたんじょう日だ。 「じっ」と

ふくれて) ↓十と なっ まんなか

九と

ここのつを あらわす。 3かく[十・1かく] (じゅう)

き)・百ぱ(百わ)・ 百本(百本(百本) (13) 十はい。「百点・百 百 本)・百ぴき(百ひ 百回 2数が 百 百

1

日かとヤ

7

るかセン

くかち

6かく
〔白・ | かく〕

百百百

テストで、 ことがらが たまった。 「八百屋」 こと。 百てんを くみあわ のっ 百 を るように、 日)てす。 はいれる。

▼ 千円さつを

とった。▼百円玉が

百こ

かたくこくごの

百貨店・

百科じてん」

付じてんには、

たくさんの

います。

草・千人力・千羽づる」 つかいかたくこの たくさん。「千ち」 出して、おいかんには、 おつり 十人だん

たちり もらう。 みんなて すもうの ともだちの なり、 一を キ羽づるを 人ぎょうを 千の くわえた 秋楽(=さいごの びょうきが おった。 なった。 かたち)か つくった。 なお

百·千

た ち り

せて

百と なり

くをあらわす。

白(=しろ)と

=

いち)を

さんこうとくべつな

しゃく」と

よまない よみかた。

かんじクイス

ーロッパ・アフリカ・アメリカ、あと一つは?

こたえ「見ざる・聞かざる・言わざる」。よけいなことはするなといういましめ。

すがつとおか・十色」②じれ(十ば)・十色」②じ

用心を

しよう。

花火をした。▼ふる と 日本には、火山が と 大いへんだから、

おおい

なったら

さり火(=魚を

さそいあつめる

みんなて

> ふねの

火が曜かい

テストが

ある。

47

いみ

「灯火・火かげ」3「火曜日」の「火事・火山・花火・消火」2あ「火事・火山・花火・消火」2あ

もの。

こと。 かり。 のお。

つかいかた

火が

まっかに

もえて

いる。

火の

00



りたいよう。 ひの ひかり。

ま。「日夜・日中」るいちにち。「祭におけ、日本・日あたり・日光」2ひる 日・よく日」の「日本」の りゃく。「日米」「日米」

こと。

曜日」の 光よくをする。 日曜日に と日あたりの ハイキングに **五月三** 行った。 へや。 日につ

日」「今日」「一日」「二十日」「日和」「二日」「さんこうとくべつなより、さかた。「明 ○(=お日さまの よみかた。「明日」「昨 かたち)から、 しゅく日です。 日十日

くとつき アグツ・ガツ 月月 月 4かく 〔月・0かく〕

月

正月・年月・今月」3「月曜日」の一年を十二にわけたひと たまれたできょうに、一日月・名月」2日月・月夜・まん月・三日月・名月」2日月・日夜・まん月・三日月・名月」2日月・名月」2日のでは、かり、 ひとつ。

「五月雨」 月の こんしゅうは、月・火が ょう。マ十月には、 とくべつな かたちの かた。まんまるい クッキー。▼今月の うんどう会が よみかた。「五月晴れ」 休みです。 お月さま。 こと。 ある。 もくひ マニ日

たなり り(=三日月の なっ て てきた 字。 かたち)から、 クレ月と

なって

国がスイ くねみず な か 水水 水 4かく
[水・0かく]

きかカ

4かく 〔火・(

(0)

0か付

いか・\*ほ

火

火

もの。「水道・水車・水えい・水い」 りみず。 また、

ろ・水あめ・雨水」②おおみず。「水が い・こう水」のすもうで とき、 しばらく 休ませる しょうぶが こと。「水入がながびい

水分りのひた 0 り」の「水曜日」のこと。 つかいかたくつめたい ľ と(=ながれる ひろがる。 ゃぐちを ひねる。 マこう水に あしたは みずの 水谷を 青々と おそわれた。 のむ。 ようす)から、 水曜日だ。

たな ちり なった。

(=ほのおの なって かたち)から、 てきた

火·水

たなり

かんじクイス



くんき・こ 木木木木

目・木刀」の木曜日」の 不のは」②ざいもく。「 ●たちき。き。 大きな 木材・木馬・木 こと。 木が 立たっ

たなり ある。 わたる。 さんこう とくべつな とうとと これは ★(=じめんに はえて ピアノの つみ木て みごとな 木かげて、 れんしゅう あそんだ。 けやきの よみかた。 ひとや いる 木綿 ▼丸木ばしを 大木だ。▼お 字に木き よう。 かた

アルキン・コン

8かく [金・0かく] 〈かね〉

Ve かね·かな 金金金金金 りきん。 こがね。 金

金

ふ金」4「金曜日」のこと。 山」とかなもの。 金」のおかね。 いかた・オリンピックで、 金もち・金がく・き 金づち・金ぞく・は 金貨・金 てんらん会て 金メダルを

いる。

(=ほとけさまを ま(=土と くみあわせ)が、 きんぞくの まつった ▲→金と ところ)。 つぶと なった

とれた。▼お金を

きふする。マお寺の

金堂

金しょうに

えらばれた。

▼金色(=

金いろ)に

金貨の

山湾

ち)から、

米・木と

なった



さ・左せつ・左右・右左」

つかいかたくつぎの



あわカ・ゲ

3かく [一・2かく]

上50

Val した・しも・\*もと・さげる・さがる・くだる・

くだす・くださる・おろす・おりる

ほう。「上流・川上」4あがる。「上り ところ。「ちょう上」るはじめ **り**うえ。 「地上・水上」②た

京・向上」もすぐれて さんこうとくべつな 上って、屋上に ふねて川下りを )(=下じきの のちょう上にないすの 上がる。マ上品な うえに たどりついた。マル上からなど 上に、 よみかた。「上手」 いる。「上品・」 した。マかい 上着を ものが 人でんを 上質」

「上下・地下」2ひく

いるのした。 の「年下・部下

からおとる。「下品」 3おわりの

さげる。 ほう。

いかた・木の

下りる。

をみる。▼川下にのる。▼

下りざか。 むかう。 台から

下品な >きおんが めんどう たい

たなり さんこうとくべつな がる。マゆるい

(=おおいの いみ)から、丁 したに よみかた。「下手」

かたち)から、

上上と

なった

カウ・ユウ 5かく [ロ・2かく]

5かく [エ・2かく]

右51

マルみぎ

Vaひだり

みぎ。「右手・右がわ・右せんさき。「右手・右がわ・右せ 右

つ・右岸・左右・右左

左手に 白い はたなかいかた マ右手に はたをもつ。 は

みうえんが 見まわす。マ日本では、人は 右せつ(=右に まがる こと)すると、こ ある。マきょろきょろと、 右がわつうこう 左右を しんごう

てす。 う(=みぎ手)と かいたのて、「ノ」を D(= くち)を かくと おぼえよう。 くみあ

火(=ひだり手)と エ(=しごと)を みあわせて、たし左と かいたので、「一」を かくと、 なった おぼえよう。 先に、「一」をあとに 

左・右

先に、「ノ」をあとに

さんこうもと「シェ」と

左右を よく 見よう。

きんしてす。

▼どうろを おうだんする とき

こうさてんは、

左せつ(=左へ

まがる

こと)

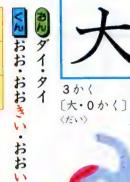
ろでは、車は

まがると、

左がわつうこうです。▼このえきがある。▼日本のど

どう

小53



せつな。 りょうが 「大木・大地・大 おおい

「大ぜい・大すき・大よろこび・大せいこう 見上げるような なった字。 いる して はな

五月の

足が

れて

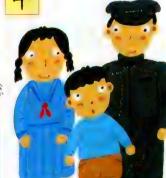
いる。

ひじょう

りとちゅう。

いるなか

アナュウ 4かく[1・3かく] (ほう)



じしんが じゅ 目が たたかかった。 さめた。

んは、らいねん 七(=はたざおを かたち)から、 わくの まんなかに 立た 中中と なった。

3かく [小・0かく] 大 52 (しょう)

うえ上

た下

ぼくは

にいさんは

~ ちいさい・こ・お

ショウ

2すこし。「小犬・小鳥・小

あまえて 小鳥を もうとは **>きれいな** ては、

小(=ぼう É けずって おかあさんは、 ほそく

あらわした

かんじ7イス 月のさいしょは「ついたち」、さいごは「みそか」。 1年のおわりは?

5かく [目・0かく]

(x)

目ひょう」4みだし。「目次・品目・目「目つき・目測」③ねらい。「目てき・

め。「目玉」2目て

みる。

ろく」のきざまれたもの。「目もり」

手足」でもつ

てのひら。

はたらく

曲とソク

くいあし・たりる・たる・たす

足足

口

足足

Vねて・\*た

了 手

手

手

もじ。「手紙」「もり ところ。 「うんてん手」母かい 「とっ手」る かた。「手だん」

びょう 手紙を か 手づなを ーとくべつな いえの とる。 手じゅつを する。 手伝いを する。マう よみかた。 やきゅうの 上手」「下 **し**ともだ せん手。

まの

手」「手伝う」 チ(=ての かたち)から、手し手と

な

・び」②あるく。「遠足・足なりあし。「土足・足あと・手

足・足くび」であるく。 み・いそぎ足」るたりる。

足」母ひとそろいの ことは。「一足」

はきものを

かぞえる

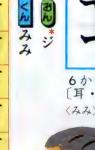
「不足・まん

なみを とって、 おかねが かたマふろ場で そろえて あるく。 まん足だ。▼げんかんに、 すこし 足を 足りない。 あらう。 くつが 百点なる

たなり なん足も ならんて の(=ひざから かたち)から、 あしの いる。 氏し足と さきまでを あら なった。

6かく 〔耳・0かく〕

(みみ)



B2\*:>

あんモク・\*ボク

くんめ・\*ま

日日日

目

F E 匡 耳

く。「耳ざわり・耳なれる・聞き耳・はもののはし。「パンの」耳るきもののはし。「パンの」耳るき コない

た・耳もとて するなら、 転校するなんて、はつ ささやへ。 パンの から、 耳ざわりな 耳を ▼耳を きり

をしきしす

目・耳

た な り

かたち)から、

日十日と日と

たなり

なった

€(=みみの

かたち)から、

もらいなさい。

なった **(=めの**  本は学期の

目ひょうをきめる。

あたらし

ながめる。

ものさしの

よむ。 目次を か(=目が

かくれる するどい ▼けさは、

ほど)に

▼ぼうしを 目ぶ

かぶる。

おとす。

する。

▼森君が

▼耳なりが

すまして、

音を

きく。

目つきの

人がはやく

目が

さめた。

つかいか

むかしからこわいとされていたもの、

7かく 〔足・0かく〕

(あし)

ぞえる

形・人手」②人の

ひと。

「人生・

数なを

さんは、

ものまねの

名人だ。

。▼りっぱな 人になる 人に

人通りの

おおい道を

あるく。

はける

小さい

。こまかい。

とても

やさしい。

さんこうとくべつな

よみかた。

「大人」「一ないます。

八」「二人」「若人」

(=立って

ひとを

よこから

様子が

間になりたい。

>女の子が

からだの

よびな

くんくち コウ・ク

3かく [ロ・0かく] ((5)

まど口・じゃ口」の人のかず。「人でまど口・じゃ口」の人のかず。「人でした」 つかいかた。マロを大きく 2ものの りくち。 「ロぶえ・ロ元・ロ かず。「人口」

ロぶえを ふきながら ききかた)て、 あるく。 ちゅういする。 \*きびしい

しらべる。 い。▼いろいろな 口調(=ロの みなさん、 出ロて 国にの 国の人口(=人のおしあわないて 数年 くださ

STATE OF THE PARTY OF THE PARTY

**()** なった

・ちの

かたち)から、

リーロと

はな

字口

あけて

2かく [人・0かく]

(02)

意ジン・ニン

いかひと

**₹**≥

ラシン・ス 3かく [子・0かく]

子子子子 ●こども<sup>。</sup> むすこ・むすめ。

「子ねこ・親子・子そん・王子」②ひと。 しょうたいを 女子・男子」るものの あらわす なまえや ことばの

ことば。「様子・調子」のたね。 原子」 とびまわる。 なかの

女子大出てす。 とる。 くどう

さんこうとく へんだ。 べつな よみかた。「迷子」「息子」

種\*に

かんじクイス

人·子

なった

たみた

ようす)から、

・ハー人と

たなり

多(=ちいさい

こどもの

かたち)から、

なった

男58

- 3

まるジョ・\* 二 ヨ・\* いれおんな・\*め

りおんな。 女 」。「王女・長女・次」の「女子・女性」とむ

口

m

女

きの せん手。

た。 長男です。 男の子が 男子と ジボー すきな 女子に うまれました。

ルを カ(= まくなが、山雪は、 ち

か

げきて、 女子 のこ。「長男・次男・三男」

げんきな

たなり のぼりが

ラルダン・ナン

[田・2かく]

7 かく

女 58

いおとこ

H

田 男 男

「男子・男女・男 おとこ

男・山男」②むすこ。「男子・

女・三女・一男一女」すめ。おんなのこ。

ゆめてす 女神の →外国の かよう。

小さな を

乙\*女」 こうとく うつくしい べつな 王女が、 する。

日本を女の

まいを ま

女ゆうに

なるのが

わかれ

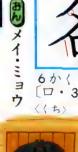
女の子。

日本をおとずれた。「乙\*女」「早

たなり (三おんなの ピー ペー女と 人なの 7 からだつき)から、

6かく[口・3かく]

-





クロクラ 地名・本 よびな。なまえ。

3=

ととし のカネン

6かく [干・

3かく]

すぐれて 名字・ たかい いる。「名 2ひょうば

名まえを あわせて、 ことば。 氏名と つける。

名字と

には、

を

いとこが

おまんじ さんこうとく 人だ。マ女子は、 ゆうを 全校で 父はは 二百名 つりの りの名物の名

ます。

よみかた。「仮名」「名残」 三日月と わせて てきた 口を 字であ

たち

字。

なり

\*(=

ねと

とり入れられるまでを

あらわした。 みのっ

名・年

た な ち

H

作・名案」4人数を

月·年 来年の 年少・青年・少年・年下 四月には、 しつき。 ・去年」2とし。 一ねん。

とる。▼年上の 年りんが ある。▼年末・年始の 二年生に あいさつを なります。 する。 同 に 休学▼ 年 に 本 \*▼

べつな いる。 よみかた。「今年」 **▼**ぼくには、 ひと)を 人なあわ

かんじクイス

てから

ねんれ

年紀

林・森林・松林」ったくさんいるところ。はやし。こ

あつま

●木が

はやし。「山林・植

あるく。

松林の

なかて、

松ぼっくりを

道を

かた・林の

なかの 林立

みつけた。

>夏休みに、林間学校へ

いきます。

えん

って

って

いる

ようす。

とつが

林立して

いる(=たくさん

すむどうぶったち。

いる)。

くんやま もサンサン

もの。 もの。「一山・山も)山道・登山」のたかく 一山・山もり 村の遠足て、 ▼夏休みに、へて、山にの 中・富士 つみあげ 、父をなる。

山里の

富士登と

むかって、川を

木がはえて

いっ

日の出を ひ山だを たいらげた。 かんを | (=三つの した。 おがんだ。 た。 見える。 やまの ▼一山 五百円の み ▼とおくに、山みゃくが 「こってただき」て、 (= 山の かたち)から、 さくらんぼを W

3かく [山・0かく] 〈やま〉

川・河川・小川・天の川」かわ。「川上・川下・がせんおがわままがわ

こしず

つかいかた

**・** ふねて

木きりがを

川かかな る。 た。 およいて まで 見える かかりな ◇ための >川岸に、 やなぎの

河川工事が

はじまった。▼川ぞこ

つめたい

水争を

のんだ。

きれいな

めだかが

さんこうとくべつな かわ

よみかた。「川原」 ながれる

た ち り

なっ

|2かく [木・8かく]

8かく [オ・4かく]

かんシンン くんもり

かとリン をはやし

森森 大きな 木林 木林 木が、 いる 本 たくさん 森森

森森

り。「森林」おいしげって 森。マ森に つかいかた かこまれた **い**こんもりと ところ。も しずかな した

の国では、見わたす 森て、きのこや木のみをさがした。 いる。 かぎり おみやの 林が広いますうみ。

さんこう、ふつう、 ነ # ## しげった ところを 木を てきた 三条森りつと さんの 字であわせ いう。 大おき

かんじクイス いらい 自美」は、99さいのおいわいのこと。なぜこういうのかな?

こたえうなぎ。

林·森

たちから

てきた。

たなり

\*\*

ならんだ

くかかわ で セン

3かく [川・0かく]

川口・谷

空中」②なかみが

\*ない。

「空港」

あつめる。

マ空っぽの

空気は

て

ならんて

マ空港へ

見おく

穴(=あな)と みあわせた

> 工(= りに

つきぬける)を



①たんぼ。た。「水田・田う

こたえ 100から 1をひくと99て、百の上のよこぼう「一」をとると白だから。

なか。

中から

さんぶつ

くかた おしデン

M

H

田

5かく (田・( た)

· 0かく]

30 たなり す。 のどかな とれる 田(=四角に 田畑(=たと ち)から、 おおあお 青々と かたく田に 田園の とくべつな ところ。 田・田と した 水田が ひろがって そなえて、田んぼを けしき。 くぎった 油のてん はたけ)を うえる よみかた。「田舎」 なった >油田を たんぼの たがやす。 そだて たがや

0

0



きゃウ

Val あめ・あま 而 币 雨 雨 雨

雨・大雨・雨やどり・雨水・雨ぐつ・風の おおめの あめふり。「雨天・長のかまながあままながあま」 雨・降雨量・梅雨(はい・か)」

づいて る。

ゆうがた 梅雨に入ってから、 かたく大つぶの る。 雨戸を 雨もよう 下て、 しめる。

風雨が 雨やどりを ふって 0 日かが きた。

なって きた。 よみかた。「五月雨・時

雨・梅雨・小雨・春雨」 さかこうとく |一郎 (=あめが ↓雨と なった ふる 字。 ようす)から、 雨

8かく [か・3かく]

きんクウ

くれそら・あく・あける・から

5

应

むだ。「空ばこ・空き地・空せき・ Dそら。「青空·大空·空気· からっ 空 空

空らん・空車・真空・空ぶり」③ひこうきの

こと。

マニャー (人ができない 青空。 青空。

ひとつ いる。 はこ。 三ただい

た な ち り

空·雨

はげし

タ立に

あっ

た。

まっ

かな

タ日

つか

マいえに

かえる

とちゅうて、

しずむ。

>きれいな

一切いっちょういっせき

見た。 マ

した。

からだは、

朝一夕(=わずかな

する なっと かん・夕 食・夕かん・夕 ですがる なっと かっと かん・夕 食・夕かん・夕 食・夕方・なん・夕 でんと できない からがた。「夕方・

日にち)には けんこうな

てきない。

う日に、

たねを

花火を

さんこう

とくべつな

よみかた。「七夕」

● (=三日月の

たち なり

タと

なった

字。

月が

よると P

た な り

かたち)

から、

いう

1



V2 \*あめ·あま アテン

天天天天

使・天国」るしぜんの 体・天気・天こう」②かみさま。 火」のまれつき。「天才・天性」 ●そら。 てんき。 きまり。 さま。「天化ちてん

つかいかたくだにも

のぼるような

気もち

さいがい)に に見える。 ▼ちえを 出しあって、天災(=しぜんに () <u>ー</u>の 天気が しるしを ▼天使のような やさしい 手足を そなえる。 つづく。▼天の川が、 ひろげた つけた ろげた 人のマサッカーの かたち)から、 いきれい 上は天にす。 よる

4かく 〔大・1 かく〕 〈だい〉 地121

気気 K あかキ・ケ

6かく [气・2かく] <きがまえ〉

気 気気

温・天気・気球・湯気」②こころのだんでんき、たまです。けて はたらき。こころもち。 くうき。 ガス。「気体・気 「元気・勇

気・気分」のようす。「気配・景気・気品 空気を ▼元気を 入れる。

出す。▼わす ろに、人の 気配が と 出す。▼わすれものに 勝気なせいかくだ。 ついた。 「意気地」

うし

さんこう とくべつな **分**狀 - 氣(気 した。 よみかた。

字は

氣。

とき

ゆげの

かたちから

米をこ てきた。 ふかす

↓天と

なった

7かく [+・4かく] くくさかんむり〉

Ve はな

きかカ

のか\*セキ

3かく

(ゆう)

[タ・0かく]

↓朝89

くんゆう

ん・花びん・花見・花まつり・花わ・花だ 花

もの。「花火・花よめ」たば」とうつくしくて、 マみんなて、 かたくきれいな 花たばを まいた。 した。 おくる。」ゆうべ、かぞく クラスの ~うつくしい ともだちの りっぱな 花を、 花だんに 花びんに 花よめい たんじょ 草花

= = かの音)を あらわす くみあわせた かたち)と化

稿(=文の

って れて

いく。

マ子犬が、

まるく

なって

ねむ

北の国を

はしる。

くれた。

ている。▼犬ぞりて 北京の

のら犬・番犬・野犬」

「子犬・小

犬・犬・犬

小で屋や

いかたマ犬を

さんぽに

るとソウ

VZしな

+

++

1/

芦

ず-ない-

犬をあっ

あらわした。

すがた

けいさつ犬の

ののい 、」が

ないと、「大」に

なる。

だする。

きん、 大きな

打犬が

ふえて んれんを

こまって

番犬を かって

いる つくって

え。 いる。

とと



9かく [艹・6かく] 〈くさかんむり〉

草花・草むら」でしたがき。「草案・草のはは、ないか」の人さ。「草原・水草・雑草・ したがき)」

を はる。 マ草花を おし花にはしりまわる。 マ草花を おし花にはしりまわる。 マ草花を おし花にはない まわる。 マ草原を、うまに さんこう アサ(くさかんむり)の かんけいが 草原を、 ある。 したがき する。 のって 子と 字の

おおくは、

ねる。

くべつな

よみかた。

(=そうの音が

あらわす 草履\*」

かたち)と早

くみあ

めわせた

草草

0かく]

きかチク くれたけ 6かく

ぶ・竹の子・青竹・竹林」 たけ。「竹や 竹て、

山に、竹林(=竹の林)がでは、「竹馬にのってはない」 ざおをつくった。▼竹やぶて、竹の子を つかいかた・ほそい あそぶ。 ある。▼竹をわ > うらの

×

ったような(=さっぱりと よみかた。 した せいかくの) カゲをガン

ん道て つかう 竹て ん道て つかう

たなり 一二本の くった たちから たけの てきた。

6かく
[虫・0かく]

あチュウ いむし

きかケン

4かく [犬・0かく]

(w/a)

くないね

ナ

●むし。「こん虫・よう虫 中 虫 虫

害虫」2きもち。「虫が ことは。「弱虫」 あいてを ばかに して すかない」 いう

人。マいすんとなく えがきこえる。、こうえんで、こん虫さい ゅうを した。 つかいかた
・あきの 虫が >害 虫を すかない(=気に よる、 たいじする。 虫の な

てきた。 ▼いもうとは、 から もとの のちに、 虫と 字は「蟲」。を(=へびの 略字から なり、 とても なき虫だ。 くみあわせて なっ かたち)

**かんじ743** 「ショウ学生のショウ年。」かたかなの「ショウ」は二つとも「小」?

[こたえ] ねこはいえてかっていても、なんのやくにもたっていないから。

王王

Ŧ

王

あオウ

4かく

・つかく

4

ホームラン王」

つかいかた

「はだかの

王さま」の

▼白い うまに

のっ

ものが

すぐれて いる 人。「王者・発明王・王子・王国」2その みちて いちばん

**の**おうさま。

国王・女王・

天(=手足を 広げた

まちがえない こと

さんこうとくべつなよみかた。「親王」

リーグて とくてん王に

なった。

もようの

さまが やって たりをよむ。

きた。

▼かれは、

サッカーの

たなり

あいだに

たつ)から

てきた

た ち り



50 「まき貝・二まい貝・貝づか」とうぶつのかい。か È 貝 貝 月 かいが 貝

大むかしの さんこうむかし、 すてた ところです 貝がらを つかいかたくはまべて、 かしの 人が たご、ネックレスを ひろった。 貝なは たべた あとの 貝がらを ▼桜貝を つくった。 お金のは きれい ▼ 貝づかは、 お金に むす

かんけいが 一尺・ ある。 貝 二まい貝の てきた かたち

していたので、貝の

くといし 石石石

0かく

5かく

ましセキ・シャク・\*コク

き・じ石・石油」 つかいかた

・川原には、大きな 「小石・岩石・化石・石

の上に ごろごろして そびえる おい城た。 化がくなったが、油でいい、

石がき

つける。 じ石て A 方角を >きょうりゅうの しらべる。 もと、こくもつや たんいと 百八十リッ しても ーブを

た。一石は たなり ちり さかこう「石」は いなどをはかる うす)から、 (=がけの 6 下たに ↓石と なった ある つかわれ えきた

といたま あんギョク 5かく [玉・0かく]

王王王王王

なもの。たま。「玉石(=ほう石といせつ りほう石。 また、

ふつうの 玉・あめ玉」 包まるい 石・玉の かたちの はだ・お年玉」 もの。たま。 水玉・目

石)がついた、 でつかいかた マ宝玉(=たからと 目玉は、まるくて ワンピースを 王さまの きる。 かんむり。 ~とんぼ する

| + (=三つの かたち)から まちがえない 大きい。 たまを てきた からです。 水学は五金う つない

い。)・歯車」2~るまを つけた

りもの。とくに、

じどうしゃ。

「自 0) いる」のくるま。「車輪・水車(けい・な

動車・自転車・電車・車庫・車内・一輪車」

オランダは、

たなり

車-

車輪を

じくどめて

とめ

なり

たち

車を

入れる。

のる

むかしの

入れた

あらわした

れんしゅうをする。

会社にかよっています。

っぱいだ。 風車で

√おとうさんは、

電車で ▼道路

きこえる。マ母の

音色の

ゆうめいてす。

つくって

あそぶ。

じの、

2かく 〔カ・0かく〕

くれちから カリョク・リキ

カカ

りはたらきの もとに なる

学力・実力」ではけむ。つとめる。「努力・力投」 でするというではから、また、はたらき。もの。ちから。また、はたらきでもの。

マカを

あわせて、

つなを

上がる。 たなり きる。 した 全力を ちからを かいが しもっと 「刀」と 出して あった。一力士が、 こめた 体力を まちがえない はしる。 うての つけたい。マ努力 ▼実 力を きんにくが こと。 当出たひ

(ちから)

ママンと THE STATE OF いか 华坐

6かく [糸・0かく]

(112)

华

糸

ほそながい ぬ糸・せい糸・くもの いと。 もの。 また、 「毛糸・生糸・き いとのように

\* 毛糸で セーターを あんだ。

きぬ糸を さんこう「糸(いとへん)」の字は、 生糸は、 います。 か マなっとうが つくる いこの 工場を、せ まゆから 糸を は、糸にひいて い糸工 場と とります。 いる。

たなり んけいの 一条一条(糸)などの字は ある いみを いとを あらわす。

かたちから てきた。

すじばる

あら

9かく [音・0かく] (おと)

あんオン・\*イン

7かく 〔車・0かく〕

(くるま)

きシンヤ

くかくるま

ī

市

声

亩

重

車

くれおと・ね 4 立 井 音

音音

音・音色」②こえ。「発音・音読・母音なないないないと。「音楽・ざつ音・足」 (=ア・イ・ウ・エ・オの

よみかた。「音訓」4たより。「音信」じの、中国のよみかたをもとに かたくおまつりの ふえ。 足音が 音)」るかん 音信が たいこの きこえてきた。 とだえた。 音が した

さんこうとくべつな - REG - G-6 かたちから 一音はっきり てきた よみかた。「観音」 字でなかに を 口点

かんじクイス

まえ。むかし。「先祖・先月・先日・先生」頭・先着・先方・先まわり」②今より

んちゃしとうまつ

はじめ。

まえ。

「先だ

先先

先

しんがくがくねんがっきゅうだいがくかくち、学・医学・学問」③がっこう。

学生・学習・学者」であしき。

つかいかた ▼父は、英会話を進学・学年・学級・大学・学長」

をガク

Valまなぶ

8かく 5かく] (2)

学

学 学 学学

学学

学習・学者」②ちしき。「科のべんきょうする。まなぶ。

白(=りょう手)と 工場を 留学した ようす 進北見北 とめの 門の かよう。 くらべる。しらべる。「校正」 うたう。 ところに かたくまいにち ▼集団登校を して

した。 きく。

父もの

2

する。

マ全校の

あつまる。

みんなて、

校歌

てきあがった。

学校に

います。

< hu いめりがっこう。「校庭・校歌」②

10かく 〔木・6かく〕

村 校

をコウロウ

生徒が、校庭の生徒を校長先生の なり たち 校正(=まちが 大(=足を ち)と 校庭の かんけ ◆ 死 165 米(=き)を いを 新しい おはなしを そうじを × 形だ に て、転校した。 なおす 校舎が 交差させた へみあわせた

たち

= もとの

いえ)と

× ( |

わる

字は

子を

くみあわせた

字を まじ

りゃ

くした。

学した。

めざましい

科学ぎじゅつの

、大学に

入学する。

▼大きくなったら、

学習で、車の

アメリカに

5かく 〔生・0か

6かく[ル・4かく]

いきる・いかす・いける・うまれる・うむ・ 思しセイ・ショウ \*おう・はえる・はやす・\*き・なま

Vとさき あかセン

牛

ている。「生物・生命・生活・一生・たん生日・芝生」②いき「生後・生産・たん生日・芝生」②いき「生き・はん」は、サールをは、サールをは、サールをは、サールをは、サールをは、サールをは、サールをは、サールを むものごとが くわえて おこる。 おこす。「発生」の手を 生・生木」

つかい して 米の いる いない ころだかっするがつす 。「生水・生糸」るべんきょう 草が 生え

~長生きを 屮(=くさ木の ~みあわせて、 里」生と 生産高。 めと 人の 土(= なった 発生した。 つち)を ▼ 生の

先・生

た ち り

らだ)て、

「つまさき」を

あらわした。

たな ちり

| 土(=あしの

かたち)と

へ(=人の

りました。 かぜを

v

いて

いる。

大力、

な

魚なる。

先生の

おみまいに

いった。

▼先 週から

さきに

ついた

じゅん)に

うけつける。

を

公園です。

にわ先に、 先頭を

やっ

て

きた。

いかたくその

先を

右祭に

まがると、

いちばん

あるく。 小鳥が

順(=

かんじ712 草が花けたらなにになる?

くれもと

るがホン

5かく 〔木・

しかく

にて

いる いる

にて

字じに 字じ

気き

つけましょう。

王

王

早

75

ことの

●ほん。「基本·根 はない、本屋・絵本 はない。

一本気・本心・本名」母この。

ほんとうの。

ものを

かぞえる 本屋さんで

6かく [子・3かく]

言言 وبر

中

字

さ。「大字」
さ、「大字」
で、ないままます。
「大字」
で、「大字」
で、「大 ●もじ。「文字・漢字・ローマ くいき。 ーマ

いる。 前を 漢字の 漢字・ローマ字の、 こたえる。 なりたちを いえ)と ▼日本では、 ~ととのった 山田町でのの ▼ねえさんは、 子の しらべる。 宇田中 ひらがないかたかない 文字を 文字を くみあわせ。 習字を ▼名字と 名 かく。 つかって なら

たなり

ように

ふえる

文集・文章」2もよう。

やりと

外に国のかい 文様」るもじ。 絵文字。 りを された。

たなり する つ。「文化・文明」 かた、えんそくの ▼じょう文土器(= ともだちと 大むかしの 土器に こと)を 一月三日はむかしのい つけた する。▼大むな文通(=手紙の やきもの)が 文化の日です。 なわの もよう)から、 かしの かく。

もよう

个

0かく]

4かく 〔文・(

(S:L)

ものブン・モン

くん\*ふみ

文

文章」でもよう。「じょう文・ひぶんしょう。「作文・文学・なん げ

本日」与細 字 貝

見

大

白 百

上

月 目

▼本気を だして

下たかっ

ところに

しるしを た

1+

右

日

「根もと」を

あら

マスポーツでは、

だいじてす。マうわ

本当か

どうか、

たしかめた。

れんしゅうする。

**マだいこ** 

耳

一丁下下正耳

车

フカ

人 出 出 华 并 糸

上

田

口田田田

左 右

ーナナ左左

ノナヤ右右

出

十十十出出



いか いなかて、いえが 村村村

村役場・村人・村民」つ。むら。「山村・漁村・農村・村落・村長・村里・つ。むら。「山村・漁村・農村・村落・村長・村里・おさめる」ための」くぶんの って いる ところ。また、 んのしたなった。人々をあつま

つ。まち。「町かど・町おさめるためのく

中の、

小さな

ところ。ま

町

30 ▼村おこし(=村を しごと。▼村民運動会をひらく。 ▼おじいさんは、村長を

つかいかた・村はずれに、 み)を 木(=き)と 寸(=しばらく やすむ ところから、 くみあわせた字。やすんで さかんに する こと)の ところに ふるいきが していた。 なった。 VIVI



7かく 〔田・2かく〕



(t=)



田 田

ラシチョウ

いめ しにぎやかなた、人々を おさめる くかまち

いき。「町内会」
、いき。「町内会」
、いき。「町内会」 さんこう「町」は、町内の つかいかた
▼町かどの 広さの

ポストに、手紙を

おま

田(=た)と たんいと 丁(=丁字形に くみあわせた もと、道のおみこしが ブール。 長さや あすの つかった。

土と地ち

た ち り

あぜ道)を まじわる

さん

一年生の

かん字の

ちゅういてん①

かきじゅんで

ちゅういしたいのは

ノ九

よう。 こん あります。おくりがなにも ちゅうい「上」と 「下」と いう 字は、よみかたが かん字の ちゅういてん回 しまし たく

上上 す ぼる (上る)・のぼせる (上せる)・のぼす (上)・あがる (上がる)・あげる (上げる)・の いジョウ(上京)・うえ(山の上)・かみ 111/2

す)・くださる(下さる)・おろす(下ろす)・げる(下げる)・くだる(下る)・くだす(下げる)・さがる(下がる)・さいる(下り)・した(下見)・しも は、じこくや おりる (下りる)

朝早く」などと ときに つかいます。「早起き・早口・早朝・くや」じきが、はやい、ことをあ つかいます。

と おなじ なかまは 「存・在・友」などです。「右」と おなじ なかまは 「布・希・有」、「左」

ながいのに たいして、「左」は 二かく目の はまた、字たいと しても「右」は よこぼうが

はら

早」

早からわす

ながく

なります。

「天」は、上の よこぼうよりもしかめ、六かくで かく ことを

つよりも 下の よこぼうことを おぼえましょう。

よこぼう

みじかい

ことに

ちゅうい

しまし

「糸」は、かきじゅんと 字けいを

しっかり





青(=

1あお。

青いさび)りつ

丰用。

青年」



くれあか。あかい。あからむ・あからめ 清清 あか。 赤赤赤 あかい。「赤組・赤十 赤

字・赤はん」 ▼運動会で、ことしは

赤組が つかいかた かった。

なきやんだ。

いの はず はだ。 とまれ、青(=青しんごう)は やけた かしくて、 赤どういろ(=赤ぐろい かおを 赤らめる。くおいわ ▼赤(=赤しんごう) すすめ。

たなり さんこうとくべつなよみかた。「真っ赤」 火を てきた くみあわ

↓ 黒112

5かく 〔白·0かく〕 〈しろ〉

あんハク・\*ビャク

くとしろ・しら・しろ 白 白

っ白(=やましく い。「白昼・白日」るただしい。「け ・白ざとう・白雪・白髪」②あかる **1**しろ。 らゆきしらが ない)」4あきらか。 「白衣・白

明白」

しなにも いう。「白じょう」 ない。「白紙・空白」6ありの 雲が 11 まま 3

白)の みずうみに ⊖(=どんぐりの ۲ ドレス。 ことから なった 白鳥が >つみを てきた。 字。 どんぐりの いる。 かたち)から、 白じょうする。 →純白(=真っ みは 白山白

なり たち

4かく 2かく] 円 〈どうがまえ〉

思わエン

くれまるい

ましセイ・\*ショウ

8かく [青・0かく] 〈あお〉

いかお・あおい

+

+

丰

丰

青青

青

③お金のたい。「千円」 一円形・円周」②おだやか。「円まん」 がなったい。「千円」 <u> コンパスて</u> つかいかた。マ円くわに なって 

いけつ やきゅう場。 しましょう。 世界を かく。 >ちょきんばこに、 なるべく マやねが 円まんに おどる。 円形を

百円 上がる もとの の)と 入れる。 かこいの 口(=かこい)を 字は圓。 こと)に なる。 一門高(=日本のにほん 員(= まるい みあわせた お金の わす。

たち どの 生(= 真っ青」 あおい

草の

めばえ)と 月(=

たなり

まるい

いみを

あら

中ない

しみず)を

りいろの

こと。

**金とく** 

-べつな

よみかた。

ちが

時代)を

たのしむ。

青年。 ▼青年

→青春時代(=わかく

たべる

青虫。

>わかわかし

げんきな

した

いかたく青い

空に

白ない

雲。

やさ

さんこう。ア「青草」「青な」などの

「青」は、みど

青・円

<u>こたえ</u>中。「川」の字は、まん中のぼうがいちばんみじかいから。

かんじ712 大ととてもなかがわるいとされているどうぶつは?

社・入れ物・記入・加入」

「入学・ 入

いかた・入り口から

入はる。



いみ といっただす・まさ ●ただしい。「正義·正 直·正 正

ほんらいの。「正副」6一月。「正月」 確しっちょうど。 面」るまともな。「正門・正式」4 まさしく。 正午

下・下・正のように ちがいを 正月休みに、 正に、 さんこうかずを 父ちの 正す。 スキーに 身長を かぞえる とおりに 正確に とき、 なった。

さんこうとく

べつな

よみかた。

早乙女」

▼早そく(=すぐに)、

しごとにとりかかる。

マ早まった

ことを

しないように。

ねよう。

・あたまが

たくて、

おきた。

ここん

一(=もく ょうを かいて こたえを あらわす つかう。 出す。 はかる。 は 一·丁 ま

やは 早退した。 早足・早急」 春」ではやく 早めに りはやい かたくけさは

「早苗」 朝くらい たなり 黑紀 朝はや・ せんり いぬぎや ょうを とる て、 はんの木の 早↓早と ことから、 なった。 み)から

たなり

あ

くみあわせた

くないる・

れる・はいる

カニュウ

2かく

(いる)

[入・0かく]

出81

出 出

出身·大学出」 出て しあ あそぶ。 いに 出 大声を てた

身です。 よみかた。 場する。

お金の さんこうとくべつな り(=あしが 出し入れ) 少し出と せんから なった てる 字じ す

入·出

たなり

なった

(=)

えの

いりぐち)から、

人

入と

た な ち

にて

いるが、

ちがう

」「入」(いる)と

「人」(ひと)は

える。

ょうに

記入する。

▼はたらいて、

入を

きょう

かしょと

を

入れる。

入って

いる

コップ。

かばんに、

とは、来年

小学校に

入学する。

メモち おとう



かんじつイスの「糸」は荷値で書くかな?

~ はやい・はやまる・はやめる

F

早

旦

早早

0

はじめ。「早朝

する。いそぐ。

シソウ・\*サッ

6かく

2かく)

3.

3.

「起立、

礼。」、みんなて

学校。

売買の

つかいかた、一赤ちゃんが

はじめて

心が

休まる。

こんどの

ひと休み。

マこの

よていてす。

**五月** 

した。

みせを、

休火

建てられた)

寺に院。

あすは はじまる

ひとが

大だった

たつ

ようす

日)だ。

まちがえない

人が

木きの

そばて

ようす

から。

立立

2

成立する。 ・町立の

たな ちり

ち)から、

見

今(=目と

日と人を

くみあ →見と

わせた なっ

か 字じた

名は、

白

かんじのちしき

「みる」は

いって

みる」「たべて

みる」など

天は、 男は、

大カ



くれたつ・たてる ましりツ・\*リュウ 十 廿

(たつ)

4はじまる。「立春」たつ。なりたたせる。 いみ さだめる。「立案・建立」るなり ●たつ。「起立・木立」②つ 成立·自立

い・連休・夏休み」2

れんきゅうなっやすめる。

こ百年前に 建立された(= かくを 立て けいやく 立った。 本日は うたを 山だ。

たなり とまる。やめる。「休火山・休止・休戦」 日は、 休に、 体」と きくと、 休業いたします。▼富士山はいに、りょこうをした。▼ス つりに りょこうを

日・休校・休け VM やすむ・やすまる・やすめる あかキュウ ●やすむ。

休

休

6かく [1・4かく]

〈にんべん〉

にたえ 6画。

83

化石を 見える。

こガいかた

星を

工場を

見学す

る。

早は、

草は、

日

2 Z

人十

「青」の暗記法。

~とおくに

山が

きり

いう。▼大臣が 発見する。 ▼ おかしの

が記者会見をする。▼じぶんの意見をは

意見を はっ

足は、

見物」②あらわれる。 う。「会見」 1みる。

みえる。

発は

校は、 犬は、 空は、 休は、 学は、 貝は、 花は、

2

父

「よこたてよこよこ月かいて青」

左は、

字は、

見学・

ながめる。

Va みる·みえる·みせる 見見 目

月

見

もかケン

7かく 〔見・0かく〕

かん字の

ちしき わけて

かん字を

おぼえよう

音は、 王は、

立

日

2

目

2

子

# 二年生の漢字学習法

## ○学校での勉強

①漢字学習のめあて

とをねらいとしています。 こ年生では、一年の漢字を正しく むこと、また、一年の漢字を正しく まさ、文の中で使えるようにするこ とをねらいとしています。

ます。 順次書くようにすることが指導され 二年の漢字百六十字については、

三年生以上になると、漢字テストのために漢字を覚えるような、学習のために漢字を覚えるような、学習などでは使わないということがあります。テストではしっかり書けるのに、作文ストではしっかり書けるのに、漢字テスト

学習した漢字を使う姿勢や態度を養ですから、二年生のこの時期に、

ります。 ていく態度を形成することにつながうことが、これからの漢字学習をし

## ②漢字の構成の理解

一年生では、「文字の形」を長方形でとらえさせましたが、二年生で は、たとえば「草」は「艹」と「早」 は、たとえば「草」は「艹」と「早」 は、たとえば「草」は「艹」と「早」 は、たとえば「草」は「艹」と「早」 は、たとえば「草」は「艹」と「早」 などうかという視点から、漢字の形 をとらえさせます。これは、後に学 をとらえさせます。これは、後に学 をとらえさせます。

## ○家庭学習のポイント

習が必要です。ります。そのためには、繰り返し学や字形を体で覚えさせる段階でもあー年生の学習の延長として、筆順

漢字には一字一字意味のあることや、しかし、そうした学習と並行して、

ります。するための学習が必要な時期でもあ実際に学習した漢字を使えるように

指導する時期と言えます。ない学習との兼ね合いを考えながら繰り返しという機械的学習とそうですなわち、二年生での漢字学習は

学習をさせて下さい。後者の学習のために、次のよう

①漢字の意味からの分類

いうことで、「牛・馬・虫・鳥」などめをさせます。めをさせます。

②漢字の構成からの分類を集めます。

させます。
させます。
させます。

# 二年生でならう字

番118 合出 歌 声102 **母** 98 西94 午90 春 86 売140 強136 前 132 馬127 寺123 語 106 魚 計 115 算106 兄98 南94 明90 夏86 買140 弱136 後132 店123 組119 絵110 102 門 124 数 107 思103 弟99 星90 引 140 長136 鳥 交120 何115 色 北 95 内 132 86 野91 時 95 冬 87 切 141 高 外 133 鳴 128 室124 通120 答115 理107 考103 111 99 広137 遠133 习习 128 户 124 道120 電116 黄 科107 妹99 分95 原91 光 オ103 週96 岩92 同137 場121 教 116 黑 三日 104 自100 近133 内 129 台125 社 風 87 汽 125 曜 96 步 138 多 134 米 129 友100 谷92 地 知 116 形112 記104 会 108 88 走 138 点 113 海92 少134 麦129 船125 方121 万 図 108 話 体100 今96 雲 88 元 行138 茶130 弓126 每117 画109 池 93 京122 丸113 書 105 古134 来 新135 線 間 97 食130 矢 126 市 回117 工 109 読105 頭 里 聞105 顏 親 園93 太135 活130 半118 直114 作 昼89 刀 126 東 94 用131 牛 家123 角川 楽110 国106 首102 父 98 止 細135 当 118 89 139

み・初冬」

てきた。

~冬至は一年じゅうて

つかいかたくさむい冬がやっ

いちばん昼のみじかい日です。

冬休みのけいかくをたてる。

年ごろ。「青春」

つかいかた マまちにま

のた春

は、下が「夂」。

みあわせててきた字。

るいみ)と、(=こおり)を 久(=たべものをたくわえ さんこう冬は、

上が「夂」、

夏なっ

冬山にのぼる。



分・春風・しは F. ... とはる 三声夫春春

MERIE !

はる。「春ん

なつ。「夏季・

春

としのはじめ。「新春」るわか · 立春」2 春季・春 夏休み・夏祭り・夏なっやすなっまっ

至·初夏 な風がきもちいい。 なる日です。▼初夏のさわやか year ya ▼夏至は、 負けしてしまった。▼夏至は、 一年のうちて昼がいちばん長く くにあつくて、 ことしの夏はと 父はすっかり夏

なり 第一日以一夏 おめんをかぶっておどるかたち 人がかざ りのある

たなり

节-春

99

と)とも

(=芽がてるよ よう)をくみ

>すっかり春めいてきた。

春のあいさつをする。

がきた。

きもちのよい春風。

あわせた字。

うす)と日(=

たい

百 10かく (タ・7かく) 百 更

て きんカ・\*ゲ くななっ

夏夏

おシュウ くかあき

951

そ・4かく

7 Ŧ 禾

禾 秋秋

きょうは秋分の てす。
マ雲一 \*秋祭りのふえのけいこをする。 つない 秋きの 日て、 秋晴れの空。 動会。 休み

秋という。 禾(=さく もつ)と火(=ひ 「とり

秋のおわりごろのことを、

れのきせつ」をいみした字。 をくみあわせて、

からてきた字。 たなり

冬至・冬みん・冬休

いるふゆ。「冬季・

シシシゆ アシトウ

アコウ

ラシフウ・\*フ

いかぜ・かざ

6かく [ル・4かく

にんにょう

重

9かく [風·0かく]

5かく

[ : 3

Va ひかる·ひかり 1 业

光

光

刷

風

冬

月光・発光」でけしき。 かる。「光線・日光・ いるのかり。

台風」とよの中のう

いるりかぜ。「風雨・

栄光 光景・観光」るほまれ。 めい

> 潮・風習」③ありさま。 ごき。ならわし。「風

> > ようす

物体。 きて光栄です。 おおぜいの観光客。▼お会いて れる。▼びかぴかと光るあやし つかいかた
▼月の光にてらさ ▼日光がまぶしい

た な ち り をのせた人のかたちから。 公司 %-光 たいまつ あたまに

たなり

きがかわった。

風雨が強まる。

>きゅうに風む

へみあわせててきた字。 第-風 とな(=むし)を パ(=ふねのほ) →古風な考え。

**⑤**うわさ。「風評」⑥びょうきの 「風景・風情」母おもむき。「風流

707\*

風かが

台風が近づ

明朝・早朝・今朝2てんのうはん・朝日・朝刊・朝日・朝刊・

市市市

吉

卓

朝朝

日日

尽尽尽昼昼

沒沒

夜

夜夜

夜夜

1あさ。

よあ

アチョウ

あチュウ

かや

8かく [タ・5かく]

(ゆう)

\$ 量89

とよ・よる

9 かく [日・5かく]

ひる

12かく [月・8かく]

〈つき〉

1

9

65

夜89

くれあさ

がせいじをとるところ。「朝てい」

つかいかたくさわやかな朝だ。

[日・8かく]

かとイ B 12かく

はれる・はらす

晴れ・五月晴れ、2おる。「晴天・快晴・秋 日丰 胜 晴晴

一 一

哥

雨

重

雲

一, ;=,

于

NED.

雪雪

くも

丰月 Ho

人道雲・暗雲」

大運動会が行われた。マ晴れの一日、 もてだった。正式の。 るさっぱりする。「晴れ晴れ」 かた。あすは晴れるで ▼七五三に、晴 マ晴天が 晴れ着 市の

い雲。

~雲間からうすびがさす

ひこうきが、

雲海の中に入っ

>うらみを晴らす。 いる)をあわせた字。 太陽)と青(= すみき

れ着をきた。▼うたがいが晴れ

ない)話だ。

をつかむような(=はっきりし

道雲がむくむくわき出す。

あやしい雲行き。

いている。

THE PARTY OF THE P

[赤・3かく]

あめかんむり

11かく

ラウン 12かく



見セツ をゆき

雲海・雲行き・雨雲・ そらのくも。

かたく空にうかんだ白

雪・雪崩・吹雪」のせん・積雪・雪崩・吹雪山・新雪・風雪・初っせん・積

たな ちり だ残雪があった。 はつすべりをした。 まをつくった。 ょう。▼新雪をけって、スキーの にする)からてきた。 いかた みんなて雪だる 一面の雪げし 山にはま

をきれいにするゆきの もとの字は「霉」。雨(=あめ) と彗(=ほうきではいてき

みあわせた字。 雨(=あめ)と云(=ゆげな どがたちこめるようす)を

昼 (=ま昼)、どろぼうにはいら みにドッジボールをする。 でのおんどのさが大きい。▼昼休まであればのさが大きい。▼昼休までは、昼と れた。マお昼にうどんを食べた。

▼白

先生の話をきく。

朝食にト

ストを食べた。

たなり ▼(=ふでをもつすがた)と回 意一畫(昼) は「晝」。 もとの字

1 日をくぎる)からてきた。

朝・昼・夜

とり(=ふねのかたち)をくみあ

わせててきた字。

たな ちり

勢朝

多

のぼる =日が

昼・昼食・昼休み・昼すぎ」

「昼間・昼寝・昼夜・白また、ひるごはん。

ひるま。正午。

月夜・十五夜」となる。「夜間・

道を歩く。 いる。 ビほうそうがある。 つかいかた 夜おそく帰る。 >今夜、 ▼夜空に星が光っ サッ 父はざんぎょう カ くら

た な ちり かたちからてきた字。 わきにある、 少夜 わきの下と月のりょ からだ

「たいせいよう」は「大西洋」。では「たいへいよう」は?

答え 3画。

野」2しぜんのまま。

10はら。「野外・平八郎の

野

里

里

野

野

野生」③はんい。ひらけていない

いない。「野鳥・野草

。「分野・視野」4

みんかんの。「在野」

かた、広い野原をかけ

まわる。

▼きれいな野ばらがさ

いている。

▼しんせんな野菜。

→科学の分野で賞をもらう。

里(=田畑)と、

サ(=のび



8かく (1・4か)

951

[日・5かく]

暗 144

・ミョウ り・あか

つむ・あきらかり・あかるい・な

あ

あか

ける

いま かセイ

1

3

ゥ

W

1昼の十二時。 午前•午後」2

頭がま南。 をむすぶ線)」 のま上をとおって 子午線(= ▼いつも午前七時にお ▼正午の時ほうが

きます。 たなり ものに行った。 なった。 ないこと。 から、 牛 ▼午後から、 十一午となった字。 もちをつく の字とまちがえ 母と買か ・きね)

あかがあかり

る・あく・あくる・あかす

时

明

明

尸

旦

早星

ま北とま

明なあかか か。 。「明白・明細」3か り。「明暗・光 1 あかるい

明・証明」も夜があける。「賢\*明」4あきらかにする わしく説明する。▼明 「夜明け・明日(ま・ふきう)」 いかた・明るいえがお。 4あきらかにする。 かしこ

します。 月をくみあわせた字。 ▼夜が明ける。 明 あかり とりの

たなり

0)

まどと、

屋空・星座・衛星・

朝おう を、「よいの明星」とも言う。 「星取り表・黒星」 「星じるし」 星だ」と言った。▼金星のこと 火星」②小さいてん。

いかた・弟とうと

「あっ、流

せ

10

せき。

つける。 型 か 星 すもうの星取り かん字に星じる 80(=きらきら かるほ しと

生(=くさの芽)からできた。

#### 制ゲン とはら 10かく [厂・8かく] 府 (がんだれ) 盾 **厚**原 線でできてい せんでできているかしらべてみま

一つのかん字が、

一つの点や

「上」という字は、

三つの

ますね。

この数を、

かん字のかくすう

かん字の

ちしき

くとの

11かく

[里・4かく]

(さとへん)

かん字の画数といます

線に数えます。 の字の赤い線のところは、の 連数といいます。

原・高原・草原(ほう・は、 高原・草原(河原)・油原(河原)・海原・草原(ほう・対原)・海のごとのもと。

原治は そぶ 「原因・原作・原文・原案・原、 高原のひんやり つかい 0 子馬が草原を走る。 した空気。 っぱて おこり。

女

山

この原因をしらべる。 なり たち 1 1) ずみ)をあわせた字。 1 Z,

野·原

た田畑や野原をあらわす。

玉

間

記

直

引 学

九 水

四

糸

広

7

切

かん事7イス 「小」の対は「大」。では、「少」の対は?

#### いわり もがガン

をたに

## やま

#### 8かく [山・5かく]

Ľ, u 世 岩 岩岩

う岩・岩くつ

小さなかにがい 室に、 がながれ出した。 ふん火した火山から、 山を、 をく 山(=やま)と石(= 火成岩のひ 一歩一歩のぼる。▼理科 みあわせた字。 ょう 本がある。 よう岩 「小し」

底を、

てもつめたかった。

谷

の水谷

石」から「 わりの いみになった。

たなり

二つと口をくる

かわ

かたち)から、

→谷となっ

に行った。

きょう谷にてきたダムを、

の\*コク

7かく 〔谷·0かく〕



のシカ

951

くさんずい

[シ・6かく]

うみ

だところ。たに。「谷だの、ふかくくぼん

山と山のあ

うみ。

海水

谷谷

江

**汽** 

海海

谷に合成・谷川・けいい 谷・き

こわごわとのぞいた。 みあわせた てるしる ふか 休には、 海が見えてきた。 海岸の近くにある。 かんにとまった。 ▼電車のまどから

五月の連 海辺の

たちい、ハダと・ハーの音が「くらなり毎(=「マイ」の音が「くら ず)をくみあわせて 「うみ」をあら いみをもつ)とシ(=み らい色

声コウコウ 12\*おおやけ

池池池

Wal いけ

6かく

4かく

[ハ・2か

13かく

[□・10かく]

〈くにがまえ〉

(115)

私

375

[シ・3かく]

公公

池・電池・古池

「貯水

と。「公開・公表・公 人にかんけいするこ からく多くの

園・公害・公共」②国や県、 こと。「公立・公務員・公私」るか たよらない 会社などにかんけい 。「公平 がある 市员町

▼時計の電池をとりかえる。 ないのて、貯水池の水がへった。

さんこう 「シ」(=さんず

いは、

いみをあらわす。

の池てこいをかう。

雨がふら

かたくにわ

する。 中を見せるい ▼おかしを公平に分ける。 ▼公害のない た、公園のそうじを みをあらわした字。 入り口をあ

こと。とくに「電池」にちゅうい

池水(左)とさそり

一「地」とまちがえな

池・公・園

みあわせててきた字。

ラルエン \*その

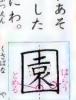






ころ。「学園・幼ち園 園・花園」3きょうい りする、広い んだりけんぶつした をすると 東

たな ちり た。マ いんになる。▼うつくしい花園。 つかいかた
▼町に公園がてき 休日には、 つむきもの)と口 ゆったりとからだを 動物園はまん





やぶれることを「敗北」という。なぜ「北」の字がつかわれているのかな?

答え多。

ざして走る。 ふく。マ犬ぞりて、

父と母は、

ごす。

一時をす

せま

地方にりょこうにてかけ

た。

けっしょうせんて、おしくも

が青の時はわたってよ

当時の話をきく

日(=

太陽)と寺(=

手足を

あっ

分ける。

\*熱が三

ナセど ーキを

八分

たなり

が(=せなかをむけあ

t=

ふたり)からてきた字。

わせててきた字。

な)をくみあわせた字

わける)と刀(= もの分かりのい

うごかしてはたらく)をく

北をきっ

95

「以ばくとしませい」という。

まける

あるとき。

そのころ。

当時・時

時代・時計・時雨」2 き。「時間・時こく

いる。しじかん。

۲

価。

はあ

1

ころあい。



のセイ・サイ

書きナン

·\*ナ

9かく [+・7:

シーみなみ

6かく

東94

北

95

いにし

寸 声 百 申

東

严

西

西

+

古

尚

声

南

・東西・関東・東 東京」のりゃ

なってきた。マアジアは東半 いかた、東の空が明るく 東名高速道路」

東となった字。 ぼくの町を東西に走っている。 ゆが明けた。▼東名高速道路が にふくまれる。>関東地方のつ ら出る方角をあらわし 一年(=ぼうとふくろをし ばったかたち)から、第一 太陽が地平線か

うをうける。

ううい「西」はまちが

西」2ヨーロ こと。「西洋・西れき」 日・西部・東西・関 ッパの

いかたマ大きな夕日

● に し。 西

ました。▼西洋文明のえい の山にしずむ。▼西日がまぶし い。又は、仕事で関西にてかけ ざるの きょ 大陸にすんている。▼ 団(=さむい空気のかたまり)が 南下(=南へむかって してきた。

北の寒気を

・あたたか ペンギンは、

南一 南 わ

屋から芽 した字 がい 出て小い

かたち た ち り

たなり

- WM -

からてきた字。

るようすをあら

わかつ あんブン 4かく [刀・2か フン・ ・わかれる・ ブ わかる

見かホク

5かく

(と・3か

9

10かく

(ひへん)

[8・6かく]

(0)

1

南 94

しきた

Valとき 10 mm

北

時

畔

些

時

割・分類・分解・半りられたもの。「分類・分類・だかい」の「分類・ための」が

え。せきにん。 す。「気分」4時間・おんど・か 分・分数・分校・成分」② 分。3 もちま よう

どなどのたんい わきまえている。 分別 ふん。

かん字クイス

答の上にすわっている人は荷もしゃべらない。どうして?

答え「北」には、にげるといういみもあるから。

ひとくぎりとする、

先週・来週・次週・毎週」十七しょう らいとう しょうじょう しょう まいょう しょうまいい

刊・週番・週休・週末・今週・

ここれがん

制の会社。

一週間のよていをいっしゅうかん

と土曜日に、

サッカー

グのしあいがある。

はじまった。」週休二日

かた、今日から読書週

たてる。

来週から夏休みだ。

わせてできた字。

とし(=すす

む)をくみあ

たなり

陽)をくみあわせた字。

ぐるりととりまく)

んばろう。

▼大きな木の根元で

いつ

はち

休む。▼せかいの元首(=その国

をおさめている

人)があつまる。

元於

「元日・元年」3かしら。

元首・

元来・根元」でものごとのはじめ

元手・元金・元気・

おこるところ。もと。

りものごとの

元元元元

もと ランゲン

4かく

[ル・2かく]

間

12かく 〔門・4 かく〕

(もんがまえ)

〈にんにょう〉

ガ

元·間·親

たな ちり

1 (=人のからだの上に

る。

たな ちり

まるい

い頭をあらわしたかた

ち)から、たし元となった。

97

曜

18かく [日・14かく]

周 周

週 きかヨウ

H

それぞれの日をよぶ 週間の 曜

曜日までの七日間をなのから土

昌

ときにつけることば。 碧在

「曜日・土曜・日曜・七曜表(=カ

まちがえてしまった。▼水曜日まちがえてしまった。▼水曜日 レンダー)」②かがやく。「黒曜石 (=黒くてつやのある石)」 つかいかた。マうっかり曜日を のJリ てす。 日(はいき)・今夜・今朝・今年(こと・う。このごろ。いまの。この。「今 (=むかしからいままて)」2きょ 0 ・今学期・古今後・

今夜は花火大会があります。 うだ。▼今度こそがんばるぞ。 るかたち)からてきた。 く今にも雨がふりだしそ かたマ今つ たところ

(=ものをふたておさえ

翟(=きじがおばねを高 たてるようす)と日(=太

16かく 〔見・9かく〕 〈みる〉

1

子57

門 門 間

ラシシン

12 おや・したしい・したしむ

新

耜

親

まやカ

ン・ケン だ・ま

いあい

日日

10 あ

P

PI

きま。「間かく・中間・ だ。

一つ。けん。一間は六尺て、や間」のけん。一間は六尺で、たいのにつかうことば。ま。「客間・足につかうことば。ま。「客間・足 また、へやの数をかぞえるとき時間・空間」2へや。 客間·居

つめる。 ▼居間でくつろぐ。 もとの字は「閒」。門(= もとの字は、閒」。門(=もん) いかた▼前の人との間を 発車までに時間があ

たな ちり

た字。 人に親切にする。▼国と国と人に親切にする。▼国と国と | 辛 ( = はものて切 見(=みる)をくみあわせ いかたくかるがもの なかよく ること)。 った木)と

善」の中心になる。「親会せたしい。「親友・親交・親切たしい。「親友・親交・親切 自分で行う。「親書」 みうち。「親類」のし や。「親子・両親」2 いるの父や母。 一心になる。「親会社」5 月

来



アシコン

丰

4かく [へ・2かく]

(ひとやね)

昔181

いま

7

今

1

父 98

なかれ〉



父

には、 てす。 父とつ さんのお話をきく。▼ぼく てあります。 りに行く。▼弟 祖父のし お話をきく。 ▼ぼくの家はなしている。 ▼ 弟は父親似りに行く。 ▼ 弟は父親似りに行く。 ▼ 弟は父親似りに行く。 ▼ 弟は父親似 マこんどの休み しんがかざっ

もつき(=手)をくみあわ (=石おの)と、それを

とになる音)」

のがボ をはは 方白白 5かく [毋・1かく]

母子・父母・お母さん・「母親・おかあさん。「母親・ははおや。

乳母」で出身のところ。

ろ。「母国・母校」③ものをうみ ます。▼五年ぶりに母国に帰る。 だすもと。「母音(=はつ音のも 出かけた。>母は保母をしてい つかいかたく母と買い よりどこ もの ちぶさ むねに 実兄(=血のつながっ けっこんしているあ んいます。▼わたしと兄さんと 兄さん」 ん。「兄弟・義兄(= 人います。▼父は兄弟 いてのあに。また、姉のお

~ぼくには兄が

がたくさ

たあに)・

2

は、二つちがいてす。 17 (=年上の男の をあらわす、

きょう

の大きい子)からてきた字。

せて、

→父となっ

た字。

のある女の人をあらわ

した字。

去一代一母

### \*テイ・ダイ・\*デ **7かく** [弓・4かく 〈ゆみ〉 + 兄 98

8かく [ま・5かく]

8かく (ま・5かく)

姉

99

妹

99

弟弟弟 いおとうと 肖 弟弟

\* >

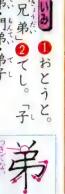
いかあね

いもうと まってイ

女

妨

女



第•門第•弟子」 のわかいもの)をきょういくす ▼なかのいい兄弟。▼子弟(=年 ▽落語家に弟子入りする。 の手をひく。

まちがえないこと。 にノじるしをつけ 美-弟 第一」などの「第」と いたぼうの下 ひもがまきつ

弟・姉・妹

んな)をくみあわせた字。



市と姉妹都市(=したしくつきの人姉妹の物語です。> 「若草物語」は、がいます。 め・姉妹・長姉・姉さ 若草物

とのかんけい)になる。 あうことをやくそくした市と市 に一をつけたかたち)と女(= もとの字は「姊」。 中(= るがまきついたぼうの上もとの字は「姊」。 中(=つ る。 妹です。 をくみあわせた字。 いえだ)と女(=おんな)

ようち園に通っている。 てもひょうばんのなかのよい姉 へん妹思いの兄さん。▼顔もせ つかいかた・妹は いかくもよくにた兄妹 ·姉妹·弟妹 未(=まだのびきらないわ いもうと。「兄 ▼ 妹のめんどうをみ 近所

「わか

もうとのいみになった。

まし\*ケイ・キョウ

5かく [ル・3かく] (にんにょう)

↓弟

99

ああに

77

F

兄

ほそいもの。

「毛細血管」③しょ

~ぶつやさく

もつがはえる。「不

毛」のひりつ

つ。

など大きな動物をかぞえること

とう。

るかしら。「唐頭・駅頭」の馬や牛

毛は一割の千分の一いたり

毛ける皮がけ。

2けのように

「年頭・先頭・頭文字」

●あたま。「頭

豆

頭

頭

頭

毛布・毛筆・ **ロ**ひふにはえ あるモウ

を トウ・ズ・\*ト あたま・\*

かしら

4かく

(IT)

[毛・0かく]

16かく 〔頁・7かく〕

〈おおがい〉

くれけ

毛毛毛

\*(=ほそいけのかたち)か

七一毛となった字。

れ物)をあわせた字。

みあわせた字。

と立っている、

あしの

あたま)と豆(=じ

0

もとの字は「顔」。彦(=うつ

しい男)と頁(=

あたま

ょかんの番頭さん。

・毛布をきちんとたたむ。

毛糸でセー

ター

をあむ。

頭上にちゅうい。

マれつ

の先頭。 0 かみの毛がのび

いかみずから 6かく 〔自・0かく〕 〈みずから〉

他

アルユウ

田心タ

・\*テイ

いからだ

4かく

〈また〉

[又・2かく]

7かく [イ・5かく]

〈にんべん〉

とも

自 白

活・自己・自覚・ないない。「 党な伝えん。「自じ自じ自じ自

自然」 に、自身」2ひとりてに。

りかえる。 てしよう。 つかい | 自らの生活をふ 自転車をか

ラスの友人とキャ ンプに行った。

川くん。

ク

う。 あら たなり ▼日本の**自然**をまもる。 鼻をゆびさして自分はな -自 鼻のか たちを

たなり

73.

友

わせたかたちから

てきた字。

をしめすことからてきた。

自由は

自 自

友

人・親友・友情・友た、なかがよい。「友た、なかがよい。「友 いるともだち。 友 友友

の小が行っ ▼友達の おみ

まい

ぶつぞうをかぞえるときにつか

からだ。「体

たち。ありさま。「気たち。ありさま。「気 につける。「体験・体得」の死体や 体・天体・大体・全体・体面」③み

み。

ほね)をくみあわせた字 もとの字は「體」

ちんとならべること)と骨

二人が手と 手をくみあ つくる。▼文しょうの大体のい うことば。 たい。 ・体さいがわる ~じょうぶな体を

友情。

間がガン いかお 18かく [頁・9かく] 〈おおがい〉

产 彦 彦 新 育 預



料」、「顔色」るいる 色・童顔・笑顔」②めいるとうがん、木とがお かおだち。「顔面・顔 かお。また、 ろどり。「顔 彦

つける)。▼水で絵の顔料(= にどろをぬる (=めいよをきず のぐ)をとく わった。 くさっと顔色が かわい

かん字クイス

「会った人と話が会った。」は、正しいかな?

体

い付き・思考・思案・い付き・思考・思案・いける。「思い出・思

思

また、

かんがえ。「考

いみ

●かんがえる。

案・選考・思考」2し

らべる。「参考・考古学」

思想

ふける。

▼つかれて思考 力がに

ぞんぶん楽しんだ。▼思い出に

ムを考え付いた。

▼思考力(=

つかいかた、一遊園地で、

思う

いかた。マおもしろいゲー

ぶった。

▼思案にくれる(=ま

よって考えがまとまらない)。

参考書をかいまし る力)が付く。

~よい考えを思い付いた。



あしセイ・\*ショ

思シンン

記こころ

7かく [士・4かく 〈さむらい〉

4かく [心・0かく]

こえ・\*こわ

1...

1.7

吉

丰

击

声

りくび。 1 あた 首首首

かしら。 「えり首」ではじ 首位・

自

首都・首相・首席」3短歌をかぞ

を五首作った。 20-119-首 毛のはかみの

えたあたまをあらわし

た字

とのさはわずかだった。 えるときにつかうことば。しゅ。 いまかと)まつ。 かたくびなが 

いまか

たう。

いろいろな人の声色(=

名声をえる。 のまね)がてきます。

み)をくみあわせた字。 もとの字は「聲」。声(=石の いたててきた楽器)と父 人)と耳(=

声・歓\*声・大声」2 声・音声・発

**うわさ。ひょうばん。** 

とめる

かたくきれいな声でう ▼ 大声でさけぶ。 名声」

- 人 - 人 の - 父 た た よ は 地位と かけ・心ない・決心・熱い・感心・決心・ない。 きんん はったん はったん なっちん 心・用心・心地」でしんぞう。 中心に広場がある。 て心臓がどきどきした。 いう。▼真心のこもったもてな つかい 臓」③まんなか。「中心」 ▼火の元に用心する。▼こわく し。▼苦心のすえかんせいした。 (J) 心からおれいを

たなり から、 しんぞうの ₩→心となっ かたち た字。



32

951 [心・5かく]

(こころ)

おもう

117

H

田

田

思思

+

土

耂

老

考

いかんがえる

プコウ

6かく 〔尹・2かく〕 〈おいかんむり〉



りに小学校でつかう字。 かうことば。さい。「歳」のかわ オ」2としをかぞえるときにつ

ポーツの天才だ。▼弟は、五才の才能がある。▼山田へんはス いかた かのじょには絵

になります。 →才となってできた字。 めるせきのかたち)からす

た。

⊗(=あかんぼうのあたま)

とん(=こころ)をくみあわ

思・考・オ

せて多い一思となった字。

たなり

た年よりのかたちからてきた。 煮-煮-考 まがっ こしの

清書・書記』②か

り字をかく。

たもの。てがみやほ

105

書」③文字。また、文字のかき方。

書)・読点・解読」

ん。「書物・書類・図書・読書・投

「書道・かい書」

クールで入せんした。

▼作文を

書きぞめのコン

清書する。

▼図書室にたくさん

たな ちり

ける

いみ)をあわせた字。

した字で、

しっ

の書物がある。▼書道をならう

主(=ふて)と日(=者をり

いう・こと

ン・ゴン 7かく [言・0かく] <い;>



مال عال دال مال مال مال مال مال

葉・言語・方言・格

づかい。 ▼えんりょなく発言してくださ ♥(=するどいはもの)と >言論のじゆうをまもる。 廿(=ロ)をくみあわせて

をとる。

父は記おく

うの「言論・無言・発言・予言・断になるないでは、ないではいまれたないではいませんだんないだんないだんだんできょうないだんだんできる。 でする。 ▼欠の伝言を母につた ないないな言葉

ている。「記おく・暗記」

をくみあわせててきた字。 己(=ふせたものがおきあ がるようす)と言(=ことは)

→り-ラウー言となった字。

しるす 言

ラシワ

13かく

[言・6かく]

はなす・はな

あるキ

10かく [言・3かく] <ごんべん>

きなら、こので記入・ いるのかきとめる。 かきし 

言言言言

1

言言話話話

かきしるす。

はなす。

記録・明記・日記・伝記」②おぼえ たいうけつけて名ま 家ぞくて記念写真 日記をつけ 30 つかいかた マ今月の目ひ さんけっ もく こんけっ しんわ じかしばむ モー たなり る。「話」などにはつけない 「お話しになる」には「し」をつけ ていません。 を話し合う。 しの「話題・会話・電話・ さんこう「話した」「話し合うる。マお世話になりました。 かた

▼電話のベルがな くそんな話はきい

よう

えを記す。

毎日、

ています。

へみあわせた字。 舌(=口を大きくあけてし やべる)と言(=

るがドク

るよむ

田とショ

10かく

(日・6かく)

7

-

畫

書

重

書

100

言十 14かく [言・7かく] 〈ごんべん〉 7 言 詩読

読本(=むかしの国語の教科 ろう読・読書・読者・ よみとる。「読み物・ また、 

たな ちり と言(=ことば)をくみあわせた 読点(=くぎりの点や丸)をうつ。 かん字の読み方をおぼえる。 しゅみは読書です。▼文には句 もとの字は「讀」。賣(=きゃ いかた▼物語を読む。 くの目をひきとめてうる) ぎってよむこと。

聞 まんブン・\*モン きく・きこえる 月 14かく [耳・8 かく] 〈みみ〉

りきく。 PT. キュー 門 聞聞

聞 ばん

「見聞」3うわさ。ひょ 聞き・伝聞」とちしき。 「人聞き・風聞・外聞・新聞」 える。「聞き手・立ち わるいことを言わない 聞き分けのいい子。

人聞きの を聞く。▼もの音が聞こえた。▼ 父はまい朝、新聞を二紙読む。 つかいかた)マ校長先生のお話

門(=とじて中をかく

ん)と耳(=みみ)をくみあ

わせた字。

数・点数」といくつかの。「数人・

数日」

つか

かたくさんせいとはん

「算数の

また、かず。「数え歌・また、かず。「数マ・数学・など・なんない」にん

りかぞえる。

娄 娄 娄 数

るとスウ・

・\*ス

形之1

るかカ

9かく

[オ・4かく]

|3かく [女・9かく] <ほくにょう>

里

[ま・7かく] 〈おうへん〉

11かく

いかず・かぞえる



語

[言・7かく]

14かく [\*\*・8かく] 〈たけかんむり〉

145

くに

T

国

111

言百

訂

言

語語

K

大ケ

符

筲

土と王がし 外於国江国

と。「国語・国文科」 ろ。いなか。「雪国」3日本のこ国・本国・島国。2うまれたとこ

語•反対語•標語」

らい

のゆめを語り

合う。

の生まれてす。 まもる土地)と、口(= もとの字は「國」。或(=ぶきて みあわせた字。 ▼国語の時間

8かく [□・5かく] 〈くにがまえ〉 F 囯 国

BEI

書きサ

かたる・かたらう

王

たなり ちり に英語をならっています。

買ってもらった。

た字。 言(=ことば)をくみあわせ

「語気・語調・語り手・ 語・国語・外国語・ はなす。



語

語を読む。▼国語じてんを マアメリ 英語・言 外にう 暗算·予算·足し算」 2みこみ。「勝算・公算」 てるみこみ)がある。 てみた。▼暗算で答えを出す。 くいです。▼こまかく計算をし ▼つぎのしあいには勝算(=勝 つかいかたマぼくは算数がと

つかいかた。▼友だちと

みをあらわす そろえてかぞえるという 竹(=たけ)と昇(= る)をくみあわせててきた

**理** 理

杉

Ŧ

ΞΠ

珂

理由・理解・理論・理 どうり。すじみち。 いるのものごとの

理」の自然科学。「理科」 おさめる。「整理・管理・修理・料 くつ・理想・無理」2ととのえる。 ▼ ちこくの理由を

たちと、「生」と、 みあ を整理整とんする。 先生に話す。▼つくえのまわり じっけんをする。 つかいかた わせててきた字。 とくぎられた田や畑)をく 里(=きちん

の町には数々の思い出がある。

|もとの字は「數」。妻(=じ

ゅずつなぎ)と女(=どうさ

時間にかけ算をならった。たいの人数を数える。▼はたいの人数を数える。▼は

数·理·科

をおこなう)をあわせた字。

かけが、 理科・内で くわけしたもので 科 科・外科」②つみ。「前科」 回動 1ものごとを

すきてす。

教科書をかばんに 入れる。▼ものもらいができて、 つかいかたくわたしは理科が ものをはかるます)と

答え 等。「ド(土)・スン(寸)」と書くから。

かん字クイス (西の瓜(うり)」ってなんだろう?

笪 算

●かぞえる。

たてる点や線。「字画・画数」

家・画像」2くざる。

「図画・絵画・画えがいたもの。

ること。

また、

つく

いるりものをつり

いるのえがく。

亩

而

雨

面

画画

I

あらガ・カク

カコウ・ク

田かサク・サ

いつくる

h

8かく [田・3かく] 〈た〉

3かく [エ・0かく]

7かく [1・5かく]

6かく [人・4かく] 〈ひとやね〉

7かく [□·4かく] <(にがまえ)

> あう 西心カイ

田心ズ・

\*はかる

しろ。「神社」2人々しる。「神社」2人々 ネネ

記を読んだ。▼兄は、きぼうど 「社会」③かいしゃ。 のあつまり。世の中。 ・社会のためにつくした人の伝
ないている。 い社。▼神社におまいりをする。 つかいかた ▼木立ちの中の古社会」③かいしゃ。「社員」 ک ا 社した。 さるもへん

服)」をまちがえないこと。 土(=つち)と示(=さい ん)をくみあわせた字。 だ

会」②あつまり。「会話・面が、ないかから、「会見・会話・面がないから、あ 合・会議・会社・司会・社会」

身につける)。
▼りょうりのこつを会得する(= 合う」は、一な さんこう「会う った。▼えんそう会の会場。 つかいかをす道で友だちと会 つにあわさる。 は、 人とあう。

つかいかた

マ図エの時間に

たな ちり さなる)をくみあわせた字。 もとの字は「會」。 <u>(</u>= あ

A A A \* 会 会

100 1えがく。

「図工・図表・図形・地た、えがいたもの。 000

意図・合図」 だんする。また、はかりごと。 図・略図」②ほん。「図書」③そう

目で合図する。▼市立図書館。かい地図がはってある。▼目と はん画をつくった。 )をくみあわせた字。 地図がはってある。 もとの字は「圖」。 ぐらのある土地)と□(= ▼かべにせ 昌(=米 目と

なり

る。▼夏休みの計画をたてる。
の画集。▼土地を四つに区画す
の画集。▼土地を四つに区画す んがえる。「計画」のもじをくみ もとは「畫」。 津(=ふてを 手にもつ)と画(=田のまわ 「区画」るか 工業がさかんです。 る人。 路工事がはじまった。 うごくおもちゃを作っ こうぎょう。「工学」 工場・大工・細工・加工・工夫」 加工して製品を作る。 つかいかを、工作の時間に、 「工作・工事・ た。

原げんり

つかいかた

大工さ 料を

二まいのいたにぼうをと したようすからてきた。

画·工·作

をくぎる)からてきた。

かん字の画数。

きつ 曲 ったもの。 つくる。また、 いるりこしらえる。 作作作 作文・作 作

・作品・名作・原作」②はたら

成する。 を作る。 みあわせててきた字。 イ(=人)と乍(=はもの きれめをいれるいみ)をく すばやい

ツ

図図

音楽」

色素・色紙(かな・しき)」

②顔つき。「喜色」3ものごとの

んぶん。「紙面・紙上」

はい・手紙・色紙(公・

りかみ。「紙し

ようす。「音色・特色・景色」

つかいかた
マニ十四色の色え

んぴつ。

明るい色調の絵。

る。

| 色紙にサインをしてもら

のた。▼画用紙に絵をかく。▼

新聞の紙面に目を走らせる(=

ごにすてる。▼色紙でつるをお

つかいかた
・紙くずをく

れしさがあふれているようす)。

特色のある新製品が出た。

さっと読む)。

糸(=

いとのようなほそい

で一色 ひざまずい

ふたりの人を

喜色満面(=顔いっぱいにう

どり。「着色・変色・

くがいろ

かかみ

四

名

ص

色

ラショク・シキ

6かく [色・0かく 〈いろ〉

10かく [糸・4かく] 〈いとへん〉

いたのしい・たの 白

泊 泊 泊 率 楽

白

楽。②たやすい。「楽 「ご楽・安楽・苦楽・気 勝」るおんがく。 「楽器・楽団

楽しむ。▼一回戦は楽勝だった。 えんそうする。 \*先生はどんな楽器でも楽々と

めた本。

アンです。

たなり

गु १

歌

木の上にまゆがかかったようす をあらわした字。 -樂(楽)

> 歌集・校歌・短歌」 昌 うた・うたう 14かく 〔欠・10かく〕 哥 また、 哥 哥

> > カイ・

I

12かく 〔糸・6 かく〕

(いとへん)

可

る。
対
が
さんは、 大きな声で校歌を歌った。 つかいかたくしあ 明るい歌声が聞こえ にかって、 音が

を 百首あ あの歌手のフ **ग** ग 画・絵本・絵日記・口がいたもの。え。「絵はないたもの。え。「絵 < 夏休みに、毎日絵日記をかいた。 読みとまちがえないこと。 つかい 友だちから絵葉書をもらった。 >絵本が大すきな妹 「エ」は音読み。 かたマクレヨンで絵をか

楽室から、

みあわせてできた字 もとの字は繪。糸(= と會(=よせあわせる)をく

をかがめる)をあわせた字。 らこえをだす)とっ(= からだ のどか

公 公

糸糸

絵

絵

糸紅紅紅紙

かあります。 しゅんには、 上からじゅんに書く

▼左からじゅんに書く。三早京点土 かれているも のは、 弓

よこから書く って いると 野

あ 海書か

あらわしたかたちからてきた。

なさじ)をくみあわせた字。

すじ)と氏(=うすいたいら

かんむりは、

田

## の ち

書きじゅんのきまり

かん字を書 書きじゅんとい つぎの います。 じゅんばん 書き

左から書く。 たてとよこがまじ

中を先に書く。 きには、 古 大

つきぬけるぼうは、 光 当

◆外がわのかこいから書かく。 中 牛 半 女 先に書く 肉

う。「百点」のあるは

薬・丸太」②あること

た、まるいもの。「丸が

りまるい。

らわすことば。「丸暗記」

ばの上について、「ぜんぶ」をあ

し。「点線」2てんす

山山小さいしる

とがら。「欠点」「の火を)つける。しょ。げんど。「地点・終点」



アシコク

テイ・ギョウ

かた・かたち

くろ・くろい

田

甲

里

里

黒黒

开

开

开

形形

里

| 11かく ↓ [黒・0かく] ↓ (くろ) 白 78

7かく [多・4かく]

(さんづくり)

・黄身・黄金だられ きいろ。「黄 # 苦 带 黄黄

ね)・黄土色・硫\*黄」

失のきいろい色をいみした。 (=火矢)をくみあわせ、 が黄ばんだ。 リップがさいた。▼白いシャ さんこう 葉が赤くなるのは、黄葉(=黄色にかわること)した。 紅葉」という。 つかいかた、赤や黄の **★-黄(黄)** ▼いちょうの葉が **)**(=ひ かり チュ 火のと

たな ちり

たなり

黒板」包わるいこと。 「はら黒い・黒まく 「黒山・黒目・黒星・

里、

かたち。また、

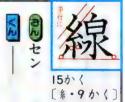
11/

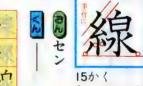
角形・図形・人形・地形、とうす。「顔形・自由・大き、またいまた」を表示。 う。「大型・体型・模型」 さんこう「型」とつか 切る。▼かわいい人形を買った。 ▼山にかこまれたけわしい地形。 ▼色紙を丸や三角の形に ▼顔形のととのっ

ー形となった字。 彡(=もよう)と井(= くいわく)をくみあわせて

火)をくみあわせた字。

●(=えんとつのすす)と本(= ▼黒山の人だかりだ。▼はら黒 い(=わるい考えをもつ)人。 日にやけて、まっ黒になった。 つかいかた
く黒い雲が広が 第一类-黑(黑)





糸於於 (いとへん) 約

6

まる・まるい

・まるめる

アガン

1

占

占

占

点点

九九

ラテン

101010

9かく […・5か()

れんが〉

3かく [・・2かく]

いるりすじ。せん。 綿線

「光線・点線・直線」2

ほそ長いもの。「線こ

う・電線・鉄線」るさか

路・本線・支線」 水平線・非常線」母鉄道。 つかいかた 校ていに白線をひいた。 ▼運動会の前の 日中

そってのびる線路。 電線が風てゆれている。 線に太陽がしずむ。 いと)と泉(= ほそく

丸暗記した。

M.

なり

点·丸·線

みあわせててきた字。

なり

もとの字は「點」。黑(=

ろい)と占(=うらない

らおる。

~要点をメモする。

のの数を数えるときのことは。 ずくをたらす。「点眼」8しなも 「点火」のしらべる。「点検」でし

つかいかた
▼点線のところか

た。マテストの前に、

る。 一碗\*丸投げの新記ろく

あがる。マこねたねん土を丸め

つかいかた。マ日の丸のはたが

と体をまるめた人からてきた。 まがっ たせん

たなり

ちいさい)をあわせた字。

かん字クイス 山にある石を荷という?

計算・合計・会計・ また、かぞえたもの。

三日日

きかい。「温度計・時計」③かん 統計」②数りょうなどをはかる、

時・何日・何度・何人」

り」るすぐに。

また、

じかに。

直前・直感・直接」

計画・設計

がえる。また、

はかりごと。

つかいかた。▼何かごようです

か。

~ここには何回も来たこと

やい。

旅行の計画をたてる。

言(=ことばのいみ)と十(=

おおくのものをひとつにあ

たなり

<del>U</del>

M

何

人がに もつを

めるいみ)からてきた。

かつぐかたちからてきた字。

たをかぶせることのいみ。

入れものに、

ぴったりとあう

合計を出す。

さんこう「何時」のように、 がある。▼今、何時ですか。

ん」と読むことが多い

つかいかた

▼つかったお金の ▼かれは計算がは

~ ただちに・なおす・なおる ナナナ 古 育 直 直

日かカク

いかど・つの

ただしい。また、 直進·直角2

1

直線・

だしくする。「正直・実直・仲直

形・角材・角柱」るかくど。 笛・触\*角」②かど。 すみ。「四つ角・三角

するよこづな。 る。▼直角に交わる二本の直線。 角・えい角」のすもう。「角界」 角界(=すもうの社会)を代表 トがある。▼四つ角を左にまが つかいかた、まがり角にポス

をひく。▼あの人は正直ものだ。

た な り ののかたちからてきた字。 A-路-角 0 0 2

たな ちり

るし)から、

ちにとりかかる。▼直接わたす。

(一めとまっすぐなし

まちがえた答えを直す。

った字。

角のの

どうぶ 合はいっ 集合・合計・合作・合 3りょうをあらわすたんい。 山のちょう上までの道の 唱・合宿・合成・化合・合格」2 せる。かなう。「会合・ 十に分けたたんい。 升\*の十分の一

五の合う

く。▼ふじ山の八合めの小屋。ってきめる。▼合図のふえをふってきめる。▼合図のふえをふ つかいかたマクラスで話し合 な)をくみあわせた字。 △(=かぶせる)と□(=あ

動トウ

二三日

9かく [言・2かく]

〈こんべん〉 500

合計 820

110

110 + 100

12かく [\*\*・6かく] (たけかんむり)

000 | 1111

問 206

7かく

(にんべん)

[イ・5かく]

何 何何

VN こたえる・こたえ

ケ

欠

**公答答** 

なに、なん

**まれ**\*カ

はかる・はからう

二十二言言言言

1かぞえる。

わからないことをた らないこと。また、 いるはっきりわか 口

台

案・返答・名答・応答・回答・解答」 え・口答え・問答・答 た、こたえ。「受け答 いかこたえる。

えること)をする。 応答(=しつもんやいけんにこた つかいかた
・生徒会でしつぎ

え。「回答」はといあわせの答え。 さんこう「解答」はもんだいの答 る)をくみあわせた字。竹の 竹(=たけ)と合(=あ わせ

った角角角角 あがずウ・ガッ・カ **あう・あわす・あわせる** 

7かく [角・0かく]

(20)

6かく [ロ・3かく

人合合合合

りあう。

巨万の富をきずいた。

うまくいく。

▼あの人は

万人の観客があつまった。▼万事

万能・万全・巨\*万」

万病(=あらゆる病気)のもと。

れてきた。

みあわせててきた字。

きた字。

んざし)と母(=

い字の「萬」のかわりに使

た字で、

「ლ・5かく」 (あめかんむり)

11かく

[女・7かく]

न्डि

霄

教教教教

●いなびかり。

発電」 電光」2てんき。「電 3電信·電報·電話のり

っ「電文・祝電・るす電」の電車 なびかり)が走る。▼祝電 わいの電報)をうつ。 しくらい空に電光 「市電・終電

たなり ながくの いなずまをあらわした。 一番中一電 雨(=あめ) びる)をくみあわ

雪電 田山キョウ いおしえる・おそわる

室・ 2神やほとけのおしえ。 おしえ。「教え子・教

しえる。

しる。また、

矢矢

知知

と、子(=子)と女(=動作をお xx (= t じえる) 田たなかせんなり、世代を教し 「知人・旧知」るかんがえるはた らき。「知恵\*・知能・知性」 しらせる。「知識・通 つかいかた である。また、

生に教わっています。

さんび歌をうたう。

教(教)

えてあげた。▼音楽は、

いかた

しゅうきょう。「教会・仏

あてるいみをあらわした字 矢(=や)と口(=くち)をあ

さんは物知りだ。マ未知(=まだ ▼みんなで知恵\*をしぼる しられていない)の分野の研究。 ▼わたしのおじ

こなう)をあわせた字。

あかマン 3かく [一・2かく] (115)

6かく [毋・2かく]

〈なかれ〉

6かく [日·3かく ((にがまえ)



仁与句

かとママ

まやカイ・\*エ

くれまわる・まわす

て。「万人・万事・万国旗・万病たくさんある。すべ

のとき。 日・毎月・毎年」 いるそのとき、 いつも。「毎 そ

す。▼お父さんは、 をやるのが、 つかいかたマ毎日小鳥にえさ わたしのやく 毎朝犬とさ めて

さける。「回り道」母度数をあらどる。「回復・回収」るよける。

回らん。②もとにも

まわす。「回転・

口

りまわる。

L

回

口

回

わすことば。

かい。

何如

を見ています。 テレビドラマ 毎週、この んぽをします。 もとの字は「毎」。 × 毋

(=か きおい そがしい

よく回転するプロペラ。

は)をし

一何回も答えをたしかめる。 ①(=ぐるぐるとまわる

お日さまが生まれると何になる?

つかいかた
▼目が回るほどい

~こまを回す。

あかチ

8かく

〔失・3かく〕

んしる

面・後半・半ば」②かん

ぜんてな

。「半ばば

▼夏休みも半ばを

「当日・当時・当人」

番号じゅんにならん

~

**>さあ、** 

きみの

半がおもしろい。▼毎朝七時半 すぎた。マこのものがたりは、

うに当たる。マ今週は、

きゅう

食当番だ。▼当然のことをした

がいる。

>きょうは弟とるす番

~交番におまわりさん

かけっこはい

に家を出る。マ半ぱの数が出た。

50分以「半ば」を「半かば」と

だけてす。

しあいの当日。

書かない

こと。

たな ちり

もとの字は「當」。田と尚を

ーみあわせててきた。「当」

をくみあわせててきた字。パ(=わける)と半(=うし) パ(=わける)と半(=う

せ・組織・番組」②い

っしょのなかま。くみ。「一組み・

つくる。

「組み合わ

リーーくみたてる。

坐出

**乡** 新 新 新 新 和

またソ

11かく

[糸・5かく]

かん字のちしき

はんたいのいみのかん字

としくむ・く

組合・二組」

み)をととのえる。

み立てる。▼会社の組織(=

マブラモデルを組

同じ組のともだちてす。

、マニ人で

組みになる。

糸(=ひも)と且(=もの

かさなったよう

す)をくみ

あわせた字。

となかば 4 5かく [+・3かく] 坐 (じゅう)

ありトウ

6かく [小・3かく

7] |-|-る あたる・あてる 1//-当当当

50

平

采香番番

Bay /

12かく 〔田・7 かく〕

〈た〉

1

り・手当て・当番・当てはまる。「体当た のあたる。

「番号・番地・番組・当になるとう

え。「当然」。この。その。 選・見当・担当・適当」であたり つかいかたマふく引きて三と いま。 交番・るす番」 ください 番」2みはる。「番犬・ だよ。 つかいかた

釆(=四方八方にちらばる) と田(=

た)をくみあわせて

なり てきた字。

のりゃ く字。

0

あります。 さってできたことばが、 いみをもつかん字です。 これらのかん字が二つくみ合わ は、 はんたい たくさん

出き売ば上等遠え大は内は強素前なんな異ば下げ近え小き外が弱を後こ

多た後をきたりまた。

晴浩南京男荒兄青天至東等姉上父本雨,北管女皇弟荒地与西荒妹素母は

昼等手で朝き黒る左き春と山を今え夜や足を夕き白ら右き秋を川ま昔を

っついになる 63 みの か ん字に

ます。 わさって、一つのここれらのかん字も、 るいみをもつかん字 わさって、 「親→子」 つのことばをつくり 二つがくみ合 つい にな

答え。「日・生」だから。

めん。

第一場」るとき。

場はあい

市場・波止場」②は場・入場・

•工場

●のはしょ。「会

品

扣

坦

坦

坍

場場

みあわせた字。

ぼるようす)と土(=

つ

ち 0

土(=

つち)とせ(=さそり

たち)の

くみあわせ。

会の会場についた。

しゅうをする。

→雨の場は

つかいかたく会社で重

要な地

合は遠足は中止です。

易(=太陽がうつ

ッチボールをする。

マえんそう

に集合する。▼第と広場でキャ

4かぎられたところ。

いなか

現地・地元・地方」

たくきめられた場所

あんコウ 6かく [一・4かく 〈なべぶた〉 まい

まじわる・ま \*かわす る・まざる・まぜる・\*かう・ か 交 交

交。2とりかえる。とり 差点・交流・交際・外 つきあう。「交通・交 交かん・交代・交易」 いるのまじわる。 か

交わす。 交わる。▼交通ルールをまもり ましょう。 った。マピッチャーが交代する。 「おはよう」と朝のあいさつを せたかたち)からてきた。 (=人が足をまじ ▼交差点でじこがあ

かた。▼たくさんの人と わす

たなり 学校に通う。 角(=人が地面をふむ)と ▼二人の共通点。 む)からてきた。 を通って

ききする。 で ツウ・\*ツ 了門門 とおる・とおす 1とおる。 10かく (主・7かく) 育 甬 ・かよう

通・流通・通過」2し らせる。「通知・通訳・文通」る広 角

道

のごとにくわしい人。「外国通」 通」4とおして。「通夜・通読」もも ⑥手紙や書るいを数えることば かせない。 くゆきわたる。「通用・通常・共 道・道具」4言う。「報道」 道・道具」4言う。「報道」 道・道具」4言う。「報道」 道は車が多い。▼しごとのが近道です。 道具をかたづける。▼報道じん がたくさんあつまる。 を一、道にまよう。 ▼しごとのあと、 「じゅう

首(=あたま)とえ(= む)をくみあわせた字

たなり

アルホウ かかた 4かく [方・0かく]

अव भेरे

くんば

ラジョウ

Contract of the second

ヨルチ・ジ

6かく

[1.3か(]

〈つちへん〉

天

64

12かく

(つちへん)

[1・9かく]



遠方・行方」2あるち 方向・方角・前方・

方形・正方形」4そのころ。「夕方」 やりかた。「方法・方式」 5かんけいのある人。「味方」 6 き。「地方・方言」③四角。

つか せて、 風がふく。 ほう)にむかう。 ぐ)に1(=とって)をくみ 風がふく。▼病気が快方(= ろ(=田をたがやすどう

(しんにょう)

涌通

るとドウ・ ソーソーソ シーみち

12かく [主・9かく]

(しんにょう)



かん字クイスの

「強」は弓(ゆみ)の部。では「弱」は?

京阪\*神(=京都・大阪\*・神戸)」

横浜\*)・京葉(=東京と千葉)」 東京のりゃく。「京浜\*(=東京と

かたく父はきのう、

, , 0

東京・上

の中

家・家来・家がら」②せんもんの

画家·作家」

家てい・家ちん・本

いる

たて

BA ST

B 201)

くれさと

5かく 〔巾・2かく

(1111)

いち

古

П

H

田

甲

里

里

1

あい

て、

1国のせいじ 古 宁 京京

帰京」②京都のりゃく。「京人形 とうきょうじょうきょう 京・

方のせいじをおこなう 場(かち・れじ)・市価」③地 「都市」②いちは。「市 おおきな町。

通りには、毎日朝市がたちます。 きいもの。「市民・市長・市内」 ゆびおりの大都市です。▼この けたくいきの一つて、 つかいかた マ東京は世界でも 父は市役所につとめています。 市となった字。 ひ(=たいら)とせ(=とま る)をくみあわせて、 町芸

ごとて上京(=東京へ行くこと)

しました。

京都で京人形を買

ました。

**命**(=

たかだいのたても

の)から、食一京となった字。

ころで、 いの一つ。 里・村里」でふるさと。「里帰り ロメ 郷里」③むかしのきょりのたん 人があつまってす つかいかた

人里はなれたと いるところ。「人 トル。「一日

"

一里はやく四キ

里塚\*」

年ぶりに、 たな ちり ● (= 田んぼと土をくみ あわせたかたち)からてき しずかにくらす。 郷里に帰る。 五

より大いたわ

間とテン るみせ 8 111 [广・5かく] (まだれ) **やませ** 广 店店

+ るてら 土 6かく [寸・3かく] **丰** 寺 (すん)

見カ・ケ

10かく

[か・7かく]

〈うかんむり〉

いえ・や

一

宁

宁家家家

てら。 「寺院・

員・茶店・夜店・商

しなものをう

学校のようなところ)」 み書きやそろばんをおしえた、 子屋(=江\*戸時代、子どもに読 や)・古寺・山寺・寺 寺社(=てらとおみ

店・売店・書店」

て歩く。 るい を見学する。 く。マ京都へ行 お寺がある。マ寺がたちな かた
▼町はず ▼あちこちの古寺を見

えの茶店に入った。

聞をかう。

くにぎや

いを歩く。

立ち話をして しんせつだ。

いる。

を食べる。

▼家具屋さんて、

家族そろって、 かた・新

家をたて タごはん

止(=あ くみあわせからてきた字。 し)とす(= て)の

家・寺・店

宀(=やね)と豕(=ぶた)

みあわせた字

つれて歩く。

▼画家になりたい。

んをはらう。

▼王さまが家来を

くえを買ってもらった。

マ家ち

た な ち り

( | '

えのいみ)と占(=

みあわせててきた字。

うらないてきめる

かん字クイス

み)を

ベースボールは「野菜」。 ではテニスは?

かたくこの店の店員は

▼やおやの店先で

答え同じ号の部。

7かく 〔里・0かく

(さと)

台」でものをのせる

らな土地。「台地・高いたいたい

台

台

ラシダ

タイ

恵キ

7かく

[シ・4かく

5かく [ロ·2かく] <(ち)

たな ちり

台をかためる。マ舞台に立つ。

もとの字は「臺」。土(=つち)

と門(=高をりゃく

とどく)ててきた字。

つかいかた
る台の家。



きとシッ

田とりコ

くたと

9かく

[か・6かく]

(うかんむり)

4かく

[戸・0かく]

\*むろ

リロシ 門松」といえ。 門番・正門・ ●いえの出入

か屋がある。 まで、門下・同門・入げるの名門、多なかまた、いえがらの「名門」のなか かにわけたもの。「部門・専門」 つかいかた▼校門の前にざっ しい生活をはじめること)をい ▼はれの門出(=

たちからてきた。 マ平家の一門。 自自 とじたか とびらを

日 H

室室

学

宏

室室室

一

三

戸

室」のいちぞく。 室」のほらあな。 うじします。 文室・図書室・温 毎日、 ▽図書室で本を読 王室·皇室」 石 教室をそ

みあわせた字。 b てとどいてとどまる)をく いみをあらわす え)と至(= ちばんおく お 0

ばいする。

▼山の石室にと たくさんの花を

まりをする。マい

い天気なのて

をしまう。▼雨戸をしめて、戸じ

いかた・戸だなにコッ

かぞえることは。こ。

かず

→温室で、

の)と。「戸だな・戸口・雨戸」2いえ。「戸だな・戸 外・戸数・戸主」るいえの

たなり ちり にすむ。 戸外であそぶ。▼ くりつして P P いるたてもの)の家 一戸だて(=

もんの左のとびら) →戸となった字。

るかセン ||かく [身・5かく] (ふねへん)

いかねいかな

角

笛』 ゆげ。じょう ゆげ。じょう 7 汽 汽

の中で、 きな汽船の船員でした。 にのった。 つかい いかを・夏休みに、 船の汽笛がボ おじいさんは、 **>きり** 

とになるもの。「土台・台紙」

五台」の数のおおよそのはんい。

九びょう台」

った。

しどう車などをかぞえることば。

もの。「鏡台・ふみ台・舞\*台」るも

た な ち り くうきの をくみあわせた字。 いみ。「きし 「汽」とにた「気」は、 いき)とシ ゃ 、」は「汽

> 客がなり・船長・汽船・ ぎわうみなと町。 もった女の子。 って、船旅に出る。 てきた。▼大きな客船にのかりからなった。 船・造船

「ふな」と読む。 さんこう「船出・船旅」などは、 ながれるようす)と舟(= 合(=くぼみにそって水が 赤かい ▼漁船でに

かん字クイス

ふね)をくみあわせた字。

状につらなは、島が弓

っててきている。

らる

ー号とな

0

た字。

った字。

ゆみの

かたち

た なり

がえないこと。

った。

日はん

うなさいそく。

▼てきの矢面にたつ。

んがおわって、

弓取式がはじま むすびのいちば

りにそらす。

あがギュ

ウ

書地バ

うま・\*ま

451

〔牛・〇かく〕

(1000)

10かく [馬・0かく]

(うま)

うし

らちちをしぼる。

一年」や「手」とまち

が

さめる。

に絵馬をお

えないこと。

半1牛となった字。

か

た な ち り

野-聚-馬-馬

つまのかたちからてきた字。

をやい

てたべた。

にゅう牛か

る。マ神社

竹馬にの

る。

馬力のあるト

・ラッ

2.

た。

かた、乗馬クラブに入

かけた。

牛にゅうをのむ。マ牛

がちちをのんている。 牛や馬がたくさんいる。 127

ゆう牛・水牛

馬・乗馬・白馬・けいび・馬車・竹馬・木

いみ

うま。

馬を

П

拝

馬馬馬

ゆう・牛肉・子牛・に

には、

かた

このぼくじょう



B 2 \* >

5かく 〔矢・0かく〕

2かく [刀・0かく] <かたな>

くとや

いかたな るとトウ

1

二

午

矢

矢をいる。 いかた マラス

れんしゅうをする。 弓道 体を弓な ラスの

矢・一矢」②はやいこの、矢車・矢面・弓 ・矢面・ラスケック

とのたとえ。「矢つぎばや」

かたな。

はも

つかいかた
マ矢印にそって歩 く車がからからまわる。 かたち)から十八一矢とな 一「失(う)」の字とまち 人(=まっすぐな、 ▼矢のよ やの 毎まれ 竹とんぼを作った。▼ちょうこた武士。▼小刀で竹をけずって の。「小刀(たな・とうう)・ つかいかたくのをこし る。

かたち) から、

(=はのそったかたな しろし

木刀をふって体をきたえ

はん木をほる。

父は

たなり 刀となった字。

留 101010

ラグギョ いうお・さかな 各 角 11かく 〔魚・0かく 鱼 角 魚魚

さかな。「魚 無

金魚・人魚」 つかいかた ▼金魚にえさをやる。 ▼魚市場の見学に行っ ろいろな熱帯魚を 父と無つりに

本魚をたたきながらおきょうを あげている。 かっている。 じさんは、い おぼうさんが

典-愛-愛-魚

たなり

さかなのかたちからてきた字。

たなり

米(=十のしるしの

四方に

十八才のお

11

わ 15

こめつぶがちらは

0

たか

むぎのほの

かたち)と文

米となった。

(=あし)をくみあわせた字。

・野鳥



田かメ

**思心\***ウ

Valは・はね

14かく

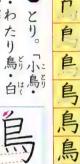
(とり)

[鳥・3かく]

6かく [羽・0かく] <はね>

なく、なる・ならす

自 自



可

咱

鸣鳴鳴鳴

习

羽羽

羽

1



い鳥のように空を

水鳥

る。「共鳴・鳴動」 なく。「鳴き声・悲鳴 1こえをだす。

▼するどい悲鳴が聞こえた。 いかた・小鳥の

きにつかう。人の場合は「泣く」。 げんかんのブザーを鳴らす。 さんこう鳥や虫などがなく 耳鳴りがしている。 こことをあらわ をくみあわせて、 鳥(=とり)とロ(=

鳥はだがたつ。

がはじまった。

さむくて、

とりのかたちからてきた字。

死-原-黑-鳥

さ。「羽音・羽衣・羽ないはね。つば

三流

くち) 2 ぎをかぞえることは。 毛・白羽」2鳥やうさ つかいかを
▼羽根つきをする。

鳥です。

▼城のおほりに白

いる。

>きょうから愛鳥

こを作った。 とびたい。

→つばめはわたり

父と、

小鳥のすば

をあらわした字。 33 羽(羽)

たわ・十ば(十わ)」となる。 ときは、数字によって、「 わ・三は(わ)・四わ・五わ・六わ さかこう鳥やうさぎを数える

鳥のはねの

屋・牛肉・魚肉・果肉」②からだ。にたもの。「肉食・肉にたるの。」「肉食・肉 の目)では見えない。▼肉太の字。 また、じかに。「肉体・肉声・肉眼」 少(=どうぶつのやわらか 肉太」4血の 肉体をつく た ち り たち)から、 を「米じゅ」という。

つながり。「肉親

つかいかたく強い

るもののあつみ。

のとニク

6かく [肉・0かく]

くるこめ 米 1 米 7



くれむぎ

同心\*バク

7かく 〔麦•0かく〕

〈むぎ〉

大步、表表表

麦麦

むぎ。

屋・米作・米食・白いんだった。 米・げん米」②アメリ

また、

●どうぶつの

米国(=アメリカ合衆国)にりゅ つかいかた・米を五合たく。カのこと。「米国・南米・北米」 今年とれた新米を食べた。 み・大麦・小麦・麦 ら・麦茶・麦畑・麦ふ

ろろじるをかけて食べる。 すかぎりの麦畑。 いひえた麦茶をのむ。 しをかぶる。 もとの字は「 かた、麦ごはんに、 六月ごろ)」 麥」。

麦も

芽・麦秋(=むぎをとり 見わたた いれる

かん字7イス 「朝」は何月何日のこと?

②つかう。「用意·用 事·用件·私用·所用」

●ようじ。「用

\$ \$ \$

な

尤 犬

用用

量・用心・活用・採用・使用・利

ようなお金やしなもの。「費用」

いかた
▼用事をすませる。

3はたらき。「作用」4ひつ

上

[+・6かく

くくさかんむり

片(=長方形のい

た)とト

ぼう)のくみあ

>筆を用いる。

1 9かく

茶

●茶の木。 茶茶茶

茶の湯のこと。 茶つみ・茶の間・茶づけ たのみもの。「茶畑・ 茶・紅茶・番茶・茶話会」2 その葉をつかっ 「茶道」3黒みが 茶店・

陽や月がかい

りする)をくみあわせた字。 マウーロン茶をのむ もとの字は「茶」。 >家ぞくが茶の間にあつまいかた。 ▼あついお茶をの ょくぶつ)と余(=ゆっ t=

> るとショ 9かく 〔食・0かく〕

くれくう・\*くらう・たべる ク・\*ジキ 食 (l:() 食食食

> Vh きカツカツ

> > 9かく

[シ・6かく

活活活活活活活活

品·食物·朝食·給 物·食事·食料·食べた、たべもの。「食べた、たべもの。「食べ

**1**たべる。

ける。「日食・月 食 2太 かす。「活用・生活」

「活力・活

学校生活

ふたをする)と日(=こくもつを で食べる。▼虫が食った古い本。 つめて 発なふん火をくりかえして た。「活気のあるクラス。 をおくる。
・運動会で活やく 2さかんにうごく。 たなり

を食べる。

▼日食をかんさつした。

金-食-

食

った赤黄色。

わせててきた字。 舌(= く)とシ(= きお みず)

たくさんもつ)

からてきた。

かん字のちしき

きかヨウ

5かく

(もちいる)

[用・0かく]

をもちいる

きました。

\$\$\$ }}}

111

\*

米木

かん字はさい

しょは、

絵之

からで

かん字のできかた

かなを、 〈おくりがなをつけるかん字〉 せるために、かん字の下につけかん字の読みかたをはっきり 「おくりがな」とい つける 3

・ようち園へ通う。 ・交番の前を通る。 ● 色紙を細り く切る。

■図や記ごうでしめしたいろいろなかん字ができました。

へおくり れば」のように形がかわります。字のおくりがなは、「通らない・通とない・通らない・通いない・通いない・通いない・通いない。 ・やさいを細かく切る

・花を花びんにさす。 ・満い海でおよぐ。 ・満い海でおよぐ。 がなをつけないかん字〉

花

ん字の読みだけ つう まえをあらわすかん字 おく 7. がなをつけていみ

火の用心。▼手先が器用だ。

力を利用して、

発電する。

すりの作用で、ねつが下が

■いみを合わせてできた お日さまが合わ お日さまが合わ

■読みといみを合わせてできた

青…読み方 日…いみ

ながわ

0

は、

ものの

かん字7イス ある だに 4かい 行った。 荷をしに 行ったのかな?

外」②よそ。

6

る。とおい

。「遠出・

りはなれてい

遠近・望遠鏡」②した遠たとはするときなったときないまするときなっているから

ない

敬遠・そ遠

つかいかた

▼遠くに明かり

がわ。

「外気・外見・ りそと。

そと

外・案外・意外はずれる。まれたところ。「外国・外山・海がからかい」

父は外出した。▼

遠」などにつかう。

とうい

はまちが

0

つかいかた、家の外であそぶ。

例がすっ

「除外」母べつのも

見える。▼明日は遠足だ。

りょしないて食べなさい。

さんこう「オン」の読みは「久

けがをして外科に行った。

をさがしてみよう

た なり

う)をくみあわせた字。

つき)とト(=

7

たなり

袁(=ゆとりがある)とこ

91

4かく [门・2かく (どうがまえ)

1

133

当 見がゼン をまえ Will state of the state of the

前

くれのち・う

あと・

おく

うち

\*ダイ

りまえ。 前 前前前

移

省

份

後後

内

のほう。「前向き・前 まえ

前・食前・事前・寸前」よりまえ。いぜんなながんながんではないなんではないがん。 さな公園があります。 後・前進」②あるとき いよく前進する。 つかいかたと学校の前に、 ▼雨は午前に 生がん 前日・午 午前中ではある。

ちとリ(=かたな)をくみあ にあがった。 ててきた字。 新 前 音をもつかた 「セン」という

即認

ろ。「後方・後列」2 のち。

そくからは雨でしょう。 ▼明日は晴れ後へもり、 食後・午後」のおくれる。「後進 つかいかた
マ父の後ろを歩く。 あと。「後日・ ムをした。

しをひきずるかたち)とろ 後-後 みあわせた字。 8 こし)とべ(= II 6 0 あ

後れの洋服。

がわ。「内部・案内・体 「内祝い・内しょ・内定」内・以内」②ひそか。 つかいかたくおには外、

る。 たなり 寺の境内(=しき地の中)をある とめる。

あたたか は内。▼ものがたりの内容をま ( ) | る)をくみあわせて、 内しょばなしをする。 おおお い室内にはい

内となっ い)と人(=

同シキン いちか 7かく (え・4か 11 1 (しんにょう) 遠 133

あんガイ・\*ゲ

5かく [タ·2かく]↓

13かく [え・10かく]↓

(しんじょう)

(ゆう)

内 132

~ そと・ほ

か

はずす・はず

abエン・\*オン

とおとお

VI

土光 青

青

青

東東遠

れる

斤 斤 近

いる

近

●ちかい。

近親

た な ち り み)をもつ。 会った人たちに、親近感(=親氏の公園であるぶ。 ▼旅先 「近ずく」と書かないこと。 でうい 「近づく」が正し 斤(=おののはがちか たようす)とえ(= すすむ)

わせた字

かんまクイス 舌(した)を出して言ったことは?

新統新於新於

・新型・新旧・おんりしい。

太陽

2 ふとい。

おおきい。

丸太・肉太」多はな

みあわせた字。

「切りたての

「なまなまし

」をあらわす。

記録が出た。

立(=するど

は

をまちがえないこと。

■「太」と「犬」「大」

0)

介(=大きい

いみ)と二(=

か

たなり

木(=き)と斤(=

おの)を もの)と

たな ちり

さねるしるし)をくみあ

百メ

ル競

走て、

かし)の化石。

今日から新学期。▼新聞を読む。

0

気持ちを新たにする。

しいく

つをは

しずむ。▼太い松の木。▼九太 しずむ。▼太い松の木。▼九太 しずむ。▼太い松の木。▼九太 はだしい。「太さ」



くかすくない・すこ

ウ

田と

5かく

((5)

[ロ・2か()

新

135

いかる

いいふるす

古

古

4 1

(しょう)

多 134

多年・多大・多分・多かんなたがなからなん。「多数・多少・ おおい。 ▼雲が多

すこし。 おさない 少数・ な

むが、「小さい」と さんこう「小」も「ショウ」と読 数意見もたいせつだ。▼元気き しおなかがすい た。

だ多少のこりがあります。

んて多大なそんが

いをうけた。

さんあ

6

にく)をかさねて、

ょう。▼多数決てきめます。

すま

が多い。

多分あしたは雨でし

が見えない。

おまつりの人出

なり たち し)をくみあわせて とノ (=けずりとるし 小(=小さくけずる てきた字。 る

かた マ今年は雨が少ない りょう ちゅうり

かたく古い柱時

ふる

。「古

新聞・古本・古木」②

あと た。▼古代の人たちのすまいの をまとめて、 つか 古人・古今・古都・太古 わが国最古の むかし。「古代・古典・ い古したかばん。

ひもてしばる。

→ 古新聞

せきが発見され

きた字。 たなり んのあたまの 古(=かざりをつけたそ II ね か 5

7

135

1

まかいまかい かけて ||かく [糸・5かく] ほそ (いとへん)

のシシン

13かく

「斤・タかく

古134

300

(おのづくり)

るたらしい

・あらた・\*にい

はタイ・タ

4かく

[大・1かく]▼ 〈だい〉

細

135

Vel ふとい・ふとる

亲

亲

新

新新

大大太





長い」②小さい。 ののほそい。「細

子細・詳\*細」 た、こまかい。「細 心にま わしい

ゆび。 雨がふ

細心の注意をはらう。▼子細に(= 気てやせ細る。 つかいかた しく)わけを話す。 >目に見えない細きん。

30

80 細 らてきた字。 **90**€ ( = ほそい

かん字クイスの

「聞」の部首は?

答え話。 「言・舌」だから。 「高級・高価」3おかねやものの温。2すぐれている。

ひろめる。「広告」

広大」②ひろがる。

い。「広場・広間・ひろい。お

生產高

山・高原・高低・高

口

口

たって

いる家のかたちからてき

たちり

ね)と黄(=

き

ろ

もとの字は「廣」。

4

月(=しかく

とはよまないこと。

「おなし」「おんなじ」

たなり

同

上げる。

▼高級なレ

ストラン。

しの広告が出る。

そのうわさ

い。▼ひこうきが高度を かた、高原の朝は気持

間で、

会ぎをする。

まわる。

広大な土地。

売り出た広かけ

同感だ。

つかいかた
▼広い野原をか

自動車の生産高

髙-

高-高

土とたかに

V

は、

町じゅうに広まってしまっ

強 136

短 186

いかつよい しいるよまる・

つよめ

よわめるよわい・よわれ

马马马哥

弱弱

F

長

長長長

おとジャ

7 10かく

のカチョ

ゥ

8かく 〔長・0かく〕

となが

引

1つよい 強 強

強強

引・勉強」のはすうをきりすて ててきた数につけて、それより むりにする。 少し多いことをあらわす。 弱·強情」2 しいる。 強行·強 10 げててきた数につけて、 一万円弱」

▼百人弱が集合した。 弱音をはかずにがんばる。 年ながらり ▼気の弱 っかり

カなみかた。

強引な意

かたマカ強いことは。

ートン強の岩。

弓(=ゆみ)とう う)を二つくみあわせた字。  $\widehat{\parallel}$ ŧ

わせててきた字。

み)と虽(=まるい もとの字は「强」。

号(= 虫)をく

虫・弱音・弱 ・強弱。2わか 弱。 弱為

**り**な

をきりあ

りも少し少ないことをあらわす それよ かしら。 聞く。▼あなたの長所は、 長身だ。▼校長先生のお話を 身·長短·長期2 れている。「長所・特長 もまじめなところだ。 61 ・市長・議長・駅長」3すん ▼兄は、クラスで一ばんの

マぞうのはなは長

名·然·長

せた老人のかたちからできた。 なびか かみを

るとドウ 司 おなじ 6かく [ロ・3かく] 1 異 354 ((5)

言。

263

10かく

[高・0かく

かめるかめる

たか・たかまる・た

いかいいひろまる・ひろめ

る・ひろがる・ひろげ

3

同心コウ

5かく

「广・2かく」 (まだれ)

十

古

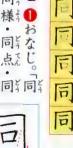
高

高高

17

ラコウコウ

百 同



一

高さが同じだ。 一同(=みんな)元気です。 かた、まりさんと、せの ▼同級生の山田く マその考 えには

わせて、 た)とせ

かん字クイスでき

鳥は口で何をするのかな?

答え耳。門ではない。

田心ライ

田心井

STATE OF THE PARTY OF THE PARTY

4かく [止・0かく] <とまる>

くかとまる・とめる

Va かえる・

かえす

7かく

[木・3かく]

帰

10かく [巾・7かく]

くんくる・\*

きたる・\*きたす

来

来

来

来

来来

リコ

デ

归

帰帰

来」るこれから。「将来・未来」

あるときからずっと。 来月・往来・伝来」2

「元来・以

「来客・来店・ 0くる。

帰京・帰宅・帰省・帰る。「帰り道・帰国・

かえる。

もど

哥

とめる。

止と

しとまる。

ま

ちか

ぎのほのかたち)から、

(=ほうき)をくみあわせてでき

たなり

足)と帚

**自**(=

もとの字は「來」。

**★**(=

ふっていない。▼寺の由来(=い

ること)します。

もとの字は「

来月、

○ 八月十日以来、雨がはかいない。 本月、もう一度来てく

北海道に帰省(=ふるさとに帰るかとう。 >正月には、家族できた。

3

はんざいを防止しよう。

止まる。

▼ かゆみ止めの薬をぬ

~もうすぐバスが

ます。

▼父は、

ゆうべおそく帰り 母は四時に帰れ

場は

われ)をしらべる。



が調・散なるく。「歩

は、歩行・歩調・散 りあい。「歩合」3土地のめんせりあい。「歩合」3土地のめんせ 一歩一歩ゆっ

いか

った

百メートル競り なっ 走した(=にげさった)。 た。 トル競走て、 ▼はん人は、車でとう ▼ うんどう会の んは、 一とうに

からてきた字。 变-杏-走 しるよ

左右の足のかたちからてきた。

合をはらう。

歩みがおそい

A

少一步(步

犬をつれて、 万円にたい

して、二百円の 散歩をする。 橋をわたった。

> 思めソウ 走走走走走走 いはしる 7かく [走・0かく] <はしる> 走者。 る。

走・快走・力走・敗走・とう走・だた、にげる。「走者・大きないます」という。

人がは

ちからてきた字。 イトを

「行動・行使・実行

行

横行・孝行・刊行」 行めから読んてください おこない。 じのならび。「行列・ つかいかを、一行く手に、 山がそびえる。

行進をする。

ない。 旅行に、 けれ

十字路

まんコウ・ギョウ・ 6かく [行・0かく]

いく・ゆく・おこなう 行行行

答え鳴く。「ロ・鳥」だから。

方2れつ。また、も進・旅行・急等にすべります。

ここに車を止めることを禁止する。マ雨で遠足が中止になった。マ ♥(=あしのかたち)から、

かん字クイス 立って木を見ている人はだれ?

つかいかた。▼地しんて時計が



1999

12かく 〔貝·5かく〕 ↓

4かく [号・1 かく]

売140

くこがいう

書がバイ

思るイン

ひく・ひける

いかう

うる・うれる

り物・売店・売買・ 売売売売 りうる。 · 売売

THE THE

<del>-----</del>

買

買買買

马马马马

りひく。

0

売・発売」2ひろめ 商売

る。「売名」 った。▼売名行い(=自分の名駅の売店で、ガムを買ってもら 貝(=おかねやしなもの)をくみ たちす)とい(=あみてとる)と を広めるための行動)。 この本は、よく売れている。 つかいかたく花を売る店。 もとの字は「賣」。

たな ちり

たくさんあつまった。

いる。

大安売りて、

買収」
したがでいまで売買ではいます。からではいます。 金をはらって

父の会社は、家具の売買をしている。」母と買い物に行く。」質う。」母と買い物に行く。」 ね)をくみあわせた字。 - (= あみ)と貝(= 買い手が を三さつ お金や おか あ みちびく。「引き算・引きしお・引力・引用」2 地球には引力がある。 手を引いて、道路をわたる。 つな引きをする。 ぞく。「引退」 が子どもたちを引率していく。 つかいかたくう 引退するせんしゅ。

んどう会て、

いもうとの

弓(=ゆみ)と-(=まっす ぐひく)をくみあわせた字。

### 品物をすく みで物をすくうように、 いとるという

あわせててきた字。

# 切望・切迫・親切」3すべて。

当 止 丸 字体でちゅういしたい字は、 ノ九丸 上がはなれていて、 マル 当当当

見セツ・\*サイ

のは、

書きじゅんでちゅうい

したいも

4かく [刀・2かく] <かたな>

二年生

のかん字のちゅうい点の

ときる・きれる

七切切

**りきる。「切っ** 

「角」…「用」のように下が出てはいは、上がくっついています。 声 上は「土」 のように下が上よりみじか上は「土」ではなく、「士」 いてはいけません。 くっつ それに

141

る。 **マ** 

よく切れるほうちょう。

つかいかたくはさみて紙を切

れは、

みんなの切実なねがいて

→外国の切手をあつめる。▼こ

が一切ひきうけた。

めんどうなことは、

七(=きりとること)と刀

かたな)をあわせた字。

「矢」… 午」… 当」… ません。 上はツではなく「ツ 「牛」のよう 「失」のように出ては くなります。 に出てはいけ 」です。

(細る)・こまか

(細か) とおくり

「海」…「母」ではありません。 ません。 ĻΛ 17

## のかん字のちゅうい

明」…メイ(発明) したいかん字は、 読み方とおくりがなにちゅう か)・あける(明ける)・あ (明らむ)・あきらか (明らかるい (明るい)・あからむ かるい(明るい)・あからむ日)・あかり(明かり)・あ あかす(明かす)。 く(明く)・あくる(明くる)・ (明かり)・あ ミョウ

「交」… には ときには「細かい」。また、 細 「細い」、「こまかい」 は ざる)・まぜる (交ぜる)。 まじる(交じる)・まざる(交 わる)・まじえる(交える)・ コウ(交通)・まじわる(交 「ほそい」と読むとき ほそる と読む

たる」、 てる」となります。 がなをつけます。 「当」は、 「あてる」 「あたる」のときは「当 のときには

かん字のちしきの

## 三年生の漢字学習法

を読むこと、一・二年の漢字を文の 中で正しく使えるようにすること、 中で正しく使えるようにすること、 中で正しくでえるようにすること、 中で正しくできることがねらいです。 くようにすることがねらいです。 なないの読み なないは、も読みと訓読みがあり 漢字には、音読みと訓読みがあり 漢字には、音読みと訓読みがあり

たとえば、「合」という漢字は、音たとえば、「合」という漢字は、音流みは「ゴウ・ガッ・カッ」、また、読みは「ゴウ・ガッ・カッ」、また、読みは「ゴウ・ガッ・カッ」、また、記している・のぼーせる・のぼーす」があります。これらを機械的に覚えても覚えらこれらを機械的に覚えても覚えらいるものではありません。それぞれの読みに合う言葉や文を調べたり、の読みに合う言葉や文を調べたり、の読みに合う言葉や文を調べたり、

「合」なら「集合・合唱・合戦」。 もしっかりと確認しておきましょう。 もしっかりと確認しておきましょう。

「安」という漢字を「アン・アン」 「安」という漢字を「アン・アン」 と発音しながら何度も書くだけでは、 と発音しながら何度も書くだけでは、

この「安」という漢字の意味をとこの「安」という漢字の意味をとれる。そのために、この漢字を使った熟語を調べたり、作ってみたりすることです。

住・安物」などがあります。 住・安物」などがあります。 これらの熟語からは、この「安」 という漢字に「やすらか・やすらぐ・ 落ち着く」といった意味があること がわかります。また、「安物」からは 「ねだんがやすい」という意味のあ ることがわかります。

③漢字の形 の

してしまったりするあやまりがよくしまったり、「飲」の左を「食」としてまったり、「飲」の左を「食」として

まうことが少なくなります。 あります。 あります。 まうことが少なくなります。 まうことが少なくなります。 まうことが少なくなります。 まうことが少なくなります。







### 三年生で習う字

陽209 放 鼻199 動194 調189 他 身178 集四 事167 <u>出</u> 157 感152 院146 向162 筆200 童194 追189 打184 神179 住173 幸163 漢152 持 168 局 157 147 農185 落210 定190 対184 真179 重173 式168 港163 銀158 館153 運 147 波195 庭190 待185 深179 号 163 宿 区 158 問 秒 201 配 195 代185 進 笛190 所 写169 根164 苦158 起153 206 148 役206 第185 倍196 鉄 191 世 180 病 暑174 者的 祭164 具 159 期 両 央148 211 201 緑 薬 206 箱196 転 題 整181 助 175 主169 君159 横148 164 000 D 0000 

昔 181

全181

相182

送182

想182

息183

速183

族183

炭186

短186

談 187

着187

注188

柱188

丁 188

帳

度192

投192

豆192

島193

湯193

登193

等194

由207

油

207

子 208

羊 208

葉209

列

練

路

213

和213

196

反197

坂

198

板198

皮 198

悲

美199

福

返204

昭176

消176

商176

章

勝

乗

植178

中178

守170

取170

酒

受叨

州

171

拾172

終172

習172

係159

軽160

血 160

決160

研 161

県161

庫162

湖

仕165

死

使165

始

指166

歯

詩 167

次 167 究154

急155

級155

宮155

球 156

橋 156

業

悪地

安排

<u>医</u>

委145

育146

員16

屋149

温149

界150

開

階

寒 151

文・悪声

戦苦とう」

1

歯科医」

いみ

病気やけがをな

不

**医** 医 医

あるイ

書るイ

Š

5画]

(かくしがまえ)

8画 〔女・5画〕 〈おんな〉

↑ 危360

〈うかんむり〉



[心・7画]



ラピアン

見をアン

13画

日·9画]

明

90

(ひへん)

くらくら

田立

暗

暗

やす

一 垂 垂



悪 悪

悪、 悪る

悪口・悪気・悪人・悪人・悪の・悪気・ない。 だ。「悪意・悪寒」の苦し ふゆか

ろ)を組み合わせ、 寒(=さむけ)がする。 意地悪な人。 やな気持ちをあらわす。 い場所のくぼみ)と心(= ▼ きょうしめる。

不安な一夜をすごす。ないと聞いて安心した。 やすらか。 すい。「安易」3ねだんやかちがひ 全・平安・不安」②たや 。「安値・安価」 かたくたい した。▼台風で、

たなり ておちついてす 組み合わせた字。 女が家の中ないないま

かげん)な考え。

安い品物

●心配がな 家ない。安かない。 它 安 安

ぼえる。「暗記・暗算・暗唱」。 つかいかた 「暗黒・暗雲・明 夜道を歩く。

たなり とどう この暗号をとく 中にとじこもって、 くつの中は、 暗算でできる。 かぎは何だろう 真っ暗だった。

未女 未女 未以 未义 未女 おかイ 12 [心・9画] (こころ)





一 产 音 音 意意 りの気持ちの



員・委任・委託\*」2くわ

りまかせる。「委

意・文意」②わけ。「意味・意義・大意・同意」②わけ。「意味・意義・大意・一意・大き 意図・意志・意外・意

わたしと山本く

いのて、すべ

ので、注意して歩こう。▼漢字のを上げてください。▼せまい道な 持ち主だ。 意味を調べる。 ▼意見のある人は、手でない意志の いかれは強

お会か

をう音(=ロの中にものをふく かんがえを心の中にし と心(=こころ)て、



王の横に流がつくと、「玉」。では上につくと?

ぼ)を組み合わせ、 いこんてかく す)と酉(= さけつ

医·委·意

ぼに さけ しま たなり てきた字。 しい。「委細」

みてもらう。

師・医院・校医・女医・名医・外科医る人。「医学・医者・医 ので、医務室へ行った。 おじは医者です。 んにかかっています。 >気分が悪く わたしは、 女は先輩 医い生だく こ なった 会議に出席できないが、学級委員にえた こと。 てのけんりを議長に委任した。 麥細(=こまかいこと)は、 つかいかた たときにお話しします。 ■「季」の字とまちがえない 級委員にえらばれた。

禾(= 女(= ほがたれて おんな)を組み合わせて いる

ねと

この川の水は、

みんなの飲

げましょうか。

水を飲む。

▼何か飲み物をあ ▼このあたりは、

~のどがかわ

たの

「運転・運行・運動」3めに

ぐりあわせ

飲食店が多

のてべんりてす。

くなはつねに、

転を

がけている。

ばにする。

をあけた人)を組み合わせててき

はこぶ」

てぐるぐるまわることか

全日(=さけのたる)と引

1 (= 0

管育一般一部一飲食

ほんとうに運のい

軍(=まわる)とこ(= を組み合わせた字。

円をえが

レーの選手になった。

**・**あの

人は、

かとしてつかわれます。



思心イン

10画

[口・7画]

なる。せわをしてりっ 植物が大きく

育・保育・体育・教育」 「育成・発

ず。「員数・定員・人員・人人でもののか 役員・店員・委員・係員 満員」2人。「会員・全員・

族全員で旅行する。▼親切な店員 (一ひとの数)をかぞえる。▼家 員(=ひとの数)をかぞえる。▼家 はまって、人 ないとはあい、人 ないとはあい、人 ないとはあい、人 ないとはあい、人 ないとはあい、人 員(=ひとの数)をかぞえる。 ・ とはものです。 ▼出発前に、 ・ とはものです。 ▼出発前に、 ・ とはものです。 ▼出発前に、 のおねえさん。

を育てる。

▽次は体育の時間で

さてす

の人とす

VY

育つ。

だな ちり をかぞえるいみになっ のをかぞえること。 三本あしのうつわ)て、 ◎ 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 10 のちに人の数するいも

合わせた字。

あかんぼうににく

てうまれる)

とや(=にく)を組み

1000-

育る(=あかんぼう

冒 冒 員 員

口



10画 [阝•7画] (こぎとへん)



大きな建物。

院」の上皇や法皇。「後白河院」につけることは。「大学に、参議につけることは。「大学に、参議学校・役所などのそしきの名の下 あさんは、あした退院だ。 が多い。

いがぜをひ 院議員の選挙 病院でみてもらう。 いかた、マ京都には古い寺院 があった。 いたようなの

もりあげた土)と完(=

合わせた字。 ぐるりととりかこむ)を組み

アンエイ | およぐ 8画 [シ・5画]

济汾汾泳

さ・背泳ぎ」 およぐ。「泳はいれ泳・遠泳・カ泳・平泳・サルス・カシャ・平泳

みもの。

飲み物・

送·運

ばん・運輸」2め

くる。また、

うごかす。

いるのむ。

飲

官官

軍

軍

渾運

思えイン

もやウン

12画 〔〕·

• 9画

とはこぶ

12画 〔食・4画〕 〈しょくへん〉

いのむ

こなわれる水泳大会に出 のぼりが泳 「ルを泳ぐ。 五月の空に、 る。 ルで五十 ▼学校でお

ほうがとく ぼくは、 クロ ルより平泳ぎの

なりシ(=みず)と永(= 禁止です。 びる)を組み合わ せた字。

字7イス 水をこおりにするにはどうすればいい?

149

2画



馬口

あった馬のの 車駅・東京駅」 が止まるところ 駅」2電車や りつぎ場。 かい い道に 「駅長・駅弁・停

をつぎつぎとしらべる)を組み合 ばさんに会った。 走を見る。 わせた字。馬をのり つかいかた マ もとの字は「驛」 ▼駅ビルて買い レビで駅伝 父は駅弁がす 馬(=うま) 物をする。 ぐうぜんお

)ます。

ラルオウ m 5画 [大

まんなか。「中 央

→なずれる。 キャンプをした。 ナマ運河は中央アメリカにあ 央にふん水がある。 中央部にある小さな島で にぎやかな通り マ広場の ▼地図を見ると がある。 市の

頭と体のあいのところに、 んなか」のいみをあらわす。 次 一 Hじるしをつけ だの 央大の字に立た みか 5

いみ

よこ。「 気まま。 断・横転」②わが しくない 横波•横額•横 左右の方向。 横行」③正

た ち り み出たよこ木をあらわす 四方にひろがる光)て、 てらんぼう)なり 横断歩道は手をあげてわたろう 凝 に行く。 丁の 横(横) とうふ屋さんに、 がすてきな人 と女甲(= 左右には わがまま 木き

●反対の意味の漢字 ・「強 → 弱」「遠 → 並」などは、 「強 → 弱」「遠 → 並」などは、 「強 → 弱」「遠 → が」などは、 すが、これらの漢字が組み合わさすが、これらの漢字が組み合わさまる。

部オン

12画

Ш

[シ・9画]

〈さんずい〉

るたたか あたたか

い・あたた

温温温温温 まる・あたためる

温

温

なんしまれ とお えんきん とお (遠いことと近いまる) 寒暑(寒さと暑さ) すること)

田田

やさ

温室で美しい花をそだてる 乳を飲 かれは さしみと楽しみ)

する家、 「屋根·屋上」③商 屋・お天気屋」 屋内・家屋」2やね。 くや かオク 1すまい。家。 または、 9画 [尸・6画] 层 (しかばね) 人を売を 层 屋屋

た字。 屋がこわれた。 上にあるペットショッ まりこさんはがんばり屋だ。 屋根の上にアンテナをたてる。 |ア(=上からたれたぬの)と至 かた 屋根でおおわれた家をあら 行きどまり)を組み合わせ 地しんで、 マデパ 古言 0) しい。「温厚・温和・温情」しい。「温厚・温和・温度・休息・温度・体が、またたかさ。「温 日本は、また、あたたかさ。「温 日本は、また、あたたかさ。」 はた、あたたかさ。 日本は、また、あたたかさ。 日本は、また、あたたかい。 気候が温和だ。

体温計で熱をはかる。

このあ

たりは、

てふたをしたよう と風(=さらの上に物を入れ もとの字は「溫 を組み合わ

せててきた字。

屋·温

出ないと「田」、上に出ると「由」、下に出ると「甲」、上下に出ると?

横

横

思っオウ

15画 [木・||画

、きへん

縦380

くれよこ

あと五分です。 の花が満開てす。

~この店は、

の店は、明日かまて、

開店です。

開・満開・未開」②始める。 開花・開閉・開放・公

いるのあける。

また、

ひらける。

開

かさなり。

いる。

開始・開業・開店」

空気を入れかえる。

さくら

正し

音階でう

たう。

階ではる

マ駅の階段をの

ヘランダから、

通りを見おろした。

かた、マまどを大きく

たなり

1

開

ーす)を組み合わせ (=左右に同じよ

あんカ・\* がばける・ばかす 4画 [K. 2画

はける。「化石・化学・ わる。 ほかのものにか かえる。

のを食べる。▼博物館で、 たよう きをかえた人)を組み合わ りゅうの化石を見た。 だ。 た マきつねに化かされ る人)と 化の しきて 立方: た字。

化しょう・進化・変化・退化・ 民主

場へ出荷する。▼か だ。 荷」のにもつを数えることは。 業を行う。 荷」②になう。 ・荷物・ 植物)と何(= 入荷·初荷· 大きな荷物を運ん かたの荷がお マやさいを市を、トラック なる)。

思知\*カ VA 41 10画 ++ · 7画 くさかんむり

荷

9画

[田・4画]

「荷 荷 荷

TH

H

田

甲

界界

め

口

のにも

か いか

界・世界・政界」 ぎり。「境界・限界

たなり 世界の平和を というところまてがんはっ の市との境界だ。▼もう こと)を組み合わせた字。 つかいかた ₩>累-界 だに入って二つにわける マこの川が のる。 ぼと となり ネ(= II

をあらわす

かたち)を組み合わせた字。

宇宋安 いきむい 見カン [一・9画] 牢 (うかんむり) 暑174 寒 寒寒

あんり力

12画

階

•9画

〈こざとへん〉

としひら

ひらける・

あく・あけ

ラカイ

12画

開

BE

厚比

階階

ちばんさむいとき。 ・防寒」②さびれて さびしい。「寒村 ゆうべはとても寒

٢ (= かった。 殿 ょう手) 中おみま がや石)

を組み合わせた字 しおり

か

せた字。

なら

へそろえる)を組み合

わ た

お前からノが出た。それはなんだ?

があります。 > 大きな旅館にとまをしました。 > 坂の上に古い洋館

かた・体育館

に全員

▼岸辺にうちよせる波のかいかた ▼船を岸に

だつ

30

が聞こ 1)

川岸のやなどうは、を見送る。

岸のやなぎの木の緑色があざ

かだ。

▼父と海岸をさんばした。

対岸までのきょりは、

およそ

開館・旅館・大館・会館・かた。「館長・図書館・

岸·対岸·西岸」かいかんでんかんできるいかんりょうがんのできる。川岸・海岸・沿

館·岸·起

合わせた字。役人が食事をする大い。(単)(=役人があつまる家)を組み

等。第一館(館)

でも

の)と

た

ルだ。

▼船で向こう岸

にわたる。

きなたてものをあらわす。

を組み合わせた字。

たらにきりたったようなきしべ)

るよう 字口

(=やま)と圧(=



しる。 ふれる。「感覚・ ①からだにかん

出しにする。▼映画を見て感動しなくなってきナ を読んて感想文を書く。 の意見に全く同感です。 感情·感動·感謝·感心 を マ寒くて手の感覚が あなた

る。

感電」というからしてかんし

悪漢・暴漢

の古いよび名。「った国。また、

の基本となりますので、

カカン



漢字・ ちゅうこあ 中国 漢

きかん はっかん かんがん かんかん かんれ じてん かんがん かんれ じてん かんぶん おきましょう

軍人

単たん

・点な

った医学で使う薬)をのんている。 ▼悪漢(=わるもの)をこらしめる 祖母は漢方薬(=中国から伝わる。▼兄の漢和辞典をかりてひくうない。 主)を組み合わせた字。 >漢字のテスト

かわ

縦画なから

横画

ノ 友はらい

囲い 因に

右はらい交流 引い 刊か

反もり 風力

礼机

式と

反はん

れることをあらわす

からのしげきて、

心をうごかさ

いた川のこと。

のちに中

つ

かわれた。

と心(=こころ)を組み合わせ

しげきをあたえる)

おきる・おこ [走• 3画 起起起起

10画

ヨシキ

ラシカン

出しガン

8画 [山.

(やま)

5画]

をかきし

16画

[食・8画]

(L: (~h)

金

館館館館館

岸岸岸岸

岸岸岸

水ぎわ。

大きな建物。

る。 起立・起床\*・早起き」 りたつ。 また、 走 おこす。 おき

はじまり

よう。 起点・起源・起工」 つかいかた。▼あしたは早く起き 「何か事件が 起こったのか る。

2はじまる。 また、

「起立、礼」。 東京駅な通りに人だかりがしてい する鉄道の線。 東京駅を起点に 人類の起源

走(=足をうごかす)と己(=

ものがまがりながらおきあが

す)を組み合わせてできた

「右」の書きじゅんは「ノーロ」。では「有」の書きじゅんは?

字の知し

用・至急」2

名き

に分けの

急行·急流·急速」

きょうかくと

えた。

山の天気は急変することが多い。

▼急な坂道をかけのぼる。

急行列車が小さな駅を通過

かいかた

・急いて家に帰った。

15さしせまる。「緊\*急·応急」

角度」4とつぜん。

急死。急

じゅん

よの「高級・進級・等級

つかいかたと宮中で、

ばんさん会に

急降下か

▼救 急車のサイレンの音が聞こ

たなり ちり

こころ)を組み合わせた字。(=人をおいかける)と心

9(=人をお



### 其 其 其 期期

き期日・ 期・延期」2めあてをつ あてにする。「期待・予 期限・長期・時 1とき。「期間・

まてに返そう。 ける。 期待したとおりのてきばえだっ 一学期が終わると、 う「ゴ」の音は、「最期 ▼会を延期する。 夏休みだ。 期日

たうす)と月(= 期」などだけにつかわれる。 なり わせた字。 うす)と月(=つき)を組み合)其(=四角くきちんとしたよ

ましキャク・\* 客客

間・来客」②商売のあ りたずねてきた

世界一周をしてば満席だった。 客・旅客」 いて。「客 かえる。 映画館の客席は、 客船・観客・ 家にお客さまをむ ~ごうか客船で、 乗 II

の安全を第 とまる)を組み合わせた字。 (=家)と又の(=足がつ に考える。 ম্ব かえて

末き

周をしてみたい



客客



カク

カシキュウ

[か・2画] (あなかんむり)

6画

くうかんむり〉



\*きわめる かい 灾

らべる。 いるのどこまでもし 3

究明·研究·追究」 おわり。「究 極

原因を究明する。 さんこう部首はふつう「穴(あなか 極の目的について考えた。 ゆきつく。 んむり)」の部。 つかいかた、学問を究める。 穴(=あな)と九(=おく 究をする。 「空」も同じ。 の行い

究。の

たなり とをあらわす あなのおくまでさぐりもとめるこ きどまり)を組み合わせた字。



シみや

宁宁

宁

宁

宮宮

ましキュウ・

グウ

10画

7画

ラシキュウ

ラキュウ

9画

9画

[13.

5画

いるいそぐ

四

刍.

9 急急急

4

急

ラス。「学級・ たもの。 1きゅう しんきゅう

いる・大皇のすまい

らいの ごてん。「宮中・宮内 3神社。やしろ。「宮司・神宮 庁」2こう族。

れる。 階級」 わたしたちは、 ▼あの人は、 ▼水泳のテスト 姉の同級生 三年生に進 された。 (=ごうかな夕食の会)がもよお お客さまをむかえて、

▼まるで宮殿

な

赤ちゃ

たちてつかまえる)を組みなり 第(= いと)とれて、 いと)と及(= お 合わか か せ 合わ

ててきた字。

ある場所をしめす

王さまのすむごてんをあ

(=やね)と呂(=たてもの

「木(きへん)」に主は「柱」。では「イ(にんべん)」に主は?

「宮家」

によるむくいをうけること) 「自業自得(=自分の悪い

をうける原因となる

また、

一名的一名

戯\*曲

ユ

見は

30

今日は授 のこす。

業さんかんの日です。

始業のベルが鳴る。

すぐれた業

を

スのはん売機がある。

るかの曲

芸を見た。

て世界

や球ったま。

### いたま シキュウ ||画 [3・7画] (おうへん)

5画 コ

[4.

アルキョウ

16画

才·12画

るは

3画

球

ッチャ 球のまわりをまわる。 を植える。 も野球もすきだ。 玉)と、 からだに がわ)

> ごとを思 った。

過去の、

球・送ります。 を球・地球・ チューリップ

は早い

去年の冬はあ

の過ぎ

田かキョ・ 夫

去

去去

橋

とりのぞく。 来·死去·退去·過去 2 てしまう。

くぼんだ入 たたかかか を除去 去るの なてき 2 る。 「橋げた・石橋・鉄橋・陸橋・つ うにしたもの。 人や乗り物が通れるよいが、かけわたして、 橋の上か

さん橋をわたって上陸する。 す れを見る。

たなり

3

しまう」の

みにな

か

ラーキョ 7画 [ア・4画]

世やギョウ・ ▼ \* わざ

\*ゴウ

あやキョ

6画

[日・2画]

直114

まがる・まげる

13画 [木·9画]

NV.

\*

業

業業

曲

曲

曲

曲

曲

まげ

号局局局

局部 局局

わけた区分。 2役所や会社で仕事を

がふる。 がかぎられているようす)な大雨(こかいかた) る地的(=地いき 局」4ありさま。「時局・結 薬局」③ごやしょうぎの勝負 しょうぎの名人戦の対 すぎの名人戦の対局 大な局面をむかえ

か を組み合 んだ線) わかれ

ごとのことを

いみする

たちからてきた字。

B

ļ

曲

0

た字で、

世-業-業

台をあらわ

曲を聞く。

ウナハナ九二なんだ?

て、雨具の用意をした。かたづける。▼雨がふり

▼雨がふりそうなの

の具で絵をかく。

▼工作の道具を

具体的でわかりやすか

った。

✓絵

説明は、

たなり

+ 44

具

きた字。

ようすをあらわ をそろえて

たかたちからて

ょう手でさし

だす もの たべ 6画

つつまけへ

4画 [[ 2画]



舒

銀銀銀

つやのある金ぞ ●白くてうつく

ているようす。「銀世界」るおかね。「銀山・銀紙・銀貨」2白くかがやい 、 きん。 しろがね。

銀メダルをとる。 れたチョコレー 一面の銀世界だ。 ▼銀紙につつま

たり金(=金属)と艮(=目のまわる)金(=金属)と艮(=目のまわ つまても

いるりくぎる。また、

もっとも長い区間を走る。 間・地区」②大きな都市を 分・区別・区域・区画・区で、くざり。 さかい。「区 えて、土地を区切る。 に分けたくぶん。「区役所」 こて、土地を区切る。▼区画整理 つかいかに、▼さかいめに木を植りターフ

口(=せまいくぎり)三つを組み合 |もまー野ー||個(区)||ニャ く) と、

のための公園ができた。 区民 つか

オリンピックで、

うまく

ぼうは苦手だ。 >今夜はとて薬は、苦くて飲みにくい。 があって、

たちわく)とヨーはか)と古(=4 せた字。

区 区 区 区 区 **べかくしがまえ** 

苦苦苦

苦苦苦苦

る・にが

い・にがる

いるしめ

苦労・苦戦・苦学・病 苦・暑苦し くるしむ。「苦痛・苦心・ いったがい。

究を仕上げた。 いやだ。「苦手・苦情・苦言」 ▼苦心して、 苦労一 いった。 たか ても、この

がう。▼「君たちはどこの生徒」ときにつかうことは。「諸君」 た。▼中山君とは、なかのいいすか?」と、知らない人に聞か 人。「君主・主君」②友 だちだ。 だちや目下の人をよぶ 徒て 友をれ to 教育とは、

かり。「係員・案内係」 ことをうけもつり

▼事件に関係のある

かわる。「関係」である

なもの。

家具·器具·

備・具体」②どうぐやし

いるのでなわる。「具

F

月

具具具具

温君君

君君君君

10

存

区

俘係

田かグ

思めクン マルきみ

あっケイ

9画

[1.7画]

(にんべん)

かかかる・

か

か

[八·6画]

4画]

いをして をして、人々をまいないと ک ا \*(=手) = さんこうののい り」を送らない。

的一郡

わたしは図書 入り口て、

係にえらばれた。

育関係の仕事をしてい

ます。

員の説明を聞く。

親せき関係にある。 取り調べられた。

▼父は

た字。 とめる ほう)とせ(= なめいれ

イ(=人)と系(=糸をつなぐ こと)を組み合わせた字。

楽110

は来週、研修

切れにくく

包丁を研いている。

石(=

し)と开(=ニつ

はんの過ぎ研

究をしています。 らいおじさんは、

会に行かれる予定 ないます。 ・先生 は、地し

る。「研究」②とぐ。

庁・県立・県造

つ。

・近き、きんけん ・近県道・県道・県道・県

めに分けた、

国をおさめるた

あります

は

画に数えるものでなった。

●ものごとの本

研

月

目

県県

県県

まぎら

まがった線

場合は、一画か二画でありますが、おれたりますが、おれ

\*とぐ

しケン

しケン

[目]

点で

• 4画]

[后·4画]

軽視」も考えがあさい

ようす。

「血気き

4見下げる。

あなどる。

みがる。

かケイ かる 百 重 41 12画 ・\*かろや [車・5画] 車 重173 (くるまへん)

Ín

量」②てい

加

まっケツ





6画 血

(5)

• 0画

7画

食りトルリープ対戦表

[シ・4画] (さんずい)

血 血 血

くれきめ

る・きまる

決

弟(姉妹)などのつながり

縁\*・血族」③いきおいがさかんな 血け

こわ

とは守ろう。 遠足は十月

に決まった。 スんなで決めたこれが、 を表していばうが決場である。からないでは、 大変の活動方針は、 大変のかくごで戦がある。からないでは、 大変のかくごで戦がある。からないでは、 大変のかくごで戦がある。からないでは、 大変のかくごで戦がある。からないでは、 大変のかくこで戦がある。からないでは、 大変のかくこで戦がある。からないでは、 大変のからいでは、からないでは、 大変のからいでは、からないでは、 大変のからいでは、からないでは、 大変のからいでは、 大変のからいで、 大変のが、 大変のからいで、 大変のからいで、 大変のからいで、 大変のが、 大変

場にのぞむ。 を決定する。

コの字形にえぐ を組み

合わせ、まっすぐ、

かろや

か

たちからてきた字。

のちを、

さらに入れ

1

弘一

ろやかに走る

軽快なマー よかった。

軽装で出かけた。

血気さかんな若者たち。

皿」とまちがえやす

神にささげ るどうぶつ

出た。▼父は少

かたくひざをす

アし血圧が高い。

7

もとの字は「輕」

まっ

▼最近は、 

の産地として有名だ。マールの産地として有名だ。マールの集は

くこの果は、

って

研・県

をとい

わす

わせた字。

たようす)を組み合わせた字。

高さをそろえ

いところからぶらさげること) いをした。 びを切き **⊕)**≋(=

縣(県)

首

古

幼 女 気



庫・宝庫・冷蔵庫・庫裏 倉庫・車庫・書庫・金

寺のの

台

上・火口湖」

かんている。

たてもの。

ものをしまって

所とう

立ちならんでいる。

▼ 級 文庫の本をかている。▼金庫にお金がる。▼金庫にお金がる。

ような湖面を、

たなり

車

車

え)と、

りて読んだ。 をしまう。

につ

かう車やぶきをし

まっ

てお

まりをあらわす。

かたち)からてきた字。

せんそう くるまの

たてものをあらわす

の幸にめぐまれた所。

港してきた。

▼空港のロビー

町としてさかえた。

→漁が

ここは昔か

ら、

まちあい室)で会いましょう。

シ(=みず)と巷(=村を通っ ている道)を組み合わせた字。

不幸なできごと。

幸せな

生をおくる。

、こう

水にはならなかった。

港·空港」

大雨が

たが

港町·港外·

港内・出 みなと。

港·帰港·漁

するところ。

けられるきけ

んから、

んよくの

ることをあらわす。

三年

のかたちからてきた字。

これをか

船の通る道をあらわす。

のちに船

つまる場所で

ある「みなと」の

手かせ」というむかしの手じょう

Î

Ī

マンコ・\*ク 〈まだれ〉

[广・7画] 庫 庫庫庫

沽沽 みずうみ

12画

[シ・9画] 〈さんずい〉



湖湖

自己コウ

6画

口·3画

むく・むける・むかう・むこう

いるのある方にむく。 向 向向

沽

沽沽

向」2むき。 方向・動向・内向・表向また、むかう。「向上・ おもむき。「意向・

趣\*

口

所のおばさんがやってきた。 一向にやむけはいがない がめきめき向上した。 向こうから、 ルに向い 0

ちゅうい「何」とまちがえや H 向 ね と U I

皮)を組み合わせた字。 たちをおおってたれさがっている。シ(=みず)と胡(=牛のあ 店がのきをならべている。 水・湖岸・湖面・湖底・湖水・湖岸・湖面・湖底・湖 おいかぶさって広がる大きな水皮)を組み合わせた字。大地に 琵\*琶\*湖は日本て 湖岸に、 月がてらしている。 、一番大きな みやげ物が 鏡の る

たお たなり 1

な)を組み合わせた字。

カゴウ 5画 口. 2 画

号写 ロンシ 号号

幸幸

幸

幸幸幸幸

港港

港港港港

幸福・

幸運・不幸・多た

しあわせ。さち。

出発したりついたり船や飛行機が、

プコウ

8画

5画

かさい

わい・\*さち・

しあわせ

みみなと

プコウ

12画

「シ・9画

(さんずい)

令・号 泣」②あいず。 ●さけぶ。「号 記号・信号」

名。「年号」 は。「号外・番号・こだま号」個よび 乗り物などの名の下につけること ❸じゅんじょをあらわす数字や しるし。

に変わった。 出発した。 ち)と万(=まが 新聞の五号を出す。 信号が、 番号じゅ 生さの 赤から青いち んになら 0

漢字クイス 学

す)を合わせた字。

ー+タ+リニなんだ?

みそしるに入れる。

根も葉もな

君とぼくの考えは、

本的に同

よりどころのない)うわさ。

かわる重大な問題。

死力をつくしてたたかう。

(=ばらばら

死因を調べている。

試合で

小鳥が死んだ。

人間の生死にか

一任」とまちがえやす

士(= と)(=

人)を組み合わ

人)を組み合わせててきた 死になったほね)と さめ・仕切り・仕度」

2命がけである。「死守・死力

亡・死体・生死・犬死に

しぬ。「死去・死者・死

り命がおわる。

た マとのさまに仕える

公園のそうじを

仕送り・仕上げ・仕お

仕・奉\*仕」②…する。

つかえる。「給

一つかえる

しした

[1・3画

(にんべん

6画 [歹·2画]

生73

ション

10画

(きへん)

[木・6画]

[示・6画]

三年

夕下夕下夕下

祭祭祭

Ш

ПП

ПП

Ш

いまつる・まつり

シーさら

もサ

●草木の、

根底」3たえしのぶ力。 球根」2ものごとの

つかいかた、マ大根をきざんで、

祭礼・祭典・文化祭」 3. 神や先ぞをまつ また、

雪のちょうこくがならんてい しをかつぐ。 町の文化祭が行われている 学校は休みて て、

大きなもよ

また、

いる。 らなうつわ。

さら。

大ち

mi 小江

目を皿のようにして(=目を見開めた料理を、小皿に取り分ける。) いて)、 の手つだいをした。 まちがいをさがす。 小皿に取り分ける。

後、皿洗い

たなり た字 皿

い「血」とまちがえやす さらの

ちからてき

わせた字。

一か所にとどまっ

木のねをあらわす

ることをあらわす

祭だんやそなえ物をきよめてまつき と示(=祭だん)を組み合わせた字

たらどまりうごかない)を組み合い。木(=き)と艮(=一か所にと

[1・6画] くにんべん・

使 吏 使 使

しつかう

また、つかいの人。「使者・使節・命・行使」②つかわす。「使用・使役・使から、「使用・使役・使ない。」

体育館を使用す 大使・天使」 なやさしいほほえみ。 館を使用する。 →クラブ活動で、小づかい

まクイス 古い草はどんな味?

やくにん)とイ(=

にん)とイ(=人)を組みしごとをきちんとする

できた字。

5画

(36)

四.0画

ある文章。

詩人・詩集・詩情・詩

たことを短い

ことばて

TIP

席次・二次」 2順番。

順番。「次女・次点・

ズムの

いる心につよく感じ

詩詩詩

詩詩

1

次

次

一つぐ・つぎ

13画

6画

[欠

(けつ)

2画

6画

歌·漢詩

る。▼たん生いわいに詩集をもら

すきな詩を朗読す

のしぜんをうつ

したビデオを見た。

んこう「詩歌」は「シイ

しゅんじょ)が書いてある。

= (= る

>式場には、

式の次第(=

った。

漢詩のふるさと、中

この話のつづきは次回にし

まし

次の電車は八時ちょうどてす。

合わせる、

または手をとめる)を組み

わせた字。

み合わせた字。

からだをか

がめたよう

す)を組

たなり

- 詩学(=ことば)と

= ) 184

す

終172

指

[才·6画]

9画

(てへん)

12画

• 0画

歯

始始始始

るゆび・さす

は るシシ

まる。

また、

始・開始・始末・始終・年始・原始時代が、 しまっしょう なんしばんしばんしばん はじめる。はじ

摘\*・目指す・名指し」

た字。 をした。 さす「ゆび」をあら 先生に指名されて、 んまんをした。▼父の指差すほう 音をあら 山の頂 まっすぐにのび 手)と旨(= 上が見えてきた。 す)を組み合わせ

らった。

▼歯ごたえのない弱いあ 医者で、虫歯をぬいても

毎日、

歯をみがこ

とのはじめの「時」をさす。

をはじめる)を合わせた字。

おんな)と台(=

しごと

動作をさし、「初め」は、しはいるとう「始め」は、しはい

じめ

0

ものご

活をそうぞうする。

サイレンが鳴る。

うように家を出る。

名・指令・指揮・指導・指定・指示・指さししめす。「指図・指 ・指切り・親指」2

指指指

上米

11-

华

速強

は。

七日

動物の、

▼友だちと指切りげ 「歯医者・歯ごたえ・歯 う。 科・乳歯・虫歯・永久歯・ ▼歯医者で、

まえば)て、

火(=とめる。 す)と 👸 (= んてとめるまえばをあらわす 「シ」の音もあらわ ものをか

こと ジ・\* ズ 8 • 7画 (はねぼう)

事事 -事

事事事

しごと。

務・仕事・工事」

多い月だ。 をつけよう。 つだう。 時代のことを調べた。 つかいかた
▼百科事典で、 仕事がはかどる。

計算するようすをあらわ こと」や「や 事竹の

「ょ(つちへん)」に反は坂。では「\*(きへん)」に反は?

大生が黒板に書

映写

実·複写·試写会·模写·

医者·読者」

母は、

とる。「写生・写真・写

字や絵をうつ

いみ

人やものごと。

あわて者・若者・学者・

写写

写

者者者者者者者

シャ

シシャ

8画 [尹・4画]

もの

[一・3画]

くわかんむり

うつす・うつる

た文字を、

を写生する。 花だんにさい

▼遠足の写真を、

T

た。

▼兄は、

学者になりたいそう

説の作者はだれて

たチュー

リッ

たので、お医者さんにみてもらっ

ス。

悪者をやっつけた。▼

かぜをひ

わて者です。

▼ まんがの主人公が

プの花

ルバムにはった。

>外国の名画を

だ。マその小

候写(=まねてうつすこと)する。

もとの字は「寫」。 と鳥(=かささぎとい

一(=やね)

う鳥)を

た ち り

18 者(者)

### いもつ 9画 [ + • 6画 (てへん)

地シキ

3画

(しきがまえ)

### いる 持 持持持

寸

主

式式

実

実

実実実

みみみのる

ラジッ

8画

[一・5画]

もつ。 「持続・保持・支持」もちこたえる。たもつ。 ○「持参・所持」2

のを持って行く。 主はだれてす い朝だ。 ▼この自転車の おみま **・とても** 強は、 ち

続することが大切だ。

かれは、

持(=持ちつづけること)している。

走の世界記録を保

す(=手)と寺(=手の

中にじ

ととめる)を組み合わせた

かた。 ぎしき。 いか

数字と記号であらわしたもの。開会式・成人式」3計算のしかたを 数式

る。 たぼう)とエ(= わせた字。 弋(=田や畑をたがやすとき などにつかった、 数式をとく 水学校のようないとら た、さきのわれ 場す

しきまったやり



いる 1草木の、

われな 学式 結実」2なかみ。「実はない。、みのる。「果実・ 実・確実・現実」のまごころ。 みのる。「果実・

実現・真ん

秋になっ

の)を組み合わせた字 っているよう めたことをすぐ実行する 練習で実力をやしなう。 と冊(=いっぱい もとの字は「實」。 す)と貝( もの

シュ・\*ス 5 従 380



主主主主主

主・主人・主君」②中心 1自分がつかえ

食」3自分。「主観・主張」になる。おもな。「主演・ 日本人の主 ▼げきの主役にえらばれた。 おもな。「主演・主役・主 >今日の主なニュ 食は米です。

見を主張する。 語の主題を考える。 自立がのできる。

した字。 て、 じっともえている火をあらわ 处-生主 ろうそ たての

写·者·主

組み合わせた字。

ほかのばし

上でもえているかたち

からてきた

こんろの たきぎが

ることをあらわす。

水の中に家くいるにはどうすればよいか?

保守・留守・子守」 守護・守りふだ・死守・

内野の守備をかためる。

た、寒さから身

お守りのふだをもらう。

ひとりて留守

をつくって

いられる。

るをしばっ

0

たさけをあ

手)を組み合わせた字。

にうけとることをあらわす。

組み合わせた字。

。つぼの中の

( =

いのはアジアだ。

2

水)と酉(=

酒をのんだ。

祖母は毎年、梅酒は、米から

日々をおくっている。

社の茶店で、

あま

て名前を言う。

・あの

は、

もいう。

171

酒屋さんにおつか

父はお酒がすきだ

酒屋には、

酒蔵が立ちなら

ルを、父がミットて受ける なまな、という。 ▼あの人は

受付

父がミッ

て受ける。

ぼくの投げるボ

梅酒」

造・あま酒・清酒・飲酒・

る。「受信・受賞・受話き じゅけん

けとる。

いめさけ。「酒屋・酒

酒

酒酒

でえ

Str.

受

受受

シシュ

ロシジュ

うける・うかる

10画

• 3画

(ひよみのとり)

8画 〔又・6画〕 〈また〉

[酉

さけ・さか

ス 6画 [一・3画] (うかんむり)

まもる・\*もり

守 守

とる

邦耳耳

耳

耳

がいをうけない ようにまもる。「守備・

る。とる。「取材・取得・ 命取り・書き取

一年生に話を聞く。 3. 聞が小づ づ 取材の ために、

の草取りをする。 さんこう「採る」は、 くる。 か

中からえらびとる」意味。 取り(=手)を組み合わ

けにつかう、

とくべつな読み。

家の中にかこいこんでま

さんこう「ス」の読みは、

「留守」だ

番をする。

>子守歌を歌う

んな出かけたので、

せた字。

8画

[又· 6画 〈また〉



総画数を数えまちがえやすいです。

漢な えやす

字じ 11

取 取

字をし

すもう 大ななな 五

三画 六画 五画 四画 〇画

六

遠・新・業・農・漢・節・置 遊·葉·満·過·属·貿·極 強・鳥・球・祭・第・液・率

選·養·編·潔·質·暴·蔵鳴·様・緑・際・態・複・誤

館・機・衛・興・奮・築・縦

紙·馬·旅·脈·能·留·陛 係·乗·飛·逆·限·退·派·延· 局・似・序・良・防・否・臣

ヨシュ ゥ 6 画 [川・3画]

●海や川のそこ

に、土やすながつもっ

2

九州」③大陸「五大州」三角州」②地方。「本州」では、これには、一本は、一本は、一本は、一本州・ ちばん広い にわたる。 青函\*ト かた、マ三角州をデ ▼父は九 州の出 ンネルをぬけて ▼五大 州のう 身にアク い州はす

島ができたようす

からてきた ながたまっ

答えがい。

• 集団•

集合・

=とり)がたくさんむれているよ

主(=ろうそくたての

すをあらわした字。「雧」がりゃ

されて「集」になった。

へ)を組み合わせた字。

っともえて

いる火)とイ

合わ

もよおされた。

(集)\*(=木)の

新しい住宅が立ちならぶ町。住所と電話番号を書きこむ。住民が、集まった。はなる。

えだに生

ている。

歌とお話の集いが

店員をしている。

場所は校庭です。▼姉は、詩集をはかより集まっていた。▼集合

から、新しい家にひっから、新しい家にひっ

住みこみの

内の

新しい家にひっこした。

○ ▼長く住んでいた家

たのか、



[糸・5画]

000

F,K

||画 [羽・5画]

1112

ラシュウ

ならう

拾

める。「収拾」 ・命がいるう。「拾

東める。▼交番に、冷な番に、冷な ○▼交番に、拾得物(=拾いた)を検い

さんこう証書などで数字の「おさまり)のつかない事態。

たち組み今つと合(=あつめる)を ることをあらわす のかわりにもつかわれる。 ものをひろったり、 捨」とまぎらわし 組み合わせた字。 あつめたりす

拾 シュウ

拾 いかおしまいになる。

終了・終生・終日

えて、 電車に間に合った。▼バ たちくわえる一年のおわれる(=いと)と冬(= すぐ終点につく ょうが終わった。 わ バスはもう りのきせ をた 終の 学がをおぎ

つ)を組み合わせた字。 わえた糸のたまのこと 糸まきに

いわわる・おえる

習

习上

习习

33

習

習

こする。「習字・習得・

習

という なくしゅう がくしゅう れん

30 た。 習慣をつけよう。 18912ならわし。「習慣・習性・風習」とようかん しょうせい ふう つかいかた、図書室で自習をし ▼夏休みに、 休みに、早ね早起きのなり返し漢字の練習をす

をあらわす がはねをく かさねる)を組み合わせた字。 ね)と白(=

▼ え・ ラジュウ・チョウ おもい・ かさねる・

シュウシュウ

散 243

あつまる・あつめる・\*

つどう

すむ・すまう

7画

[イ・5画] 〈にんべん〉

東京都大田区

上池台4-405

山田-夫様

集集集集

集集

集

住

住

住

住

重重重重重重

おもい。「重 いるのめかたが多い

尊重」むかさねる。「二またいせつてある。「重要・ 体重が少 いかた、すい荷物を持つ。 しふえた。 二重·重複 ▼重要な 貴重 品・

一(=つきぬけるようす)を組み 仕事が、重なった。 第~第一重 貴重な体験をした。 が立た ボランティ

字クイス 小の皮」ってなにかな?

答えだべ。

舎・中

田心ジョ

7画

(ちから)

漢な書きじゅ

んで注意しておきた

11

アエ三军医医

三年生の

[カ・5画]

たすける・たす

かる

175

内部

手・助長・

救助·補助·

ける。「助力・助言・助

力をかす。

んたす

日

月

且

とをあらわした字。た字で、力をくわえてたすけ

ラシュ 7 [一 8画] 〈うかんむり〉

日ミショ ところ

8画

(2)

[戸・4画]

やど・やどる・や 宿宿宿宿

戸

戸

P

所所

所

冒冒冒

暑

暑暑暑

あ

くるあつ

シショ

12画 〔日・8画〕

(0)

寒151

どまる。 ・宿場・合宿。②まえからの。まる。やどる。ま 一時そこにと やどる。

百

所・名所・場所・長所・研究によるという。「台所・近所・住所・近所・住所・研究 **t** 0

ころ。「所持・所有」 …すると

たなり ときはかな書きにする。「思わず さんこう「所」は、場所をささないが所有している土地。 わすれるところだった。」 ▼ここはさくらの名所です。▼市つかいかた ▼しずかな所で休む 、場所のいみにかわった。 一合わせた字。木を切ることか かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう はんしょう はんしょく はんしんしょく はんしん はんしん はんしん はんしょく はんしん はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんし

地に行った。

まる。

出なかった。

は、宿命(=昔から マ家族で民宿にと

をした。

今日

題が

とつぜんの雨で、

きょうそう相手)といわれている。 きまっている運命)のライバル(=

る)を組み合わせた字。

ふとんにふたりの

やね)とイ(=

人)と百

気温が高い。

残暑・寒暑・避\*暑」 はがきを出した。 者い日がつづく。 者がきびしい。 暑中見まい・ → 今年の夏は、毎日 者中見まいの :

さんこう「熱い」も「厚い」も「あ い」とよむが、意味がちがう。 日(=太陽)と者(= うす)を組 0

ちたきぎをもやすよう

み合わせた字。

### 助

はない。 としては、次のものがあります。字体として気をつけておく漢字でなっている。 庭 としては、 放登 曲 ファテス外容登 は 壬」 口七七世由 つてがあ て、 「王」で

で、上下ともまっすぐな横ぼう。「岸」の中は「千」ではなく、「干」いように注意。いように注意。 皮」 つき出る。 「仕」の右がわは「士」で、 の下は、 「ア」。「波」も同じ。 聿 とたて ぼうが

て助かった。▼先生に、クラブ活友だちのかさに入れてもらったの

の小鳥の名前はピー助だ。動の助言をしていただく。

う

且(=物をつ

(=物をつみかさねたよう

てやる。

▼急に雨がふってきたが、

の中は「矢」。

苦」

…「くるーしい・

くるー

しむ

…「きーめる・きー

「仕」…「つかーえる」

意味。「急」は「急行」のようにいそなど、くらいやクラスの意味。「客」は、ごてんやおみやの意味。「客」は、ごてんやおみやの意味。「客」は、ごてんやおみやの意味。「暑」は、気温が高いときに使います。のの温度が高いときに使います。〔送りがなで注意する漢字〕、「えれに対して、「熱」はそのもい、それに対して、「熱」はそのもい、それに対して、「熱」はそのもい、それに対して、「熱」はそのもい、それに対して、「熱」はそのもい、それに対して、「熱」はそのもい、それに対して、「熱」はそのもい。 字は、「究・急・級・宮・ 助 「究」は「研究」などきわめるという 「キュウ」という音読みのあ漢字の使い方で注意したい 「代」…「かーわる・かーえる」 「全」…「まったーく」。 …「たすーける」「たすー ある ŧ 漢なの



しるし

勝」②すぐれる。

名勝

かけあわせる。

つけこむ。「便ん

客

る。「

章」の詩・文な

章

章

章

には、

0 lt

てありま

くのぼう

たなり

章 (=おんがく)

まとめる

おんが

こと)を組み合わせた字。

のひとくぎりをあらわす。

三年



いる。

のあきらかにす 昭 昭

「平成」の前の年号だ。 2てりかがやく。

わせた字。 ▼日本の南極になるなど、 とまわしてまねくこと)を組み合 ておこなわれている。 日(=太陽)と召(=「ショウ」 の音をあらわし 昭和新山という 光をぐるぐるとまわし 手をぐるり てす

になった。 水をかけて、 たき火を消す。 あかりが消える。 計画は立ち消え ▼傷口を消

水の流れがまそれと)を組み合わせた字。 せた字。

ラシショ Mきえる・けす きえる。 ゥ 10画 〔シ 消

ショウ

川画 0.

8画

2\*あきなう

啓

商

商商

消費・ 社・売ばする。

業の発達した都市。 といる店。 とこの通りにいる店。 とこの通りに え。 ・商談・商品。2わりざんの答い者。あきなう。「商業・商人・商業・商」 しょう。 ウンこの通りには、大いかた V日用雑貨を充います。

大きな

M+ + D-善 商

合わせた字。 合わせた字。 「ショウ」の 口)を組み

### 章章 カルショ かつ・\*まさる ウ 12画 〔カ・10画〕 〈ちから〉 負 202 勝 勝 ~のる.のせる ジョウ 乗 乗 のりものにの 乗 **降** 370 乗 垂 乗

ショウ

(立・

(たつ)

6画

テニス大会で優勝した。▼ほと な景 勝地(=けしきがす 所)をおとずれる。 かた、マ兄に、 うてず ぼく ばら ▼ の す 有常兄れ 除乗り降り 3.

おとうと じてんしゃ の

といいからパスに

か を入れてもちあげることから、 つ (=ちから)を組み合わせた字()と力 みになった。

たなり

よろけた。▼相手のすきに乗じて車が急に止まったので、乗客が せめこんだ。 らいて、木にのぼっているかたち |・文-祭-乘(乗)とが両にんか

からてきた字。

心のはたらき。心。「神経・精神になる。神主・神殿\*」2

るもの。

100 1天地をおさめ

まわせる。「植民地」を植りとなってりするだった。

う。のべる。「申告・申 は、ないん じょうしん とうしん は、ないん じょうしん とうしん も、サーム キャナー

●草木をうえる。

植之。

庭にいちょうの木をは

植える。

かたマクラス全員

が申しております。

マどう

わけありませんでした。

しめて田植えのてつだい

をし

た。 は

▼お父さんは、税金の

入会の申

しこみを サッカ

▼温室にはめずらしい植物があ

まわせる。

組み合わせた字。

る祭だん)と申

なずま)を さまをま

形

示(=

12画 8画

あるショ 一うえる・うわる 植植 植

植

もうす 由

由

申

自

自身

5画 

0画

申

ルみ

日上の人に、

がうと母

刀身」4地位や立場。

▼三年生になって 身がまえる なかみ。

び

▼正月に身内が集まっ

一一里。身 0

たなり らてきた字 かちゃ 身分をわきまえる 女の人のない

まっす しるし)を組み合わせた字。 申 0 ばすとい (まっ 1 (= 両手)と 手て てはす

せた字。

木をま

木(=き)と直

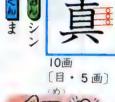
むけること)を組み合わっき)と直(=目をまっす

目をま

とをあら

10画 [] 5画

浅255



ラシン・ジン かみ・\*

かん・\*こう

神

神

9画 〔ネ

• 5画

(しめすへん)



ラシン

ふかか

ふかまる・

ふか

深水

涇

深深

直

意・真価・真実」2しぜ とう。「真心・真相・真

ふかさ。

深海·深山·

また、

ちょうど。「真南・真冬・真正面」 赤・真っ青・ かきまされ まじりけのない。「真っ ~真心のこもったあ んぜんな。

深んふつう

深林・水深」②ていどが

より多い。「深呼吸・深刻

社に神主さんがいる。

=とうとくておごそ

いさつをする。▼事件の真相が知 みんなで写真をとった。

たずねてきた。

も深まったある日、見知らぬ人がるが、海の底。
マボル海の底。
マ秋

さじ) て早(=三本あし すきまなり 0 V O

一道一道( 真

ることをあらわす。 すこと)を組み合わせ、

火をさが

なの

お

ことをあらわ

▼おおみそかは 友情を深める。

深夜まで起きていた。

0画

お話を聞く。

▼校庭に整列し

て、

先生整理

送りがなに気をつける。

た昔の本です。

- 014-03

昔

※(=つみ かさねる)

れたのに、

全然気が

語集は、たくさんのへんは田んぼだった。

さんの話を集め

作の記号)と正(=ただしく

る)を組み合わせた字。

と日(=ひにち)を組み合わせて

たところがな

整える。

▼引き出しの中を整

りを

一昔(=

ぐらい)前、

話を、

出す。 この

母から聞いた昔話

調整。

る。正しく

する。

とと

昔日・一昔・今昔」かし。「昔話・昔のかし。「昔話・昔の

風

ずっと以前。 昔の

む

きちんとそろえ

東京 東京東京 東京東京

昔昔昔昔

ととのえる・ととのう

とむか 一\*セキ・\*

しセイ

16画

〔攵·12画〕 くぼくにょう

共

今96

8画

(11)

シャ

7

寄進るさしあげる。



よくなる。 進」②のぼる。また、 あげる。「進物・進呈・ 出・前進・

がは、中学に進学した。 と話を先になる。 と話を先になる。 と話を先になる。 行進が始まる。 どんど よう。

むことをあらわす。

しセイ 111 5画 セ 4画] 世 (いち) 世

次のよう

)――文中の意かなものがありま

使う。 くぎり

の意味の

中黒)――

文だを書く

すくときに使うふ号にはかからごう つかけいかた

は

時代の

わりは早い。 かい世代にして 日はた気にす 大で日に大

気のある作家。 たなり の位置を調べ 三十年 る てきた字。 を三つな か 7

」(かぎ)

たこと

で特に注意させたい

世代 ) (かっ -人が言った。 べるときに使う べるときに使う

(疑問ふ) 7 の終わりに使う。 使 るときに使う。 などをつけるときに使う。 なる まますときに文 いすぎはよく てとちゅ ない。

返れ うでやめたとき。 上と同じ漢 かえす とき

ŋ

昔昔昔 といまったく しゼン 人 · 4画 ひとやね

全全全全全全

国・全身・全力・全勝・ 「全員・全校・全人 たところ

このあたりは

小さいときに

がない まで全力で走って帰る。一て、先生のお見まいに行く 全くわからない。 全体・全部・全然」②か つかいかた

外国人のことばが 先生のお見まい 。「完全・安全・健全・万全」 ▼クラス全員 よば

工作)を組み合わせて、

る。「生息・消息」のや ため息・鼻息」2いき

息

やか。

いるりいき。「息切れ・

自自自自息息

VAにき

ランソク

バス

シソク

シゾク

10画

[注·7画]

[す・7画]

(かたへん)

はやい・はやめる・\*すみやか

10画

[心・6画]

息をとる。 息切れが

登山家が、

ヒマ

に決断を下す

朝早

い」など、

時間が

は

「利息」

かた

バス停まで走った

手紙を速建て出した。

いかた▼山田君は足が速

した。

日曜日に、

速五十メート

トルの台風。

速な大人

「息女・子息・息子」「あふえる 安息・休息・息ぬき」4こ

速・風速・快速」

はお元気ですか」と、いうやで消息をたった。

父がよその

やいときは「早」を使う。

東(=木のえだをしばる)とこ

▼「ご子息

自(=はな)と心(= を組み合わせた字。

んぞう

(=すすむ)て、

歩はばをつめ

### シソウ・\* ショウ 〔目〈め〉 • 4 画 相 相

もに。 でいたち。「真相·人相・ 談」②ようす・すがたや 首相, 1 1たがいに。と 目

わせた字。 ♥ (=目)と♥ 事件の真相にせまる。おじさんに手相をみても ムをした。 いの木を見ること ★(=木)を組み合 間

むきあうことをあらわす。

★ たまに を相手に、 テ ・手相」の大 送·郵送·発送」2

組み合わせた字。 校する友だちの送別会をひらく。 みおくる。「送別」 に見送りに行った。 外国に出 贈\*る」とかく。 さんこう「物を人にあげる」ときは 美(=物をりょう手でも ささげる)と 張に行く父を、 む 0 空港

ランソウ おくる 关 り物をとどける。 关 (i. 6画 关 关 关 送

ランソウ・\*ソ 相 相

相 相心

13画 [心・9画] (こころ)

像・空想・予想・思想・感味らくれることの考え。「想 空想にふける。 について、あれこれ想像する。 想・理想・回想・構想・愛想(きい・きい)」 恩想文を書く。 つかいかた 思う」 相(=あるもののす その考がんが こころ)を組み合わ ▼自分のし ぐらす。 ▼ぼくの予想どお 語を読んて、 べることか 想想 がた)と、

東東東東東東東

2はやさ。「速度・速力・高速・時

族·親族·皇族·貴族·民 てたなかま。「家族・ こっと。「家族・一」同じそせんから

をする。 お祝いごとがあっ

族族

~家族そろって食事

親族が集まる。 民族の祭典といわれて **族館でらっこを見た。** オリンピッ いる。

同じしゅるいのもり 食 のものをあつ 族 ト(=はた) はたの下に、 と ( =

**→ アイス** 音の人は、山や草原に火をつけて荷をつくったのかな?

てなす。

会あっ

た。

に招待された。

〔イ・3画〕
・にんべん 自,100

シダ

コシタ

5画

7.

2画

ううつ

他方・他殺・他者・自他・その他をではかのもの。「他にんや、ほかのもの。「他にんや、ほかのもの。「他にん

そろえる。 聞こう。 かれは、 つ、 の日) あらためてしましょう。 者だ。 ▼その話は、他日(=ほ 自他ともにみとめる実 入学式を前に、 その他の学用品を 他日(=ほ えん

たち 它 (= もとの字は「佗」。 び)を組み合わせ =

j

つどう

さをあら

んとか打開し ▼行きづまったじょ キ(=手)と丁(=うちつける) を組み合わせた字。 かた ▼打楽器をえんそう たい するどい打球をと ▼話し合い とんとん

る。「対応・応対」30とそろい 対策・対応・応対」30とそろい 対策・対応・応対」30とそろい 対策・対応・応対」30とそろい 対句・一対 10こたえ

とりやめになった。 に対面する。 反対の てがい

台)とす 組みになる楽器をか 手)を組み合 3 0

いて、意味を強めることはの上代打・連打2あることはの上 は。「打につ った。

ち

つ消す・打開

シダイ 祭 第 一画 5画 Acts a 第 (たけかんむり)

をまつ アクイ

6画

待待

第

数の上につけ 第第



 $[9 \cdot 10 \cdot 12]$ 

と ・健康が第一です。 落第しないようにがん 落第・ 「級」の画数は次のうちどれ?

物のつる)を組み合わせた字 にまきついてのぼって 卒業式の式次第 第一第一第一第一 」とまちがえやす



待·代·第

独

動作)を組み合わせた字。

とをあ

5

わ

た字。

あう

文

4画

av ダイ

18画 [頁・9画] (おおがい)

題題題題題題

議題・話題・主題」3考えるようにだし。「題名・題目・題字」2内ようだという。「題材・だしょだいから。「題材・だし。「題名・題目・題字」2内ようだし。「 などの内ようをあらわなどの内ようをあらわ すみじかいことは。み

あたえられたことがら。

くとおい

。」昔はここも、

鉱の町としてにぎわっていました。

▼ものをもやすと、

炭酸ガスがて

はある。

る。▼だれにても、短所(=欠点

の一つて、

たん素。「炭水化物」

課題

算数の問題をとく。 (=あたま)を組み合わせた字是(=まっすぐのびる)と頁 ては本題に入りましょう。 \*作文の題材をさが

たひたい

をあら

を組み合わせた字。

山から出てき と火(=

なり

食べものを入れる足のみじか、 (=みじかい直線)と豆(=

(線)と豆(=

たち

うつわ)を組み合わせた字。

たもえる石(=石炭)をあらわす。

智一一炭山(=

2

ないこと。

知知知か

10

と、「か」を送ら

が

it

頁

マルすみ るとタン

炭

片

炭

炭

炭炭

[火•

5画

Ba タン

12画 〔矢・7画〕

(やへん)

長136

消し炭・木炭」②石たん 「炭火・

かう、

すみ。

のこと。「炭田・炭鉱・石炭」る元素

短文・長 歌・短

とっている。「短所・一



▼ 弟 は、少し短気なところがあった。▼短期間で泳ぎをおぼえた マえんぴつが短くな

M みじか 妇 短短

ことをあらわす。

つき

談・着

わせた字。

まとめる。

▼あしたから、個人面談が始まる。 表した。▼友だちに相談する。 表したから、個人面談が始まる。 話をする。 談を言ってみんなをわらわせる。 言言言 座談会のテーブから、 ▼ひろし君は、よくじょう ことば)と炎(=火がさ 討於 談談談 を組み合 原こうに ものつける。「着ないちゃく あいちゃく 工」6数につけて、着物の数やと うちゃく順をあらわすことば。 ものごとをはじめる。 ついておちつく。 席する。 もとの字は「著」。

着」母きまりが 着寒·決着」

着席・

用・上着」2くっつん きる・きせる・つく・つける ラチャ 若一十日 きる。「着物・着 ク・\*ジャ 12画 [羊・6画] 〈ひつじ〉 **普** 并 着 発197

ググン

15画

[言·8画]

(ごんべん)

色·付

音が読む

0)

の読みかたがあります。

0 -

たなり

たかみの毛)で

巾(=ぬの)と長(=

0)

U

い張」とまちがえや

0

三年

にする)。



注

4ときあかす。 注意· 注目」 中する。

> ら。 えて

防注射をうけた。 ように、 た本がとどいた。 注目を集める。 インフルエンザ ちこく してお の予 んな しな

マコップに水を注ぐ

·大黒柱」

シー つづけるあるじ) 水)と主(= かが 組み 合ぁに わい

立っている木をあらわす。かり)を組み合わせた字。

15画

訂

調

調

調

追追追追追追追追

ととの

いおう

ラツィ

居

追求・追い

かける。

はらう。

[言·8画]

• 6画

(しんにょう)

(ごんべん)

ラチュウ

はしら

また、 いる材本。 やねなどをささ それににた

はくはつて、大きな火柱が上がってくえい村の立っている。▼ガス たての上て、 する太い柱が立ってい ▼門柱に表札をかける。 古い家に、 上(=ろうそく っとして 黒光り えるあ

の次。てい。

ものごとの四番め。

[木・5画] (きへん) ್ತು 柱

チョウ・

ひばしら だいこくばしらもの。「門柱・支柱・電柱・円柱 丁目·横 丁」4本の紙の一まい。「落一料理などを数えることは。 ちょうめょうちょうにわけたくぶん。 いめの町をい 丁」2てあつ

**3**とう

を入ったつきあたりにある。 うふを一丁買った。 ぼくの家は、 まっ T

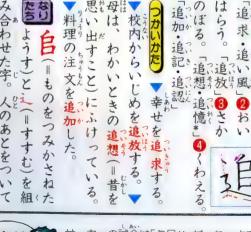
たちか らてきた。 ぎを

### 部帳消しにする(=などめよう。▼今まで 帳・手帳・記帳・日記帳 切なことは、 (=ぶ台のまく)が上がった。 ルチョ ゥ [巾・8画] 今までのことは、 (きんべん) 25ょ りっぱなど かり手帳に書き 帳帳帳 なか 0 たこと 全だ 査」②ととのえる。 せっちょうわ 調 しらべる・\*ととのう シチョウ 二百 える 訓 しらべる。「調

調・格調・調和・調和・調和・調和・調和・調和・調和・調和・調和・調 しらべ。 て調べる。 長調 調・単調」母音のふ ちつ 訓 70

らだの調子がよい を考えて、 虚り(=たんぼにきちんとうえら 曹 变 物)を組み合わせた字。 かべ紙をえらぶ。 る。▼部屋全体の調和 湖調 とば (=) 調力和 ۲

母は、わかいた校内からい み合わせた字。 ▼料理の注文を追加した。 つかいかた マ幸せを追求、追加・追記・追認」 ようす)とこ(= 自(=ものをつみかさね じめを追放する。 ときの追想(=





2 画

アイ・ジョウ (うかん 5画 くうかん

さだめる・さだまる・\*さだか 定定定定定定定

刻・定食・定説・特定・ 1きめる。 きま

決定・仮定・指定・測定・予定・三角 定規・品定め」でしずめる。 まる。「平定・安定」 ねらいを定め

たなり 合わせて、 すをあらわす。 鹿-人が家の中に止まるよ 定 いえ)と

ててきた字。

ならしたにわ)を

いえ)と廷(=た

=思ったとおり)雨になった。

んは、

アルバイト

て家庭

しているそうだ。

もてなした。

▼お客さんを、

▼校庭で、

サッカー

父は、

庭木の手入れをして

うわさを否定する。

運動会は、予定どおりに行う。

ラティ

といにわ **延**庭庭



ラテキ

||画

[\*\*・5画]

Va ふえ

かけんけ

竹

笛笛

笛笛

縦笛•横

庭石・庭木・庭先・中庭・ 校庭」②家のなか。 家か

笛隊」 笛・口笛・汽笛・警笛・鼓\*

笛の

つかいかた、皮に草花を植える ▼上田さんのお姉さ 家庭料理で (=たいらに 教師を 習をす いる きながら、 音が聞こえてきます。 くから、 りぬけた。 するどい警笛を鳴らして、 かた、音楽室から、 船の汽笛が聞こえた。 上きげんで歩く。 ○なるでは、

ち 竹(=たけ)と由(=ほそいあ てならすふえをあらわす ■「苗\*」とまちがえやす 竹のくだのあなからふ

せた字。

ラテツ 13画 [多·5画] (かねへん)

全 鉄

材・鉄骨・鉄板」②てつ ようにかたい こと。

は、毎朝地下鉄で会社に通っていければならないきまり)。▼父 いてす。 つかいかたくれは鉄ぼうがとく 鉄道」のりゃく。「地下鉄・私鉄」 勝負の鉄則(=守らな ▼ 父<sup>5</sup>5

ぐ)て、 もとの字は「鐵」。 まっすぐにものを切る金文(=切る)と呈(=まっす をあらわ 金(= 金属 たなり

三年

鉄·転·都





一画

[1 · 8画]

(おおざと)

声 車 車 車 転

> みやこ ト・ツ

がる。

いみ

1まわる。

1国の中心にな

みやこ。

者者

者

都

都

何回も転んだ。 越\*すので、転校することになっ 自転車をほしがっている。 うに走ってくる。▼ 運転・転落・自転車」 ころぶ。「 かわる。「転居・ 妹がスケ 回が転ん 引かっ 1

地•移転 ちつる。

み合わせた字。 ち)と当気(=まるく 轉一轉(転 まわる)を組 車 るまのか たなり

「都会」る東京都のりゃ 営」母すべて。 「首都」②大きな町。 っている町。

が悪なになっている。 京です。 になれてきた。▼近くに (=町)を組み合わせ、 京のなる。 いる。▼その日は、でわたしは都営アパ 火をつよくする)と『 日本の 人なななと 生だは活か東 が

漢)字クイス(図画)

まる大きな町をあら

わす。

「息のかかった男の子」ってなんだろう?

か

7画

[才·4画]

度

回数を表すことは、「度数のでは、一度を高度・高度・速度・程度・三角度・高度・またんい。「温度・またんい。「温度・またんい。」 ●ものごとのて 度度度 見トウ なげる

1なげる。「投

を投げる。 宿」のあたえる。「投薬」のとまる。 書する。 投票・投書・投資」 ヘリコプター ▼新聞の読者らんに投る としょう

> は毎日豆乳を飲ん 節分に豆まきをす

を投下する。 あきらめて)はい ることをあら りを立てるようす) 手)と文(=えの長 がつき立 試合を投げて(= けない 0 )を組み合\* な

だった。

▼**度重なる**失敗。

は十度は十度

度をこすとよく

ない。

尺度•度量衡\*」

ようす。「度胸

ものさし 人がら。

> 担 しだす。 投

> > 豆豆豆豆

豆

豆

豆豆豆

をまめ トウ・

ズ

大豆・

2小さいもの。「豆電では、だいず。「豆・柳豆・小豆」 る。 台風力

・豆本・豆木・豆

のつい 球をつける。 クリスマスツリー 豆 る。 たせの高い 父は豆腐\*がすきだ。 1 豆 に、赤い豆電 入ったれべ

ŧ

0)

たか たち らてきた字。 るふ t=

長さをはかることをあら

手)を組み合わせた字。

手で

く字)と又(=

心のぼる トウ・ 君が 12画 [死·7画] 7× 谷 登

10画 [山・7画] (やま)

トウ としま

> いかゆ しトウ

> > 12画

[>・9画]

(さんずい)

;17

湯

湯

湯

湯湯

島

を水でか 島 島 島

しまくにとうなんでん 島国・島民・群島・ まわ 島・列かっ

が見える。 島・小島・無人島」 かたくむこうに小さな島 マロは本 ▼海につき出た てす。 湯上がり」

る。

ねが白く

くも

▼ 湯ゥ 湯ゥ父き気ゖ、 上ぁとて

上が

いた。

ふきんを

がわ

たち合わせた字。 む小さな 「鳥」とまちがえやす やま)を組み み合わせた字。 た ち り

きお シ(=

あがること)を組

きあ

」をあら

みず

から

島・湯・登

した水。ゆ。 男

▼新人選手を登用する。家になりたい。▼妹と った。▼ぼく >家族で富士山 妹と登校する 登録

の入れもの)とべ(=)んばるかたち)と豆(= 型-登 そなえもの 7

豆・0画

…など。

等等 ・テー

に分ける。

しを三人で

分に見る。

プを等

等に長れ

んぴつ、

ルペン等、

筆記用具でえ

いかけっこて

さんこう「など」とはよまない

れないこと。

竹(=そろっ

たたけ)と寺

ら)を組み合わせ

た字

▼農業のさか

んな地

を出す

見

30

>波うちぎわて遊ぶ。

高い波がお

は山道

かげなので、

こどきに

>波乱(=

んか)に

6

の安全性について考える。れたす限りの広い農場。

限りの広い

村・農家・農民・農場・農薬・農耕たんのうかのうみんのうじょうのうやくのうこう

さ。「波音・波間・風波・音波・余波・波上場」

こくもつや

のうぎょうのう

農

また、

なみのような動 なみ。なみだつ。

いか

田畑をたがやし、

त्ती

曲

農

農農農

13画

田とハ

8画

5画

[ ]

となみ

[辰·6画

しひとし 12画 44 0 6画 くたけかんむり 等等等

かうごく・うごかす

計

音

章 章 童

子ども。

\*わらべ

[力・9画]

静 253

等・対等・等身大・均等」 「等分・等辺・平 44

じゅんじ

自動車・行動・運動・移いというに、動作・動向・動物・

日曜日は、 画を見て感動した。 自信をもって行動し ブルを動かす。 人のおもさが 動物園に行く予定ですを動かす。▼こんどの 動き出た 地め んに

つごきをあら かる)とカ(= せた字。 のちに 地めんをふむ から)を組

動

わらべ。「童話・童画・

あります。 学童・児童・童歌」 て聞かせる。 歌をあつめる。 賞した。 わたしのか ら児童会が

本ななない

₹ · (=目)と★(= 蹇-童 ち)から、 よう るど つきとお はものて もの はも

か)と土(= の)と をあら

2 1 ばる 10画 • 3画

西 酉

いるりならべ 30 酉 配

波

配外・配は てる。 配符

分・気配り・心配・手配はる。「配達・配給・配布・ 合」でわりあ みあわせる。 たマ文字の もうけを、 全員で公平

配人です。 んが来た。 たなり がた)を組み合わせた字。 (=人がひざまずい て書く。 配する。 哥 いおじは、 おかしを配る。 新聞配達のお兄さ ホテルの支 骨 つぼ) るす

林(=はやし)と下 がらて土をた がら) 農 人とない。 たなり > (=

かぶる

かを

組み合

せた

۲

をなな

農・波・配

さる

12画 〔立・**7**画〕

(たつ)

かける。たつ。「発車・出発」多う

どをはなつ。

理発」の出

はねかえす。「反射・反対・反面」2

りぎゃく。

さか

り矢や

・だん丸な

ホ

17

そる・そらす パン・\*ホン・\*

反反反

着187

(はつがしら)

4画

(また)

2画

ことばのきまり

発電・発作」の明らかになる。明られる。おこる。おこす。「発生・発芽・

「発売・発行」のさかんにはない、はられ、はられ、はられ、はられるである。

たん。

なる。

もとの字は「發」

にばっと開く)と弓(=

ゆみ)

して、

そらせるようすをあらわ

ふつう

2

た字。

左背右

た な ち り

7-17-反

を手でお

る。

一日の行いを反省する。



ある数を二つ合 倍 倍 倍倍

44

わえること。「三倍・四倍・倍加・倍 わせた数。 ある数を何度もく ま

物との つに切ると二倍になるの 十年て倍増 の倍率(= こと)を組み合わせた字。 へ)と音(= レンズで見る像と実した。マこのけんび 町豊の 百 倍てす。 字にはなす 口 11

> 薬が る。

か入っている。 教 急 箱に

急箱にはい

たけ)と相(=

むか

·音

をはこ















箱

はた・

はたけ

M COS

畑

畑

9画

[田・4画]

RR

箱・百葉箱・宝石箱」、箱・重箱・葉箱・薬箱・玉手 はこ じゅうけこ くずりはこ たまで「箱庭・木箱・筆箱・本はこ ってばこ ほんい

て竹かごのことをあらわした をつめ 箱にお 小に大き 鳥の 世代 一町七事 2 専門。「畑作・田畑・茶けらばたさんたはたまでける土地。はたけらずにはたまではない。はたいまではない。「畑・茶」とはない。「畑・茶」とはない。「畑・茶」とはない。「畑・茶」とはない。 外の研があ が広がっている。 入れる。

畑ちが

せち料理(=正月の

果箱を木にかける。

物をしまう箱を作った。

からくあつ紙で

一面に、

緑の田畑

の作物をと

などりが

るはたけをあらわ わせた字。草をや 火(=ひ)と田(= た)を組み合 日本てつく てひりょ

あら

わす

よう

のちにものを入れる「

わる部より 次のようなきまりがあります。送りがなといいます。送りがなために、漢字のあとにそえるかために、漢字のあとにそえるか 漢字の読みかたをはっ 分から送る。 あとにそえるかなを、 送りがなには、

つよ・ ある。く

ただし「 」を送る。 い」で終わるはいか強い 形容詞 は

ることばは、 かなし・い (「教える」とくべつ+おそわ・る→教わる 読みあ 一字前から 0 あ

花草鳥がなを (「動く うごか・ のかわ したがう) らないことばは、

」とくべつする)

光智

量い物はどうなるかな? 量い物に力をくわえると、

悲観・悲鳴・悲劇」②あわれみ。「悲

たいような気持ちにな いるりつらくてなき

是 まか

かなしむ。「悲運・

願・慈\*悲」



坂

城・下り坂」 がたむいている。さか。「坂道・上がらならの」 「坂道・上りたむいている

道を、 こうは、急な下り坂です。 が二つもあります。 たのて、 つかいかた 斯-坂生(=っち)と、 >学校に着くまでに、 自転車でゆっくり た。

急坂を、 息が切れた。 ●が切れた。▼長い坂をかけあが (=そりかえる)を 

組み合わせた字。 た土地をあらわす。 ななめにか

> るいた バ 8画ン [木・ 4画] (きへん)

たもの。 木を平たく切っ いた。また、 板

板・板前・板の間」。平たいもの。「看板・鉄 まな板の上で、 つかいかた 黒板に字を書く。 ▼板にくぎを打つ。 野菜をきざむ。

たちを手てそりかえに を組み合わせた字。 えらせること) たれたぬの

▽鉄板で肉や野さいをやいたあちこちの店の看板がこわれ 強い風のた いた。 て食べる。 皮・樹皮・脱\*皮」でものごとの 「皮ふ・皮下・毛皮・表の表面をおおうもの。 に見える表面のこと。「皮相 ●動物や植物 海水水

だちに皮肉(=欠点などを遠まわ つかいかたくみかんの皮をむい いたどうぶつのかわ)とメ(= 皮ふがまっ黒にやけた。 ぶにやけた。 ▼友がよくに行ったの

兄は板前さんの仕事にあこがれ

を組み合わせた字。 質及一段一皮トー しにせめること)を言われた。

美美 しい。「美人・美人・美人・美人・美人・美人・美人・美人・ かうつく 美美美美美 9画 [羊・ 3画 「鼻先・鼻血・鼻紙・鼻 はななりはながなばな はなるりはながなばな 白界自界 しはな

自

島島島

くれかなしい・かなし

[心・8画]

(こころ)

14画

[鼻•

(はな)

0画)

喜 227

心悲悲悲悲悲悲

つかいかた 美しい花がさいた。「美味」4ほめる。「賛美」はだ。「美点・美談」3おいしい。 ね。▼この料理は、とても美味だ ▼きみの美点は正直なところだ =とてもおいしい)。

\*悲願の初優勝をとげた。

(=かなしい

状態におちこむ)。

悲しみにしず

たなり うつ ちのよい大きなひつじのすが 大きい)を組み合わせた字。 美-美-美学(= いことをあらわす。 大(= かた 音の「泌」(=せまい

悲・美・鼻

=こころ)を組み合わせた字。

にひきさかれるかたち)と心 非(=二本の鳥のはねが左右

ひきさかれることをあらわ

」ことをいみする。

まむと

るかわ

力

5画 [皮・0画] (けがわ)

目め

畠

でうなのかたち)と 界(=「ヒ」の音であるはのっている をしている。 てす。▼かれは、目鼻だちがととまでは、目と鼻の先(=すぐ近く) 歌・目鼻・耳鼻科」 のっている。 ▽母が鼻歌をうたいながら、 かた、マ鼻がむずむず ▼わたしの家から駅\*\*

**漢字クイス** 人が百人も入る家を简という?

読み・秒針

時間・角度など

利

こから、時間の小さなたんいをあきのほそいところをいみする。こ

年

み合

わせた字。

みをあらわ

ち組み合わせた字。

いねのほさ 小さい

ね)と少(=

・)を



小沙沙

表表

表表表表表

くれおもて・あらわす・あらわれる

1文字や絵をか

た、文章。「達筆・たない」 事」3字をお どうぐ。 書く。「筆者・ で達筆・白筆・ 筆箱・毛 ŧ

氷・流火

せいてす。 字がじょうずなこと)てす。 買ってもらっ この本の筆者の考えにさん た。 きのう、 ▼父は達筆(= 色鉛筆を ほ 雨)がふる。

たな ちり をも たけ)と聿(= ·す)を組み合わ: 7 せ

ず)を組み合わせた字。

と水(=み

たなり

冰

沙

は、

ヒョウ

こおり・\*ひ 5画 〔水・ 〈みず〉 | 画]

たまったも りるり水がひえてか

・流水・水雨・水がひえてからいかがかがかったもの。こおまったもの。こお

れいだ。▼水雨(=秋のつめたいつかいかた)▼北の海に流水がきやってきた。▼雪山の樹水がきやってきた。▼雪山の樹水がき 「永」とまちがえやす もとの字で もて。「表面・表紙・地では、またのでは、あれらわす。「表面・表紙・地では、のでは、のでは、いいでは、 もの。「図表・年表」 表で遊ぶ。又図表に表 しまられ あられ あられ

やってきた。

たなり べつして使うこと。 文 念-

してきる 毛皮のきものをおも いみをあらわす と も (= 毛

きもの)て、

ピョウ・\* \*やむ・やまい 10画 5画 ヘイ 100 C るしな しヒン

DD

6画

9画

(5)

ルビョウ

くのぎ

4 画

き。「病気・病 病病病 からだのぐあい よう 病病

病院・急病・看

製品」2せいしつ。「品はいか・作品・商品・食品・せいりんとようひんしょうひんしょうひんしょうひん

しなもの。「品

D

品品

品品

品品

品品

種・品性・気品」

かた

いろいろ

な品物の

った。マ母が病にたおれたので、父 たことを気に病む(=心配する)。 院がてきた。 と看病した。 ·仮病 駅前に、 ▼かりた本をなく 大きな病 

ち上げの秒読みが始まった。

秒で走れますか。

U

ケ

▼トを音だ打:何だ

いかた

>五十メ

速は、ふつう秒速三百

トルてす。

りょう足がつ 斯-病等 ばるかたち)を組 人と下

U

た。

11

品種改

良にとり

とても品のい

商品の説明を聞く。

もの

をえらぶ

おばあさんに会っ

t 品品

きた字。 ろい なし **D**(= ならべてて 口)を三 0

ヒョウ

8画 [衣・2画] (ころも)



● 字クイス ● 級一及+冬=なんだ?

答え、宿。

幸福·祝福」

わせ。「福引き・福祉\*・

温

食も

福

福

福

福

もの

ブツ・モツ

8画

4画

福した。

→母は福祉\*施\*設で、

る。

物語」を読

→鉄橋を貨物列車が通る

さんこう「物悲し

かり物め

な二直

をそろえる。

▼年々物価が高くな なななながった。 なり災地に送る品物

緑の平野。

ランティア(=無料ほうし)活動を

の成人の日を、

家族みんなて

とても幸福な人生を送った。

て一等をあてた。

かのじょは、

いかた

店街の

・果物」でも

のごと。

音。

[]。

8画

祭だん)からてきた字。

入ったとっくり)と

たなり ちり

再

高丫品一福(福)



身にうける。「負担・負」のとうける。 傷」②あらそいにやぶ れる。

したい まける。 かた、少しても親の負担 「勝負」

人がたか まったとき、勝った人も負けた人なりない。マ勝負が決 ~(=人)と貝(= らもの)を組み合わせた字。 をせおうことをあ お金やたか

公園まで行く。 ▼弟を背負って、 サッカーの試合

かにわけた一つ一つ。かにわけた一つ一つ。かにわけた一つ一つ。 ●全体をいく つ

数の多い雑誌。 ▼兄は中学のサッカー部に入っている。 ▼兄は中学のサ 部首は「阝」だ。▼兄はかまで、また。 またれて読めない。 あてよごれて読めない。 る)と『(= かた

・はがきの れる る、二つにわける、二つにわけ 二方 一部が数が ・「部」の

> ちょっ

立 口

音3 部

立

音

音

音

シフク



と一服(=ひと休みすること)しよ 食後に薬を服用する。 つかいかた・服を着かえる。 外服 ▼ 不服そうな顔。 「服用・内服」

不服。

その

組み合わせた字。 服 に手をぴ ふね)を

みをあら

合わせててきた字。

平平平 いたたい らひら ・ビョウ 5画 〔干・ 2画 平 (03)

ありフク

13画

[ネ・9画]

(しめすへん)

物

均か公平」のからたい。た平屋・平野・水で、いら。「平屋・平野・水で、いら。「平屋・平野・水で、いら、「平屋・平野・水で、いって、平常・平日」

おりの授業 線を引く。 世界平和のために 明日は、 平常ど ▼かったた

ずらしい」などの「物」は、 ととのえるためのことば。 を組み合わせた字。 し)と勿(=

はっ

きり

중

平うき草が、

たいらに

かたちをあらわ

水点に

第1字74次 ※ ※を口の中に止めるのはなんだ?

て食べる。

料理をよく

失字の意味を考える。

▼ あたえられた使命をは

たす。

てしまった。

E 面を向いて ・ルが顔面に水 の水面に水

とマボ

を大切にする。

形の外がわの正

「面積」

連命にしたがう。

さとうなどの

8画)



かえす。 返品・返礼・恩返し」 つかいかを、女だちにかり 「返送・返答・

手をはって出す。 を返す。 した。 せにあきれ返っている。 」の本を読んだ。 たのて、 →母は、 返信用のふうとうに、 もとにも 大きな声で返 ぼく どる つるの恩返すをな声て返事を のなまけ と! (= 名前を

む)を組み合わせた字。 たは本

勉学・勤勉」 3 4 はげむ。 生け ん命にす 勉強 命

げて、 鬼学の道にはげむ。 テスト の点数がよかっ あの人は したおか た。

む)人だ。 ることをあらわす。 ら)を組み合わせた字。 をにぬけてること)と力 とても勤勉な =よくはげ をこめて、 免(= せまいところからむり (=ちか とげ きり

10画 〔カ・ 8 〈ちから〉 勉

ルホウ

はなす・はなつ・はなれる

解放・放課後」②遠くへにがす。「放流・放牧・にがす。「放流・放牧・ り自由にする。 放送・放映・放水

る。 する。 大空に放した。 駅前に放置自転車 駅前に放置自転車が多い。▼学校放送に耳をかたむけ 川に魚を放っていた小色

わす記号)を組み合わ びとのはすこと。 たすき)と女(=どうさをあら がわにえののび



111

味·命·面

た)を組み合わ

せた字。

口てこま

口台

てつ

たえること。

とく

かこむ線)を組

か

をあらわす。

まだの

人)を組み合わせた字。

人をあ

命

とサ(=

ロンとん

面

める)

すわる。

すましが たっ

いる。

おうえん

あたま)と

8画 〔文・4画〕 〈ぼ〈にょう〉

③思いのまま。 とそこを通る。

自以経知

油が油があるがら、石である。

石芸

れ。「由来・理由・

・由緒

プユ・ユウ・\*

ユイ

かかユ

あぶら

5画

(H

(t=)

0画]

[>・5画]

\*よし

由

由

由

あしモン 日 日 10.8 ((5) 答115

思やヤク

関やク

16画

(+・13画) 〈くさかんむり

るくす

7画 〔イ・4画〕 〈ぎょうにんべん エ [月・4画] キ (きょうにんべん)

とう・とい・とん F

問

設問の意味がよくわからなっている。▼疑問な点を問いた。▼ たずねてい 問・学問・難問」2人を むずか 先生に質問す 問題

日 口

役目・役人・兵役」②やない、では、人、兵役」、役員・役所・役場・ 「役員・役所・役場・

げきて、 者·子役 いゆうの受け持ち。「役 使う。「使役·労役」3 役目をり

み合わせた字。 演技のうまい子役。 社会に役立つ人になりたい。 殳(=ほこを手にも ることをあらわ とをする)とイ(= 遠くに行っ て仕事を組

ち)を組み合わせた字。

0

たもん)とロ

一買った。

いることを、

ことは

出すことをあら

ぬしています。の日だ。たは家庭訪問の日だ。

からなかっ

たす。

父は市

役所の

問だた

ただす。

役

役

刘

督

消

渐

薬

局・薬草・

もの

1)

薬を薬用・なり

職員だ。 ばには 火薬」 んだ。 化学変化をおれていると

た)。▼花火の火薬のにおい い薬になっ ・白 してつ た(=身の 木などの植 かぜぎみて薬を飲 ためにな 苦労が 211

楽(=すりつぶす)を組み合われ(=草や木などの植物)と

プユウ・ しある **6** ウ 無 278

有有有有有

油

油

力・有志・有料 「有名・

有・国有・特有」でも一有・有数・有能・有望」でもつ。 有能・有望」でもつ。

品物のきず 有望な選手

入団した。▼品物の読む。▼しょうらい を調べる。 有しているビルです。 かた▼有名な作家の これは父の 会社が所無が

たちになっ のちに、 有 た)を合わ をつくる)とや(= わ

由·油·有

酒などを

れる、

口

0)

0

たつぼ

つぼ)て、

つ

から出る

ちにあぶらをあ

た。

たちり

6

1

由

シ(=水)と由(=口のほそい

とは書かない

さんこう「あぶ

らい汗を

をあらわした字。

ちが自由に遊べる場所がも

ハワイ

由来を調べる。

をとる。

石油スト

ープに火をつ

つばきの実から

ンカ

て原油を運ぶ。

通っ

て、

やさしい問題でも、

油断しない

の理由を聞

漢 字クイス の

金を失ってできたのはなんだ?

答え意

コショウ

見ヨウ

ショウ

12画

+・9画〕

乃是

• 9画

んは

洋

洋

洋洋

葉

葉

葉

葉

葉

葉

月里

四

陽

陽陽

日勿

[氵·6画]

(さんずい)

ててきた字(この羊

年

す)を組み合わせ

3

」 の

[注 9 画]

(しんにょう)

[] · 3画]

るあそぶ

ユ

E ST

地・遊覧船・物のないので

一等で、外遊」 みんなて楽しく 旅行に

▽波が高いのて、遊園地は人で ぶらぶらとあるきまわること (=はた)と子(=こども)と 大臣が外遊する(=外国に む)を組み合わせた 遊泳禁止になっ だ。

出る。

子報・子智・子首・子智・子首 とがおこっ きっぷを予約する。 ぎょうの予習をする。 の予告をする

ちからてきた字。 ンザの予防をする わを か

羊小

(はねぼう)

ショウ

6画 [羊・0画]

(ひつじ)

かひつじ

Z,

羊羊

半

半

半

羊

備・

行うテス たのじゅ 幹線の てきご I 屋・羊飼い」 ている。 羊の肉を使っ 理を食べた。

たジンギスカン

いる。

ひつ 0) あたまのかたちからでき

た字。

青葉・若葉・か 0

209

たもの。

西洋のこ

と。「洋食・洋服・洋画

マヨッ

断する。

れた 洋を

は、

しい洋服を着る。

が好きだ。

うす ざやかな若葉の色。 れ葉」②数につけて紙や写真など 庭の落ち葉 ものを数えることは。 をはき集める。 かれ葉が風

に気をつける。 学一葉 のは)を組み合わせた字。 草 0

のぼる。 るい感じや積極 いこうをもつもの。 かくだ。 でで積極的なないない。太陽・落陽」2明 よう。日。

のプラスの極。「陽極」 われた。 東の空から ツベルクリ 日のあたる明る 日中 太陽が か

太陽をあら

わす。

「竹+由」は當。「竹+合」は答。では「竹+相」は?

旅り、かり、は、ないので、「旅行・旅館・旅費・旅券・旅人・船をかり、かり、は、ないかで、「旅行・旅

つともに。「両

・ りょかった

のシリョ

見りョウ

リョク・\*

ロク

14画 • 8画

(いとへん)

6画

5 画

10画

• 6画

とたび

211

教えることは。「車両」

その数学

を書く。

が発着する国際空港。

館にとまった。 学旅行に行って

大型旅

ッケも両方ともすきだ。

ハンバー

もコロ 両手

てねん土をこねる。

177

粫

旅

立させる。マハ

→八両連結の客車。

強とスポー

ツを両 親と旅

レヨン。

ショウ かさま 14画 •10画

様様

さま。 ら。「模様」3名まえなどの 様・異様・一様」②ずが 「様相・様子・同りようす。あり 美 下につ

とは。 第 も兄と同様に背が高い。またっとの様子だ。▼きれいな模様の布 けて、 「女王様・山田様」
そんけいの気持ちを表すこ かた
▼何かおこり な

「ヨウ」という音をも 「ヨウ」という れる水)からてきた。 木と羊(= 0 ごと永

する」から「おちっ

わさって、

はかな書き。

さんこう …のようだ」という

とき

ラクラク おちる・おとす

12画

リュウ・\*ル

++ .

9画

11おちる。 莎 莎 おと

選・落第」②新しくてきないという。「落ち葉・落下・落 る。「落成」るむらざと。

考えよう。▼大岩の大岩の大岩の大名が ビルが落成 た。マおしく つかいかたくきのうさい + (=草)と洛(=お 葉がたれ下 ふを落 てき いて

汝落落

ながれ。

村落・

急流・電流域・流 かす。 また、

ている。 る。、流行の洋服を買う。 ちょう」4なかま。「流派」5等切った。で流派」3よどみない。「 ~流れ星にねが た ▼町の中を川が流 流派」 5等級。「流派」 20万まる。 をか

it h

| 流(=あかん 出る んぼう

まれるときにながれ

組み合わせた字。

ながれる・ながす

●ながれる。

汁

济

济

流

流

両両 終紀紀紀紀紀紀 **ふみどり** 

色でみる 緑素・緑青(=銅のさび)
緑地・緑茶・新緑・葉 みどり。 青と黄の間の 「緑色・

が広がって にしみる。 ▼木の葉の 家族そろ 緑に見め

新緑の山に登る。が広がっている。 90€(= 色の

いだ青竹のようなみどり色にそめ竹の皮をはぐようす)で、皮をは

旅·両·緑

0

てい

あっているてんびんばかりの

ち

からてきた字

年

字。

字。人々が、はたの下でれたりの人)を組み合わせて

はたの下でれつをつ

たなり

№-岳-兩(両)

右と左

がつり

+口+田は幸せになる」ってほんとうかな?

10画 [シ・7画 〈さんずい〉

7画

って

·後列·整列」2多くの対車·列記·日本列島·

0)

▼何ごとにつ 日ごろの練

切だ。

学校て、

ひなん訓

をし が

くなるには、

た。

▼試練をのりこえて、

夢をか

どん

なえた。▼こなを練って、

をつくる。

5画 [ネ・1画] 〈しめすへん〉

\*ライ

話を聞く。 わす。 Value 日の日 れいぎ。「無礼・ お ち。 13画 [译·6画] 足公 じみ

もとの字は「禮」。 せわにな 礼なてだは だまっ おそなえをうつわ )を組み合 を せ だ 礼なか お

「目礼・礼賛」《感謝する心。朝礼·祭礼、祭礼、祭礼、 3おじ 長 先生のかられて失礼 行る。 てならぶ

らべることをあらわ ねなどをかたなで切りはなし に出て整列する。 列の先頭は | 類み合わせてできた字。 りたします。 マホームに列車が入れれて、 マホームに列車が入れれた。 マボームに列車が入れれた。 はん 生だ。 たな)を ▼える。 せぼ てな

た な ちり

\* - 練(練)

00€ (=

質のものにすることをあらわす

ものをえらぶ)て、

生糸をよ

いか シレツ 4 画] 7 もつづ 列

また、 きもの。

いみ ねる シレン

14画

洗練・老練」②こねる。 わざをねる。 · 8画 純

練練

5 画

8画

ごむ・\*なごや 一\*やわらべ げる・\*

路

路路

「大和・和紙」るたしざんの答うとする。「和解」るは、とする。「中和・調和」《日本 りおだやか。「温 2なか

和さた。 \*さんのお話をきく。 会は和やかなふん、 ~平和な日本をきず いきだっ

から いる。

000

いお

ち)を組み合わせた字。 いことをあらわす。 たれたようす)とロ あわのほが なやか まる Z II

路·和

のための

よこみちをあら

わす。

んら す

と)を組み合わせた字。

をころ

しながら

むこ

足(=足)と各(=

や

まな石

身み出り色は意い女は意い年光名は年光花は意い船を平か道え意いた。 分だ家は気が味み王が味み少き曲を数す火が味み出で和か命は味み。 一の一にののはのが一一がかける。 分だ家で気が関な王が関が少き曲を数す火がつ出で和か命はに 身と出で色をなけるとは、年光名は年光花は、 船を平か道えていた。 王国一国王 き身な客をとばい長き船だば 弱ま分が育なこ 気き配ば成まと 相談曜寺身長寺を客船の長れるととなる。 長きカタ外がす は 気 都 配 は 成 だ 弱的分光育

## ことばの 知しき

漢字を入れかえると、「火花」といれた。はない、ということばの上下のいませんがあると、「火花」ということばの上下のいまない。 うべつのことばができます このよう なことばを集め 7

漢)字のちしき ②

「等」の暗記法。「竹うまで寺までかけっこ一等しょう。」

# 四年生の漢字学習法

うにすることを目標にしています。 の新出漢字二百字を少しずつ書くよの新出漢字二百字を少しずつ書くよっにすること、四年では、一~四年で習う漢字

ですした同訓異字の漢字は、そのにすした同訓異字といいます。 に対異字といいます。 に対異字といいます。 に対異字といいます。 に対異字といいます。

ひやす」などの意味があります。した。やうでである」の「冷」は「冷水・寒にできる」の「冷」は「冷水・寒なせん。

漢字の意味をしっかり知って、

分けられるよう

1=

しなくては

なりま

に使います。に続いる」などのよう

は「感覚・知覚・味噌・味噌 全治」などの熟語ができます。 また、「治す」の「治」は「 などと使います。ただし、 の熟語があります。「まっすぐ・じかは「直通・直面・直線・直前」など やけがを「なおす」場合に使います。 味で使われています。 わかる」などの意味があり、 が作れる漢字で、「感づく・はっきり に・すぐに」などの意味で使われま める・おさまる・なおす」などの意 める」などのように使います。 「病気を直す。」と書いてもまちが それに対して、「直す」の「直」に 機械を直す。 の「治」は「治 」「くせを直す。」 党める とくに、病気 などの 「直す」は 「目が覚さ 「おさ 熟語 安かん

こらに、漢和辞典を使っての、次

はありません。

のような学習も大切です。

その「部首」の意味を理解します。その「部首」の意味を理解します。で、それぞれの「部首」がどんな意て、それぞれの「部首」がどんな意で、それぞれの「部首」がどんな意い。





種 247

周248

祝248

順 248

249

松

249

省252

清

静

254

折

254

侧 258

続 258

259

帯 260

停263

的264

伝

264

徒265

連284

老285

労285

録 285 勇279

要279

養279

浴

280

利

280

別

辺 274

変274

便275

包275

梅268

博269

269

飛269

費 270

察242

参 242

産243

散 243

残243

土 244

固 236

功237

好 237

候237

航

康238

鏡

競232

極232

232

軍233

郡 233

季 226

紀227

喜 227

旗227

器 228

機

課 221

芽221

改

222

械

害222

街 223 案 216

以

216

衣

217

位

217

井

217

四年生で

習う字

になりたい

している時計。▼これ

▼うちの愛犬ポチ。

▼みんなに愛される人間

000

類·衣装·衣食

住(=

1

6画 〔衣・0画〕 〈ころも〉

7画 〔イ・5画 〈にんべん〉

井

\*ころも

というらい

衣

衣衣衣

位

位

位

位

四

年

アイ

Th

STA 爱 形

いみ

ではんまいは愛知・愛好」のたい、愛光・愛児」2このむ。 としく思う。「愛情・ 多たいせ

こころ)と文(=足をひきず なり は姉の愛読書です。 しろにのけぞるようす)と 生似火 愛先(= まらせて、 むねをつ る)を j

書き)を考える。

組み合わせててきた字。

えのことをあらわす。

安(=家の中におち

部首は「木」の部。

(=き)を組み合わせた字。

0

13画 [心・9画 愛愛

うえ。 いか 案が 出·考案·思

起きてい 案・議案・名案・提案」2 した。 たんだった。 に賛成です。 下書き。「文案・草案」 ▼広告の文案(= たがとう ぼくは、 マテストは案外 ・ゆうべおそく は、 案の定ねぼう 口さん 文章の下

の案が

まて かん



N 地アン

女

安

安

案案

える。

10画

6画



にお返事 とは以前からの知り うのは卒 について、 あることばの上 いたします。 業以来だ。 ソ 5画 (人と) 「…より」の 3 画 かの

以い前だ

以い

RS と(=まがっ うとメ たぼ

組み合わせててきた字。

かこむかこ 7画 [口・4画] (くにがまえ)

用用用用 井 进

また、 胸はま

0

いるまわりをとりま

进·範\*进 わとりがにげた。 わり。「包囲・周囲・ ョギングする。 使い方 かこむ。 囲いのあみがやぶれて 家のまわりをへ → 身体検査で胸囲 4) て囲

-000 -#0# | 屋 囲

たなり

うす)と わせた字。 まわり まわりをかこむ をまわっ かこむ)を組み合 み。 るよ

衣・位・囲

- 衣

りの形から

つ)を組み合わせた字。

人の立た

ちをあらわす

たなり

小

位

人)と

(=しっ

と立た

40H (=

てきた字。

湯船に入る。▼白衣のかんごふさる。▼脱\*衣場で服をぬいでから、

衣がえの季節。

類に虫がつく。▼衣装をとり

かえ 衣

ツンで上位に入賞した。 しますい こまずしよう でした。

マシラマラ

は駅の南に位置してい

る。

をはかる。

ゃくて方位を調べる。

▼衣服を整理する。

をかえること)」

法衣・衣がえ(=季節によって衣類

着る物と食べ物とすまい

・白で

のていどやじゅん番

「位置・水位・方のでは、一位置・水位・方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、

順位、

位」の数を表すけた。

十の位」

む。

い。「地位・即位・王位・

いるのながん。



ほまれ。「栄誉・栄光・栄冠\*」るさ

「栄華\*・栄転・繁\*栄」2

いめし勢いがさかん

「英雄\*・英気・英

拉

英英

**学**学

兴

学学学

四

年

曾

## B27

## III H

## 田 門

いているふくろで、食道の下に続 べたものをこなすとこ

液・胃病・胃痛」 がじまんだ。 によくきく。 なくきく。▼おばは、長い間胃 きれだ。▼この薬は胃弱の人 ・▼父は胃腸がじょうぶなの ~このところ胃の調子が →おばは、 胃弱・胃

たなり からだ)を組み合わせた字。 8℃-町8(=まる もつがちらばるよう くろに、 たべた す)とり

9画 [月 5画 (によづき)

まやイン

ばを

同音異義語とい

音が同じことばるない。

か

ちがうこと

いがい

「時期…とき。季節。 (以外…それよりほ きせっ きせっ

ほか ないこと。 6画 「ア・4画」 ふしづくり

胃 くれしるし

E

E

ED

印

田用 3 いめしる

矢印・目印」ではんこ。 てする。「印刷」 印かん・なつ印・調印・消印」る版 しるし。「印象・

たなり 署名して実印をおしてくつける。▼印象 的なドラ まず ▼学校新聞を印刷する。 み合わせた字。 しをつけるいみになっ と一下 ざまずいた人)を組 かせることから、 ~わすれない ▼印象的なドラマ。 手ておさえてひざ おしてしる ださい。

病になやまされている。

しをつけ

じき

競走…

・ 走る速さをあ

ように印を きょうどう

共同…

いっしょに何 らそうこと。

協同:

かをすること。

数

一より

小さ

すること。

t VV ね h 青年 成年

かもの。

少数… 一人前の年令。 数学数学が 少ないこ

塩 13画 [ + • 10画]

### 思しエン いるしお 坞

もとエイ

きるエイ

9画 〔木・ 〈き〉

5画

さかえる・\*はえ・\*はえる

8画

++ .

**ナ・5**画〕 さかんむり

海水などからと

**塩** 塩

る、

白くてしおからい

「塩分・塩田・食塩・岩塩・米がするもの。しお。 使い方 ▼海の水は塩からい。▼魚の すもうの力士が塩をま 父の大好物だ。

塩で味付けする。 りすぎてす。 ▼少し塩分のと

をもち、「カンーエン」とい まり)と監(=「からい」とい もとの字は「鹽」。 上に点々と見える白 音だいをみ かた

英・栄・塩

まん中がくぼんだ花のことで

木(=き)を組み合わせた字。たりをかがり火てとりまく)となり。\*(=まわ

| (=植物)と央(=まん中を おさえる)を組み合わせた字。

とる。

美しい」のいみをあらわす。

話を英訳する。

業があります。

▼姉は英会話教

▼日本のむか

勝利の栄光をこの手につかむ。

ューヨーク支店に栄転した。▼

マ栄養のバランスを考えて食事を

ける。

マ中学になると英語の授

地として長く栄えた。

→おじはニ

しい方 この町は商 かんにする。「栄養」

業の中心

40

の伝記を読む。

>英才 教

育を受

▼英雄\*といわれた人々

もつ)を組み合わせた字。

「案」の字の部首は「宀(うかんむり)」か「女」か「木」か?

万長者」

ょうに多いこと。

使い方

億円にのぼります。

きなった物の

行ったと、学課・正課・放理程・日課・学課・また。 は、かだ、かもで、かだ、課題・課目・課外・課 が、かた、かもで、かだ、かまで、かれりあて。「課

昨後」②役

ぶん。

車・雑貨・百貨店」

使われて

▼その国の通貨(=

がえする。

所や会社などの

課長・会計課

昔にくらべて、

貨幣\*の価値が

曲を練習する。

父は朝され

種をまい

ひまわ

使い方・音楽コン

銀貨・運貨・外貨・貨幣

お金っ

金貨・

りわり

あてる

化

貨貨貨

部

課

評

課

くらめ

[貝·4画]

三日

[言·8画]

里

もカ

**億** 一万倍 億億

一億円」2ひじ

追

の数等

この町の予算は、 州業以来の入場をいた、約三億円かかいだよういらい にゅうじょうしょうしょうしょうしょうしょうしょうしょうしょうしょうしゃ このビ 30 また、

除

わ

わる。

加か工・加か

せた字。 をす)と口(=くち)を組み合わめ)カ(=うでに力をこめるよう 話し合いに参加する。 力(=うでに力をこめる ムに加わる。 を加工して製品にする。 きお サッカ ること

者になることをゆめ見る。

・人)と意(=あれこ

むねが

にな

考えら

一億人をこえた。

ました。

ルを建てるのに、

かか 数.

> くわえる・ 力 5画 わえ

[力・ 3画 (ちから) 加

国シカ

果

8画

[木・

(き)

4画]



| はたす・はてる・はて

果

(はってうまれたもの。 乗・効果・成果」 ボミケッ だい しとげる。また、原因「果実・果樹園・果物」2 また、

とに合格し を果たす。 を見学した。 果実酒をつくっている。 ▼果てしなく続いってい ▼あたえられた使命である。 ▼薬の効果で熱が した結果、 ちみご

下がった。 実がなるよ 木にまるい

海。

たなり

\$\frac{1}{2} \text{-\circ}-\text{-\circ}-\text{-\text{-\text{-\text{-\text{-\text{-\text{-\text{-\circ}-\text{-\text{-\text{-\text{-\text{-\circ}-\text{-\text{-\circ}-\tex{-\text{-\text{-\circ}-\tex{-\text{-\text{-\circ}-\tex{

からてきた字

るかぎりの大きな数のこと。 る)を組み合わせた字。

をあらわす

す

しが 8画 [艹・5画]

芽芽 芽 芽 芽 芽

「新芽・発芽・麦芽」2も きざ

のごとのおこり。 し。「芽生え」 間かかった。 ようやく平和が芽 から発芽まで、 た。

貨・課・芽

きるお金のことをあらわす

をする。

きりを通っ

貨屋で買い 屋で買い物のする

うが日課だ。

おじは、

この

いだに、

後このののい体で課が

たなり

(=お金)を組み合わせた字。

ち言(=ことば)と果(=

だも 2

たなり

かみ合う)を組み

合

わ 4

のしんめが

物)と牙(=

のが実をむすぶこと)を組

て た字。

いる草木の「め」のこと

芸会の衣しょうを作った。

がたをかえる)と目

ろなものにかえることがて

米を分けると何になる?

答え木。

調べる。

一改札口」

▼悪いところは、

った。マ

秋になると、

なる。 ▼昔の街

伝えします。

世界各国の

●福引きの選手が

街灯が

7 t

いにとも

ように。▼各地の明日の天気をおせい方、本当は各自持ってくる

国·各種·各位·各個」

「各自·各地·各所·各

ょうの葉が黄色くなる。

道ぞいの古い町なみ。

マアー

ーケー

景品を各種とりそろえる。参加する、国際大会。▼記念がは、

の商店街がつづく。

街角で

住宅街 まちの大通り。また、まち。「街頭・街灯・街路・市街・

りひとり。

ちそれぞれ。

はるめいめい。

ひと

7画

||画

7画

[久·3画]

## まやカイ いあらためる・ X0 | L | ±0

コ 2 2 改 改 改

改名·改革·改心·改修 かえる。 改善・改正・改造・改築・ 改 3 改行,2

いる

どうぐ。 機械化か て実験する。 運びこまれた。 使い方 かけ。 「機械・器械・ 工場に新り い機

たなり 由をうばう「かせ」をあらわす。えること)を組み合わせた字。 ること。「機械」は、 装置をつけたもの。「器械」は、 いみのかんたんなもの。 」と「器械 器械体操の選手。 、用心のためにかま かんたんな器械 を使いわけ おもに動 武器を両手 力

械が

する。

便い方

害虫をた

11

0

災害・損

なるもの)

がおこった。

をおりまし 組み合わせた字。 て前に進めなく 害物)とも(= かぶ するとい j いみ。 せ

たなり

詞の記号)からてきた字。

はっと起きる)と女(=

と書かな

いこと。

「あらためる」を「新ためる」

せる。

りくむ。

駅の改札口で待ち合わ

中です。

いねの品種改

良にと 今改築 すなお

に改めよう。

▼あの家は、

をきずい 係のない て水害を防ぐ。 つきあい。 頭に物をかぶせ ▼利まだいまた 頭)を

械 害・被\*害・公害・冷害・水害」 いいかがいこうがいれいがいな害・ぼう害」のわざわいかい 害虫・殺害・危害」② しゃまになる。

また、

(1) (土) をがガイ

7画

益 290

中 生 害害

あかカ、

きず

ける

中

もりカク

6画

(5

とおぼ AV. 12画 5画 世

かガイ くれまち

カイ

きじカク

\*おのおの

佳

街

街

冬

各各

12画

6画

●感じる。 首 覚 覚 「感

になる。 る。「自覚・不覚・先覚者」の明ら はっきりわかる。 党・知覚・視覚・味覚」2 発覚が さと

年生であることを自覚 ▼寒さて指先の感覚がない ◇ 本ちゃんが目を覚ました。 本ちゃんが目を覚ました。 ながない。 > 四

ある。 よう。

家)と見(=みる)を合わせた字。 級生の手本になる。 もとの字は「覺」 える者とまなぶ者がまじ お わ

街·各·覚

ならぶようす

たなり

げたよう

す)を組み合

わせ

ら、「一つ一つ」「それぞれ」という U(=四角い石)につかえることか

町の

行(=みち)と圭(=

土をも

たなり

一合各

こつんこつんと 久(=人の足)が

びらをもらった。

みをあらわす

漢字クイス

しまる

・税関・難関・玄\*

カカン

思わカ

18画

(43)

[見·11画]

14画

[門・6画]

(もんがまえ)

しせき

B

関

関。 2

わる。

関係は

しかけ。

関北節・関北機・

ひもをとお

門と挙

## もカカ 一 4 画 〈うかんむり〉

## 完 完

あがる。 「完結・完了\*・完成・完 ●おわる。 やりとげる。

全・完備・完勝・完敗」 した。 校内マラソ 連続テレビ 会で完 7 0 が完 元な

走することがてきた。

室に

見える白い

はだ。

武験管に薬品 かすけて

ゴム管でつなぐ。

ととりし

まる。「管理・管内・保管」

二本のガラス管を

道具が完備さ

けたところが を組み合わせた字。 亡(=やね)と元(= て完勝した。 むことをあ まる どこもか まるく

- 13562311 - 000000 完完

試験官・教官・教育の外交官・また、役目の「外交官・また、役目の「外交官・また、役目の「外交官・また、役目の「外交官・ きをする部分。「器官」 は たら

応募\*する。 用紙を配 をぬっ 外交官になりたい て たくさん集ま た。 官製はがきて 左官屋さん 大きく 0 ~胃も腸も なったら がテスト ク かい る 1 か ŧ 0

> マンション を入れる。

宝石を金庫に保める。

官



コシカ

るくだ 普

14画

[\*\*・8画] くたけかんむり

中 管 管管

いている、 くだ。 「鉄管・血 はそ長いも

管・気管・水道管・ 試験管

## 8画 「一・5画] (うかんむり)

動力

す)を組み合わせた字

せた字

まる

ŧ

を組み

と官

わ 合むり

観 分かを、け か あ 訓紀訓紀 わ 0

夏紫熱い本語書いて

スの暑い日。 がいお茶を飲む。

気が変わる。

いに気をつけました。

ます

いば

同じで意味が

関 関 関

よく見る。

かない。 (は、かんてん、かんしょう かんせん かんてん かんしょう かんせん かんでん かんしょう かんせん かんでん かんしょう かんせん かんしょう かんせん かんしょう かんせん かんしょう かんせん かんしょう がめる。 「観光・観曲 観・楽観・悲 客\_2 観りあ

の見み

たつ

家が建つ。

ける。 そま。 空きかんやごみは景観を 朝顔の観 観的にものごとを見る をつ

なお

でんしゃいまました。でんしゃいままが駅に着く。

だれた。

政治に親子のない。

があ

2

台風て交通

関が以外所

にすがみ

この

る)を組み合わせた字 もとの字は「相  $\widehat{\parallel}$ 口台 を Z

は

3

が速

はじ

年の初め

「朝早く起きる。年の初め。

なく

何が鳴く。

きげんを直す。

気を治す。

漢字のちしき

「紀元・二十

きまり。

つ。また、

よろこび。

思問

喜色・喜喜・飲ん

\*喜·喜

書き

るす。

紀

書

吉

直直

吉喜

よろこぶ

きに感じたことがらなどを書

紀行文(=

旅行

「喜劇」

おもしろ

のきりつ)がみだれる。

ごろに建てられたお寺。

ピラミ

しの大好きな喜劇役者。足はぬか喜びに終わった。

紀元前二千五百

いさかんにつくられた。

「記」とまちがえない

と)と己(=

ŧ

2

つわにう

ずたかく

食べ物をも

のつ

一当一喜一喜

¥8(=

台だい

)を合わせた字。

る)と
(=

旦

を組み合わせた字。

たはたのこと

文章)を読む。

▼風紀(=

七き世はのいた

3.

大会で勝って、

が目にう

な大喜びだ。

雨天中

止て

わた

遠えん

願·出願·宿願」

みんなの無事を願う。

▼修学旅行に出いた。 ● 原

か

ない

ます

ように。

学願

19画

[頁·10画]

(おおがい

Valaが のガン

田かキ

ヨルキ

8画

[子・5画]

7画

(中・

(はは)

4 画

望・願書・念願・志願・悲れがう。「願い事・願かながん」ながんとがんとがんとがんとがんとがんとがんとがんとかんのむ。 願 願

百

は事だけ書いが 2ねがう。 少価値・希代・希薄\*」 ょうに少なくまれてあるため、 ない。 のめ これは希少価値(= もとめる。 まれ。

たなり 「まれ」の たぬのの =ぬの)を組み合わせた字。 杀 す いみとなった。 ı きまが ★ (=糸を組み 合わせる)と 小さい ことから 織っ

たなり

あたま)を

組み合わ

t と頁

一心た字。

まるいあたまをあらわ

えるという

いみになっ

ばあさんは、 を提出する。

念願の海外旅行に出せるがん かいがりょう て

がんばろう。

かけた。

5 希 希希

春・夏・秋・冬のはるなっちきょう

きせ

香丁

季季季

ねうちのあること)のある工芸品 ▼最後まで希望をすてずに U た。 それぞれの時期。 ~冬季オリンピック大会が開幕 がさきみだれる、 俳句にはふつう、 30 の季おりおりの花

よみこ

季節の

こ)を組み合わせた字 「委」とまちがえな 0) ほ)と子

お花

[す・10画] ・かナーへん・

司かキ はた |4画

曲かキ

9 画

12画

くち

[口 · 9画

悲199

[ · 3 画]

いとへん

目じるしやかざ 旗 旗 旗

りに使う、はた。「旗・国・なき、シャを検験・気をはた。」「旗・国人をはなる」 旗・手旗信号 大きな旗をふっ 旗手を先頭に入 ▼どうも味 にゅうじお 方がたの

校旗が風にはためく えんする。 **次手** 四角い形をのぞく 四角い形をした、 道具)を組み合わせ す)が悪い (W) はた) た字。

「老」の暗記法。 「土曜日ノヒなたぼっこのご老人」

紀·喜·旗

もとめる。

職·追求

探於意

機

口口

もの。

きっ 2ものごとの

し合う。また、意見。 議案、議事・議決・議 「議案、議事・議決・議 で、また、意見。

意見を出して話

議。抗\*議

使い方

かれを議長にす

こと。 機会・動機・好機・転機」③はたら 「機能・機知・機転」母だい 「機密」もひこうき。 ▼夏休みは、 ちょうど 機織り星 とき じな

たなり 木(=き)と幾(= か を組み合わ けのこと。

たっとしてかっこう

かい

を組ん

ことば)と義(=

めのある話をすること

み合わせた字。

きちんと

田心キ Va\*はた 機 16画 [木・12画]

(きへん)

四年







ラギ

20画 (こんへん)

[言・13画]



品 聖品 器 器 器器

才能。能力。「器用・器量・大器」というのでするできます。またまでいます。これを選挙を表記器」2 食器·花器· わ。 能力。 どう

器と言わ いろなう わをあらわした字。 ろ

ある。

マこんど入

手は、大きがが

とも

体をきた

みんなで協議

議が長び しよう。

た。 意見が

える良

て実験する。

は手先が器用だ。

いろいろな器具を使っ

大政治家になる。▼姉は

コルキュ もとめる 7画 [ ]K . 2 画 (みず) 末末

一半キュ

ゥ

8画

(さんずい)

5画

となく

泣

泣

制\*・請\* 求」②さがす り人にのぞ 人・求さがす。 まむ。

き言・感泣・号泣」 てなげく。 なみだをながし 赤ちゃ

し泣きした。 して泣いた)。 一苦労した末の成功に、 は泣き虫だ。 た(= 犬と少 んが泣い こうなん ないこうれの成功に、うれ 泣き言を る

ずらず、

あらそいになった。

◆ 会社は、利りなった。 ▼正差の

使い方

おたが

益を追求する。

人広告が出て

会社は、

い答えを求める。

どが声を出すこと 「鳴く」 目からシ(= る)ことをあら 立(= ŧ 流 0 な n な 書かないこと。

急車

救

車

2

求・泣・救

ひもて中

心に向けてしば

0

て 5

录

りかかったちの 0)

毛力

うことをあらわす。

ことをいみする

ラーキュ をすくう





る。

救救救

の中てす。 ▼ そうなん者を救 たところを、 救世主」 ▼川ておぼ イレンを鳴らし ほう帯は救 れそう になっ 急がら

「ムかしの子大きくなると彡(さん)人でお宮参り」 「参」の暗記法。

動

詞の記号)を合わせた字は、一ひきしめる)と女

共同

ばろう。

マスイン リュール ときはない かたい の両親は共働い 話題。 ▼力を合わせて共にがん

きてす。

て使っています。

をなだちの考えに をなが サーク なんじょき かんが サーク 共学の

この井\*戸は、

二つの村が共同

## コシキュウ 12画 ハンとへん

給 給

きばる。 しあたえる。 いきゅうち じきずん

初めての給 した。 水道がとまっ 料日です。 食の時間になりま 今日は、 • 時給 • 日 は、姉のて、

あらわす。 たりない ふさぐ)を組み合わせ ところをつぎたすことを と)と合(= た字。

• 6画 アルキョ

10画

[手·

. 7.

ラジギョ・

リョウ

〔シ・11画〕

6画

伦 また、

举手· 選挙」で行う。 しもちあげる。 とりあげ 3.

大学 「列挙」4のこらず。みな。「挙国・式・一挙・快挙」3ならべたてる。また、ふるまい。「挙行・挙動・挙

疑さた。 学して役所におしか もとの字は「擧」。血 を利す 変員を選挙 て決める。 けた。 せて動 民だが か

す)と手(= て)を組み合わせた字。

心あげる・あがる 挙 挙 举举

渔

漁漁

ふるまい。「挙行・挙動・挙

をとる。「漁業・漁人・大漁・漁村・漁師・出漁・産業・漁村・漁師・出漁・豊漁・大漁・大漁・漁村・漁師・出漁・豊漁・大漁・ る「魚 業・漁 不漁・禁漁区」 漁 入いつ てきた。 ~海と山にはさ さかんな地方。

水気

**承漁です。** <u>></u>(≡ み合わせた字。 水)と魚(=さかな)を組 ら翌年の三月までは、 きょうは大漁だ。

なり

をあら わす

### あかキョ よしい Ve とも 共 ゥ 廿 6画 11. 共 共 共 ラキョウ

協

鏡

鏡

鏡

4画

はち

8画

ラキョウ

19画

〔金·||画

かねへん

かがみ

[十·6画

Lipi

協会・協調・協議・協議・はいい、きょうかい、きょうない、きょうない、きょうない 劳 协 協

は全員の協議で決める。▼とぼしい性格だ。▼重要 協奏曲」 きれいにする。 定を結ぶ。 ンの協奏曲を聞いた。 みんな協 国と国とが協 重要な問題は かして町を 1 もはん。

くさんの力を合わせる)を組十(=ひとまとめ)と務(=た をよくみがい 多 2の意味のときは、 遠鏡で遠くを見る。 鑑\*・鑒\*」という字を書 め)を組み合わせた字。 金(=銅)と竟(=物のさ 明暗のさか

び鏡・そう眼鏡・眼鏡」 ンズ。「鏡 がみ。 台

鏡に顔をう

いめ

がはっ

きりうつるか

共・協・鏡

たなり

只

1

共

共両手て品物

た ち り

つようすからてきた字。

ることをあらわす み合わせた字。



2てほん

青さか

競売

百メ

の試合を

見に競技場に行くの位になった。マサ

馬の中

いを見る

各

ピて

わざを競う。

ゴ

て勝

った。

たなり

を言う

こと)を二十二人が何か

とをあらわ

した字。

組み合わせて、

言

軍縮

軍隊が行進する。 軍港として栄えた。

て伝わる、

に伝わる、古い民話を集めと、村が七つあります。

円をか

2たたか

記章

"陸。

市以外の地いきをいく 市以外の地いきをいく でかにわけた区画。本道府県の中の との都内の米のと この都内の米のと との は、 一大 でには、 町が

備い軍人

四年

V~\*きそう・\*せる

競競

「きあっち

くらべる。 きそう。

極,北極, 極言・極大なはだしい 極。 極」②はて。 極心力 極度•極

努力してみます。 げきの )品物。 あまり)泣き出し ときるだけ) 

ころの 組み合わせ、 むな木をあらわ き)と極(= 2 きわまる)を とも高

**1**きわまる。 12画 〔木· 柯 (きへん)

わまる・\* きわ

会ラ

のクン

三日

[言・3画]

こんへん

10画

キョク・\*ゴク \*きわめる・\*き · 8画]

極 極 極

三日

一百

訓

訓

訓

りおし

える。 言

教

訓

三山

極東 極寒 南於 漢字の読みには、切に」が、わが家の 先生の訓え たなり ん読み。 がある。 おしえ。 訓話·訓示」2人 音だる っした。

話を聞いた。

わが家の家訓です。

音読みと訓読み

▼今日は学校で防災訓

礼で、

わせた字。 せつめい ことば)と すると ものごとの 題をほぐ す , じを組みない 通い すか

関ケイ 8画 11 5画] きょうにんへん

カググン

軍

軍軍軍

9画

くくるま

[車・2画

君。

[1.7画]

00郡

00町

口口村

00町

くおおざと

10画

しググ

小道。 径 径径

郡



径」2次



道。「小



径・半径」、 「なや。ほ直。球でそ



そい道)を 歩く。 づ 小 径() 13

たは川泉五いれが郡につる。

たちと平(=台の上) 四倍が円周です。 て糸をはる)を組み 半径五センチの もとの字は「徑」 た。 三えた 合 せた字。 わす。 行く

■ すめちしきです「兵」の字の中の「斤」は、「断」の「斤」と同じもの(235ページ参照)。

軍·郡·径

たなり

庫

るま)を組み合わせた字。

や町をあらわす。 合わせた字。

とり

かこむ)と重

(=外が

わを

たなり

とめる人)と『

りにある村 村)を組み しげた。

軍記物語(=

士の物語)を読む。

の港は昔

もうの行司が

物語(=いくさや武が、さっと軍配を上が、さっと軍配を上がなった。▼

出た。

「群」とまちがえな

いこと。

に立っ

て、

まるく

ŧ

なぐ。

「結合・連結」② りゆわえる。

つ

にかたまる。

ま

まとめる。

だっとう けっせい けっ

思めケツ

もっケッ

12画

[糸・6画

いとへん

むすぶ・\*ゆ

う・\*ゆ

わえる

結

結

4 画

いけつい

[欠·0画

かける・

かく

人が口を開けてかがん

7

そん

からてきた字。

たの試合はが、

るぞ

ふえた。

0)

欠け

結ぶ。 使い方

野球のチ

ムを結成する

実験の結果をまとめる。

の結末を考える。

いと)と吉(=

ふたをし

てしまった。

▼茶わんを落とし

て欠い

欠点だ。

か

ぜて欠席する かれは気が短

か人だの

局

結果・結末・結論・完結・終結」

くつのひもをしっかり

結社・団結」るおわる。

12画

日

0

おとゲ

7画

[+・4画

・くさかんむり

· 8画

刑 型 型型

いかかた

开土

开

是是

旦

景

景

景景

4

芸

芸芸芸

ぎじゅ

いなど

り物のもとにな

体は、 典型的」 流線型·模型」2

型通り 刑(=小刀でわ 形」と使 のあ 典型的な学者タイ さつ。 0 けること。 おじ 形をきざ プてす。 はまじ せた

てほん

景・景色」2ありさま。 景・景色」2ありさま。 景・景色」2ありさま。

しばら 使い方 ○く見とれる。 のどかな 山菜 里の あの

たなり 背景をさぐる。 からの夜景は最高です。 日 t= (=太陽)と京(= てた家)を組み ▼あの人は ことばかり言 合為高於 事けんの わい お # つて 0 か た

曲芸に見とれた。

会"力

姉は手芸がとく

てす

しき。

累

「芸術・武

情 0 上えに を見た。 芸· ばいきょくけいがくげいかい芸・文芸・園芸・工芸・芸能・芸当・演げいぶんげい えんげい こうげい けいのう げいとう えん のえんぎ。 つ。 民芸品をあつかう店 曲芸·学芸会」 また、

たち(三人が植物をうったり る)と書き、 て主役に選ばれた。 にてい もとの字は「藝」。 る「藝」の字となっ のちに えてそ か は執

かケン・\*コン 一たてる・たつ 9画 [五 6画

王 津 聿 聿 聿 建建

隆\*寺は七世紀の たお寺です まるい屋根の一番し ダムの建設が 建物が教会です 始まった。 初めに 、会です。 法等

たなり 建物」と書く 考「たても | 幸( = ふ てる)と 7 、をまっ は「て」を送らず 手て立た

**賞字のあしき** 「斤」は「おの」を養し、「兵」のもとの意味は「武器」(233ページ参照)。

る あらわす。 ひもて入れ物の口をむすぶことをた入れ物)を組み合わせた字。

合わせた字。

健・保健」②ふつう以上である健在・健全・健勝・強

健在・健全・健勝・

る。

すこやか。「健康・

健闘\*·健忘」

行っ

赤ちゃ

ます。

けがをしたのて保

んが健やかに育ったので保健室に

みなさまのご健

勝をお

0

ろえる。 する。

今に

一はきち

ょう

はぐ

ように固

家具を固定し

地しんてたお

てす。 あります

理科室で、

は、

国語語

0

いなかの祖父母は健在です。

合わ

せた字。

なり

人

と建(=

からだをま

た ち り

もとの字は「驗」

と食(=物

をよせ集め

0

ぐに立た

7

7

歩き

く)を

組

み

る)を組み合わせた字。

らべてためすこと。

功」るよいおこない

を学の進歩に大きな功にない。「功徳」

好評・好調・好転・良

このましい

0

・好転・良好・格好・よい。「好感・好機

好奇\*心·好物·同好」②

てある。「好意・好学・ 1このむ。

功」②ききめ。「奏

名・功労・成功・

てがら。

功

功する。

ところと悪

ところ)につ

7

なっ豆は父の好物です。

ビの功罪(=

何だて

ŧ

好ききら

いなく食べよう

はあ

まい

物を好む。

する。 績を残す

ロケッ

トの打ち上げに成

0

文化功労賞を受

四

[1・9画]

18画

S S

8画

[].

くにがまえ、

5画

心かためる・

か

たまる・

かたい

古

固

固

8画

健

健 サンケン・

健

健

健

「霊\*験・体験」②ききめ。「武験・実験・ 「試験・実験・ 験

馬

ようにする。 しっ

ŧ

固:形: かた

強

「固有」

かりと動

かない

なことを経験 実験道具をそ な体験を 馬をの てまと ま 中 ゅかい つくる。 れない まって行動する。 固・確固」②ゆうずうがきかない . 1. にのぞむ。 「がん固」るもとからの。 使い方 日本固有の文化。 そのようす。 固定・固体・ ように、 ▼園い決意をもって試合

古(= )を組み合わせた字 頭のほね)と口

なり

思心コウ 10画 [1・8画]

にんべん

プロウ・

あかコウ

6画

4.

おんなへん

3 画

このむ・すく

5画 7

[カ・3画

ちから

~そうろう

好

候候

す。 下てん

いねいに言うときに使う。る。「斥\*候」の「ある」「い 候・気候・時候」②まち 「候補」るさぐ る」をて

うける。

つづく。 使い方 このところ、 悪天候が チ そうろ

文体)で手紙を書 市会議員に立候補する。 文(=文末 人)と戻(= 0 すぶ 昔は ŧ 40

第字のちしき ゆき

「戦」の「戈」は、とびぐち(武器)の形からてきた。

功·好·候

組み合わせて、

なしとげた仕事と

がる形か

5

てきた字。

そのてきばえをあらわす

たなり

ること)とカ(=どり

を

势

1

こども)をか 序(=女)

わ

う

か

0

3

がり(=

上下面

面流

にあなをあけ

品の売れ行きは好調です好意を無にしないように

ように。

新た人なり製まの

たなり 士)を組み合わせた字。 をねら

欠航した。

▼健康しんだんをうける。

たなり

んぼうを両手でささえる)

とハ(=

ねのもみがら

)を組み合わせた

べつ。

また、

二つの数

せいしつのちがい。

小差・落差・差額・時差・誤差」②さの間のひらき。「差別・差異・大差・

差し支える」

わたしと妹

→二位に大差

ち

の身に

人で

っていた以上であること。

ことがひどくちがうこと。

どが、思

たことと実際の

不安…おそろしさや

心配などで

心がおちつか

を折

りこむものです

ちばんかんたんなの

名前

かかり

10画

(2)

[工・7画

いきさす

关汇

关

差

差

差差

とば」や なさんも、

「クイズ」や 「しりとり

「なぞなぞ」

、「早日こ

ます。

じことば

同意語とか

2

いうこ

にて

同意語とか、同義語とか、同義語となることばを、類義語とがほとんど同じことばかりませんがほどんと同じことばかりませんがほどのという。

語さや、よ

からたくさん伝わっています。

ことばを使っ ことば遊び

する遊びが

ことばの知しき

などは、

やったことがあるでしょ

ともあります。

これらのことばは、

の始めにならべる

(=折りこむ)、

句」という遊びをしょう

か

(意外…思っていたことのないないなどいっても、どんかいを考えて使いるがないながらないないないないないのではないのではないないるといっても、どんないるといっても、どんないるといっても、どんないっても、どんないっても、どんないっても、どんないっても、どんないっても、どんないっても、どんないっても、どんないっても、どんないっても、どんないっても、

ここでは、

あることばを各句

四

のシコウ

船や飛行機で、

帰航・運航・航空便」

父から、航空便の絵を行機が欠航した。 飛行機が欠航した。 た。 航空便の絵葉書が来ましか欠航した。▼出張中の なはがままりのため、 ~長い航海の無事を フェリー 0 出航時間はの無事をいの ため、

たなり み合わせて 進むことをあらわし 立たっ ている人(なれ)と亢 ねがなら 0 まっす んてま -び)を組まっすぐ

10画 [舟·4画 ふねへん

見コウコウ

あるコク

7画 口·4画

15

るつげ

日画

まだれ

• 8画

[]

いか

康

康康

告告告

生口

生口

告告

健康 小康」②すこや

●やすらか。 人はこここ、 か。

三えにち

健康にはじゅうぶん注意しよう。 かけ 糸と 告・警告・広告・忠告・告げ口る。「告白・告示・告別」 のなら、 ばよかった。 広告を出す。▼こんなことになる 白した(=うちあけた)。 ▼新聞に いかくしていたことを、 母の忠告を聞いておけ ▼時を告げるかねの音。

す

べて告

口

たようす)をたもって

ます。 なり

小康状態(=

たなり をしばる形からてきた字。 一年 告(告) 牛の角の にぼう きけ

をしらせるいみをもつ。

じょうぶをいみする。

0

入っ

たもみがら

自分でも作ってる びれる 7 か強 2 まし

とっ

の辞典の編集長

をつけてゴ

ンする。

・カ

差は十センチです。

テンのすき間から日が差す。

心配…どうだろう

かと気にする

こと。

悪きまるとにん

よう

衣い衣いない

海が外が、

選手のちしき のう

部首の「貝」はお金の意味。昔、貝をお金として使ったから。

どんな場合にもは、意味がにて ましょう。

かぎり

ませ

差

そろわないことをあらわす。

左手でささえる)を組み合わせ、

一年一差ば(=ほ先がた

とおかず。

「総菜」

・菜園・

だれて

いる。

しんせんな野菜を

たくさん食べましょう。

やきゅ

を作った。

庭菜

「たくからの雨で、川が増すれて、大変おせわになります。 たいくん

をもらっ

年生がし

胸につ

きな名札をつ

けて

いる。

駅をりにつの札を大きり

は最後までとっておこう

りがとうございました。

昨日はおまねきにあず

水して

いる。

今の冷えこみは

改札口

のところて待ち合

わせる。

札をたし

こたえます

四

「菜 菜菜菜

菜菜

茶米

菜

最取

最

最

野菜・白菜」

▼一面に菜の花がさきみ

最悪・最愛・最新・最古・最中最低・最後・最初・最期・ っとも。 ちばんの。

・最寄り」 ·最大·最多·最 最 良・最近最中・最近

材・適材適所」

そのはたらき。

才能の質」2

たなり 章を最初から読み直 >今日は最高の 日(= 最も高い 行をとり 最高の一日だっいちにも 最美元 かみとる)を組み合わせ おおいかぶせる)と取 は富士山だ。 れた洋 L

最 最最

もサ

心もっとも

12画 [日・8画]

(ひらび)

もサ

7画

[木・3画] ・きへん・



資しのまれば木きた、 題だがいれる 物がのけ h るため よう。

す港です。 人)を集める。 そろえる。 ゆうしゅう 木 (=き) 切 ってとめ ▼ここは木材を積み出たする材料を 作文の題材をさがす とオ(= な人材(=役に る を作る材 *t*=

たち 切き 0 た木の こと

とって食べるため

の草

のことをあ

た字

たなり

る)を組み合わせた字。

つみ

4 2 総菜屋さんでコロ 旅館の名物は山菜

.7

ケを買って

らわす

っせき)を組み合

たなり ちり せた字。

見サツ とする 8画 [1.6画] くりっとう

9画

いかへん

見サツ

5画

[木・|画

ふぶだ

[日・5画

吊 吊 吊 吊

刷

7

「刷新」 2わる 色がれる ところ

年度・昨今・

一昨日・一昨年

表れ・八、た、ふだ。「札束・ 大人とうない。」というによるとでした。 れ・ 本本では、かだ。「札束・ 大人とうない。」では、たいた。「札束・ 大人とうない。」では、たいた。」では、たいた、かだ。「札束・ はなった。かだ。「札束・ はなった。」といた。「人とてつ

出

年など。

で昨日(さつ・き つ前の日・月・

昨

をあらためる。 版画を刷る。

小さく を印刷する。 りの年賀状を作った。 ちぢめて印刷 かりあらためる) たもの)て 学年便り す

た字 よごれをふきとること) かたな)を組み合わせ

「きの しの のふだをあらわす

昨·札·刷

日(=

ひ)を乍(=

み重ねる)

木(=き)とし(=

おさえて

める)を組み合わ

せた字。

木きと

になっ

ことをあら

害・殺気・殺虫

生」②なくす。「相殺」

▼息を殺してじ

と見つ

つける。

て考察する。

める。

やめなさい。

やめなさい。▼貸したお金は、こめる。▼殺人犯がたいほされた。める。▼殺人犯がたいほされた。

の本の代金で相殺(=貸し借りな

を視察した。

しにすること) しよう

产

っきりと

切

れめ

0)

組み合わせた字。

ること)と生(=う

まれる)

を

いるころす サツ・\*サイ 10画

文·6画

セツ

Barrell B

殺 殺 出とサ

14画

一一一画

四

うかんむり

参参 田をサン を見まいる 参

参参

参

8 画

「ム・6画

警察・診\*察」2お 「観察・考察・ 調べて明らか 察察察察

また、目上の人に

**①** お

す

のちをう

ま 剤\*・殺った。 でなん・なって 教人・殺った とう は

警察にとどけた。 かる。「察知・明察・推察」 日本文化の特質に ▼植物の観察 ▼ひろったさい ▼敵の作戦をすばや ▼大臣が工場 ふを

よめる)て、 にすることをあらわ をする場所をすみずみまてき 知する。 家をす え)と祭(=そなえ物 した字 か りきれ

と文(=動詞の記号)を組み合わせ

とること)と木(= もとの字は「殺」。

もちあわ)

か

1)

る。また、目上の人に 参道・参と・持参え を近すを上・持参え を上・持参え る。 た。 会議に参加する。 参加・参列・参会」3くらべ合わせきないまかったかい

参考・参照」母まける。

社にお参り

参考書を買

多のもよう 三つの玉のかんざしをさり からてきた字。

\* 900-參(参

▼この暑さには参った。

## 11画 [生・6画 うまれる 带 ログサン かちる・

12画

攵・8画

ほくにょう

1

集173

产 产 产产产 産 Mうむ・うまれる・\*うぶ

かる

ちらす・ちら

か

きがザ

10画

[歹·6画

かはねへん

20のこる・のこす

井川

散

まれる。「産卵・産院・

きった 安産・出 財産・遺産」 ・産物・生産・国産」③ざいさん。った言させた。 「産地・産 出・産 りだす。「産地・産工産・産毛」をある。 · 産え のむくまま。「散歩」 る。「散在・散乱・散布・

一代で財産をきずく。

水行の土地として有名だ。

たりは米の産地として有名だ。 産に名産品を買っ ▼赤ちゃんの産毛。▼このあ

になる。

▼ぼくは毎日、

大会が

毒液を散布する。

合わせた字。 うす)と女(=動詞の記号)を組み 歩につれていく。 もとの字は「散」。 の実や皮をばらばらにするよ 皙(=あ ×

・解散」②気き 散

た、

ちらす。

● ● ちらばる。

30 残額・残金・残 1あまる。 のこ

②むごい。「残酷・無残 てきた。 食を残さず食べます。 ▼夏休みも残り ▼ わ たしは ŧ 優

い方 ▼さくらの花が散りかって、い方 ▼さくらの花が散りか

始め

2

中が散らかっている。

動物を傷つけるなんて 父は残業の時間がへった。 てきなか もとの字は「残」。 ったほねの切れはしのこと。ね)を合わせて、はもので知 て切き ったのは残念だっ て小さく はもので切りくする)と歹 残酷\*だ。

「少年」「少女」の「少」は「わかい」の意味て、「すくない」ではない。

令・上司・宮司・行司」

先に立って会をうまく

お楽しみ会の

進記し、進書し、め、会然

者

係)になった。

室

0

司して

た。

どる。

「司会·司書·司

こと。

とりはからう。

つかさ

百

めす。

中

心となっ

3画

[士・0画]

ひと。 士・博士(は、・はか)・航海士」 武士 ・兵士」2(男の) さむ

士だ。 一田さん たい 士たちの土俵入り い士気がもり上がったかもり上がった。 おじ 士と言わ いさんは、 宙飛行 役を れて を見る。 0 文だい学でる。 士に てき やる

> 書いてく りてす。

ださい

0

氏しの

功さり

をたたえる会を開きます

」とまちがえない

こと。

人。ま

また、

みょうじ。

\*うじ

4 画

[氏· 0画]

(うじ)

5画

(15)

[口·2画]

きし。

史上

中

史

史

●同じ血すじ

0

氏

氏

人と を

-

۲ ば とうしょうとして、安上・とうないというときない。 たました せんい せんい せんい せんい せんい せんい せんい せんい はんがくしょうない しょうない しょくない しょく しょくない し かれた小説。▼自分の町の際にあったこと)にもとづいま を集めた作品。 史・文学史」

史上最多

0

史実(=

昔

歴れて、一観

うや

、まう

気持ちを

表

す

大野氏

住場の日か

氏名をはっ

0

お祭ち

名」でなまえの下につ 氏族・氏神・源氏・氏

たなり \* きろ サラ 「吏\*」とにて しる

れる 0 つ とメ 当

(=手)を組 史

を調べる。 「央」や「

からてきた字。

士

まっ た木きの

す

うのか立た う

II

形结 0

C

氏

分けるさ

を

取と

しの

形か

らてきた字。

み合わせた字

ため

ばを、

よう ます。

なも

0 かい

● 反対語には、次のよけなない。 反対語には、次のませなない。 たがいに反対の意味のことば はを、反対語といいませなな。 ではない。 をはない。 をはな。 をはな。 をはな。 をはな。 をはなな。 をはな。 をはな。

味みば をも

こと

書記シ

13画

[言·6画]

ことばの

こんべん

5画

((5)

[口・2画]

百

一口

百

言

言

こころみる・ 計画 また、 やってみる。 計 計 試 試

二百

また、しけんの 三日

発き上き当き出き起き

停い下げ落を欠け終車を品が選先席を点

武・追試」、武ををは、武ををは、武ををは、武ををは、武ををきる。 ·試写会·試 0 ▼あすは野球の 何度試みても 試験 ・試着 口頭試 試合が ん試し まく

よう、 ある。 てきない 落ち着いて。 試験では、 ミスを しない

マーマーネッマートの 運え要き完か安かこ

ばを使う

行司は軍配を東に上げた。

たなり をやらせてみること。 わせた字。 せた字。人や物を使って、仕事とす。などなりと式(=ぼうを)を組み合いた。

司・試

せた字。

人が

小さなあなからのぞ

あな)を組み合わ

ことをあらわす。

たなり

DD

三

1

人)と世(=

勝ってはない。 反対に 大きない。 、 大きない。 、 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きな、 、 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。

失・焼失・過失・損失・遺失物」であ

はないきんしゃくやし

借金・借家・借地・拝いる。「借用・

借

つかわせてもら

やまち。 失以

くじり。「失火・失言・

望・失明・失

す。「失

くらしなう

5画

けいい

同心シャク

10画

[1.8画]

(にんべん

かりる

〔大・2画〕

得

267

昔

貸332

失

失

仕

借

借

借

借

四四

[几·5画]

にんにょう

児 児

の。「児童・育児・愛児・ おさな かも 日

い者。

園児・男児・女児・幼児・小児科・球

国をおさめる。 治・自治・治安・治水」で病気をなお しずめる。 100 1せいじをとる。 政治・統

満を行う。▼悪者を退治する。 治を行う。▼悪者を退治する。 す。「治療\*・全治」 国民のことを考えた政

きゅうの童話の絵本。

高校 珠児(= 高校球児(=野のため

たけ

球をする少年)。

を出

産しました。

らばせて

いる。

いる。▼母は無事、関党は無事、

女児でな

園と

りシ(=水)と台(=ハー週間で治った。 一週間で治った。 みをあらわ 作をく の流彩 れを調 わえる)を組み合わせ した字。 ことばや すると 動

だ合わさらない子どものすがたか

らできた字。

たなり

爲-兒-兒(児)

頭がまのほ

ŧ

国かジ・チ いわさめる・ なおす 8画

() さんずい

5画

おさまる・なおる

82

13画

からい

[辛・6画

\*\*

める

治治治治治

10ことば。

舌

話

辞

30 典辞 調べた。 答辞·訓辞」 いとまごい。 こと 書・祝辞・式辞・

わる。

辞意·辞職

辞じめ

7

一辞去·辞世

かれ。

首相が辞意を表 たった糸をきちんとそろえる) と辛(=罪 が悪いので、 もとの字は「辞」。 人に入れずみをするは 出場を辞退する。 会の辞をのべる。 もつ -

もの)を組み合わせた字。

シュ 14画 「禾・ 9画 のきへん





種種 種



物のたね。

ました。 運動会で、 進んで、 たやすな。 種目・人種・品種 をもく じんしゃひんしゃ種・特種」③なかま。「種類・種別だね とくだね もとになるもの。 火をおこすもとの火)を ~なしの品種改良が 畑に菜の花の 三つの種目に参加しますおいしくなっよ いしくなった。 種をまり

たちら重な・・・

ら重みをかけること)を組み末(=作物)と重(=人が上か

人が

部首「頁」は「頭部」を表し、「ひたい」を表す「題」にもついている。

失・借・種

した字。

するりとおちる)ことをあ

たなり

ねる)を組み合わせた字。

合わせた字。

イ(=人)と昔(=日数をかさ

あきらめるな。

4

Yを九一失の中

0

物が

よう。

れて失礼

をする。

借家ですが、

もう

旧用します。

▼借金の申

お言葉にあまえて、

ばらく しこみ

・ぜひあなたの助けを借りたい

図書室から本を借りる

十年住んています

「貸す」と「借りる」を区

别言

10

礼します。▼一度の失敗で 「大き」と、「ない」では、「ない、」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない、「ない」では、「ない、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない、「ない、「ない」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、いい、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、いい、

が初い

·当初·最

初上

日・初荷・

ため。

はじめて

初夏・

ゆきわたる。

至\*

い方

ある。

開

四十

周年の記念日

それは周知(=

広くし

わたっ

いること)の事

実てす。

城の周囲に、

に、水をたたえたほりばかの周りを歩く。

が

みなさんの前途\*を祝福

お

たなり

間

唐

周中海

II

田力 7

0

米がある

よう

すと

D

)を組み合わせた字。

8画 15

[口・5画

周 周

周年」2ひろく ゆきとどく。 . 円た周 口

周

周

遊

**り**ま

周知

お祝いに自転車を買ってもらった。 は、ことでは、いいには、中学校入学のでは、中学校入学のでは、中学校入学の て よ ろこぶ

ただく。 があった。 水 業式に市長さんから祝 優勝の祝賀パ 祝(祝 ます。 辞を

形)を組み合わせた字。だん)と、りない。 たなり 人が ひざまず (= 祭:

12 ュク・ わう 9画 [ネ 5画 しめすへん・

いことと ユ 初 祝

順

順

12画

[頁・3

00駅

おおがい

逆 299

ュン

3:00 応· 従 ししたがう。 延·筆 3 t おとな るばん。

らぶ た。 組み合 0 わせた字。 まての 会は雨天 年生生 わ)と頁(= に進んて のごとがう 当·不順 あたま)を 30 か は順流

を流 たち 進むことをあら るように、 わす 0

つきてない 初雪さ

ものごとのはじ 

ある家。 松・若松」 松並木

祝いごとに使われる。 れた。 庭にみごとな松の か 0 木 2 デ

見みせた字です 見えるまつ 0 葉のすきと き)と公(= 0 る からむ を 中系 組み 0 t 合きの わ を

た。

もとの字は「唉

と笑(=

細

竹

か 

らて

、きた。

ぼめてわらうとい

初・松・笑

刀(=かたな)て

きもの)

を切ることをあらわ

た字。

されて

最初に手をあ

\*

言わめをする。

初雪がふっ

た。

お正月に た。

かざら

「初」と「始」を区別すること。

たなり

すもう

0

日です

生に質問に大きな大

飛行機にのった。

→三年生

わらう・\* ショウ

えむむ

はじめ

はじ

めて・

はつ・\*う

シショ

ゥ

8 画

きへん

10画

4 画

くたけかんむり

1 4 画

をまつまつ

7 画

[7] .

かたな

5画

・\*そめる

笑 笑 笑笑

だ。 ·苦笑 

付された(= 欠点をつ せっ かれて、 笑みをう しの 笑って問題にされな くの提案を お母さんは、 思わず苦笑し る。

蓮)字のちしき

ち

「上海」は、中国の市の名で、シャンハイと読む。

仏を唱えて

とし

合唱コン

参照・対照

▼このところ日照りつ ▼夕日に山の木々が図

う

らしあわす。

合

明・日

いなうとう 2て

照

ラシショ

ゥ

きもショ

ゥ

制シンン・

ジ

7画

. 16

[臣・0画

15画

こがいい

昭

0000

「… · 9画

賞

[貝・8画

13画

・れんが

くれてる・てらす・てれる

昭

昭

照

照

1125

兴

賞

賞賞

臣

あとショ

となえる ゥ

ったう。また、人ない DFT 口日 唱

愛唱・復唱・暗唱・提唱 の先に立っ しょうか しょうわ がっしょう ていしょ うたう。 ~ています。▼学校の▼おばあさんは毎朝、 でしまう。

対」を唱える。 う)を組み合わせた字。 ロ(=く 唱てきます。 わかるよう ち)と昌(= け算の九 は ŧ 戦力に出 0 0 きり を 11

一画 口·8画 くちへん 唱唱

ある\*ショ

ゥ 12画

くらか

吐

口日

焼・夕焼け・日焼け」燃焼・全焼・延焼・ やける。「焼失・ ・全焼・延焼・類 庭てごみを焼く

また、

塘 焼 焼

く・やける ・ひへん

[火·8画

おとショウ・

12画 ゾウ • 5画] 豕 いのこ



もの 召 争 零 第 象

む、長い鼻をもの 現象・印象」がた。「気象 る。 ・対な形なり 象形」の熱帯にす 2かたど 0

た。 とい って作られた文字を、がはげしい。▼ものの 動物園で のの形をかりのの形をかり インド象を見 文字 たど

西の空が夕焼けて真っ赤てす。となりの家が全焼しました。となりの家が全焼しました。

まっ黒に日焼けする。

もとの字は「焼」。

母さんが目玉焼きを作っ

30

象げ・巨\*象」

焼きたてのパ

ンを食べ

マー第一象動物のぞう

きた字。 たなり

のぼる)を組み合わ ひと

せた字

堯(=

(=性質のちがいが非常にめだつ明るい照明。▼かれらは対照的サビューをといっているとは対照的また。▼人前に出ると照れる。▼ 半円をえが 昭 づ 品・賞金・賞替・はずまして ただい 一等賞·特賞」

きだっ はえる。

人前に出ると照れる。

品をもらう。 賞する(=見て楽しむ)。 賞しました。 尚(=「ショウ」と 「覚」とまちがえな ▼校長先生に賞 す)と貝(= >クイズを当てて

ようす)な性格だ。

照・賞・臣

光がてらすこと)と

晚一

**92** (=

て右か

ら左

を組み合わせた字。 ▼マラソンで三位に ▼マラソンで三位に お金や品物 音をあ 状をい 賞 としてとりたてられる。 からてきた字。

人。けらい。「豆」にないころ けらい。「臣下・臣 臣臣臣 臣臣 臣

は、また、

賔

賞

なんだいじん かしん じゅうしん たいさん かしん じゅうしん かしん じゅうしん をもった殿様。 大臣賞をもらう。 重臣(=重 \*作文コンク 一い役目の ンクールで文部 がらをたて





のこと

8-

臣一

日くの目のかり

「巨\*」とまちがえな

清算

けがれがない。「清いる」 ・にごりがない。

清

清清清清清清清清

書

**①**動

な

かセイ・\*ショウ

地セイ・

\*ジョウ 14画 〔青·6

あお

日本の文字

文字の知しき

わたしたちは現在、

しず・

しず

か

める

||画 [シ・

くさんずいつ

請争

動

194

8画

きよい・きょまる・きょめる

言品

疑 361

ラシン

### 9画 7画 いにんへん.

。「信用・信人 信 信 信信

条がしんじる。 信・音信・電信」 義」3たより。あいず。「信号・通ぎ信・確信・自信」②まこと。「信 ・信者・信念・信心・ 信号・

信

万▼漢字の成り

る。▼失敗は成功のもと。 ぼくは賛成です。 かためる)を組み合わせた字。 が成 もとの字は「成」。 (める)を組み合わせた字。手と丁(=うちたたいてまとめ てまとめあげること。 績がめきめき上が 就する(=かなう)。 > 落成式。 戊(= 立ちを調べ った。 おの) ■ねが

信じる。

▼ あの

の人は信用できる。

にあつい

最新の通信

~をまもり、

つとめをはたすこと)

自信をもつ。

義(=や

Z

いるてきあがる。 いなる・なす 成成成

成

かセイ・

6画 2画







• 4画

9画

(30)

1775

世七イ・ショウ

\*かえりみる・はぶく 省 省 省

省省

考える。 反省・自省・ かえって

かえりみる。 省

文部省 る。「帰省」4国の仕事をする役所らす。はぶく。「省略」3たずね ・外務省」 一〇のたず

たっを合わせた字。 むだを省く。 少(=小さく 客で道路がこんで ▼省略の多い する)と目(= 数をへらす 目を細めてじ いる

れるようになっ

にも使 っと見ることが

せててきた字。

口台

にだして

人)と言(=はっきりと

う)を組み合わ

静静 11 0 静静 まる・しず

数字(=アラビア数字)の、すがな・かたかな・ローマタ

の、五種類の、五種類

例です。これは、

すかにする。「静観·静 ・安静」20

ずかにする。 し安静 てもう 肃\*·冷静」 て波も かれ か月ぐら は から来た病気ですから、 して 度話し合おう。 かだった。と台風が去ていれば治ります。 りませずいなって、 れば治ります。 必要だ。

平安時代に、

表音文字(=でなんじなんと

発きし

音だ作る

われています。

けを表す字)で、

7.

す

すぐ。

夏は清りょう飲料水(=

らかな流れて口をす

さっぱりとする飲み物)がよく売

れる。

身の

まわりを清潔にたも

す)になることをあら あらそい かなすみきったよう )をや わした字。

3

"

15

7-

発達ったっ

た文字です

だり

清・静

シー

水)と青(=きよく

る)を合わせた字。

を清算(=かしかりを計算

作文を清書する。

0

はらい

いをす

ませること)する。

ら千六百年ぐらい前のことだという。「二字一字が意味を表す字」で、日本に伝えられたのは、今かで、日本に伝えられたのは、今かまなった。 世界でもめずらしい畑世界でもめずらしい畑世界でもめずらしい畑で生かがらしい畑で生かがらしい畑で生かがらしい畑で生かがない。 で、日本に

④ローマ字 ないないでは、これも平安時代に、これも平安時代に、これも平安時代に、

音だ

文も漢ない字で字で

すーな

0 7.

部上

「相」は、ものごとに目を向けて見ることを表した字(255ページ参照)。

ざせき。

す

わる場所

会

市

くせ出り

しゅうせき さしせき る。 「積雪・積雲・積年・る。「積雪・積雲・積年・

り集めてかさね

積

積

積

館で空席をさがす。

は

かぜの

ため

「庶」をりゃ

たもの)

(=ぬの)を組み合わせた

ぬの

ろのこ

もつ た字。

禾(=作物)と責(=

「績」とまちがえな

ては出席をとります。

▼座席の

~

12

映べめ

満た画がる

長 方形で

とをあら

わす

首席・席次」 末席・欠席」

せき。

2地位。

順位。

京のでは、

・指定席

め。

「節分・節句・季節・時節・当節」

新えきかす。「説明、 対 \* 説・ 強説 2 意見。 かにせったださいは、 かにせったださいは、 かにせったださいは、 かにせったださいは、 かにせったださいは、 がにせったださいは、 がにせったださいは、 がにせったださいは、 がにせったださい。 がは、 演説 3 ものが

2意見。

主ちょ

う。

がたり。

ちょうせつ

する。

で 度・節約・節

操。忠節」多文章

子・歌・楽ふなどの

節

心をかえな

節節

節」2きせつ

のかわり

9:0

「節穴・関節・末ったなないとなっまっ

節

F

席·積·折

席 席席

思せキ つむ・ つもる

16画 のきへん

[4・11画

しセツ

7画 [丰•4画

心おる・おり・お 7. h n

おる。 おれる

右折」②わける。 曲

半」るそのとき。「時折り スキー ●紙でつるを折る に入ると、届\* - て足を骨折 する(=

み合わせた字。 たよう \$7 す とげ(= ı 折 お つに )を組(切き木き

か

「体積・容積・面積」3かけ算の答え集積・山積」2もののかさ。広さ、集積・山積」2もののかさ。広さ、 長方形の面積を求める。 費用を毎月積み立てる。 たむ)を組み合 責 金が てる。 光は水の中 300 たなり まがる たします。 利益を折半 4/7 ▼折を見て、

る。



三百

|4画

7画

ピセツ・\*ゼイ

とく

節

[44 • 7画]

くたけかんむり

13画

もセツ・

セチ

るふし

質

首

質

節節

言語語

說說說說

\*セン あさい



浅浅

瀬\*」②量・て りあさい。「浅

色がうす どが少し

N

ない。 てわたれる。 ▼あの人 かりをする ° 浅学・浅手・浅黒 また、 この川か 父はは日 本に来て、 考えが浅はか 浅の海 は浅 顔をして まだ日が しおひ て歩 だ。

ます。 する)を組み合わせた字。 なり 美(= もとの字は「浅」。 ほこてけず ことを みす 0 水学小さい 水と

「相」は、「木」には関係なく、「目」の部にはいっている(253ページ参照)。

きはなす)を組み合わせた字。

ば)と兌(=きものを体 もとの字は「説」。

か

こと らと

節・説・浅

たちげ、大

食べようとし

てい

る

人也

た な り

たけ)と即(=

ざをま

0

٠٤.

をあら

の季節。

お金を節

った手。

雨あ

学説が

出る。

教えを説く

「設」とまちがえないこと。

調子。

くぎり

文だ節

節」の歌の

る(=

演説して回る)。

してもら

見して回る)。 > 先生にく ・政治家が全国を遊説す

兄と言い争い

先を

てみた。

\*うす暗い倉の中に \*すっら荷物を運び

び入い出たっ

倉に米を運び入

れて

V 30

船の底にある、

ŧ 0

戦争・論争・闘\*争」

争 争

庫・米倉・穀

教倉地帯・

ものをし

まっ

見っセン

さ・たたか 13画

[戈・9画] (ほこづくり)

巽 巽

巽

巽

戦・苦戦・敗戦・作戦・観戦車・戦後・戦力・戦術・戦が、世にはないでは、などは、などは、などは、などは、などは、などは、の世にいい、 「戦争・戦火・戦乱・

そう。

たたかう。

0

落選 選ばれ

ピックの代表選手。 一方を選択 入選した。 \*する。 どちらか マオリ ン

球できずる。

プロ

我いは味方

場で観戦

戦争に反対をする。 世代 せた せんた での と

をも

の勝ち戦だった。

の人や物を集めそろえる)ともとの字は「選」。巽(=多く わせた字。 動作をあらわす )を組 多的

どうぐ)とサー(=

事しりを組み合

**鄲-戰(戦)** 

單

=

ち

わせててきた字。

いえらぶ 15画 〔〕・12画〕

(しんにょう)

1010101

[…・8画]

記



選選選

るだせ

ネ

12画

くれんが

とおりて

伙

然然

1その

W きなどの マエッ 自然を大切に使い方 ▼自然を大切に使い方 ▼自然を大切に れは学者然(=学者ら 然記念物に指定されて いる。 この 鳥は天

然(= を組み合わせた字。 えあがる)と 1111 者然」

(ツ・8画



(0)

**記**\*ソ がす

ラソウ

ラシソウ

10画

[人・8画]

(ひとやね)

くら

6画

[] • 5画]

(はねぼう)

いあらそう

争争争

争

争

争

倉

倉

倉倉

鳥や虫・ 巣 巣



を卒業して、実社会に 箱・古巣・営巣・空き巣・の、す。すみか。「巣 >近ごろ空き巣ねらいが多 を作った。▼姉は大学ではめが巣を作る。▼ 実社会に巣立っ

注意してください とサー(= 木きの 果(果) (二) 上にかけられた鳥の 木)を組み合わせた の中 鳥がす る

(アクラン・マングラング 「歹(かばねへん)」は「骨」を表す(259ページ参照)。

第一争(争 からてき まん ある 中か

争・倉・巣

物を手てとりあう

しなく論争がつづ

こんだ。

四角い

いところ)を組み合き

食をりゃ

をつみ入れる倉)に、

を

る

どちらが早

宿 る。

▼ 地ヶ題だ

小屋をあらわれせて、食り (=

した字

をあらわす

てお

ぜん。「卒倒\*」

> 兄は来年、

•卒園・新卒」2とつ

おわ

30

卒

卒

卒

卒卒

3

鸦

孫孫孫

てたおれた)。

■「率」とまちがえないこと。

た。

ちに、

。▼このざいさんは、子孫の代に、初孫(譽・祭)が生まれましりをしています。▼親せきのう

倒\*した(=急に

しきがなく

守りをしています。

おばあさんが

孫の

月卒です。 卒業します。

~日射病になって本

姉は平成五年三

世中

校を

じを受け

つぐ者。 また、

「子孫・子子孫

too

まご。

血す

むすめやむすこの子ど

子どもの子ども。

7画

[木・3画]

## カソク

▼ たば 束

●ひとまとめに 中 東 東東

とめて 花束・札束」②動けなどめてしばったもの。 してしばる。 また、 また、 ま

きれいな花束をもらう。 との約束を守る。 \*するな。 東を守る。▼人の自由を東な花束をもらう。▼友だちな花束をもらう。▼友だち

を組み合わせててきた字。

ぎに

つづくことをあらわす

合わせた字。糸でつなぎ、つぎつして、方々に動かすこと)を組み

た な ち り

\*\*

ばの「一東・三東」 東 ((=たば とりきめ。「束縛\*・約で動けないようにす も)と
小(= ねるひ 木き

左

組み合わせた字。 側に、高いビルが立ちている。 いる。 にナイフをつ へ)に相談する。 側近(=身近につ この道路は、 人)と則(= るよう 工事で片がいた。 食器のそば ▼道のだんは、 ならん す)を きし

合を続行します。

なり

もとの字は「續」。

糸(=

引かと

と賣(=金や品物を取り

ヨシソク VM かわ 則 物がの ||画 [1・9画] 但 しためん (にんべん)

俱 側

くつづ アグソク

13画 (いとへん)

[糸・7画]



でい方 Vこの駅のかいば。かたわら。「側近」 は。かたわら。「側近」 2そ できる 通行だ。 する。 「側面・左側・ 月

丰

絲

続続

るの かわ

・まちがえやすい部首 などの字の部首はすぐわかなどの字の部首はすぐわかが、字によっては、どの部 が、字によっては、どの部 どの部首に入りぐわかります のもあり 6  $\sqsubseteq$ 

思えソ

田とソ

10画

(こへん)

[3.7画]

漢字の知しき

マミまご

8画

(じゅう)

[十・6画]

K

耳常日の戸と母常女が大き手で高祭口を心言との麦輩火の目的

問え名は医い物で東京売ば業等考う意い右等画が死し夏か岩が買ば ロシロシロシーなりです。オーカットは、アルシーのでは、アルシーのである。アルのである。アルのである。アルシーのである。アルシーのである。アルーのである。アルーのである。アルーのである。アルーのである。アルーのでは、アルのでは、アルーのでは、アルーのでは、アルーのでは、アルのでは、アルのでは、アルのでは、アルーのでは、アルーのでは、アルーのでは、アルーのでは、アルーのでは、アルーのでは、アルの

聞き昼事所と毎ま放き寺で来らすき高さ和も思し化か麦は炭だ相

ののの 0) 0 のの 0 0 0) 部 部 部 部部部部部 犯許

漢字のちしきの

卒・孫

た字。

上着を着て十

人ずつ

引いわせ

られる兵士をあらわす

をあらわす。

自分の子どもの子どもであるまご

ちまそい糸)を組み合わせた字。

つ)と �(=きも

の)を組み合

-+ 企-

交-

= しゅ

までのこしたい。

「残」は、刃物で切り取って残った管の小さな切ればしを表す。

どめ・ また、

包帯・眼帯」②身につける。

い帯・世帯」③あたり。

しな

達成

とげる

地帯・熱帯」

になるひとまとまり。 2ものごとのきじゅん

「単位・単な

0

て

いない

単身・単数・単線・単独」

単

単

単単

置

置

置

罟

置

置

中

田心タ

ラチ

\*チュ

ウ 6画

[1·4画

(にんべん)

いなか

13画

[四 · 8 画

(あみがしら)

おけおく

9画

(0)

[ツ・6画]

344

带带带

带带带

出

また、それににた布。いてしめる細長い布。さ、こしのあたりにま 1着物を着ると おび。 坐

り。 何人かの集ま

~楽隊が行進 曲をえんそう 隊長・隊員・隊商・楽 まとまり。 隊·横隊·兵隊·軍隊·部隊 ▼ 隊列を組んで行進する 隊列

がら通っ 救助活動。 隊をくんて飛ぶ。 て行く。 飛行機が五機

出版を使う。

う。▼重い任務を帯をしめる。▼け

UN W

>熱帯魚が泳ぐ。

のちに、 いぶた)て重い土の山をあら た)て重、とうないとって重ながた土)と家(=ふとって重なる) 人の集まりの いみになっ

み合わせた字。

たれたぬの)を組

带-

帶

をものに

通りも

見りタイ

12画 [月・9画] (こぎとへん)

四年



隊隊隊

見りタツ

建達達

達達達達

筆・発達・上達」母なし 達」のすぐれる。「達人・ 2つたえる。「伝達・通 る。「到\*達・配達・速達」 3 1とどく。

なり てす。 配達する。 上達の近道です。 ▼毎日こつこつがんばるのする。▼かれは剣\*道の達人 ▼郵便屋さんが 手紙を

鉄 一峰一達む)とし つじ

を組み合わせた字。

校は公園の南に位置してい 床の間にかざってある置物。 使い方 処置・放置・設置」 で位置・安置・配置・ ▼荷物をゆ かに置く。 置

たなり 校の中に公衆電話を設置するないできるないできませんかせるちょうないというできるといのぞく。 ぐに見る)を組み合わせた字。 かさを電車の中に置き忘れた。 一一里 世(=まっ (=あみ)と

北海道へ行っ

簡単に説明しなななんせられて

えたお店。マ父は、

使い方

▼単価の安い品物をそろ

単純·単調·簡単 語・単元」るこみ

裁さだがら。 ぎ。「仲買・仲なかいなかっ は仲のい 介\*」②人と人とのあい 介\*で車を買った。 なか。 秋・かかつ 「仲間・仲よし・ 仲

間だ。▼けんかの仲裁に入る。 は、▼けんかの仲裁に入る。 は、下では、「は、」。 がらをあらわ ウ」という 合わせて、 い友だちてす。 みんな地球 音もあらわす した字。 人と人とのあい 知り合 上さんと 動物も だ

12画 [注 • 9画] 〈しんにょう〉

裏字のちしき●● 「力」には、「つとめる、努力する」という意味がある。

単・置・仲

のような「はたき」の形からできた

をとるあみを、

まっすぐに立てて

おくことをあらわす

たなり

8

-單-單(単)

うち まる 3

て・最低・高低・低級・低調・低音・低下・低空・低気圧・

低、低、

0

また、

おとって

などが

ひ

高さ・ねだん・

## 組

[月・5画]

(かいへん)

助チョ 12画

水池・貯蓄\*」 たくわえる。た 貯貯貯貯

水池の水 る。 9 貯蔵する。 貯金通帳を母にあずかっても ▼災害にそなえて食 貯水量を定期的に調べ →日照りが続いて、 だんだんへってきた。 料を

や品物)をつめこんで、 く)に見 29 角。 おい金なわ わ

30

のカチョウ ~\*きざす・\*きざし 6画

[儿・4画] 〈にんにょう〉 JA N

りる胃に続く、

分をとるはたらきをする。 うぶだ。▼断腸の思い( ちょう だいちょう しょうちょう じゅうにしと大腸にわけられる。「ちたいちょう 院している。 大腸. 食べ物をこなし養くだのような消化 ▼ぼくは胃腸がじょ 腸の病気で入

液·胃·腸

(=はらわ

のびたはらわたをあら 月(=にく)と易(=長 る)を組み合わせた字。 わす 長糸の

ざし。「兆候・前、 こりそうな前ぶれ。 1ものごとがお き

ねがわかれててきたひびの形 い前ぶれ)だという。 - 兆円の予算を組む。 ▼茶柱が立つのは吉\*兆(=よ 北かめのこう ▼春の兆 のほ から 5

ることをあら

した字。

てきた字。

草 をする。

肥

肥

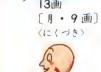
肥

腸

腸腸

チョウ 旦

13画





一人ティ くれそこ 8画 广·5画 (まだれ) 底底底 る。やめる。「停止・停止・停 声がティ とどまる。 信 日画 [1.9画] 停 (にんべん) とま 停停停

ラティ

[1.5

137

ひく

11

・ひく

める・ひくまる

低

にひそして、 でいるで、ないで、 でいるで、ないで、 でいるで、でいた。 でいた。 冷え」 水がきれいなので、 ▼海底にもぐ 底 力 ・底さ 戦・停はく・停たい・調停」

この電車は、 | 車はふみきり

次の駅で

▼近くにかみ

なった)。 底までよく見える。 る。

・食 っきする。 = 料が底をついた(= え)と氏(=つみかさ 決勝戦で底力をは なく 止した。 三分間停車します。 バス停には四、五人の人がならんなりが落ちたため、停電した。▼ バス停には四

さやき合う。

ひそひそと低い声でさ

空て飛ぶ。マチ

ームの出足は、

ち

が低い

ょっと低調だ。

型學門-

低

=

人と つみ

部分のことをあられるわせた字。建物の ねたもの 建物の の下の ほう)を組み ち ばん下で 0 を組み合わせた字。

低·底·停

あげ

た土のそこ)を組み合わせて

せの

ひく

人をあらわす。

合わせた字。人がじっとと\*(=ささって動かないくぎ)

イ(=人)と声(=高い

建物)と

「カ」は、人名て「つとむ」とも読む(261ページ参照)。

亭

生徒・信徒・徒弟制度」

なかま

步·徒競

走」②むだ。

ばる。

はげ がん

カいっぱい つとめる。

む。「努力」

使い方 学めて家の手伝

いをす

1あるく。

徒と

徒

徒徒徒徒

好女

努

努努努

徒労」の何ももたな

もらいます。

学生になっ

たら生徒手帳を

を使い分けること。

務って

8

る

マ病 がよう

院の消灯時間がせまっ

てき

をあげる。

奴(=どれい)と力(=

ちから)

ねばり強

母は昔、徒手体操の選手でむだなほねおりに終わった。

徒手体操の選手でした。

てす。

です。 マ今までの苦心は徒労(=

積極的に)努力する。
対験が上がった。▼前

▼前向きに

努める。

▼努力したか

があって

230

→みんなと仲

するように

ラテキ をまと

めあて。 白

目的でき の下につけて、 よう。「的中・的確・ 2ほかのことば 「…の もし

製的・民主的・形式的・自動的・封\*ばきてき なんしまてき けいしきてき じょうてき ほうしきてき じょうてき ほういう のいみを表す。「私的・公的・ふう」のいみを表す。「私的・公的・ 建的」 中にあた 2 た。 矢はみごとに的の 的はず ような」「・・ れな意見。

包きそく。



8画

[白・

(13)

3画]

白

的 的 曲

るシテン 曲

8画 [八·6画]

## (はち)

6画

[1・4画]

### 曲 典 典 アデン くつつた

わる・つたえる・

つたう

伝

伝

曲

曲

ったえる。

科が本に

伝導・伝来・伝統・遺伝・たわる。「伝言・伝令・

「典型」③きし

ことばの意味を、 →母は古典文学を 国語 宣伝」②い 生をつ 伝記

たえる文章。

伝えばい

伝での

いつたえ。

っまた、

手本。

30 去った。▼駅伝の

もとの字は「傳」 ラー 伝」を読んて

たなり

た字

たなり

とりだす)を組み合わせた字。

れ

たつくえをあらわす

しろ)と勺(=

部がだを

え)を組み合

わせて、

が

お

ねらい

中する。

アが ×

す)な文学少女です。

特ちょう

よく読む。

姉は典型的(=その

駅伝のランナ

アーが目の前を走りの伝言を父に伝える。

この地方に残る伝説。

して

るよう

辞典で調べる。

式典·祭典

開かがら的

▼形式的なあ

典-

典師(=字を書いた

ころがる)を組み合わせ

# 2画

のシトウ 6画 [火·

B-2

書るド

7画

(ちから)

[力・5画]

るつとめる

10画

[彳•7画]

くぎょうにんべん

ともしび。 あか

(ひへん)

りの「灯火・灯油・灯っきいりの「灯火・灯油・灯台・ 馬灯·街灯。

買いに行った。 台が見える。 マみさきの先に、 消灯 た。

「仏だんに

明

た。

「仏だんに

明

の

「いって

「いって 家々の電灯がともる 白ない

かりの つも同な 漢字のちしき

イ(=行く)と土 くことをあら し)を組み合わ した字 せ、 陸と地が大 らわす。 たな ちり カをつく を組み合わせた字。 してがんばることをあ

ことをあらわす

じところにおいておく

あ

を組み合わせた字。

ひ)と丁(=

とめてお

る

「信」には、「のびる、のはす」という意味がある。

議事堂」2りっぱ。「堂堂

このお寺には、

な建物。

祭る建物。

得·拾得·取得」②もう

りえき。「損得・得失・得策」

さとる。

わかる。「得意・会得・

るドウ 业

||画 (土。 8画〕 (つち)

るドウ

堂 堂堂堂

また、大き

堂・殿\*堂・礼拝堂・公会堂・国会

盛り・労働」 なりとう働き手・働き 仕事をする。 りは

人はとて ŧ き手が 働き者の

日本で作られた字。 ってはたらくことをあらわす。 動」は「ドウ」という音をあら み合わせた字。 ( ) と動( ) 人が うごく)を組 動きまわ

み合わせた字。

広くて高い

ほる)

と土(=つ

い台(を組)が高くた

まどから空気が高が

にたてたごてんをあらわす

とのべる。 昼を食べた。 堂がある。

業式は講堂で

不足して

30

りだ。

→社会科で、

つさを学んだ。

だ。

あの

ます

マデパー

▼自分の考えを堂々

盾 〈にんべん〉 便

はたらく

13画

[イ・11画]

かトク

10画 [# (うしへん)

• 6画



働 ξ.

と。とく

働き盛 せ 味のある話し方。 ために特別に作ったプレゼントで けてください 特急列車に乗っ かない 牛(=牛)と寺(= 特大のホ ▼この点には特に ムランを打つ。

きみの 気をつ

いる目だつい 種牛をあら ていること)を組み合 むれの中でじ

一画 [4.8画

える・\*うる (きょうにんべん失



归

HE ST · 中

毒 8画 表毒毒毒

をあっ

坴

樹

勎

執 熱

西心ネツ



15画

[…。||画

(れんが)

冷 283

毒薬・毒虫・毒

布を消毒した。 無毒·害毒·中毒 気の毒なり おこりやすい たちこめる。 ~このきのこは毒があ 夏は、 さい害にあ 有毒なガスが 熱湯をかけて って

てずに気ながにまつのが

得策だ。 > あわ

から知識を得る。

▼味方が得点をあげる。

いぶる父を説得する。

は体育と国語が得意だ。

ろって手に入れる)を組み合\*

のことをあら と母(=子どもをう 主(=草がめを出し たよう む)を組み い草

得・毒・熱

せた字。

熱湯・熱風・加熱・過熱 1温度が高い

熱を出す病気。 に熱中する。 ▼先生の話を熱心に聞く -高清熱熱為為為 か、 ぜ ~

| 執(=人がする を組み合わせた字。 は音をあらわすだけ)と なり だてるいみをもつが って植 物をそ ここて

漢字のちしき

をくばる。

念ん

(は、まなか)・博識・博物館・

7.

18

7

副のハン

DE L

9画

[飛·0画]

るめし

12画 [十·10画]

自

[食・4画]

(しょくへん)

12画

(じゅう)

博

博

博博博

ひろま

ごは

自

食

飯飯飯

専

博覧会かい

医学博士(=医学の学位を持

る人)だ。

たかし君は、

こん

ことは

夕飯までに帰ります。 朝飯前(=かんたんなこと)

(=食べ物)と反(=はらは

こと)しすぎる。

をふまず、 なる。

こん虫にく

る。

マにくわしい

うひ ひようひと ちしきを持っ

た)方だ。

お

3

>初めてご飯をたい

た。

飯をたいてお祝いした。

んな

口

.7

火して、

先生は博学な(=

広な じは って

さんをした。

使い方

四

念願・念頭・断念・

り思う。

因・勝敗・全敗」2う いかない 戦・敗軍・敗者・敗 。「失敗」 ŧ

3

梅

めの

実。 りう

紅った、

則 〈ぼくにょう〉 敗 敗

1

一画

[久·

7画

いうめ

10画 (きへん)

[木・6画]



念 念念 書き るやぶれる

4

念・専念・無念・信念・残れた せんれん せんれん せれん しんれん されん しんれん さんれん さんれん さんれん さん 念」②心にとなえる。 準備体操を入念に行う。 ころ)を組み合わせて 一心に念仏をとなえる。 たしかめる。 兄は念願が にふくむ)と心 ~家族で記念写真を ●自分の信念 念が かな 念といる 0 0 れる。 完敗だった。 てしまっ 堂々とたたかう。

た。

>試合は、

ž

だ。

雨前線が本州にいすわって、た。▼梅林に梅見に行って、 1000世に梅干しばりの中に梅干しばりの中に梅干しばりの中に梅干しばりの中に梅干しばりの中に梅干しばりの中に梅干しばりの中に梅干しばりの中に梅子しば

しがころ

入じん

、たかう。 ▼失敗は成せたから。 ▼ 失敗は成せた

梅雨前 って

0

てた

0

ームは二回戦

t

雨(はい・か)・

梅肉」でう

つめの実の

なるころ。

梅・白梅・梅酒・梅干

大学に

とる。

をつらぬく。

た字。 とをあらわす 功のもと。 (=動詞の記号)を組み合わせ具(=二つにわれたかい)と女 二つにわ れてだめになるこ

た字。

さんの実がなるう

0)

木をあらわす。

たな ちり

き

きと わせ め

つむ母親)を組み合なき)と毎(=つぎつざ

をう

中の考えをあらわ

した字

赤飯・朝飯(またまさ)」 「飯ごう・麦飯・ マキャンプで飯ごうす ん。 飯をたいた。 また、

「飛躍\*・飛び火・飛 デュー できょう ひと でいまい。 ででは、 ででと でいまい。 ででは、 ででは、 ででは、 ででいまい。 ででは、 ででは、 ででは、 でいました。 と び石 空をゆ



とぶ・とばす

マシャボン玉を飛ばす。 大空を鳥が飛 はなれたところに飛ぶ が飛 トになりたい 羅\*(=じゅ がどんどん大きく 飛行機さる。

漢字のちしき

6

7

を左右

博·飯·雅

たなり

+

める

)と専(=

らにひろがる)を組み合

#

た食べ物のことで、

ごはんをあら

るすがたからてきた字に開い

-飛

に開いて

はらばらのじょうたいににえ らになる)を組み合わせた字。

わす。

四

た字

を博す

「米山(よねやま)」の「よね」は、古い日本語で「米(こめ)」のこと。

・票決」でふだを数えることば

てんきょに使うふせんきょに使うふ

۲

西丁

標記・標

題。商

標」のめあて。

目

\* 0 12画

[貝・5画] (こがい)

11 やす・\* 0 いえる

しととツ

5画

[~:

(こころ)

一画

いかならず

間などを、 ●お金や物や時

典

曹

曹費

义

义

必

を表

しています

してい

ます。 

は、

かい

あること

水に関係がたとえば、

「泳は味を 間ま

かならず。

湖・泳・港・は

液流油等

う。「費用・国費・私費・自費・学費・ 「消費・空費・浪\*

費やして、工事は完成した。▼旅費・経費・出費」

「はなった。▼旅費・経費・出費」

「なお金と時間を 出費がかさむ。 自分のお金)て留 弗(=まとまっ に分けること) と貝 たものを左右 :: お金)

U de

電品」 で、少で、少いで、必然・必然・必要・必勝・必 男だ。 強い選手が

・す・ある。

を実践なき関ルコロン。 ・ に・ 係は・ 係は・ 完定関定板が 持じが、液・ ・ す・ あ・ あ・ カ・ ・ ないる 拾きる。

き

必要な物をそろえる。 勝をいのる。 つとはかぎらない。 送りがなに気をつけること。 ▼このままでは敗戦は必至だ。勝をいのる。▼必死にがんは 脚一川 必 かれは約束を必ず守る 必死にがんばる 必ず 神神 木のえだに キャ あて木をし

外が 清さの

してい 40

ます。

それいい

だいる」とい

し、「きよく

「セイ」

ンプに 社て必 も勝か

動かない ようすからてきた字。

える」

という意味も表す。

ン」という

う読みを表り意味もまれた。

を組み合わせた字。

ゥ 15画 [木・11画] (きへん)



4 画

(いち)

[一・3画]

BAN L

3

ゥ

あると

3

V.

見フ・

||画

(しめす)

[示・6画]

西

击

西

票票票



るし、「標札・標 標 標 標標標

の標・道・標・道・標・道・ 標」3て

ばのいみを、

うちけす

3

下につづくこと

考える。 火災予防の標語ないように。 火災予防の標語がないように。 火災予防の標語がないよばら ひまき 長は学年の標準より喜な紙に書いてはった。 ほん。 ん虫の標本をつくった。 「標準・標本」 · 交通標識を見落とさ ▼夏休みの目標を大き ぼく の身ん 語を

市長選挙の投票けたっています。

>きょうは

宅配便の伝

票に、受け

入れた。

員の選挙で

火がまれた。▼学

学

級委

る)を組み合わせた字。 木(=き)と票(= さい火のこが高 こま か あ かい 7

票・標・不

から

ひらひら

た「ふだ」をあ

す

た字。

たなり

一票

こまかい火のこが とびあがるよう

> 用·不用心」

ろいた。▼不思議な話。 予算が不足して 文通が不便な土 ます。 ٠,٢٠ 0 沙地方 7 ただと お

か 不一不 くの 形空 からてきた字。 一不 れ

たなり

「不便・不幸・不満・不運・ことは。…てない。

「自」は、人の鼻の絵からてきた字、もとの意味は「鼻」。 漢字のちしき のう

な仕事のほかにする仕事)

→おじは、

植木を育てています。

いでは賞

状のほかに、

百万円がおくられます。

会の副会長に選ばれた。

「福」とまちがえな

を組み合わせた字。

かたな)と国(=

画



## 夫 夫

する人。「また、 妻・夫婦・夫人 りおっと。 農夫・水夫・鉱夫」 ある仕事を 2おと 夫。

とってお 使い方 夫人」の伝記を読む。 外国訪問の旅に出かけた。 外国訪問の旅に出かけた。 や総理大臣がにあたる。 や総理大臣 て夫婦になる。 牛 た。 ユ

▼受付で面会を求める。▼ボあの人はとても付き合いが

付録が楽しみだ。

共同ぼ金 > ざっ

てきた字。 かんむ 「くふう」を「工夫」とも 夫大の字に立 をつけたよう る人の頭に 0 まげ 7

付着·付加·付記·付

くるつける・つ 0 5 画 ける。

[1・3画] (にんべん)



付

自己フ

8画

(まだれ)

[广・5画]

●地方公共団地方公共団

府

府

府

7

阪\*府。 体の 府議会」2役所。「政府·幕府」3人版\*府。「府立·府知事・

やこ。

「首府」

わ

(0)

でおばは

京

録」②あたえる。

果の代 に住ん 府がたんじ 東京。 もの 0 いる。 )を組み ۲ た。 全国から 合かび のい道が都

せた 1: -i) お

たなり に寄付する。 よう 3 からてきた字。 人の体)にぴたり Y ηΞ 付 をの 3 ٧ 0 ば る

賞とし ۲ 品田 のつぎ。 勝者 おも して、 絵には、 スキー いたもの。 がかせ 物を細かく

を始める)。

がえないこと 小麦粉でパンを作る いもからでん粉をとる。 場ですべった。 にとばされてまう 金粉が さらさらとし 使われて た粉雪の ぎの花 この じゃ

がすっ

なっ

らせる方法)をする。

兵火て

だく )を合 まぎれる)」とまち と分(= 小芯 核\*兵器をなく わせててきた字。

र्भार

兵(=)

手)を組み

副・粉・兵

BA

もしフク

配シフン

10画

7 画

[1.

5画

ヒョ

ゥ (はち)

[半・4画

(こめへん)

Ve こ・こな

品

[1] • 9画

(りっとう)

クイズ王決定動

||画



題の一般を割作用・副できたが、からなっているでは、からないできたができたができたができたができたができたができたが、これのに

こな。

製芸粉を

百

副

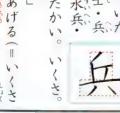
副

畐

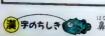
副

「副議長・副知事」

歩兵・工兵」とたたか 兵火·兵器·兵法」 く兵をあ







۲

べつする。

会を開

▼日に焼けて別人の ・ 日に焼けて別人の

事変·異変」

校する友だちの送別

大便・小便」のうじ。

手段。「便せん・郵便・航空便・宅配

べん。「便所・便通・

つの間ま

また、たよりや人・物を運ぶ

いのて、

買い物に便利です。

がとどいた。▼転流に近れてす。▼転流に近れてす。▼転流に近れてす。▼転流に近れていた。

包帯をまり

プレゼン

かこの辺は商

校した友だちから便り

がとどい

小包」は「み」を送らない

包おかあさんの

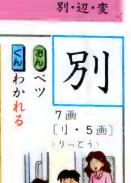
お

なか

の中に、

入品つ

病院で検便をした。



T 牙 罗 另 別別

形とへン

5画

[i.

9画

[久·6画]

(すいにょう

2 画

別居・送別・死別」②ほ れる 品

わ

かい

別名・別便・別室・別世界・別冊」のの。ちがう。「別となっていません」できる 区別・特別・識別」

境・辺地」 ・辺地」 ・辺地」 ・辺・岸辺・周辺・岸辺・周辺・岸辺・周辺・岸辺・地域・辺地 辺・底辺」でほとり。 る直

辺の町。 > 辺りを見回するとは、まちまではな道線を引ったした。 もとの字は「邊」 辺より大きい。 と人里はなれ 二辺の を組 シンか

ありません。 冊ふろく。 ように黒く

色のちが

0

たことは

いるあたり・ベ 刀刀刀刀 1図形を形

市

亦

変変

う

(しんにょう)

るとへン いかわる・

かえる

辺 迎礼 3 2ちが 化·変形·変色·変転·変動·変更\*」 3ふつうてないてきごと。「政変・ 75 で変人・変則・変死」 かわる。また、

たものにな

かえる。

み型を変えた。 変化がはげ もとの字は「變」 れる)と女(= の具合が変だ。 変わる。 0 は、気き姉常

温だはか

3 ŧ

を組み合わせた字

るよう

をあらわ

した字。

0

II

ね)をばらば

6

たな) て 男(=

かん 1: わ it t

記がか 包包包包包 くるつつむ 5画 [勺・3画 くつつみがまえ 包 ホウ・\*

8画

"

[シ・5画

ラベン・ビン

9画

[イ・7画

くにんべん

たより

便

便便

1おきて。

きま

法法法法法法

。べんり。「便利・便人」のどんりでなりない。

更

・不便・簡便」②たよ

をかこむ。「とは、まわりま・包帯・内包」 ふろしき包みをさげたおはさん。 なかから小包がとどいた。 ▼箱を包装紙で包む。 を包装する。 >よくきれる包丁 敵に包囲された。 足に り。「法律・法則・

かす。 解決の方法をさがす。 使い方 師・法事・法要・仏法」
法・加法・滅法・③ほとけの道。 の寸法をはかる。 法事で出か もとの字は「灋 国会で法案が成立し と法律にし を組み合わせた字。 動物)と去(= 水谷と

作法」2やりかた。「方法・用法・製 法規·法案·法度·憲法· ブラウス きの

人名で一~十、千、万を「かず」とも読む。それはすべて数字だから。

第字のちしき ②

便·包·法

りイ(=人)と更(=び しとまちがえな

ぴんとか

つまれるようにして赤んぼう

(Sr

はる)を組み合わせた字。

てい

る形から

0

望遠

鏡・展望」2ねが ●遠くを見る。

ねが

0

のぞみ。

望・絶望・有望・失望・待望・本望」3はずかい、きばすがはずしのはずかはずはないない。 教望・熱望・野望・欲望・熱

人気。「人望」

どんなときても、

希望をすてな て月を見る。

→望遠鏡

あがウ・\*モウ いのぞむ

亡

は

||画 • 7画 七月 (つき)

亡月 望望

あんボク \*まき

8画 [十・4画] (うしへん)

四四



ましマツ・\*

5画 〔木・ "

|画 C 3.

ショすえ 末末末末

おわり。 末・末子」るこな。「粉末」 末期・末路・結末・週末・始末・学期まってまったけっまっしまったけっまっ ばんはし。 1、先の方。 末席・末筆・ 末端

\*

牧・遊牧」2おしえみちびく。ないは、は、なず・牧草・牧草・牧畜・放がいにする。「牧場(は

1十や馬を放し

华

牧

牧牧

結ぶ。 ▼週末は家族で旅行する。

▼馬がのんびり牧草を食べている

場を見学に行い

高原の牧歌的な(=そぼく

て、

スープのもと。 ▼苦心の末、完成した。 「未」とまちがえな いこと。 ▼粉末の

\* - 来 -

0)

こずえのはしてあることをし たなり た形からてきた字。 末けて、 しるし をつ 木き

人が遠くをのぞみ見るようすから 。 > 大望(= なん 山田君は人望がある。 PD 大きなのぞみ)をい 學工-望

教会で牧師さんの話を思います。

会で牧師さんの話を聞く。

のどかな)風景をえがい

た絵。

いる。

てきた字。

ことをあらわす。

を組み合わせた字。

牛を飼う

牛(=牛)と女(=動詞の記号)

12画

[>・9画]

23

(さんずい)

出心マン

みちる・みたす

満 満 満満満

っぱい にな 満

る。みちたりる。 翻

数之方。 成年んせいなん

ケツにい 員電車に乗る。 満十五才になった。 もとの字は「滿」。 っぱい水を満たす。 ▼ 兄は、 <u>></u>(≡ きのう 水华 12 満たバ 7 転て、 た な り 式の日取りは未定です。 未来をゆめみる。

ALC:







脈

脈脈脈

ありミャク

10画

[月·6画

くにくづきり

来・未満・未然・未完成・未解決・未ない。「未開・未知・未決・未定・未ない。」 スポッペッス スポッス スポッス スポッス スポッス わすことば。まだ…し っていないことをあら

明かる 脈・水脈・文脈」3のぞみ。 ときの動き。 だ。 ● ● か流れるく 使い方 脈拍\*・動脈・静脈」2つながっ また、 血が流れる管の

をきまかくわかれて流れるよう 5月(=からだ)と派(= 脈がうねうねと続く。 が発見された。▼この商 まだ脈(=のぞみ)がある。 ▼ 脈をとる。 金の

(デタカしきです)「幸」には「(デンが)行く」という意味がある。

四

み合わせた字。

**滿**(=全体をおおうこと)を組

\*ーサイー未まだのびき

らない

木きの

す)を組み合わせた字。

らだ

中

に流れる血管をあらわす。

「末」とまちがえないこと。

事故を未然に防いだ。

▼運転士の機

未開の地を探検する

部分の形からできた字

思しユウ

9画

(ちから

[力・7画]

曲

3 画

15画

6画

[食

いさむ

7

勇

勇

気がわ

家を出た。

決

どろかせる。

があるという、

こくみん。

わ

四

年

V№\*たみ 田とハハン

F

5画 〔氏・1画〕

国民・市民・人民・農民・民主主義・マスト しみん じんなん のうなん なんしゅじ家・民族・民話・民芸品・か みんぎしゅん なんか みんざいかん 民衆・民なんの人。

その意味をうち

民間放送」 政治を行う。 からてきた字。 代議士は、 国民の代表として活を聞いた。 どれい はりて目を

に毒だよ。

マみんな無

事で ると

予約する。

▼切ぶを解約する(=

約束を守る。

切ぶを

い約をとりけす)。 >文章を要

まり無理をす

半分

関心」関心」 けて、 ②あることばの上につ

たなり その事件とは無関係です。 ほんとうによ か った。 ぼくは

約する。

約半数が反対だ。

もとの字は「約」。 と勺(=目立つように

糸(=

の形からできた字。 たもとにかざりをつけておどる人 無

げる)を組み合わせた字。

支配される人々をあらわす

のことて

無無 るととご くとな 0ない 11 12画

8画 有 207

「有無」 血 無無

無

約束・予如 たんにする。ちぢめる。 約

約・規約・条約」②かん 公言







数・要約・公約数」るむだをはぶく。 節約」母およそ。 だいたい。













思わや

7

9 画 [ 4 · 3 画 ハンといん

外 約

た字。

せぼね)を組み合わせた字。 **F8**3 --要(要)

ک 8

たなり

と食(=

羊(=

お

を読んて、

ふる

いみになっ

にあふれた足ぶみのことから、

漢字のちしきの

食べ物)を組み合わせいしいひつじのにく)

がん・勇士・勇者·勇壮· \*\* 子を助けた勇かんな人。 くじけない。「勇気・勇 **音(=足ぶみをする)とカ(=** から)を組み合わせた字。 元気があって、 いてきた。▼勇名(=勇気 ▼父にはげまされ ▼川ておぼれかけた、ひょうばん)をと 戦の朝 勇勇勇 て勇 h すて 要要 げを要求する(=強く求める)。 のがうまい)人。 と給 要。需\*要」 だ。「要求・要望・要員・所要・ 重要・主要」でもとめる。 件·要領·要約·要因· きっきつ 要領のい \*いる せつなところ)をまとめる。 要 文章の要点(=最もた い(=ものごとをさばく 9画 西 • 西 (IIL) 要要要 料の引き上 时(=両手) 必ら用き 食べ物。▼本を読温泉で養生する。 育・養護・養成・養子・養蚕・養生 あるヨウ 選手を養成する。 養分・栄養・ かにする。「 やしなう。 善 养養養養 使い方 ためのえい やしなう

「幸子」は「さちこ」だけてなく「ゆきこ」とも読む(277ページ参照)。

●動物をかう。

また、

その

よう。

休養・静養」②心を豊きのうよう せいよう こころ ゆた

力を養う。

強」

、病後なので、

栄養のある

3

·改良·優良·不良」 心。良書。良薬·善

いよい。

良

好・良質・

すぐれてい

る。

良

良

良

良良

米

· 米

料

里里

昌

量量量

あとりョウ

見りョウ

もりョウ

12画

(さと)

〔里・5画

はかる

10画

(とます)

[斗・6画

7画

[艮•|画

くこんづくり

くれよい

だちだ。

来たね。

水であらってきれ

米(=こめ)と斗(=

米をは

か

合わせて、

こく

こと。

**※**(=:

重をりゃ

るます)を組み合わせた字。

ることをあらわした字。

からてきた字。

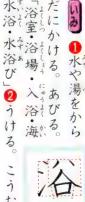
四

あるヨク Mあびる·あびせる 10画 [シ・7画] さんずい

浴浴

「浴室・浴場・入浴・海いよくしつよくしょうにゅうよくかい だにかける。 りかりかけるから あびる。



























たつ。また、 利・利発・利口」**2**役に り、はかきれる。「鋭\* 頭がきれる。 **①**するどい つごうがよ

















地球の上て、

件

陸

な

上陸・着





# (りっとう)

ありク

日画

[月·8画]

こぎとへん

7画

[川・5画]

番をリ

\*きく





N



0

用・利害・権利・便利」るもうけっ えき。「利益・利息・利子・有利」の 発な(=かしこい)子 利 所。おか。「陸におおわれて 校て陸上部に入っ 陸。離\*陸」 (=陸にあげられる)。 ·陸路·陸橋·大陸·

▼さんまが陸あげされる

て

います。

陸橋をわたる。 陸しそうだ。 ド(=おか)と奉(=土 もり上がって、 発行機が無事は 別に 広が 2 一が高く 7

ら非難を浴びた。

みんなか

だトラックが走る。

~よく気の利 砂利を積ん

勝利をおさめる。

浴びて、

ひまわりがさきほこって

海水浴に行く。

浴時間がきめられて

いる。

に日を

ども。

図書館をよく利用する。

ヤワー

を浴びる。

臨海学校で

たくみに動く。

「左利き」

かたの

使い方

た なり ようす)を組み合わせた字。

3

たなり 切ることをあらわした字。禾(=いね)を「(=はもの はもの)て

ぼみ)を組み合わせた字。

シ(=水)と谷(=

水の出る

▼この辺りの海では、良 ▼ぼくたちは仲の良」 体調はいたって良好 にするよう ねやむぎ 7 ぶを、 を 「科」とまちがえない

てす。

良して特許を取る。

是一是一良

V

のこんぶがとれる。

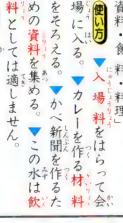


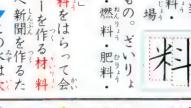


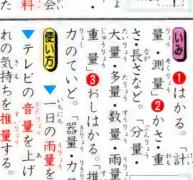




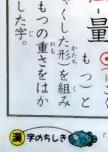












「親」には「近い」という意味があり、人名で「ちか」と読むこともある。

いること。「冷笑・冷いること。また、

0

1ひえる。

15画

車

(くるまへん)

8画

### くかわ おんりり 車

車輪·五輪·年輪」②物 1車のわ。また、 をしたもの。 車

のまわり。 くる。 えることば。 輪唱・輪作・輪読」 4花を数にす の輪を

類」③か

が三輪車で遊

ざしに 大根を輪切り 輸」とまちがえな るま)と命(= ならぶ)から てきた。 rþ

組み合

倫

輪

思えル

18画

[頁・9画] (おおがい)





あシレイ

5画

[人・3画]



米大 类 る。「類 對 類類

語・類人猿\*」2なかま 似·類型·類推·類句·類 種類·親類·人類·鳥類· 衣類・分

包きまり。

U

今

・命令・指令・辞令

令」3あることばの上

をまぬがれた。 親類の かわる。「類焼 必要な書類をととの 類を見ない不思議なで 人が集まる。 之

令息」はよい

3

意味を表

す 1=

こと 0 ばな

は

きごと。

3

することをあらわす。 の代表)と頁(=あ たくさんのも 表)と犬(= たま)を 当多 多 0 令れる 嬢 け た ち り

もとの字は「類

A したがう。 はお元気ですか。 食 大声 て号 令 ひざまず 令をか  $\triangle$ ご今

息子さん) つめる)とと(=

を組み合わせた字。 の下にあ

くにんべん 原原 あレキ

14画

くとまる

[止・10画

8画

[1.6画

何 何 例例

Va つめたい・ひえる・ひや・ひや

7画

にすい

す・ひやかす・さめる・さます

くれたとえる のシレイ

冷冷冷

多

麻

**胚胚胚** 

外・例題・前例・用例」②ふだんのだれた、でない。「例文・例ってき ににたことがら。 いる

1あるものごと たと

いつもの。 に答えなさい 例えば、 例会·例年 あまり こんなとき、 例文を読ん 前例のな

ならべ 同じような人や きみならどうする。 ならべる)を組み合わせた字。 きりさ 0

冷·例·歷

こおり)と令(=清く

水を飲む

なっ

なに冷や

冷

合きない。

1=

る。

お湯を冷ます。

お湯を冷ます。▼外のけさはひどく冷えこん

たなり

みきる

を組み合わせた字。

ることをあら

わす

入れることをあら

た字。

経歴・職歴」ではっきり歴任・歴戦・学歴・来歴・ すごす。 戦の(= しょうこがある。 歴然 0000とおりすぎる 歴」2はっきり 歷史·歷代

いの経験を積んだ)勇士 歴史の本を読む。

足で歩 ね)と上(= ▼歴然とした(=はっきりとした) 一个是(歴) 足)を組み合わせて、 作物をつぎつぎと取 =

漢字のちしきのか

「正」の部首の「止」は、足の形をえがいた字。

てい

3

たなり

第一五

つえをつく形からてきた字。

しをま

7

田とし

10画

[注·7画] (しんにょう)

屯車車 ~ つらなる・つらねる・つれる 連連連連

٦,

1なら

つれ。なかま。「連行・連中・連は、連想・連絡」②つれていく。また、連想・連絡」②つれていく。また、なんだ、れんだ、なんなが、また、なんだ、 度をこす暑さだ。▼今度の連休のきを連ねている。▼連日三十つのきを連ねている。▼連日三十でいる。▼連日三十でいる。▼通りにそって商店が には、家族で旅行します。 車(=くるま)とし(=すすむ) マ遠くに高いたかかったかかっ

必

下が 次のものがあります。 達」の 初上

でまち 产产若希 がえやす 演作

わすれることが多いので注意しま「残」「義」「幾」「械」の右側は「残」「議」、「機」「械」の右側はいかいます。 「録」の右側は「緑」の右側と同いように注意しましょう。 字体で気をつけておく 「水」とならないように。 の左側は「キ」(ころもへん)。 ソ义义必 「幸」は「幸」 漢かり ららな 1= は

りとかまる。 「間(周囲)」と「週」、「令(命令)」と「別」と「例(例文)」、「付(付近)」と「別」と「別」、「付(付近)」と「所(京都府)」など、にた漢字「所(京都府)」など、にた漢字「所(京都府)」など、にた漢字「所(京都府)」など、にた漢字「所(京都府)」など、にた漢字「の使い方に注意しましょう。 広さなどをはかること」、「量」は広さなどをはかること」、「訓」は「長さ・を数えること」、「訓」は「長さ・ないかと考えること」、「計」は「物のないがと考えている。 います。 かに、「計・図・測」があります。 は「週末・年末」のように、 「量」の訓は、「はか-る」です。 て量る。 「未」は「未り りょうをはかること」の い」という意味、「末」は「未来」のように、 は、 7

を組み合わせて、 つらなっ むことをあらわす。 半が何台も

若378

(ちから)

かロク

16画 [金·8画

くかねへん.

### 老人・老体・老年・老の あるロウ 老老老老老 いおいる・\*ふける ( \* 「労働・労力・労役・苦はたらく。つとめる。 田心ロウ 労労労 1ほねをおって 7画 [力· 5画 労

後・老眼」2古くなる。 老練・老

「老化」3経験を積む。 使い方 老巧

老化した建物をとりこわした。老後(=年を取ってから)の生活。 老練な(=経験を積んでなれて バスで、老人に席をゆずった。 老年よりがこ させた。 使い方 ねぎらう。

ちもとの字は「勞」。 ちから)を組み合わせた字。 はげしくもやすこと)とカ(= 火を

> 0 たう

つわの

面をけ

す

労・勤労・功労」のかれる。 また、 かたもの。「録音・録 画・記録・登録・収録・目録・付録 いる書きしるす。

町内会の慰\*労会(=ほねおり ですないかいい うりいてたおれた。 ねぎらう。「慰\*労」 ねぎらう会)があった。 ▼苦労して研究を完成 る)を組み合わせた字。

労労労 銀銀銀銀銀銀銀

議事録」 ちもとの字は「録」。金(=銅)と 泉(=ものの外がわをはぎと

7

0

文字をかくことをあらわす

沖縄の方言では西を「いり」という。「西表島」という島がある。

# 五年生の漢字学習法

年の新出漢字百八十五字を少しずつで正しく使えるようにすること、五 を読むこと、一~四年の漢字を文中 にも気をつけるようにします。 書くときは、送りがなや仮名づかくようにすることがめあてです。 年生では、 一~五年で習う漢字

0 ましょう。 う名前のつい 右側の「リ」は、「りっとう」と り」とよばれます。 「りっとう」のつく漢字を集めて 漢字の左側 は「へん」、 ているつくりです。 例えば、「別」 右側は「つ

ン」という音読みを表し、「刀で版木だぎえてみましょう。「刊」は「干」が「カ ります。それぞれの漢字の意味を考 [刊·判·制·則·別」 などがあ

> 刊・月刊・週刊・朝刊」。版する意味で使われます。一版する意味で使われます。一をほる」という意味から、 たようかん 一刊行・新われます。「刊行・新かんごう しん

決・判定・判明」。 はく」などの意味で使われます。「判 はく」などの意味で使われます。「判 にとから、「区別する・見分ける・さ 音を表し、「刀で半分にする」という 「判」は「半」が「ハン」と

使われます。「制作・制止・制度」。さえる・とり決める」などの意味で 011 ら「決まり」の意味で使われます。みをつけてものさしにしたところか 整えるという意味から、「つくる・お た木を表し、それを刀で切 「規則・校則・原則・法則・反則」。 意味として使われ うことから、「わかれる・はなれる」 「則」は、 「制」は左側の「ま」が · 送別」。 別は、 骨を刀で切り分けると 昔、木や竹に刀できざ ます。 り、形を えだの出

> きるでしょう。 その意味をおおよそ考えることがで 年生で「劇・創・刻・割」などの「り 意味を理解することができます。六 っとう」のつく漢字を学習しますが 知ることで、その漢字のできかたや このように 「りっとう」の意味を

ク」という音が共通しています。そいます。そして、この二つには「フ とを知っておきましょ 音を表す部分をもったものもあるこ があります。このように、漢字には れは右側の「复」が音を表すからで また、 また、「職・織・識」という、 部分をもち、似た音をもった字 「復·複」 0) 右側 は 共通して



# 五年生で習う字

接326 状321 在312 効307 句302 可 293 銅336 圧 288 報346 質317 財 312 基 298 仮 293 移 288 群 302 326 罪312 領351 豊 346 徳336 退 331 舌327 耕308 経303 寄298 因 288 舎 317 価 293 規298 貧342 貸332 絶327 織322 雑313 潔303 河 294 防346 独337 謝 水 289 鉱 308 貿347 態 332 銭 職 323 授 318 構 308 件 303 技 299 過294 布342 酸 313 学 289 任 337 燃 337 券304 義 299 寸 332 祖328 修 318 興 309 賀294 制 賛 313 323 289 易290 富343 能338 性 323 述 318 支別 逆 299 快 295 素 328 講 309 険304 333 夢 348 志 益 290 破 338 築333 政324 混 309 検304 久 300 343 迷348 復343 犯 338 張 造 329 準 319 勢 324 枝 314 限 305 格 295 查 310 旧 300 290 像329 複34 提334 判 序320 師315 再 310 現 305 居300 演 339 324 296 291 版 程334 製 325 資315 災310 减306 14 応 291 境 301 適335 承320 妻引 飼315 故 刊 296 340 306 291 肥 示 316 採 桜 292 責 325 敵 証 個 均 345 340 330 321 保345 属 330 思292 統 335 績326 条321 似 316 際 311 護 禁302 慣297

留351

り坂です。

使い方 水い間の苦労が、水続・永世・永住、ないは、ないまない。

ようや

とまるところ。また、

とまる。「兵

いっまでもつづ

.

倒\*的

ラルアツ 圧

5画 [土・2画 (つち)

圧

り坂です。▼父は血圧が高いのを気い。▼低気圧が近づいて、天候は下低いのでは、ないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、

庭に移植した。▼時代の推移(= つりかわり)を見守る。

縮した空気をボンベにつめる。 ねのけて、みごと圧勝した。 ねのけて、みごと圧勝した。▼圧にしている。▼決勝戦の重圧をは

もとの字は「壓」。駅(=上か らかぶせて外へ出られないよ

たなり

つの「うつる」を使いわけること。 ずれて動くことをあらわす。 風にふかれてなびくことから、 たち組み合わせた字。

せた字。土をかぶせて出られないよ

うにする)と土(=つち)を組み合わ

うにおさえつけることをあらわす。

かうつる・うつす 不不

一画 [月・6画]

(のきへん)

 $\overline{\mathbf{H}}$ 















6画





2ときがたつ。 移動·移転·移住 ·移植 り場所をかえる。 推扶 杉 移移 7

原因・勝因・敗因・起因」

因ん果が

りものごとのおこ

因

因

因

でい方 ▼事件との因素関係を明られている。 「因習」

因為習

かにする。▼事故の原因を調べる。

る」「写真に写る」というように、 多ち「場所を移る」「湖に山が

う。 | 医習(=

昔からのならわし)

にとらわれず、新しいやり方で行う。

「困」とまちがえないこと。

ある。▼不注意に因る事故をなくそ

勝因は、

チームワークの良さに

た人が里帰りした。マ松の木をうら

禾(=作物)と多(=おおい)を いねのほが

なり

手足をひろげてのっていること。 地となるものがあるということ。 ふとんをしいて、その上に人がいるだんをしいて、その上に人が □(=ふとん)と大(=手足を

おんエイ 12画 9画 111 .



いるながい

永永永永

おんエイ

5画

[7K .

みず

画



営林・経営」2軍隊などの

な場を経営したい。▼この店は日本な場を経営したい。▼この店は日本では、▼しょうらい、北海道ではです。▼は、「は、どうらい」とは、「は、いっちょう」とは、「は、いっちょう」とは、「は、いっちょう」という 営·野営 おばは、駅前て

なった建物)を組み合わせた字。 あらわす「熒」のりゃく)と呂(=つら 野営(=夜、野山でねること)する。♥メメ゙、゚ーセ゚。゚。▽ジ、゚ートをはって、ルに泳ぎにいく。▼テントをはって、 曜日も営業している。▼市営プー いまつてまわりをとりまい もとの字は「營」。然(=ほの おがまわりをとりまくことを

きのきほんとなるハつ

ている、

文字を書くと

の字にすべてふくまれる

に永住することになった。

~むくわれた。▼おじ一家はカナダ

水字八法=「永」

の書き方。⇒四三○ペー

計

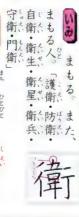
訓

小水





偉 律 衛



くに衛生に注意しましょう。▼月はに立ち上がった。▼つゆどきは、としましょう。▼町の人々は、自衛のため 地球の衛星(=わく星のまわりをま 守衛さんが工場内を見まわってい っている星)である。 ▼夜間は、

学者-震-衛(衛

なり

わせた字。 いるようすと、 一のしるしの場所を、足でまわって 行(=行く)を組み合

永・営・衛

てもずっと長く続いていくようすを 水の流れがえだわかれして、どこま

あらわした字

を演じた。 たむける。

の実演を見た。マ開演は夕方六

ピアノを演奏する。

▼ 手打

ちそば

す。▼本番を前に、予行演習をし

難

日•

りたやす 日夕 易 てが 易

易易

交易」③うらない「易者・易学」 わる。とりかえる。「貿易・ るだ。「容易・安易」②か 另

に易者(=うらないをする人)が出て年々のびている。▼いつも同じ場所には解けない。▼わが国の貿易額は、には解けない。▼わが国の貿易額は、 場」や「陽」の右がわは「易」

た な ちり 易」てはない =もよう)を組み合わせた字。 の一の一男 **७** (= ₹ もり)とり

益

ましエキ・\*ヤク



おかエキ

||画 [> 8画

・さんすい



無益・公益」2もうけ。と 1000ためになる 益益益益益益益 益

液

話を聞いた。▼利益の一部を寄付益を見むいる。》先生から有益なお をする。、鳥には、 他い方 マ世の中の益になる研会、「利益・損益・純益・収益」 つばめのような

合わせた字。水があふれるようす。横にしたもの)と瓜(=さら)を組み を

▼バザーの収益は十万円にのぼ する。

・無益なあらそいはやめよう 、ボザーの又盛は十万円にのぼっ、仏さまの御利益がありますように 血液・胃液・注射液」 好きだ。▼母が乳液をつけている。 虫やくわがた虫は、くぬぎの樹液が や腸液を消化液という ▼かぶと で 世ーターを洗った。▼金属にも、水 使い方 ・液体の洗さいを使って、 みになって使われることは。 参考「液体」は、「気体・固体」と組 わたしの血液型はA型です。▼胃液 銀のように液状のものがある。

合わせててきた字。水が 同じものがあること)を組みシ(=水)と夜(=間かくをおいて 一定の間かり

水があふれるようす。

## ●はたらきかけに 応応応応応

おかエン

4画

さんすい

7画 心・3画

わしい。「応分・相応」 応答・応戦・応急・応接 ムを応えんす ▼ むず

と読む。 る。▼お客さんに応対する、 かしい応用問題を解く ● 「反応」「順応」などは、「ノウ」 使い方、味方のチ

を演じた。 ▼体そうのみごとな演技 たむける。 ▼ げきて、おひめ様の役 たむける。 ▼ げきて、おひめ様の役 ないにやってみる。 「演習」

劇・演芸・演出・実演・上演・公演」3

「演技・演奏・演れ

1のべる。「演説・

演演演演

1 もかオウ

< 10

るとオウ

それに心をつけて、 に鳥をだくことをあらわす、應は、 組み合わせてできた確は、 心て受けとめるいみをあらわす。 もとの字は「應」。广(=おお い)とイ(=人)と隹(=鳥)を 人がむね

演·応·往

ひきのばすことをあらわす

のびることから、

びる)を組み合わせた字。シ(=水)と寅(=まっすぐ

長気の

し「往時・往年」3とき まちがいは往々にしてある。 後した。▼この通りは、車の往来が後した。▼この通りは、車の往来が後した。▼この通りは、車の往来が どき、たまに 使い方と自転車で、 「住」「注」とにている 往往往 公園と家を往 往往

天(=大きく) を大として どん前へ進むことをあらわす イ(=行く)を組み合わせた字どん 一大ながる)とも(三足)と

性不可能

桜

因

因

因

恩恩

ます。

によって、

形が変わるものがありには、漢字の中の位置

漢字の中なか

の位置

桜・葉桜・観桜。 横色・桜前線・山桜・夜 桜前線・山桜・夜 桜前線・山桜・夜 便い方▼校庭の桜が満開になった。

恩愛・恩給・恩恵\*・報の人・恩師・恩情・恩義・思ないないない。 ないまんない はんきい かくみ。なさけ、 恩・大恩・謝恩会」

ないように。▼命を助けられたつる (他い方) ▼人から受けた思をわすれ のじょはわたしの命の恩人です。 が恩返しに来る民話を読んだ。

を組み合わせた字。 「思」とまちがえないこと。

なり

もとの字は「櫻」。木(=き)と 嬰(=女が首にさげる貝のか

とりまくという

花が木全体

が見える。

(=桜の花を楽しむ会)が開かれた。

うになった。▼母は桜もちが好きて の桜の花を入れた飲み物)をごちそ

>山のあちらこちらに、

であるらこちらに、山桜会があちらこちらに、山桜会があちらこちらに、山桜会が

親せきの結婚式で、桜湯(=塩づけ

たあり 因(=めぐむ)と心(=こころ) がたい気持ちをあらわす。 人から受

をとりまいてさく む)を組み合わせた字。

木のこと。

因 あしオン

10画 [心・6画] 1:7

五





部首の中には、かかかなかる部首

字の知

因

人(ひとやね)

イ(にんべん) 人(ひと)

りりつとう 刀(かたな) ::

かか 水 1

十(りっしんべん)情

~ (したごころ)

火 

肉(にく) … (れんが・れっ

月(にくづき)

.

にんへん

②てきる。「可能・可燃「可決・可否・認可・許可」がないとみとめる。

可

可

可

仮仮

仮説·仮名」2にせ。いつせ。かり。「仮設・仮定・ わり。「仮病・仮装・仮面」仮説・仮名」とにせ。いつ 

校を休んだ。▼運動会の仮装行列する。▼かれは、仮稿をつかって学する。▼のれは、仮稿をつかって学難訓練をする。▼仮説を立てて実験を記憶を た。 ないでは、 ないであれる。 と、どのくらいかかるの?▼授 に参加する。 校を休んだ。」運動会の仮装行 使い方▼仮に、歩いて行くとする 業

をう

された。▼実現の可能性につい

7

考えてみよう。

D

可

一(=つかえてお

れまがったかぎ)

0

転車で通学することをようやく許可かくやってみるべきだ。▼兄は、自

~そのことの可否は別として、とも

便い方 V国会で法案が可決された。

合わせててきた字。 うわべをとりつくろうようすを 叚(=おおいをかぶる)を組み もとの字は「假」。 おめんをかぶっ 1 人)と

可•仮•価

かみとめるという

いみになった。

どになにかがつかえることをあらわ と (=ロ)を組み合わせた字。

いろいろあったすえに、

どうに

D

5画

あんカ・\*ケ

6画

にん・ん

4画

かりかり

\*あたい

[口・2画

否404

8 画 [1.6画



2 ねうち 「価値・真価・ 有価・代価・高価」 評価・声価」 乳製品は栄養価が高い の品物を定価の三割引きて売る。 ▼物価が上昇\*する。▼売れ残り ▼この作品は、 この本は、 使い方▼商品の価格が安定する。 けた。 一度は読むに価します ▼チーズや牛 乳などのは、海外からも高い評価

み合わせた字。 おおいかくす)とり(=お金)を組 智順-價(価) んをあらわす。 商人がつけたねだ 7 (三人) と (=

河(=天の川)が美しく

かがやく

おおわれたグリ が発達している。

-ンランド島。 \*銀 大部分が水河に

月が過ぎた。

3あやまち。「過失・大過」

電車は今、

湖のほとりを通過し

295

さんずい

河河河河河

一口。

きる。

河・氷河・銀河・河原」川・河口・山河・大きなかわ「河東」がある。

われている。▼河口に大きな港へかさまざまな川)の改修工事が い方▼あちらこちらて、河川(=

黄河のことをあらわす。 角にまがって流れるかわのいみで、 たち なり っと大きな場合に使う 「河(かわ)」は、「川」よりも 形にまがる)を組み合わせた字。 河河 れ)と (=かぎ )(=水のなが

り返さないように。

局(=自由に動く

関節の形と

を過信してはいけない。▼過ちをく て健康をそこなう。▼自分の実力 ています。▼過度の運動は、かえっ

V心 すぎる・すごす

12画 [i\_ • 9画

つ・\*あ

周

賀

どをこす。「過度・過熱・過激・過敏\*過・経過」②ふつうのてい

いるよろこびの気持ち

使い方。あれから、もう五年の年 使い方 ▼元日の朝、謹\*賀新年・祝賀会」 正・賀状・参賀・年賀状・

しんで新しい年をいるとは、つつ 賀新年」とは、 がは楽しい マ「謹\*

年賀状を読む

年の祝賀会が開かれず、▼市制三十 周 おけまして会かでとう

たなり 金や品物)を組み合わせた字。加(=上にのせる)と貝(=お

物をおくっていわうこと。 おくり物を高くつみ上げることから、

過過過過過過過 やまち 10日を過去・通

きた字。 たなり 通ることをあらわす。 1(=進む)を組み合わせてて ゆとりがあ ってらくらくと

あんカイ・\*ゲ くんとく・とかす・とける 13画 [角·6画 つの・ん

あんカク・\*コウ

10画

6画

角角角角解解

快快快

マルこころよい こころよい

あかカイ

7画

[十·4画

111

る。「解禁・解消・解決・解放・解毒というのぞく。自由にす る。「解体・解散・分解」② 1000はらばらにす 角架

また、

答之

手でうつ、「格闘\*」 本格的 3形

本格的。多形「格好・体格・骨格」金ど「資格・格調・人格・品格・価格・

格・格式」②地位てい

さだめ。「規格・合

格

いきのきまり。

きそ

格

格格

放する。▼むずかしい問題を解く。 つりが解禁になった。▼人じちを解る。▼くつのひもが解けた。▼あゆ 使い方 ▼自転車を分解して修理す 解説・解答・理解・誤解・正解 3わかるようにする 答えは解答用紙に書きなさい。

▼格好のいい人。▼格闘\*の末、章を書く。▼すなおな性格のような書を書く。▼すなおな性格のような書

格式を重んじる。▼格調の高い 便い方 >入学試験に合格し

気が快方に向かう。▼快速電車が通 を○点におさえて快勝した。▼病 を○点におさえて快勝した。▼病 を○点におさえて快勝した。▼病 を○点におさえて快勝した。▼病 を○点におされて快勝した。▼病 を○点におされて快勝した。▼病 を○点におされて快勝した。▼病 を○点におされて快勝した。▼病

それはとんてもない誤解です。 わけることをあらわす。 、牛の角や体をはらばらに切り(=かたな)を組み合わせた字(=つの)と牛(=うし)と刀

ことから、

気持ちのよいことをあら

わすようになった。

たち合わせててきた字。心を開くなり、十(=心)と夬(=関く)を組み

快な足どりで競技場に帰ってきた。過した。マラソンランナーが、お

もかが くか

12画 [其• 5 画



カロ

こがいい

かえてとまる)を つかえになって、

物の進行をとめるぼうをあらわす。組み合わせた字。つかえになって足がかたい石につかえてとまる。

等的一个

\*(=木) とかり

人をつかまえた

の。「額ぶち」

使い方・ハンカチで額のあせをふ

幹事・幹線」

集まって会議をひらく。▼母は、部(=中心になってはたらく人)が便い方▼太い木の幹。▼会社の幹

ところ。中心。「幹部・

幹

り木の太いところ。

草草幹幹幹

15画

[后・10画

確

確

字

しっかりしている。 確実。確定・確信・ たし

はっきりしている。

▼あすの十時、確 確認・確立・確率・正確・明確 指示を出す。 いそうだ。 ▼あしたは、雨のふる確率が高いますの十時、確実におとどけしま 方してれは確かな情報ですか。 かれは、 意味を確かめる。 つねに的確な

寄付します。

します。▼かかった費用は、全人した金額ではありませんが、

▼ かかった費用は、

観お支払\*いします、▼絵を観ぶちに

へれてかざる。

■「顔」とまちがえないこと。

客(=かたいものに当たっ

とまる)と頁(=あたま)を組客(=かたいものに当たって

たなり ていることをあらわす。 関係がない)を組み合わせてできた いう音をあらわし、 石のようにかたくてはっきり 「カク」と いみとは

たなり

いかひたい もとガク

おおがい

18画

[頁 • 9画

五

年



か。「金額・多額・残額・ ●ひたい。おてこ。 金銭のた 額

Ŧ

総額」る絵や写真を入れてかけるも

もカカン

5画 • 3画



使い方 マ子ども向けの雑誌が創刊された。▼雑誌の増刊号を買いに行く、▼新刊の本(=新しく出版された本)を買ってもらった。▼父が夕た本)を買ってもらった。▼父が夕た本)を買ってもらった。▼父が夕た本)を買ってもらった。▼父が夕た本)を買ってもらった。▼父が夕た本)を買ってもらった。▼父が夕た本)を買ってもらった。▼父が夕た本)を買ってもらった。▼ 週木曜日に発売される。

たなり ことをあらわした字。 に書いた字を小刀でけずってなおす くるいみになった。 干(=おの)とリ(=かたな)を 組み合わせて、 竹や木のふだ のちに本をつ

たいのことをあらわす。

たくてこつんとものを受けとめるひ

み合わせた字。

頭のうち、

とくにか

|4画 [小・1]画



あしガン・\*ゲン

||画

目

くめへん

6画

V≥\*まなこ

眼眼眼

眼

眼

眼

田心カン ~~なれる。ならす 何世世 慣

もとカン

13画

[千・10画

るみき

習慣」 し。「慣習・慣例・慣行・なれないない。「慣用・不慣れ」②ならわ いるのなれる。ならす。



事なのてつかれた。▼その土地の慣ら足を慣らしておく。▼不慣れな仕ら足を慣らしておく。▼不慣れな仕りに備えて、日ごろか 使い方 教の慣例(=ならわし)にしたがっ 習にしたがう。▼式は、 らう習慣がついている。 われた。 →というに備えて、日ごろかというになった情えて、日ごろか マ家に帰ったら手をあ キリスト

なり して、 を、どこまでも、 組み合わせた字。 1 なれること。 なんどもやりとお 一つのこと

幹・慣・眼

た字。高くのびた太いみきのことを

乾\*」の字とまちがえないこと。 「ほす・かわく」のいみをも

0

1 (=太いぼう)を組み合わせか(=強いがる)と

新幹線に乗って旅行する。

どこも混んている。

内会の旅行の幹事をひきうけた。

あらわす。

眼眼目 帯・肉眼・開眼・眼鏡」2 ものごとを見分ける力 眼力・心眼」3だいじなところ 目め

眼

では、マするどい眼力を持つって)探す。マするどい眼力を持つって)探す。マするどい眼力を持つない。 こと。 な海が広がっている。 便い方 ▼眼下(=目の下)にまっ ▼落とし たた青

い骨のあなにはまっている目のこと 動かない)を組み合わせた字。 B → 限 (= 国) と 日の (=あなにはまって

「夜の水」を何という?

答え破れる。

特技」②武道の、

一定の

義・講義」③血のつながりのない❷わけ。いみ。「意義・定 ̄ ̄ ̄ ̄ ̄

逆風・逆転

あべこべ。

逆行

をこぐ。▼兄は、逆立ちがとてもう便い方▼流れに逆らって、ボート逆 磨・逆 事」

いみ。「意義・定

「技能・技術・演技・競技・

技

義務・義理・正義・忠義」

義

する。「反逆」②さかさ

逆

■さからう。反対 はただい

いるのうてまえ。わざ。

技技技技

義義義義義義

治 治 治 逆 逆

逆逆

使い方

が必要です。

する。 球技大会に出場してする。 製で、先生が演技のてする。 大生が演技の

するもの。「義足・義眼」

義兄・義母」4ほんもののかわりに

便い方・国民としての義務をはた

まい。マねこが、

毛を逆立てておこ

くつを逆さ

っている。▼あわてて、

ました。▼競技場へサッカーを見に

▼わたしの特技はピアノです

体みを有意義にすごそう ▼姉いせつに思う心)の強い人だ。 いせつに思う心)の強い人だ。▼夏っす。▼山田くんは正義感(三正義をた

▼姉さん

のうらの逆転ホー

にはいた

▼九 回

~得意の技をかける。

指導をする。

おかぎ

7画

[ 丰 · 4 画

Va \*わざ

< ku

おかぎ

田心ギャク

くかさからう

13画 [羊・

ひつし

7画

FEE

9画にたい

順

248

に持つようす)を組み合わせててき

手先でするこまかい細工のこ

とをあらわす。

8画

V和\*もと・\*もとい 11画 土・つち

i) 某 基 基 基 基 基 基

基礎\*・基因・基準」 「基本・基金・基地・基点・だい。また、もとづく。 使い方
▼なにごとも基本が大切だ。 もと、おこり、ど もとづく。 基

因するものが多い でく小説。▼事故は、不注意に基のきょりを測る。▼実際の事件に基のきょりを測る。▼実際の事件に基本を表して、大阪\*まで 「基ずく」と書かないこと。

舎)があったそうです。

のいみをあらわす。 組み合わせててきた字。 組み合わせてできた字。四角い土台(=四角いみ〈穀物をふるう農具〉)を サー製工 - 基は(=?ま) 범

墓」と形がにているので気をつける。

あかき

8画

||画 | 一・8画 | うかんむり

と よる・よせる

寄

規

キ

相

相

規

おきて。

早

いるのきまり、

「寄稿\*」4たちよる。「寄港 る。「寄付・寄進」るおくりとどける。 たえて使い方をまかせ 寄生・寄宿」2あ

かることをあらわす。 大事にしよう。 わせた字。たよりとする家によりか たり よる、よりすがる)を組み合いて、まり、「奇\*」とまちがえないこと。

● **①**たよる。よりか

かる。

の駅まで送って行く。▼お年寄りを 金を寄付するとお客様を最寄り 寄宿舎(=自宅の遠い生徒が住む宿 使い方
・おじいさんが学生のころ、 ためたお 大規模な開発が行われている。とおされている。と海をうめたてで をつけている。▽事故で、交通が規チームの規律がくずれないように気チームの規律がくずれないように気 でい方 ▼夏休みには、 シパス。「定規」 法規·正規·規格品」2コ 規則・規約・規律・規準・

規則正し

~海をうめたてて、

たなり て、円をえがくことをあらわす。なぼう二本を組み合わせたコンパス みる)を組み合わせた字。 角定規で図形をかく 大の一見 木(=まっすぐ まっすぐ

## 市寄寄寄 寄寄寄

出かき

11画 4 画





勝ちした。さよなら む)を組み合わせた字。反対の方向は、 かさまにした形)とえ(=進

「枝」とまちがえないこと。 等技事(=事)と支 たちり のおむこさんは、ぼくの義兄だ。

~ (=形のよいひつじ)と (=や

第一樣一義一義

となやりかたをあらわした字。 りににた武器)を組み合わせ、

に進むことをあらわす。

漢字クイス

王様が見た字とは?

はさんに出会った。▼地球で入しい。▼きのう、久しい

久しぶりにお

2以前の状態「復旧」

上から

久に戦いがなくなるように

▼試合は持久戦(=長時間持ちんに戦いがなくなるようにいの

でい方 >かれから連らく

がとだえ

おかキュウ・\*ク ひきしい 久久

3画 2画 0

持久戦・耐\*久力」

シキュウ

5画

+

日

五

新135

居居居居居居居

いる おんき

り長い年月がたっ

古。

聞・旧道・旧家・新旧・旧知・旧友」 らの「旧式・旧態・旧 ている 古い むかしか

新旧の交代がはげしい。▼かれと 新旧の交代がはげしい。▼かれと 道を歩いた。▼スポーツの世界では、 道を歩いた。▼スポーツの世界では、 通になっていた鉄道が復旧した。 りまるのあとが発見された。 新りまるのあとが発見された。 本語のよい部屋。 文は会社が遠いため、家族と別居している。 マ大 世め、家族と別居している。 マ大 世のよい部屋。 マ父は会社が遠いため、家族と別居している。 マナ はいられない。 本語によっている。 マナ はいられない。 マ 現場に居合わせた に居た。 残る」ですむ。 同居・別居・居住・住居・転居・新居、なる」②すむ。すまい。 居間・居留守・居場所・居いる。すわる。

▼気になって居ても立って ▼休日で父は一日じゅう家

居が完成した。

とすえる)を組み合 尸(=しり)と古(=しっかり 落ち着くこ わせた字。

とをあらわす。 台の上にしりをのせて、

### いみをあらわす 久まがつ

想を必ず実現したい

(=せなかの

たち

毛の多い鳥)と臼(=「キュウ」

頭が

なり

世界の平和という久遠(=永遠)の理せのでえる戦い)に持ちこまれた こたえる戦い)に持ちこまれた

たなり し)を合わせててきた字。 そのせなかをひっぱるしる た人と

> きた字で、鳥の名をあらわす。 という音をもつ)を組み合わせてて

のち

に、この字をかりて「ふるい」「ひさ

いしの

いみにあてた。

## 言品

[言·4画

こん・トん

きかキョ シーゆるす 一画





三 許許許許許

免\*許」 す。「許可・許容・特許・ 許

る。マ母は、 やった。 とった。 た。▼もれた放射能は、許容量をからスポーツ大会の練習に集まっ だち。
・先生の許可を得て、 ▼心を許し合った本当の友 弟のいたずらを許して ●動車の運転免\*許をといるである。 朝皇く

たなり ね)を組み合わせててきた字。 すこと。 のずれやくいちが 動かして、もちなどをつ ってもゆる 上下に くき つけること)を組み合わせた字。

のひとふしを歌ってくぎりを 土(=つち)と竟(=人が音楽 「鏡」とまちがえないこと。

五

許・境・均



きョウ・\*ケイ 14画 [」・||画 つちへん



7 画 [ + •

(つちへん)

4 画

のシキン



境境境

いたさかい

身の上)にもめげない、強い心を持つ、 き地の中)をそうじする。 >辺境の 参考 「ケイ」の音は「境内」だけ。 ▼逆境(=思うようにならず、苦しい けがきがある。▼神社の境内(=し 使い方となりの家との境に、 都から遠くはなれたところ)。 生



第三人で均等に分ける。▼均整のとべて百円均一です。▼ケーキを兄べて百円均一です。▼ケーキを兄 じ。「均一(说·說)·均等」 いる。「均整・平均・均衡を 2ととのう。 ■ひとしい。 おな つりあって

と)をたもつ。 均衡\*(=つりあいがとれてい 六十五点でした。▼輸出と輸入のでします。では、▼国語のテストの平均点はれた体。▼国語のテストの平均点は るこ

を与り 土をならして全体にいきわたらせるうにいきとどく)を組み合わせた字。 ことをあらわす。 お(=全体に同じよ

8画 [尸·5画

しかはね

禁固・監\*禁」

句を数えることは。く。「句集・句会」

使い方・句読点を正しく打

つ。

句・慣用句」②俳句のこと

また、俳に

の「群臣・群雄\*」

使い方

はちが花のまわ

りに群れ

句・文句・上の句・下の

句点。対

をしてはだめてすよ。
・悪いことを 深にする。マそんな不潔な手て食事 が証明された、」身のまわりを清

あやまった。

◇必要なことがらを、

数を調べたら、今週だけて十件をといかふえてきた。▼交通事故の件と

したと思ったので、

みんなに深く

間潔にメモする。

「食べる」「のむ」などの意味を

こえていた

経営・経済・経費・神経」るいとなむ。

ったていと。たてのす 経過·経由·経路·経験」

りすぎる。とおる。

経

潔・純潔・不潔」②あっさ

深白・清さ

ことがらを数えること ことがら、また、

事件。条件。案件。

1けがれがなく、

潔潔潔潔潔

件件

4

りしている。いさぎよい

簡潔

人件費・件数

使い方 | 身の潔白(=正しいこと)

経経経経

### 田心キン

13画 〔示・8画 しめす

林

● 0やめさせる。さ

句・禁漁・禁煙・解禁。②とじこめるめてあること。「禁止・禁む・禁む・禁む・禁む・禁む・禁む・禁む・禁む・禁む・禁む・

(=林)をめぐらして、自由に出入り祭だん)のある場所のまわりに、\*\* たなり てきないことをあらわした字。 紫-紫-紫 神をまつ った不(= \*\*

くぎりのことばをあらわす (=ことは)を組み合わせた字。 たなり

(6)

ると

句

摩-草-群君

くまとめる)

まる

(=小さくかこむしるし)と▶

と羊(=ひつじ)を組み合わせた字。

むれを

ひと

つくることをあらわす ひつじがまるくまとまって、

おかケイ・

\*キョウ

国とケツ

せんケン

6画

[1·4画

にんへん

€

15画

[シ・12画

さんずい

くん\*いさぎよい

一画

〔糸・5画いとへん

くんへる

▼この列車には、禁煙\*席がもうけまいので、自動車に近く\*\*

う。▼三月三日は桃\*の節句だ。▼すを上の句、つぎの七七を下の句といたさい。▼短歌では、初めの五七五ださい。▼短歌では、初めの五七五ださい。▼短歌では、初めの五七五ださい。▼短歌では、初めの五七五

はらしい景色を見て一句うかんだ。

文句があるなら、はっきり言ってく

地にやってきた。▼たんぽぽの花が ている。マ今年もがんの群れが、ぬま

初めの五七五

を禁じます、

を禁じます。 この道路ははばがせ便い方 マこの場所に立ち入ること

てはいけないこと)だ。

禁禁禁 どの一くぎり、 おかりつ ●詩・歌・文章な

5画

□ . 2 画

五



句句句句句

口

#

尹

おんググン

13画 [羊・ 7画

11-,

Va むれる·むれ・

君 郡

集・一群・大群」②多くむれ、「群衆・群島・群 群衆 群島 群

## 群群

# ・ 件で、参考書を借りた。▼人件 ・ はなる。▼五日以内に返すというを伝える。▼五日以内に返すというを伝える。▼五日以内に返すというを伝える。▼五日以内に返すという。

料な

費(=やとった人にしはらう給き

経·潔·件

糸をはった形)を組み合わせた字。 のわくから下の台へまっすぐにたて

れを水であらいきよめること。

い)を組み合わせた字。

が

せててきた字。

物やことがらの

をあらわす

たち (=それをひく人)を組み合わなり 牛(=物を代表する牛)とイ

たなり

と平(=ぬのをおるとき、 もとの字は「經」。糸(=

(=水)と繋(=けがれがなもつ、「突\*」とまちがえないこと。

経をあげてもらった。

形や証書。「株券・証券」

使い方・コンサ

マ定期券で電車通学する

券を

一約する。

券·特急券·回数券。2手

いるのうだ。

きついい。

为 类

極限。権限

った。

う体力の限界だ。▼本は期限の体力の限りをつくして戦う。
▼カの限りをつくして戦う。
「なり」ではない。
「ない。
「ない。
「ない。」
「ないい。」
「ないい。」
「ないい。」
「ないいい。」
「ないいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい

あらわす。

さかい目に目じるしたわせた字。土をもりな

土をもりあげて、土地の

たち目じるしをつける)を組み合うり、降(=もりあげた土)と良(=

て達している。 がっている。

つかれが極限にま

田ピケン いけわ

川画

8画

12画 [木・8画

・きへん

000

しい

しい。「険悪・危険・保険」
路」②あぶない。むずか りけわしい、「険 险 険険

> 8 まかケン

枱

検検

針・検礼・検討・点検・探検」

険悪なふんいきになった。▼子ども らのぼる。「母はいつになく、険してい方」をしい山道をあえぎなが ▼なんとなく のあります。▼めがねを買う前に、い方」▼きょう、午後から身体検

の危険を感じて、安全な場所にひなだけて山に登るのは危険です。マ身だけで山に登るのは危険です。マ身に んした。▼おばは保険会社につとめ 身。

情をしている。

る前に、 もうー くつを探検する。 検眼してもらった。 査があります。

度検討してみよう。

出かけ

~この計画は、

火の元を点検する。▼どう

会社につとめている。▼百万円で会社につとめている。▼おじは証券

▼バスの回数券を買う。▼映画の前

株券を手に入れる。

巻」とまちがえないこと。

ています。

「険」「験」とまちがえないこと **8.**-檢(検)

1

木

めること)を組み合わせた字。 と 会別 (=

とをあらわす さんの木のふだを集めてしらべるこ たくさんの人や物をひきしめてまと

ことをあらわす。 たちと食(=多くのものをつないなり もとりごし ト 合わせた字。 ててっぺんに集めたようす)を組み 山の頂

ふだに小 と ( =

刀てきざみ目をつけ、

たなり

一卷 光 ( ) 景

いたてのひ

刀)を組み合わせた字。木の人に、一分ら)とパ(=両手)

木の ひも

をまいて保存する手形をあらわす。

のかゲン 一画



わす。 る。「現象・現像・実現・ 現現 また、 ●すがたをあら あらわれ 現現 見

限

くれかぎる

限

限

限限

おとゲン

9画

[1 · 6画

・こぎとへん

こる。▼理想と現実はなかなか一致\* 姿を現した。▼ふしぎな現象が起って現れた。▼選手たちが会場に ▼現金で五万円寄付する。

す」のように、使いわけること。 著す」のように、使いわけること。 がはっきり見えること。 組み合わせた字。目の前に形生(三玉)と、見(三みえる)を 「姿を現す」「言い表す」「本を

五

しきし…短歌・はいっま

の、

むかっ

て右側

上手

かみて…川上

上の

舞ぶたい

ること。

色紙

いろがみ…いろいる いろがみ…いろいろな色にサインなどを書く厚紙。サインなどを書く厚紙。しきし…短歌・俳句・絵・まなが

1=

ぶんべつ…種類によって ふんべつ…よしあ けること わけること。 その能力。 しを見分

分別

ことばの知識

・読みかたで意味が変わる熟語 ・読みかたで意味が変わる熟語 たで、意味がちがうことばです。 たで、意味がちがうことばです。 たで、意味がちがうことばです。 風車 かざぐるま…風で回すおもかせまか わて… 動力にするもの。 ・人より すぐ れ 7 UN

身・愛護・保護・看護・救まもり。「護衛・護送・護・

特効薬」
対別・有効・無効・時効・

め。「効果・効能・効力・

はど、りがする。▼この殺果をあげる。▼この殺果がはずいではらいたに効く薬▼~子(使い方)▼はらいたに効く薬▼~子

虫ざいの効力は、

か月続く。

\_

まもる。

また、

言言言言言言言言言

文を交

グ

六父

ざん「減法」

使い方 ▼川の護岸工事が始まりま護・弁護・加護・養護」

す。▼自然を保護し、

す。 自然を保護し、緑を守ろう。

へる・へらす

る「減少・減退・減税・

減収・半減・増減」②ひき 成

量を減らしている。▼暑さて、 ・ もういい加減にあきらめよう んばろうという意欲が減退する。

と成(=ほこをあらわす「戌」と口を をへらすことをあらわした字。 組み合わせて、おどして口をふさぐ いみをもつ)て、 读-减-减 水源をふさぎ、 水学》

12画 〔シ・**9**画 さんすい

**波滅滅滅滅** 

100 1むかしからの

故故故故

ないことがら「故障・事故」もわけ 「故人」③わざと「故意」④ふつうて 国の人の名などの上にふるい「故郷・故事・故 つけて、死んだことを表すことは、

のめいふくをいのる。 理由。…のため。 のいみをあらわすようになった。 注意しよう、▼若さ故、失敗も多い ちに「ことさらに」や「ふるい」「もと」 たり 記号)を組み合わせた字。かなり 古(=かたい)と女(=動詞の たまって、はっきりきまること。の 便い方 文の故郷に行る。 女人 ▼交通事故に ▼故意に(=

部之口 **V加**\*ゆえ 9 画

「女・5画」はくにょう



故 故故

10画

1=1, -h



あるコ VA

個個

個人の意見 古。

使い方くれぞれが、

故

という意味の「戸別」とまちがえないという意味の「戸別」を「一けん一けんの家」といいいの個数を数える こと。 ▼あの人の服装はなかなか個性的だに(=一人一人別々に)面接します。 を主張してまとまらない。▼個別 個別

は「コ」という音もあらわす。 た ち り った、 み合わせた字。一つ一つになイ(=人)と固(=かたい)を組 イ(=人)と固(= かたいものをあらわす。

9画 [广·7画 がんたれ



あとコウ

8画

[力・6画

ちから

くんきく

ニュロ

こんへん

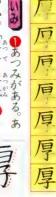
20画 [言・13画

おとゴ





厅厅厅 同 厚



い。「厚手・厚紙」②ま 厚

はだしい「厚顔・重厚」 使い方、厚みのある板を切る。 厚意・厚情・温厚」のていどがはな こころがこもっている。 •

手厚いかん護 ▼ご厚意に感謝寒いからといって厚着をしない ~ご厚意に感謝し

す。

・かれは温厚な人がらだ 「あつい」を使い分けること。 たもの)を組み合わせた字。土があ (=「高」のもとの字をさかさまにし 厚一厚一厚 「厚い」「暑い」「熱い」の三つの けと

■ 李クイス ● 貝の代わりに書いた字は?

護・効・厚

助け守ることをあらわす。外からと

たなり

からつつ

むように持つ)を組

からとりまいて、

ことをあらわす

つくつもったがけのことをあらわす

よい結果が出るようにつとめる

(=ちから)を組み合わせた字交(=結果を出すこと)と力

言(=ことは)と隻(=手で外

兄は、

ています

▼兄は、弁護士をめざしてがんばっまず、けが人の教護がいちばんだ。

大変さがわかりました。▼何よりも

のきっぷは三日間有効だ(=使える) もっと仕事の効率を高めよう

▼あの事件は、すてに時効になった

郊きとまちがえないこと

院して初めて、看護師さんの

のないないない。これでは、これでは、これが持うん機に乗っている。

**V**: 姓

▼苦心のすえ、大きな鉱脈をほり

ある。

野菜の種をまきました。▼お百

うらの畑を耕

の辺りは山が多く、

耕地が少ない。

あてた。

参考 読みが同じて、

309

でいたがです。「耕作・耕す。たがです。「耕作・耕作・耕作・耕・休・耕」

10画

金

もとコウ K

13画 かねへん

• 5画

五

金属などをふくん 金 釛 鉱鉱

もかコウ

14画

[木・10画

~ かまえる・かまう

村村

構

構

構構

鉱

▼昔、大きな鉱山があった町 ▼ はままれる 標本が くる。 構造·構成·構想·機構 いるの組み立てる。つ また、

らだの準備。「構内・門構え・心構の っぱな門構えの家。マバットを構え え・身構え」る世話をしたり、 文章の構成をくふうする。 たりする。かまう。 使い方▼地しんに強い構造のビル。

1)

たなり 組み立てることをあらわす ようす)を組み合わせ、 ちらに同じ形に組み合わせて立てた マどうぞお構いなく 一株 (=木を、むこうとこ

鉱脈・金鉱・採鉱・炭鉱」ている石。「鉱物・鉱石・でいる石。「鉱物・鉱石・

ほり出すあな)。 金や銅をふく ばら同とふくんている、黄色に黄(=きいろ)を組み合わせた

たち井(=四角のわく)を組み合わなり。未(=生をたがやす、すき)と

いる田)に花を作る。 =いねを作るのを、 て農耕に適しています。▼休

いちじやめて

わたしの住んでいる地方は、温暖

光る石をあらわす たち 黄(=きいろ)を組み合める

おこして、

たて横のく

ことをあらわす。

せててきた字。すきて田や畑

をほり

16画 〔臼・10画



コウ・キョウ **▼**おこる・\*おこす 與與風風風風與與

いるのさかんにする。さ 興業 與

行・興亡・興奮・興隆\*・ 興

▼何にても興味をしめす人。 そわれた町が、ようやく復興した。 てねつけなかった。▼大地しんにお使い方▼遠足の前の夜は、興奮し おもむき。「興味・余興・興さめ」復興・再興・振\*興・2おもしろみ。

起こす」。「興す」は、 ものを起き上がらせる。「子どもを かんにする。「国を興す」。 き「起こす」は、じっとしていた と同(= 本の手でかつぐ) ょ)を組み合わせた字 ものごとをさ

輿·講·混

E D

17画 [言・10画

あるコウ



をする。 りときあかす。話 言言言言言言語講 講演 講義 講 TIL 冓

が開かれた。▼一国を代表して講習会な講堂ができた。▼料理の講習会 て講義をしている。▼学校にりっぱを聞く。▼おじは、週に三回、大学を聞く。▼おじは、週に三回、大学 「講和」3集まり。団体。 和会議にのぞむ。 「えびす講

る)を組み合わせた字。両方がわか(=木を上下に同じ形に組み合わせ り合うように話し合うこと。 「構」とまちがえないこと。 禁-講(講) 以(=) 06年 は)と 禁件

ぜて一

つにする。「交ぜる」は、

混

もシコン ||画 [ > . くさんずい

くれまじる・まざる・まぜる 混 8画 混混混混

混入・混血・混声・混乱・ まじる。 ませる 記

混雜·混線·混合」 のことを言われ、 しいハーモニー。▼同時にいくつも ▼混声合唱(=男女で行う合唱)の美 を混ぜ合わせて、五目ずしを作った。 野球大会に出た。 使い方 ▼大人に混じって、町内の 多考「混ぜる」は、 頭が混乱した。 ~ごはんにすと具 ちがうものをま

はなく、 を組み合わせた字。 つかを組み合わせる。 て区別がなくなることをあらわす シ(=水)と昆(= いろいろなものが入りまじ 水だけて

,牛の角に刀でほりこんだ字は何という字?

調べてきめる)。マ事故の原因をく 使い方 一税金の額を査定する(=

して、安全をたしかめる。▼審\*査わしく調査する。▼水道の水を検査

の結果、

わたしの作文はコンクール

パトロールしている。

になります。

場付近を、巡\*査(=けいさつ官) へ選しました。▼事件のあった

杏香香香

はかサイ・サ > ふたたび 山耳西西再再

6画

どうがまえ

田とサイ

\*わざわい

もういちど。かさ

建・再考・再生・再発・再れて。「再会・再開・再 注意された。▼再来年は、中学生る。▼火のあつかいについて、再三る。▼火のあつかいについて、再三 度·再出発·再興·再三再四」 があがったので、試合が再開された。 ▼十年ぶりに再会しました。▼雨の世い方 ▼春が再びめぐってきた。

字。 たなり とをあらわす。 もの)の一方に「一」を加えててきた 同じものごとがもう一つあるこ 一再 第(=木を、前

ことをあらわす。

して調べるいみになった。

ことをあらわす。のちに、さぐり出っるかさねて、通行のじゃまをする

る)を組み合わせた字。 木(=き)と且(=つみかさね

木き

査・探査・考査・審本査」 調べて明らかに

查

いか

木门

いる不幸なてきごと。

せき)と火(=火)を組み合わせた字。 とになるということ)。 、生活のじゃまをするものごとを生活を生活をはばむ大火のいみかい。

5 あらわす。

Ŧ

7画

3画

**% %** 

555 555

災災災

震\*災」 (=うっかり話したことが災難のも もいいように準備しておこう。▼と使い方▼いつどんな災害にあって

14画 [『・11画

8画 〔女・5画 夫272

おかサイ くんつま

のとサイ

一画

[ \* •

8画

くかとる

妻妻妻 事 妻妻妻

妻・夫妻・先妻・後妻・愛妻家・良妻 ま。「妻子・妻帯者・人 男女のうち、女の人。つ 男女のうち、女の人。つ けっこんしている

野北母!

おじは、妻子とはなれて、単身アメ母を会社の人にしょうかいした。▼他い方。「妻の久子です」と、父が他の方。 元気にイギリスへ旅立っていった。リカに住んている。▼山田夫妻は、

2えらんてとりあげる。「採決・採用 る、「採取・採集・採血・採光」る。とる。とりあつめ いる・自指先でつまみと

をうまでもることとと 事をすることとと かれは愛妻家といわれている。 仕事をする「撮\*る」は、写真をとる は、手てとる。「執\*る」は、筆を持って て採決に入ります。マテストの採点。 採集をした >意見も出つく 捕\*る」は動物などをつかまえる 参考「採る」は、選んてとる「取る」 使い方 ときのこを採る と植物

をすべ米 → (=手)と♥※ (=手の先で芽を - 探- 探(採)

なり

p(=かべ)と祭(= わせる)を組み合わ

妻・採・際

わせて、

家の中の仕事をする女をあ

らわした字。

・(=かんざしをつけた女)を組み合

採採採採採

くん きわ あかサイ

際際際

はて。「際限・窓際」②ま 際

採

している人を母にしょうかいした。 続いている。▼勝負は、土俵際でのことを言わう。▼会議が際限なく おり。はあい。「実際・間際」 しわる。「交際・国際」3 使い方くこの際、思いきって本当

この夏、となりの市で国際会議が ~これは実

せた字。

かべとかべがすれあうほど、

いていることをあらわす。

開かれることになった。

際にあった話です。

**キクイス** 林の下に崇してあったのは何という字?

み合わせた字。

った衣服をあらわす。

合わせた字。ぼろぎれを集めてつて衣服)となれ(=あつめる)を組

のかわった

たなり

3画

### きんザイ

### 6画 (土。

在在在在在 くれある

Ħ

月

則則則

罪罪

罪

罪罪

罪罪

きまりにそむくこ

罪

使い方・財宝の在りかをさがし求 健在・現在」とふるさと。 いなか。「在所・近在」 在宅・在学・存在・不在・ **のいる。ある。** 

ご在宅ですか。▼現在、在校生の数いとこをたずねた。 ▼お母さまは める。▼アメリカに在住している

1

田心ザイ・\*サイ

おかザイ

くんつみ

つち

具

10画

財布」 けつぐ。 ▼目もくらむような財産でう

貝 本

につとめる。 ▼文化財の保護をうっ 私財をなげうって、青少年の育成 できない。▼ 罪·重罪 罪・無罪・謝罪・有罪・功と。悪い行い。「罪人・犯法と、悪い行い。「罪人・犯法となった。」

せめても

■「罰\*」とまちがえないこと。申し上げます。 罪悪を告白する。 ます。▼これまでにおかした数々のその役はぼくがひきうけることにし ように努力する。▼裁判で無罪にな罪悪を告白する。▼裁判で無罪がなくなる の罪ほろぼし(=罪のつぐない)に、 使い方~罪をおかす。 ▼つつしんてみなさまに謝罪

は七百人です。

近郷近在(=にぎ

やかな所の近くの村里)。

たえる。

は、大」と使いわけること。

参考 にている字に「左」「存」などが

たなり ちり 悪いこと)を組み合わせた字。 れている法のあみ)と、 - (=世の中にはりめぐ

ある。 たち なり 組み合わせた字。めにつくったせき)と土(= Y 杜 一在大(三川の流 れをとめるた つ ち)を

おかかか

をう り 員(=お金)と才(=ほどよく

や品物のことをあらわす。

## おんザツ・ゾウ [隹・6画 いふるとり

|4画

いりまじって 雜雜雜

る。また、 いる。いりまじってい

雑草・雑木林・混雑・乱雑・複雑」②て 「雑貨・雑誌・雑音・雑用・雑念・雑談・きちんとしていない。 いねいてない。ざつ。「粗\*雑」

313

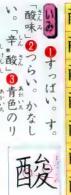
たづけた。▼雑な仕事ぶりだ。だちと雑談した。▼乱雑なへやをか 物をする。 いる。 使い方 び所の雑貨屋さんで買い |雑一雑(雑)や(= ▼ラジオに雑食が入る。▼友える。▼この雑誌を毎月とって











マス試験紙を赤色にかえるせい

酸素のりゃく。「酸化」 は注意が必要だ。▼金属が酸化する ことをさびるという。 いめにあう)。マ塩酸のあつかいに ▼世の辛\*酸をなめる(=つらく苦し 使い方くこのみかんは酸っぱい。

るすっぱい液体のこと。 わらかくして、すらりとした体にす み合わせた字。きんにくやほねをや たち たすがた)と酉(=さけ)を組むり 変(=すらりとした人が立っ 変(=すらりとした人が立っ

五

• 8画



[貝

こかいい







たすける。

▼教会から美しい賛美歌が聞こえかれの糸しって、 これが ひという をあげてください。 てきた。マこの案に賛成の人は、 かれの絵は、 に、賞賛の拍\*手がおくられた。▼他い方▼よし子さんのピアノ演奏 賛成・賛意・賛助・賛同・賛否」 みんなから絶賛された

神にそなえる品物)を組み合わせたたった。を二つと貝(=手に持った、なりもとの字は、賛」。先(=足先) 字まつりなどの儀\*式のときに、 ら助けることをあらわす 一心になってすすめる人をわきか もとの字は「賛」。

罪

13画

あみがしら

日とシシ くんささえる

[支・0画



## 支支支支

気管支」るはらう。 援\*」でもとから分かれ 持·支柱·支点·支配·支 る。「支流・支店・支社・支線・支部・ いるりしささえる。「支 しはらう。「支

月は支出の多い月だ。▼しゅみは勉 でえる。銀行の支店ができた。

今 強に支障のないていどにする になった。 ~わかいなえ木に支柱を

わせて、 すをあらわした字。 ちついー 生一支 竹のえだと 手に一本のえだをもつよう













## こころざす・こころ

BE

あることをしよう

また、その心

のぞみ、 と思う。

志・大志・有志・同志・遺志」 にはげんている。 使い方・兄は医者を志 「志望・志願・意 ▼大きな: して勉強 志をた

気をつけること。 た」などの例のように、 かれは意志の強い人だ。 「志をつぐ」「学問に志し 送りがなに

のさししめすものということから、 こころざしのいみとなった。 なり ころ)を組み合わせた字。心 士(=さししめす)と心(=こ

也也也也也也也

豆・枝葉・小枝・下枝」② もとから分かれたもの。

を集めてたき火をした。▼話が枝道 かある。▼枝葉末節(=本質的でな をつまみにビールを飲む。▼かれ枝 をつまみにビールを飲む。▼かれ枝 をつまみにビールを飲む。▼かれ枝 枝道

てる。マ志望する学校に合格した

▼初志(=最初の志)をつらぬく

を大く、大(=細い竹のえだを 技」とまちがえないこと

にそれた(=本すじからはずれた)

ことをあらわす 木のみきから分かれ出た細いえだの 手に持つようす)を組み合わせた字

## 7画 心:3画









支

り草木のえだ。「枝 枝枝

BA 10画 [中・ 7 画 1111



台 台 師

第·師匠 \* 教師·恩師· 先生。「師事·師 人を教えみちび 節

人。「医師・技師」 しています。

「恩師の教えを胸にき 便い方 ▼おはは、中学校の教師を 「医師·技師」

して、母は美容師として、ともにい ざみこむ そがしくはたらいています。 ▼わたしの父は調理師と

のちに、人々を集めて教える人のい人々を集めた大きな団体をあらわするとなる。 たなり みになった 師・師旨(=すみずみ

師・資・飼









省

个

~ 資資

100 1あることをする 資

品物。もとて、資本・資本・資本・資 資」2生まれつきのからだや能力。 「資質」③地位。身分。「資格」 金·資源·資産·資材·資料·学資·物 方 ▼資金を調達する ▼研究

豊かな資質にめぐまれる。▼いとこ 被\*災地に救援\*物資が送られる。 ちまったとそろえる が看護師の資格をとった。 に必要な資料を集める。 マ全国から、

生になって、

飼育係にえらばれた。

と日に(=お金や品物)を組み合わせ や品物をあらわす。 た字。役立てるためにそろえたお金

あんシシ



• 5 画



くんかう

動物などをやし かう 館

いたの飼い葉・かし飼い上・飼い葉・物し飼い上・飼い えさを食べている。 ▼馬が飼い業おけに首をつっこんで、 っている。 ないそだてる 使い方 ▼飼い主に忠実な犬。 妹は、金魚を三びき飼 ▼わたしは五年

をやることです ▼ぼくの仕事は、牛に飼料(=えさ) 第一詞 館)金(三食 べ物)と、

わせててきた字。 いみはあらわさない)を組み合 りけがない。「質素・質実」4といたき。「性質・気質・素質・本質」3かざ

だす。「質問」う約束を守るしるしと

してあずける人や物。「質屋・人質」

内容。

質量・物質」2な ●もののなかみ。

かみのようす。

生まれつ

Valunt あんジ・\*シ

5 画 [示・0画 しめす

822 \* いにる

7画 〔イ・5画〕 にんへん

五



田心シキ

識

19画 ( =

•12画 こんへん



示示示示示 人に見せる。また、

会場に展示した。▼わかりやす 訓示·示唆\*」 図示する。▼博物館の入り口に、 してみせた。▼でき上がった作品を

服がよく似合う。

祭だんに神の心がしめされることか だってくる祭だんの形からてきた字 「しめす」のいみとなった。 

内の見取り図が表示してある。 表示・指示・暗示・内示・公示・告示・ わして見せる。「展示・ かくれたものを外にあら 員の指示にしたがって行動する。

似た品)に注意してください

をう 組み合わせた字。人がさいくなり イ(=人)と以(=工作する)を 物と同じものをつくることから、 をして、物の形をととのえることを 練習問題と酷\*似した(=たい 「にせる」「にる」のいみとなった。 あらわす。 よく似た)問題が試験に出た。 うまくさいくをして、

相似・近似・類似」 いるにている。「似顔 似 似

いる 語語

●ものごとを見分

識

語

諳

者どうして気が合います。▼母は和人を見かけた。▼ぼくと兄は、似た

使い方 く 父によく

~のが得意です。▼類似の品(=よ ▼姉は似顔絵をか やまるのが常識(=ふつうの人がも よう。 知識・意識・常識・学識。②しるしか。「識別・認識・面識・ 標識 ょうした。▼悪いことをしたら、 使い方 くはば広い知識を身につけ

▼優勝を意識して、

きんち

あ

っていなければならない知識)だ。 職」「織」とまちがえないこと

じるしや名まえで区別して知ること い)を組み合わせてできた字。目じるしの 新-戦 言(=ことは)と、 哉(=目じるし

をあらわす。

×.

シツ・\*シチ・\*

15画 〔貝・i こがい

• 8画

户户户户

質質質



8画 [人・6画 ひとやね



17画

[言・10画

こんへん

告舍舍 舎舎舎舎

官舎・兵舎・牛舎・田舎」 また、やど。「校舎・宿舎・ いえいえ たてもの。 告

おかった、

なったので、放牧していた牛を牛 (=役人用のすまい)です。▼タ方にとめているので、わたしの家は官舎 大きな旅館でした。▼父が役所につ 田舎に帰る人でこみ合っている。 舎(=牛小屋)に入れた。 ています。▼修学旅行の宿舎は、 使い方と古い校舎の改築が行われ 列車が

は保証します。

\*質素だが、清潔な

な薬品がつくられる。▼品質のよさ

い方しこの物質から、いろいろ

身なりをした人。▼わからない点は、

えんりょなく質問してください。▼

犯人が人質を解放した。

とり(=四角い場所)を組み合わせて ことをあらわす。 てきた字。手足をのばしてくつろぐ もとの字は「舍」。 中(=ゆった りとしてゆとりのあること

五

質・舎・謝

金につり合う品物のこと。

金や品物)を組み合わせた字。 所(=重さが同じ)と貝(=

> 裑 V≥\*あやまる ランシャ

部部部部部部 ●あやまる。「謝



罪·陳

、れとしてのお金やいす。 謝礼・謝辞・謝恩・感謝・月

ませられた。▼病室のドアに「面会 謝恩会が開かれた。▼感謝の手紙が 卒 謝」③ことわる。「謝絶」 使い方と自分の非をみとめて謝っ **『絶」のふだがかかっている。** 業式のあと、先生をかこん

たなり ちがらくになること。 野期一制部(三)

てす。マ赤ちゃんは天からの投かり

する。▼うちの車は今、修理に出てっています。▼文章の一部を修正でいます。▼文章の一部を修正でいます。▼本行に行

(一人のせなかに水をそそ いて行水をさせるようす)と

▼姉は、きのうから修学旅行に行修業(=わざをならうこと)をする

使い方、学問を修める。、お花の

ただき物)だという。

術。方法

芸術・秘術・話術・美術・美のリかた。

見た。マ芸芸

院した。▼平安時代の美術品を ▼盲\*腸の手術をするため、

の人の話術(=話のしかた)はすばら

>芸術に国境はない。

マあ

いるようす)を組み合わせた字。

あわのほに、

あわのほに、実がくっついて(=みち・やりかた)とポ(=

守ってきた、

昔からのやり

計略にひっかかる)、

相手の術

相手の術中におちいる(=相手のおって せきょうで 男は大学の馬術部に入ったい。

## 日画

[丰·8画

おかジュ

くん\*さずける・\*さずかる 授授

乳・投与\*・伝授・教授」
かる。「授業・授賞・授
かる。「授業・授賞・授 あたえる。さずけ

いなどを身につける。「修り」のでは、行いなどを身につける。「修り」では、行いなどを身につける。「修り」には、行いなどを身につける。「修り」には、「はないなどを身につける。「修り」には、「はないないない。

修

なおす「修正・修理・修飾・ないのえる。」。 修養・自修・研修 2ととのえる

たえること。「受賞」は、賞をもら授賞」は、賞(=ほうび)をあ す(=手)と受(=ものをう it

とる)を組み合わせた字。

あらわす

めらかに細長く形がととのうことを 多(=かざり)を組み合わせた字。

10画

8画

あんシュウ・\*シュ



いおさめる・おさまる

画

しんにょう

12.5画



Va のべる ショッジュツ

を ボニホニホ のべる。「述語・著 述 述 述

修

述・記述・前述」 前述(=前に述べたこと)のとおり正確に記述する。▼わたしの希望は、 の関係をつかむ。▼かれの著述(=しが述べた通りです。▼主語と述語 便い方 、調査の結果は、 。今主 术.

今まてのすじ道にそって進むこ 术(=くっついてはなれない) 「迷」とまちがえないこと

てす とをあらわす

形の似た漢字を、

(書き分

字じ

漢字の知識

るとジュン 13画 [シ・10画

あんジュツ

一画

[行·5画

1ものごとのめや 淮 淮 準準

2そなえる。 「基準・規準・標準・水準・準拠\*」それにしたがう。ならう。 すとなるもの。手本。また、 「準備」3主となるもの

と快か教を失う

存業綿党放等目を論え民を持い適な積益友等九事拾雲因以苦く貝は右ってき十

以心者最多是小素計學広言官養養心未必問業王等員是鳥業四書手版田是千荒夫

き討ち拡か官が季き末き問えまる買ば島を血ら毛も由

在意線花牧等月等輪。氏し特を敵き績等反然丸が捨る困る若

でい方 この赤ちゃんの体重は、につぐ。「準決勝・準会員」 した。▼六年生が、運動会の準備を準(=ものごとの、ていど)が向上 している。マ準急電車が通過した 準をこえている ▼生活の水 産 (=下ぶくれ

の鳥)と十(=そろえる)を組み合わ もとにして、 せた字。下にたまった水の表面 高さをそろえること

条例・条件・第一条」

ひとくぎりずつ書きわけ じみち。「条理・信条」2

und otiost, す

条条条条条条条

のよりどころとなるもの 明らかにする。また、そ

- IIID

事実であることを

もしショウ

コンジョウ

7画

[木

. 3

3画

12画 〔言・5画 ·こんへん・

になるよ。▼かれの人がらは、 証明された。▼ぼくがきみの証人

わた

では、無条件で賛成だ。▼問意見には、無条件で賛成だ。▼問えば、無条件で賛成だ。▼問えば、

題点を簡\*条書きにしてまとめた。

まもっていること)は「誠実」てす。

使い方 ▼わたしの信条(=信じて

正夫くんにつみがないことを証言

マ 業証書をもらう。

言(=ことば)と正(=ただす) を組み合わせた字。意見を言 まちがったところを正しくす

が保証します。マみんなの前で、

ることをあらわす。別の字の「證」の

わせた字。

細長い木のえだのことを

あらわす。

るようす)と、\*\*(=き)を組み合

(=人のせなかに細く長く水をかけ

られ・條(条)は「條」。時

かわりに使うようになった。

五

おとジョ 7画[广·

いるのじゅんばん。「序 序序序序序

ではい方 ▼下の学年から順序よくをらんてください。▼オペラの序ならんでください。▼オペラの序ならんではない。▼オペラの序ならんではない。▼オペラの序は、 列・順序・秩\*序」でものれっことととことって 序

▼卒業文集の序文を、校長先生の寒さなんて、まだまだ序の口だ。 におねがいする。

物から、りょうわきにのびた建物のを組み合わせた字。家の中心の建を組み合わせた字。家の中心の建る とをあらわす。 つぎつぎに長くのびていくこ

• 4 画

5画

8画 丰• てへんり





8画

4画

书召 まく。「承知・承服・了\*

集して(=よび集めて)、会議を開発して(=よび集めて)、会議を開発して(=よび集めて)、会議を開発していた。▼みんなを招待していけた。▼のとこの結婚式のではかけた。▼いとこの結婚式のではかけた。▼のとした不注意が、事 故を招来する(=ひきおこす)。 いた。▼ちょっとした不注意が、

をあらわす。 なり す(=手)と召(=よびよせる) まねきをして、 たちを組み合わせててきた字。手 人をよびよせること

招招招招 招招招

VM まねく きんショウ

いる自分のところによ 不不不不不不不 \*うけたまわる ショウ

不承」2うけつぐ。「伝承・継来」

\*わたしのたのみを、快く承知していただいた。▼古くからこの地方でいただいた。▼本年度の予算がていただいた。▼古くからこの地方に伝承されているおどりを見た。
\*王位を継\*承した。

\*王位を継\*承した。

\*王位を継\*承した。 物を受けるようすをあらわす。 両手)とり(=手)を組み合わせた 送りがなをまちがえないこと。 月子子でいた形とべ(=









状状状

のすがたから、 校長先生に費状をいただく。 ▼友だちから年賀状がとどいた。 等が一状(状)もとの字は 「ありさま」「ようす」

漢字の読み方のうち、ラ・リ・ル・レ・ロで始まるものは全部音読み。

識・正常・異常」

・非常・無常」②ふつうの

用・常連・常夏・日常・平はないではないでは、ところのにましていいたん。

治治

当

おはは、

常夏の島ハワイに住んてい

機械に異常はない。

\*\*常口をたしかめておく。

お湯が使えるようになっている。

このすいじ場は、常時(=いつも)

でい方 ▼常に前向きに生きて

くなったらどんな職業につこうか

あれこれ考える。▼職員室は、

職員・職人・就職・辞職」

つとめ。 しごと。「職

業・職務・

職

職職職

告

告

告

制

制制

使い方と手に戦をつける。

大芸

体制」②おさえる。とど

いるりさだめる。きそ

制定。制度。制服。

制

めにだきょうしない性格)の人。▼に多く見られる、よい仕事をするた

を守ろう。

マ卒業制作のへき画を

とがだいじだ。▼道路では制限速度

あちらです。▼職人かたぎ(=職人

悪い

制度は、

すぐにあらためるこ

いとこは、就職が決まった。

織」「織」とまちがえないこと。

どをつくること。「製作」は、品物を

参考「制作」は、 つくった。

一職事(=ロで言うか

くること。

ま(=木材を切る)とり(=刀)

常 常常

8画

五



あん\*ショク・シキ 18画 〔糸・12画 いとへん

繒

織

織織



くんなさけ

あんジョウ・\*セイ ||画 丰

たちなる)を組み合わせててきたなり。十(=ここえ)と十つ 同情されるのを喜ばない。 い寺には何ともいえない風情がある。 があって、 便い方▼かれは情けぶかい人だ。 音楽に情熱をそそぐ。 心のもとになる気持ちのことを って、出席できません。▼ちょっと事 十(=こころ)と青(=もとに べ。 マンマン でとまれれる 古は情は確には

あらわす。

のちに、

長いスカートのことをあらわす。

「時間が長い」「長く続く」の

。 尚(=「ショウ」の音をあらわす)

いみになった。

ことて、はたをおる動作のこと

合わせて折り目を目立つようにする

報・実情・事情」のおもむき。「風情」 情情 のひもを結ぶ。▼会社の組織(=し和服の上に着る、たけの短い上着)をした。▼別職(= 立てる。組み合わせる。 たち み合わせててきた字。糸を結びなり 糸(=いと)と書へーモーマーノント 「識」、職」とまちがえないこと。 織機で布を織る。▼美しい手織りの うが機を織る音が聞こえる。 使い方マ「タづる」のぶたいて、 布「織物・織機・紡\*織・ いるり布をおる。また、 くんおる ~み)をあらためる。

組織

自動



8画

職

[耳·12曲]

制

[1] · 6画

1) -, とう

8画

44.1

おとショ

7

田とせイ

< 6

18画

あんセイ・\*ショウ

1) jまれつき。き 性性

2 物の等うようですと、というでは、個性・理性・天性、習性の性・理性・相性・はない。またでは、これでは、これでは、「はない」では、「はない」では、「はない」では、「はない」では、「はない」では、こっては、では、は、いいのでは、ないでは、ないのでは、ないでは、ないのでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないのでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、な 能・急性・安全性・公共性3男とのから持ちょう。状態。程度。「性 女のくべつ。「性別・男性・女性」 音性・野性 性

でれた機械。▼親切な女性に目的地まで案内してもらった。 まで案内してもらった。▼は能のす く逆だ。 便い方 マ兄弟でも、性格はまった >きちんとしなければすま

らわす。 生まれたままの心や性質のことをあ ること)を組み合わせた字。

職・制・性

を組み合わせた字。よくわかってい わりに目じるしをつけて区別する)

る仕事のことをあらわす。

分を切りとり、

ほかはすてること。

五年

(漢)字のちしき (学)

漢字の音読みをかなて書くと 1~3字であって、4字以上のものはない。

物にしたてることをあらわす。み合わせた字。布をたち切って

布をたち切って、

## 9画

\*まつりごと セイ・\*ショウ

ひられているとないません。「政治・政策・政党・王界・政見・政府・政党・王界・政見・政府・政党・王のこと。「政治・政策・政策・政 りせの中をおさめ 政政

通りやること。「財政」 (一政治)を行った。 →各党の 将軍が

よく

選挙の政見放送を見た。

打たれて、

形勢が逆転した。

い姿勢でつくえに向かう。

える)とカ(=ちから)を組み

力を加え、

形をととの

数(=木を植えて形をととの

後勢だった。<br />
▼満るいホームランを

政策をひかくしてみる。

マテレビて

つ北上中です。

>試合は味

方が

出した。▼台風は勢力をまし

た字。 あらわす。 (=動詞の記号)を組み合わせててき のたてなおしが急がれる。 えを問いただす。 まっすぐにととのえることを 丫時一政正(=まっす ▼今は、 政時の

5画

〔攵・5画、ほくにょう

9 900 400

加勢」②ようす。 ら。「勢力・優勢・気勢・ くれいきおい きんセイ 李 |3画 [カ・||画 ちから

情勢・姿勢・運勢」る集ま 2 た人々な

埶 埶 勢

いるり白くする。また、 まやセイ・ \*ショウ 14画 8画 (こめへん

「精米・精製・精選」②心。まじりものをとりさる。 精精精

精進 8こまかい

精

さうを精製する(=まじりけのないとうを精製する(=まじりけのない 文集にのせる。▼精進(= **ひ**いきおい。 たましい。「精神・ カすること)のかいがあって、 使い方 くわしい。「精密・精算・ いた。▼精力的に活動する 精米所で米をつく。 元気。「精力」 精通·精巧\* って、実り努と

「清」とまちがえないこと。

てよごれがない)を組み合わ米(=こめ)と青(=すみきっ にした白米のこと。

せた字。きれい

らない外からの力をあらわす。

えることから、 合わせた字。

自分ではどうにもな

• 4 画 こかいい

14画

ころも

るがゼイ

12画

[千·7画

(のき・ん

[衣·8画

[貝

るかセキ 青青青 せめる ||画

10世める。とがめ 青青青青 青

製作・製造・製品・手製・サンス・大き、サンス・製作・製造・製品・サント す。 るかセイ 油所がたちならんている。▼姉の製品が開発された。▼海岸ぞいに < 収のマフラ 作製。精製。複製。 方しこれはスイス製の時計 ブラモデルを製作する。 こしらえる。 をもらった。 調製 製 製製

事をする費用として、

国

F

む。「責任・責務・重責」

•税務署•納

そんなに自分を責めることはない

方マエラー

したからといって

上級生は責任ある行動をとるよ

▼無責任なことをいうもので

村が、

おおやけの仕

国·都道府県·市

税

税税

制作」は、芸術作品をつくること。「製作」は、物や設備をつくること。「製作」は、物や設備をつくること。 制(=のびていくえだをとち のに ▼ 7 税・国税・減税」でい、「税金・税 さいは、 せい。「我な・税関・税収・税務署・納民や住民にわりあててとるお金 とるところ)がある。 港には税関(=輸出

1万 ▼納税(=税金を納めることは、) 「一般のでは、1000円では、1

行はない。

→ 自分の責務を忠実に実

の重責を果たしました。

たなり は税関(=輸出入品の税金を 、国民の義務です、▼国際空

物と、は 从

作

た ち り

界~賞-責

原(=先のと

がったとげ

の一部をぬきとることをあらわす これでは、これでは、これの着物をはぎとること)を組み(二人の着物をはぎとること)を組み

五年

相点せ

てた字に

お金の貸し借りのことで、

ちく

てさす)と貝(=お金)を組み合わ

せめることをあらわす。 手をとげてさすように、 話すこと「舌戦・弁舌・

りした。べろ「舌

毒舌·筆舌」

ちする。

弟弟

はねこ舌です。

\*舌ざわりのいいアイスク

舌をやけどした。▼「ちぇっ」と舌打

使い方、熱いおしるこを食べて、

いるりわたや、まゆか

績2仕事。また、そので ら糸をとる。つむぐ「紡\* 績

お\*練工場(=糸をつむぐ工場)が多地はえ。「成績・実績・業績・功績」 最近、 父の会社は最近、 ▼平和のためにつくした、か 成績があがってきた 業績がよいそ

れの功績(=てがら)は大きい。

■「積」とまちがえないこと

字。横糸をつみ重ねて布をおってい でもること)を組み合わせてできた。 くことをあらわす。 一般 情報 (= 告急が

くん\*つぐ

おかセツ 11画

[丰·8画 てへん

五

年

設

||画

• 4画

いるり近づく、「接近・ 接接接接接接接

110

設設設

設設

接合・接続・直接・間接」3もてなすた、つながる「接着・ ま

設問

設

切り取った木の芽やえだをほかの木接種をする。▼つばきの接ぎ木(= につなき合わせて育てること ている。▼接戦の末勝った。▼予防でいる。▼接戦の末勝った。▼予防では近れます。 接待。応接 先生にお話ししてみるよ

せた字、 たちはて働く女の人)を組み合わなりま(=手)と妾(=男の人のそ をすることをあらわす。 ▼お客様を応接間にお通しする 相手にくっつ いてものごと

くるもうける 田かセツ

接

接戦・近接」②つなぐ

設置・設計・設立・建設・新しくつくる 「設備・ の設問に答えなさい 大きなダムが建設されている。▼次書 ▼父は会社で設計の仕事をしていまける。▼設備のととのった病院。他い方▼お年寄りのための席を設 施\*設」②用意しておく 新しく会社が設立された。

のみてだいたいの形をつくることを ぼう)と入(=手)を組み合わせた字 『説」「投」とまちがえないこと 一般一致一段!!!

あらわす

14画

[金

かね・ん

• 6画

12画

[ 4 •

6画



るとゼッセツ

くんした

舌舌舌舌舌舌

あん\*ゼツ

6画 〔舌・0画

L 7:







一銭・小銭・小銭・小銭は一円の百分の一銭は一円の百分の一点数・大きながった。 全銭・古

いやだ。 さい銭をあげた。マバスに乗るときけとる。マ神社におまいりして、お りが上がっている は小銭(=こまかいお金)を用意して 、やだ。▼パンを買ってつり銭を受しい方 ▼金銭のことでもめるのは 合わせた字。 もとの字は「錢」。 と美(=小さくけずる)を組み ▼銭湯のえんとつから、 小さな銅のきれはしの 金(=金属) けむ

(漢)字のちしき (2)

銅てつく

ことをあらわし、のちに、

ったお金のいみになった。

舌·絶·銭

きる、

ぼうのような「した」をあらわ

切ることをあらわす。

五

字。刀て、糸や人をすっぱりと横にとく(=人のすがた)を組み合わせた

たなり

字。

口の中で自由に動かすことので

とり(=くち)を組み合わせててきた

ちょうちょうだし

べる。▼弁舌さわやかにのべる。

える。マゆうべから絶食している。マ

ながめは絶景(=すばらしい景色)だ

だてる「絶海」のけわしい「絶壁\*」 絶好・絶大・絶無・絶対・絶滅\*」

使い方でではなると、人通りが絶

じょうに まったく 「絶景・絶唱」ひじょうにすぐれている。 また、ひ

また、

U

気絶」②ことわる「謝絶・拒\*絶」③

絶食・断絶・根絶・絶命・

人

まだ舌足らずの口調でしゃ

では方▼日本酒は米から造る。改造・構造・模造紙」

というという 仏像・銅像・自画また、そのもの、「仏像・銅像・自画

像·肖\*像画」

現像」とにせてつくる。

画像·映像·実像·想像· りすがた。かたち

象

てるための土地)を造成する。マふ

くざつな構造の機械。▼古い木造の

これと想像する、下真を現像する

いる。マ中学生になった自分を、あれ

□ マテレビの映像がみだれて

山を切りくずして、

宅地(=家を建た

建物がとりこわされる。

き「造る」は、

機械などを使って

かがみを見ながら自画像をかく。 お寺の本堂に、古い仏像がある

当~景陽像

Y

た ち り

かすうつ

大型のものをこしらえる。「作る」は、

小さなものや文章をこしらえる

動作と組み合わせた字の「材料」

日立つところから、人や物のすがたけた字。ぞうは、大きくてすがたがせた字。ぞうは、大きくてすがたがせた字。

されていますが、それでは、一造形・造成・造花・造化・造花・造化・

ものをこしらえる。

告

昔の人。「祖先・先祖」る

他い方 ▼夏休みには、

父母の家に行く。

▼人類の祖先につみには、いなかの祖

いて考える。▼おぼんやおひがんは、

あらわす。

っつけ合わせる」とい

父・祖母」②何代も重ねた 100 1父母の親、「祖 袓 1 目 祖

もとになるもの、「開祖・始祖・教あるものごとをはじめた人。また、あるものごとをはじめた人。また、 「元素・水素・要素」2もとのおおもとになるもの。 いるりものやことがら

とめる。また、

まとめて

いるり全体を一つにま

彩彩

彩

彩

れだけの。「素材・素質・素顔・素直・ のままの。 かざりけがない 素

お使 た選手。 要素とい る、マ平素から健康に気をつける、 質素」多ふだんの、「素行・平素」 前を素通りする。 いに行った。▼知り合いの家の マ素足にサンダルはきて、 われる。▼素質にめぐまれ ▼衣・食・住は、生活の三 >質素な生活を送

糸のもとになるせんいのこと。組み合わせた字。一すじずつ 40 ▲(=「垂〈=たれる〉 くした形)と糸(= 一すじずつたれた。 いと)を をり

る)を組み合わせた字。

何代も続 物をかさね

ているせんぞのことをあらわす

生まれ育った国)を追われた人々で 宗の開祖は空海だ。▼祖国(自分が 先祖のれいをまつる行事だ。▼真言

ネ(=もとは「示」て祭だんを

まんソ・\*ス

10画 糸

4画

五

4.2

リソウ

14画

1.2.1

[ 4 · 8 画



赤赤赤素素素素

ただそ 額・総勢」 の費用の総額を計算する。▼びわ湖では、 文母会の総会が開かれる。▼旅行 べて。「総員・総数・総画・総意・総意・総務・総称・総裁・総理」②全体。す おさめる。「総合・総会・ - トルもある大きな湖です総面積約六百七十八平方キロ総面積約六百七十八平方キロ

とめることをあらわす しい)を組み合わせた字。 たくさんの用事を引き受けていそが 總-總(総) 60年(=糸) と 数で (= 一つにま



~ ます・ふえる・ふやす

あんゾウ

もとゾウ

14画

11:10

[1 · 12画

10画

[注 • 7 画

(しんじょう

~ つくる

造造造造造造造造

像

像

像

像像

増増増

ふやす。

增

ふえる。また、 数や量が多くなる。

さが増した。▼かぜて休む ▼祖母のためにはなれを増築した。るために、ジョギングをしている。 年々増加している。 てもらおう。▼この町の人口は、てきた。▼おこづかいを少し増やし ▼健康を増進す 人が増えかかかか

こくもつを入れ、 を上へ上へとつみ重ねること。 わ)を組み合わせた字。 增(增)上一十 且な合わせた字。土、何だんも重ねてふ 1(=つち)

漢字の音を、かなて書いて3字のものの2字目は、ャ・ュ・ョのみ。

五

てす。

▼変則的なスケジュー

ル

参考「リ」は、刀を立てた形からて

そこなう

る。また、

「損傷・破損」

使い方

かれがやめてし

まったの

損得·欠損」②きずつけへる。うしなう。 損失・

しなう。「損失・

損

1すくなくなる

風児たちが歩く。▼率直(=かざらをいう)▼保母さんに率いられて、

▼冷夏で、観光地は大きな損害をこは、チームにとって大きな損失だは、チームにとって大きな損失だ

観光地は大きな損害をこ

ずありのまま)な意見を述べる。

な。マ宝くじに当たる確率は低い。

を損なわないようにしなさい

してわたれない。▼むりをして健康すむった。▼台風のため、橋が破損

うむった。

軽率な(=かるがるしい)行動をとる

きいる。「率先・引率・統さいる。「率先・引率・統立といる。「率先・引率・統立といる」といる。

京 本 本 法

客 客 率

打損損損損損

ると\*ソツ・リツ

田とソン

13画

[ 才 • 10画 ていん

\*そこなう・\*そこねる

11画 〔玄・ けん

6 画

くれひきいる

率」②ありのまま。

と外(=はみ出たものを左右にはら

口のまるくあいたうつわ)を組み合

第一損少損少(=季)

率

と十(=まとめる) (=細いひも)

いとる)を組み合わせた字。

はみ出

わせた字。

まるいあなをあけて、

らすことをあらわす。

ように中心にまとめること

月月

月月

則則

きまり 月

さだめ、

いるの深さ・きょりな

はかる

測

はまた。 自然界の法則にしたがう ▼短歌に自然界の法則にしたがう ▼短歌に を表する。 ※ 短歌に 則。反則。教則本

きたのて「立刀」という。 とて、「きそく」のいみをあらわす。 にやくそくのことばをほりつけるこ 刀)を組み合わせた字のでうつわ |貝(=うつわのいみをもつ「鼎」 をりゃくしたもの)とり(=

貝

②おしはかる。「予測・推測」 「測定・測量・目測・観測」 とをしらべる。

ま。「金属」

使い方、妹は、

私立の

専属・配属・直属」②なか

属国·付属·所属·從属·

属

屋

属属属属

風の進路を予測する ▼父のしゅみは天体の観測だ、▼台をよる。▼川のはばを目測した。 工事に入る前に、まず土地を測 \*音波で海の深さを測る

ことをあらわす。 をそばにつけて、 せた字ものさしや基準となるもの イフをくっつけておく)を組み合わるり、一川、(一食器のそばにナなり)、(一食器のそばにナ 側「側」「則」とまちがえないこと 水の深さをはかる

たなり

る動物だ。▼貴金属を金庫にしまう。

ねこ科に属す

いとこは、

入社後営業部に配属さ

ぼくは、野球部に所属している。 付属しているようち園に入った

目の大きい虫)を組み合わせた字。

ーっついてはなれないことをあらわ

くわの葉にくっついてはなれない

測 くれはかる 日とソク

12画 [尸·9画 しかはね



属 でとゾク



12画 測 測 浿 測測

おんタイ 9画 6画

艮艮艮艮 しりぞく・しりぞける 退退

今いる場所から引 りしろへさがる。 艮 3

退出・退散」②職などをやめる きさがる。 また、 退しるおとろえる。「退化」 3ほろぼす おいはらう。「退治・撃 ことわる。「退職・引退・辞退 後退.退去.

退散(=その場から立ち退くこと)しに退去してください。▼じゃま者はに退去してください。▼じゃま者は 綱\*が引退した >害虫を退治する。 方、危険ですから、 すみや

がとまって進まないことをあらわす たりの文」とまりがちな足と、文(三なりの文」とまりがちな足と、文(三 ◆(=進む)を組み合わせた字。足

(漢)字のちしき (学)

「酸」は「す」のこと。すは酒からつくるので、「酉」がついている。

五

使わせる。

かす、「貸し借

真

いか

いるじぶんの物を人に

質貨貨貨貨貨

スで行くことになった。

▼友だちと 貸し切りバ

新・判断」3おしきって行う。「断固・ といばりきめる。「歌文・断さ・決ない。」

断行」はことわる。

無断

使い方▼利害関係を断ち切った。

断絶・断続・切断・横断

**‡** 

借

|4画 :: 7,

[心・10画

五



心がまえや身がま 能 能

態態 (,000)

V

団

団団

また、

ましダン・\*トン

6 画

[ .

3画

くにがまえ

いき しまるい

まってひとかたまりにな まるいもの、「団子」②集 また、あつまり。「団結・団体・

お客様に座布団をすすめた。 は、団体旅行で温泉に行っている。▼みんなで団結してたたかう。▼母は、 なり 人形劇の劇団の公演を見た。 ▼わたしの家族は団地に住んていま ▼毎朝、集団で登校している。 もとの字は、「園」。口(=

た字。 と専(=まるい)を組み合わせ まるく かこんだものをあらわ

の形態はことなっている。▼健康れた。▼新入生の受け入れ態勢をれた。▼新入生の受け入れ態勢をなる。▼民族によって、文化ととのえる。▼民族によって、文化 ます。▼ありの生態(=生きて育 状態には、つねに気をくばってい ととのえる。マ民族によっ たいずたいせんいじったいじたとき。「態度・態勢・形え、また、すがた。あり 能・状態・生態・実態・事態 なり ようす)を観察する。 このようにしていくという、 また、 能(=てきる)と心(=こころ) を組み合わせた字。 すがた。

と)マンションに住んています。

ア「貸す」と「借りる」はまぎら

か「貸間」「貸家」などには

族は、賃貸(=料金を取って貸すこ本の貸し借りをする。▼わたしの家本の貸し借りをする。▼わたしの家

えをあらわす。 ようす」のいみになった。 のちに、 「すがた」や 自分は、 心がま

財産の持ち主が、しばらく別の人にたち、金や品物)を組み合わせた字。ため、代(=かたがわりする)と貝(=お

かわることをあらわす。

ないこと。

し」を送らない。の「貨」とまちがえ

[斤·7画 ・おのづくり

一画

るとダン

V~\*たつ·ことわる



●たちきる。やめ



软









た。 ▼法隆\*寺は世界最古の木造建築でじは、一代でこの会社を築き上げた。 明るい家庭を築る上げた ことになった。▼二階を増築しまし ある。▼古くなった校舎を新築する ▼わたしの家は、 今改築中で

つきかためて、土台をつくることをを組み合わせた字。木のぼうて土を つきかためて、 あらわす。 竹(=「チク」の音をあらわす)と 巩(=工事をすること)と木(=き)

断・築・張

切ることをあらわす。組み合わせた字。糸のたはをおのて

れを切るしるし)と「(=おの)を

| 一番 (断)を四つとそ

参考「絶つ」は「やめる」「なくす」

だちのさそいを断る。

ものごとを正しく判断する。

友

工事のため、

一時間断水します。





たられているの「緊\*張・に、ひろげるの「緊\*張・

張しつおおけさにする。 張·拡張·膨 誇\*張」 E

げむ。と店の前に張り紙がしてある。 強く言う。「主張」 見を主張する。 く。▼友だちと張り合って、勉強には 張する。 父は出 方▼むねを張って、元気よく歩 ▼はっきりと、 張しています。 自分が店を拡

はることをあらわす。 組み合わせた字。弓につるをぴんと をなびかせて立っているようす)を 一張さんだい。 いかみの毛

(漢)字のちしき (学)

携\*」4ひきいる。

提督\*」

提供・提言・前提」の対合う。「「手提げ」としだす。「提案・提出・ししめす。「提案・提出・

提

いるの手にさげてもつ。

を組み合わせた字。 ひっぱることをあらわす。

手てまっすぐに

すようになった。

に進むことをあらわす)とす(=手)

題を提

出する。▼商店会から、

ほ 宿

んおどりの資金が提供された。

晴れることを前提に、計画をたてる。

発表された。▼父は程なく帰ります。

⑥上に、

2例

禾(=作物)と呈(=短い直線)

是(=まっすぐて短いさじと足 を組み合わせた形で、まっす

くん\*さげる あかテイ

提提提提提提提

12画 [丰・9画]

てへん

おんデイ \*ほど

12画

のぎへん

[千•7画

ことばの知識

 $\overline{\mathcal{H}}$ 

年

AST.

程程程程

いる。●ものごとのどあ 程程

程

い。「程度・音程」でもの

ことを進めるうえてのき

りのへだたり。「行程・過程・日程」 まった分量。「課程」の時間やきょ

高さのちがい)がくるっている。 ▼このピアノは音程(=二つの音の 使い方くこの問題は程度が高い。 学旅行の日程(=毎日の予定)が (金) (本の漢字の意味が、上での意味が、上での意味が、上で、 (金) (本の・命) (本の・死) (本の・元) 

上の漢字に

きまり。「規程・方程式」

例 助作下が例 -下の漢字が、上の漢字の意味を 上に、打ち消しの漢字をつける がなける。 がなける。 がなける。 がなける。 がなける。 がなける。 がなける。 がなける。 かかっていく

の長さのことをあらわす。のちに、

を組み合わせた字。

いねのほ

一定の長さやきまりのいみをあらわ

急性的

同ながん

美ができ

いといん

12画 茶

• 6画

できた できばん できまってきせい 「適と・適に・適応・適広・適比・できせい。」 あてはまる。ちょ 適

好適·快適

て、快適な部屋。

「はない。▼エアコンがきいてい 葉を答えなさい。 ▼適切な意見をのつける。 ▼かっこに入れる適当な言い。 べる。 ▼適度の(=ほどよい)運動は 使い方 下作文の内容に適した題を

目あてに向かって、 滴\*」を使い分ける。 え(=進む)を組み合わせた字。商(=まっすぐ・ひとすじ)と まっす うぐに進む

適・敵・統

ことをあらわす。

るかテキ

15画

[文·11画

ほくにょう

K

あかテキ

|4画

[三・1]画 しんにょう

適適適適適適適

Va\*かたき

くん\*すべる あんウ

統統

商商商商商商商商

ながっているもの。 いる しひとつづきにつ

「系統・伝統・血統」②

劇で敬後を引き受けた。▼なが同じぐらいのよい相手は強敵だ。▼かれは、ぼくの好敵手(=力やわざが同じぐらいのよい相手)だ。▼ だと思ってにくむこと)するものでをする。▼むやみに人を敵視(=敵 ▼むやみに人を敵視(=

うがよい

よい。▼ひな祭りは日本の伝統の「大き」であっと系統的に調べたほ

むかいあう相手をあらわす まともにむかいあうこと。 詞の記号)を組み合わ または、 せた字

たちり

りない。 ( = みちる・全体にりない。 ( = みちる・全体にりない。)

がすべてにつながっているようすを ゆきわたる)を組み合わせた字。 あらわす。ここから、「まとめ める」などのいみになった。 おさ

事のちしきの

統治・統合・統率・統計・大統領」

一つにまとめる。

五

孤\*独」②ドイツ。「独語・日独」

独唱·独占\*·独断·单独奏

●ひとり。ひとつ。

独

独独独

像・銅板・分銅・青銅」

方・オリンピックで、

世界の

どう。「銅貨・銅山・銅山・銅がというとく伝える金属。

鉅

鉄より重く、電気

多

金

銅

銅銅

|4画

かねへん

金

P V

• 6画

**\** 

るとドウ

虫)のように、

人のきげんをとらないことをあ

もとの字は「獨」。す(=大)や蜀むとの字は「獨」。す(=大)や蜀むとの字は「獨」。す(=大)や蜀むとの字は「獨」。す(=大)や蜀むとの字は「獨」。す(=大)や蜀むと

らわした字。

るがドウ

みちびく

先導・指導・補導・誘・導」 教える。みちびく。「導入・ 道道道道 いる・一案内する。また、 導導導

徳徳

**徳**徳

2電気・熱を伝える。「導体・導火線」 導

いる。一人としてのりっ

また、

先導する。▼水泳の指導を受ける。 ・花火の導火線に火をつける。 「伝導」は、熱や電気を伝える い方とチームを勝利に導く。 白バイが 入する。 では、 でい方 ▼三時間目は「道徳」の時間 さになる。「徳用」 きになる。「徳用」 ばな心や行い。 ぐみ。 みをもたらす政治を、 徳・不徳・功徳・公徳心・徳育」型りえ 「道徳・人徳・美でない。また、め

外国から新しい技術を導

マラソンのランナーを、

心)とく~(=おこない)を組み合わ 物がお徳用です。 公徳心を養う。 後-徳さ(= ▼ こちらにある品

す

徳政という。

おこ

せた字。すなおな心にもとづく たな ちり ないをあらわす。

いういみをあらわす。 進む)とす(=手)を組み合わせ 道(=くびを、ある方向にむけて ある方向にひっぱって

せた字。あなをあけやすい

やわ

た字。

い金属の「銅」をあらわす。

てきた昔の太刀。

を伝えること。

こと。「伝道」は、おもに宗教の教え

金(=金属)と同(=あなをあ

けてつきとおす)を組み合わ

つわ)を見せてもらった。▼青銅でやかずらしい銅器(=銅で作ったう

明線を使って、

理科の実験をする。

るとドク

9画

[1·6画]

けものへん・

ひとり

あるニン 6画

[1・4画 いたんべん



16画

燃

[火・12画

いかった

きうける。また、その仕りをひ まかせる・まかす 1

もえる・もやす・もす

アルネン

Web Proposition The State Web Proposition 事や役はる。

▼ごみ箱の中の紙くずは、全部燃して、闘\*志を燃やす

任する。 ▼この仕事は

て安心です。 満タンにして飛びたった。▼このガ 満タンにして飛びたった。▼このガ

てしまおう。

▼飛行機は、

燃料を

とよ(=まん中がふくれた糸まき) を組み合わせた字。 夏主~ おなかの前に重 任 人员

焼・灯・照・熱・燃」など。

て字の「独逸\*」を略した形。

のは、

の文化交流にこうけんする。

走になる。 V日独(=日本とドイツ)

くれぞれが独自の考えをもっている。 便い方とぶつぶつと、独り言を言う

にもつをかかえること。

わせた字。

もえることをあらわす。

選手のちしき のか

火 火 (=火)を組み合き

火が燃える。

燃・可燃性・内燃機関」

五

教判」③紙や本の大きさ。「B5判事いを決める。さばく。「判決・判事

B 5 判 1

4いん。はんこ。「血判」

半川

半半

半半

正しいかそうでないかを見分けるい

でものを切り分けることから、

みをあらわす。

五

あるノウ

ム月ム月 自 自

いる。

カ・知能・有能20ききめ。「た、そのはたらき。「能からない」という。 まう、日本のげき。「能楽・能面」面をつけ、謡\*とはやしに合わせて 使い方 と仕事の能率を上げる。 |効能|

可能な限り、

足)を組み合わせた字。 く)と、4(=にく)とせ(=かめの は腰\*痛に効能がある。 ぐれた技能を持つ。▼チンパンジー可能な限り、計画を進めよう。▼す 知能の高い動物だ。 れ一気一能出してはたら かめのよう ▼この温泉 カを

れる」は相手に負けること

でき 「破る」は相手に勝つこと。「敗

男だ。

防犯カメラをとりつける

にねばり強くはたらくこと。

せた字。

(字。たたいて物をこわすことを(字。たたいて物をこわすことを組み合わり)を組み合わり

あらわす

10画 [月·6画

10画

[后・

田之ハン

5画

[1 · 2画

\*おかす

犯犯犯犯

5画

ヒヒ 自

能能

破壊\*・破裂\*・破談・破さた、こわす。「破損・破棄\*・た、こわす。「破損・破棄\*・た、こわす。「破損・破棄\*・ HA N ~ やぶる・やぶれる 石 破破破破破

いるのきまりをやぶる。

やりぬく。「読破はずれる。「破格」約・大破」②負かす。「大破・撃・破る われたガラスの破片がとびちってい ・雨量が百ミリを突\*破した。 使い方▼約束を破らないこと。▼ なけのいきおいて勝ち進む。 しよう。▼事件の犯人がつかまった。▼犯罪のない明るい町に 

科二犯 二度と

いを受

をかれ れのびようとするも

わくておさえつける)を わくをやぶってと

のを一形の びだすことをあらわす。 組み合わせた字。

西シハン・

7画 バン

[川・5画

りっとう

8画 [片·4画 かたへん



漢字を発明した人 漢字を発明した人 次と きゃくの人たちが長い

漢字の知識

月の間に、

だんだん

7 11

い年か

ったもので

しかし、

一人の天才

それと同じはたらきをす や絵をほった板。また、 即印刷用の、文字 版版 板

> わず、 をつく

その天才は、倉頡といってったものと考えて

考えて たちは

です。▼文章にわかりやすい図版を でする。▼文章にわかりやすい図版を では、「ないでする。」では、「ないでする」とし、またがでする。 出版・初版・再版・絶版」

・でった回数を数えることは。「版権・でった回数を数えることは。「版権・でった。」というといった。 るもの。「版画・版木・版下・活版・製

ん」と読むときもある。

半(=二つに切り分けること)

刀)を組み合わせた字。

小学校スポーツ大会の記事が出た。▼朝刊の地方版に、県の たいらな木の切れはしのことをあら をたいらにのばす)を組み合わせた字。 ドー版片(=木の切れは



思いついたとあとを見て、 ついたということです。

▲倉頡像

文字をつくることを っぺての漢字

目が四つもあり、良たと伝えられていま

会議場。

を持って行く。

守備には自信をもっている。

ている。

▼旅行の準備がすっかりて

あの人には、

×あの人には、音楽の才能が備わっ 使い方 ×試験に備えて勉強する。

きた。

くらべる tt

無比」②ある数とある数 いるりならべてくらべ 「比類・比較\*・対比・

▼人口の増加に比例して、車の数もと日本の文化を対比して考えてみる。 という ない ない こう ない かい こと いっぱん いい こと かい こと かい こと いっぱん いっぱん いい こと かい こと いっぱん いい こと らべて)あたたかい。▼外国の文化▼この辺りは、比較\*的(=ほかとく が少ない。▼友だちと背比べをした。 今年は雪

たなり ることをいみする。 すをあらわした字。 多くなった。 ならべてくらべ んているよう 人が二人なら

BAN L

4 画 [比•0画 ならびひ

5

月巴 Ban L いたこえる・こえ・こ **ル**ふとる。また、 8画

使い方 ▼兄は運動不足のため、 ・「肥料・追肥・元肥」 満・肥大・肥よく」②こや 土地がゆたかである。「肥 四

肥えた土也。 トルカのである。 ▼よくは、 「一大きくなって」いる。 ▼よくは、 できなって」いる。 ▼よくは、 できない。 これでは、 できない。 これでは、 これでは、

し、いみとは関係がない)を組み合わ なり 肥」は「え」を送らない 「肥える」は「え」から送るが 一門の(=音をあらわ

月 • 4画

にくつき



肥肥肥肥肥肥肥

8 画 [非•0画 あらす



き 非

非非 力

E

消すことば。…ではない。… るほかのことはの前につけて、 打ちち

まいだ。 い兄弟。 ところがない(=悪いところがない)。使い方 ▼かれの行いには非のうちに非連・非情・非業・非常識」 ▼人に非難される。▼非常に仲の良 ▼ちょっと非常識なふる

のとちゅうてあたえる肥やし)をす 肥えた土地。▼野菜に追肥(=生育

た ち り 非 批 1 非 左右に分か

らわした字。手や首を左右にふってれて、反対になっているようすをあれて、反対になっているようすをあ 打ち消すことをあらわす。

せた字。にくがくっついてふとること。

ととョウ たわら 10画 [1.8画

BAN L

12画

[1・10画

1こんへん

くれそなえる・そなわる

備備備備

備備



12画

こんへん

5画



米俵・炭俵・土俵」でも わらてあんだふくろ。 1米や炭を入れる、

える。

また、

そなえ。

よういする。そな

予備・設備・完備・守備・警備

備品・備考・準備・整備・

中に米俵を運び入れる。▼きのう 横綱\*の土俵入りを見た。 数えることは。「米一俵」 のを入れた、 使い方・米を様につめる。 たわらやふ ▼米をま ろの数を ●倉の

あらわす。 字。人にものを分けあたえることを たってひろげる)を組み合わせたなり、イ(=人)と、表(=ドキャに出し

村ては、

形)とイ(=人)を組み合わせててき

たなり

一有(=矢をそろえて入れてお

く、「えびら」という用具の

た字。そろえて用意しておくとい

みをあらわす。

世紀とヨウ

部部部部部

いを判断してきめる。ま ものごとのよい悪 評評



評・品評」 「評判・評価・評論・批評・た、それをのべたもの。 定評。好

▼この辞典の使いやすさには、以前 ちよって、おたがいに批評しあった。 されている。▼それぞれの作品を持っててす。▼かれの研究は高く評価でいる。▼かれの研究は高く評価値い方 から定評があります。▼ぼくらの 野菜の品評会が行 今 われる。

(漢)字のちしき (の)

たち そろうを組み合わせた字。

いて決めることをあらわす。もののよい悪いを、えこひい

物語を読んだ

いて、貧しい知識しかもっていない物語を読んだ、 学講演の内容につ

らだをきたえたい。▼朝礼て、貧弱なか

血をおこしてたおれた。

弱・貧血・貧相」

貧苦・貧民・貧乏\*・貧困・

いるまずしい

ではい。また、

角

使い方く貧しい家に生まれた少年

布・配布・散布・分布・流布」

貧困をのりこえて医者になった

草をたくみにつくる

能力)に富んていた。

たなり

元(=家)と畐(=

酒をい

っぱい

ててきた字家の中が財産でい

つば

つめたとっくり)を組み合わせ

になることをあらわす

343

豊富」

また、ざいさん。

富

・富裕\*・富貴・貧富」②たくさんあ

武器·武具·武装·武士·武家·

元修復2~りかえす。「復習・復職・往復・回復・復旧・復かえす」「復活・復帰・復かえす」「復活・復帰・復

復

いるのさいさんがふえ

ざいさんをふやす。

富

官官官官官官官

くかとむ・とみ きんフ・\*フウ 分月分月



省 省 省 省 なめの

1111

5画 [巾·2画



田心フ

||画

[女·8画

おんないん

**X** 

り女の人「婦人・

录

妈妈妈

婦婦婦

地·綿布·毛布·敷\*布」2

いきわたらせる。ま

りぬの織物「布

た、広く知らせる。「布教・布告・公

の植物は、広い地域に分布してい ンフレットを各戸に配布する。▼こ ~じょうぶな布でふく ▼はだざわりのよい布地 毛布をかけてねむった **▼** 場してきた。▼結婚式に夫婦で招にせかえられて、新郎\*新婦が入にむかえられて、新郎\*新婦が入にむかえられて、新郎\*新婦が入になる。▼はく手 婦警 場してきた。 た。▼帰警(=婦人警官)が、 る女の人。「主婦・新婦・夫婦警」②けっこんしてい にむかえられて、 がにせんねんするそうだ。 方 上品な婦人に道を聞かれ

パトロ

つくる。

使い方

相手の国に宣戦を布告する。

たなり 待される Y 婦 婦 と未(= #~ (=

などの家の中の仕事をして、 りそうつまのことをあらわす ほうき)を組み合わせた字 そうじ

み合わせた字。 音をあらわす)と、 ▼農薬を空から散布する 然一杯-中(= ぬの)を組 メ(=「フ」 という

を組み合わせててきた字、お金をぜ

たりなくなる

少れー貧少(=こつにわけ

ことをあらわす。 んぶわけてしまって、

貧342

Ŕ.

田とブンム 8画

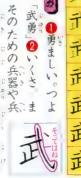




• 9画



田心フク



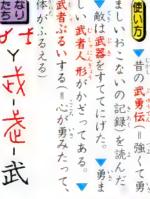
いるりかえる。もどる。

復

復

復復

武者人形 ましいおこないの記録)を読んだ 武者ぶるいする(=心が勇みたって、 ▼敵は武器をすててにげた。▼勇ま しい武者人形がかざってある。 使い方 甘の武勇伝(=強くて勇



る。▼かれは少年の る。▼かれは少年の ころから文才(=文

P

をきずいた。▼この地には、豊富な水

使い方
▼かれは外国ではく大な富

をあらわしている せててきた字。いさましく進むこと 十(=ほこ)とば(=足)を組み合わ

> 帰する 唱・反復」るしかえしをする「復し ゆう・報復」

とを家て復習する。 行機で往復する。▼病 ん回復に向かう。▼学校で習ったこ ▼東京と北海道の間を飛ったが、 はなかだり、チームに復 マけがが治り、 状がどんど

どす)を組み合わせた字。 もどることをあらわす。 でして、複「服」とまちがえないこと。 福福福 え (=行く)と、 同じ道を

五年

いる むいう。のべる。ま

する。

「保護・保育」2も

保

いまもる。せわを

保安・保存・保健・確保」多うけあう

たもつ。

弁

をもったもつ のかか

Val はか

保保保

保保

保保

もフク

さねる、 いるりかさなる。 衫 複複

複数・重複2かたたびする。以上ある。「複合・複雑・・・・・ また、 数が二つ

複

写·複製 使い方▼複雑な内容の物語。 古い名画の複製。▼写真を複写する。 以前聞いた話と重複している。 「復」とまちがえないこと。 人がその物音を聞い の)と、 たと

み合わせた字。 とをあらわす。 物(あわせ)のことて、 合わせた字。布を二重に重ねた着いなくれたうつわ)と夕(=足)を組 二重になるこ

た形から (仏蘭\*西」を、のは、あて字の「仏蘭\*西」を、

略 i

参考 フランスのことを「仏」と書

香\*をあげる。

たなり

もとの字は佛。 (=「フツ」とい

う音をあら -(=人)と弗

わ

す)を組み合わせた字。

単

をほとけ アブツ

2 画

1:1 -h

4画[1.



●仏教で、さとり

あむあむ

15画

12.h

• 9画

条

編編編編編編編

編

大仏・念仏・神仏」②死んだ人「仏というなどのとなったというとなったない。 はとけい 仏法・ひというとない しんだん ほとけい のをつくる。組み立てる いるの組み合わせても

では、六世紀の中ごろといわれているは、六世紀の中ごろといわれているは、六世紀の中ごろといわれているは、六世紀の中ごろといわれている。★は、六世紀の中ごろといわれている。★は、六世紀の中ごろといわれている。★は、六世紀の中ごろといわれている。★は、六世紀の中である。▼仏様に線は、六世紀の中である。▼仏様に線は、大世紀の中では、100mmでは、 なり 編集する。▼夏休みには、長編小とのでは、長編かる。▼学級新聞をター用に編曲する。▼学級新聞を ることは。「長編」 のひとまとまり 隊・編曲・編み物」②本や新聞などを あむ。「編成・編入・編入・編人 説を読んてみよう。 ムを編成する。マピアノの曲を、 つくる。「編集・編者」③文章など 使い方と新学期から、新しいチ 糸(= また、それを数え

ギ

た字。 もてつづることをあらわす。 たち たいらなふだ)を組み合わせ糸(=いと)と扁(=うすくて 文字を書いた竹のふだを いと)と扁(=う

## か論・弁護士・熱弁・関西でんかんさい た、ことばづかい。「弁舌・ 弁え

って、液体や気体の流れを調節す 弁」2見わける。区別する。 ちこたえる。

ます。 りまいて、中のものをだいじに守る 自分の席を確保した。▼かれの人が に守る)を組み合わせた字。外をととりおむつにつつんて、たいせつ らについては、ぼくが保証します。 期間保存できる。▼長時間ならんで、 から心がける。マ冷凍\*食品は、長い ことをあらわす。 保証·保険·保障 ▼健康を保つように、 妹は保育園に通ってい 日ごろ

議会で、

質問に対する答弁を行う。 ▼弁論大会に出場する。▼

駅弁を買ってもらって食べた。

るもの。

べん。



ると、こ

5画 [卅・2画

9画

[1.7画

いにんべん

くにじゅうあし





地に続く ります。 使い方 参りに行く。▼お寺の裏に墓場があ墓です。▼おひがんには、先祖の墓 →古墳\*は、 基石に水をかける。 たせんだれの基がなると ▼基

をう覧を一墓 ててきた字。死んだ人の体に土をかれる)と、」こ れる)と、 さいていた ▼墓前に、花や線香\*地に続く道に、ひがん花がたくさん をそなえました 土(=つち)を組み合わせ 戸 (=太陽が草の

事。字のちしき

ぶせて見えないようにする、

のことをあらわす。

弁·保·基

合わせた字。

両手でかんむりをかぶ

アー弁 (=両手)を組み

るよう

すをあらわした字。

12画

こかいい

「貝・5画

るがボウ

は北東の風、

貿易港だ

南半球では南東の風は北半球で

になります

工貿易という

▼横浜\*は日本有数

たちりかり

胃一

質が

まどを

むりに開け

賀・暴・務

らわす

五年

との(=お金)を組み合わせててきた

相手からむりにもうけることを

中の物をとろうとするよう

す

おかホウ いかゆたか

13画 豆 · 6画 まめ

五

典書書書

曹

ゆたか。

豊富・豊漁・豊

いる。

1たくさんある

1

曲

のる。「豊年・豊作」 満してくもつがよくみ

方と豊かな才能にめぐまれる

7 「堤\*防」

防寒・予防・消防・防風林」2ていぼ「防衛・防止・防火・防犯・ように守る ふせぐ いかりがいを受けない ふかなぐ

防

防防

田地ボウ 7画 [『・4画 こさど・ん



復・果報」②知 ばつをあたえること。 由を守る。 究の結果を報告する いる えてしたがわせる)を組み合わせた わせた。▼正しい情報を伝える。 (=人をつかまなり) (|人をつかまなり) (|人をつかまなり) (|人をつかまなり) (|人をつかま 報告・報道・予報・情報・電報・報知復・果報」②知らせる いる。
のこたえる。むく 寺 つみをおかした人をつかまえて、 むくい マ親の恩に報いたい ▼正午の時報に時計を合いを報告する ▼報道の自 幸之幸 報恩・報 のちに「し 報報 幸 アラ

> っている。▼今年はさんまが豊漁(= この地方には、資源が豊富にねむ

部屋。▼池のそばに、危険防止のたを防ぐ。▼防音装置がほどこされたを防ぐ。▼防音装置がほどこされた便い方

豆満な(=肉づきのよい)美人の絵が たくさんとれること)だそうだ。

めのさくをもうける。

する。▼消費 ではの子防 ではの子防

きへ食べ物を入れる足のついたうつ ことをあらわす み合わせた字。 たち、地豆一生豆(豊)豆(=高っかざってある。>豊作をいわう祭り、かざってある。>豊作をいわう祭り、 わ)と丼(=二本のいねのほ)を組 作物を山もりにする

せててきた字。

てきた字。土をもりあげ、左右にはり出す)を組み合わ

つつみのことをあらわす

水の流れをおさえる

なり

車が、サイレンを鳴らしながら走る。 のために、うがいをする。>

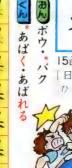
阝(=もりあげた土)と方(=

えしをする」いみになった。

15画

[8 - ||画

あんボウ・\*バク



くれつとめる

子

矛



暴

がけず急におこる。「暴発」③度をこ 暴露\*」 力・暴風雨・乱暴」を思い 使い方 している ▼暴力をふるうのはよく 「暴飲暴食」4あばく

易をしている ▼原材料を輸入

貿易風·貿易収支

貿易・貿易港・貿易商・

貿

物を売り買いする。

5

ムし

公刀

印

質質

使い方・日本は、

せた字。 ない。 たなり ちり して太陽にさらすようすで、 はやめよう。

人のひみつを暴く のほね)と った▼株価が暴落した▼暴飲暴 大字。動物のほねを両手で外に出はね)とり(=両手)を組み合わほね)とり(=両手)を組み合わり、「一大陽)と ▼暴風で庭の木がおれてし い」のいみをあらわす 食さま

あると

一画 [力・9画 ちから.



粉粉務務 義務・

任務・急務・業務・勤務・いこと。つとめ。「義務・

いるしなくてはならな

**務**だ。▼父は、 務だ。 務めた。 いる。 事務·公務」 ▼重要な任務を任されて 一年間、 児童会の書記

ている 意味、「勤める」は、 たち なり 努める」は、せいをだす意味に使う意味、「勤める」は、仕事につく意味をする。は、仕事につく意味 教(=困難をのりこえて進も うとするようす)とカ(= ち

ら)を組み合わせた字。

出する。

▼このコーヒー豆は、ブラ

リカに輸

余白」2そのほか。

「余病。余談。余

ジルから輸入したものです。

マとれ

たての野菜を、

▼大量の救援\*物資が、外国から空たての野菜を、トラックで輸送する。

された(=飛行機ではこばれた)。 輪」とまちがえないこと。

いるほかの所へはこぶ。

つかきつかけつうんかしはこぶ。「輸出

夢

迷子」

い。▼政治は、混迷(=先の見通しだ道。▼迷信を信じる人は、まだ多なと迷う。▼迷路のように入り組んかと迷う。▼迷路のように入り組ん からなくなる。 迷路・迷信・混迷・低迷・なんなくなる。まよう。 マブレゼントを何にしよう

いるどうしてよいかわ

14画 ハンといん 五

• 8画



迷迷迷迷迷迷迷 9画 [え・6画] しんにょう・

まよう \*メイ

要がうかんでいる。 綿。るこまかくくわしい 方・空には、 

帛

田山メン いわた 絲絲 綿綿綿

Ser L いるゆめ

夢夢 夢 夢

夢

夢夢

夢・正夢・悪夢・夢うらな ときに見る、ゆめ。「初 ときに見る、ゆめ。「初

を読んている。 だちが現れた。▼初夢で夢うらない 夢のようだ。 をする。 れ。「夢想・夢中・夢幻\*・夢物語」い。②はかないもの。また、あこ い方 夢の中に、なつかしい友 マ宝くじにあたるなんて、 弟は夢中でまんが あこが

だ道の

われて、 月)を組み合わせた字。やみにおお ちゅう 夢はく見えないひつ じの目)と、「(=おおい)とへ(= 「夢」のいみになった。 ものがよく見えないことか

ようにしよう、

▼迷子が保護された

なり すきだ。

常第線原

している。▼人に迷わくをかけない

成績が低迷(=ふるわないこと)

る。▼木綿のシャツのはだざわりが 功させるために、綿密な計画を立て

かない)の状況\*にある。▼最

なくなることをあらわす。 進んているとちゅうで、

~(=進む)を組み合わせた字 米(=小つぶて見えにくい)と

道がわから

きた字。

きた字。白い布をおる長い糸をあら(=メがつながる)を組み合わせてて

ラシュ 16画 [車・9画] くるまへん



日子田

7画 [人・5画 ひとやね



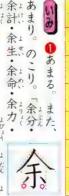
13画 [頁•4画

いかまる・あます



E CAR

いる。のこり。「余分・あまり。のこり。「余分・



罪·余興」③自分。 でい方 ▼試験まで、余すところー

とをあらわし、 と八(=左と右にわける)を組み合わ せててきた字。ゆったりと広げるこ (=そのほかの罪)をついきゅうする。 ▼もう話し合う余地はない。▼余罪 ▼校庭を五周しても、まだ余力がある。週間だ。▼余計な心配はよそう。 一年十二十五年おし あまるという

Va あずける・あずかる

人に保管してもら 予予予 預預

本を、返してもらいに行く。▼責任▼友だちに預けっぱなしにしていた すかる。「預金」 7。 あずける。 また、 あ せい方 子どもを保育園に預ける。 預

わたしが台所を預かる(=をもってお預かりします。 を作った。 き受ける)。 「預」と「予」をまちがえて使わ ○▼はじめて、預金通 根のですがりします。▼今日は、

てきた字。人数にゆとりをもたせる ないこと。 ことをあらわす。 たち あたま・人員)を組み合わせて 予(=ゆとりをおく)と頁(=

輸・余・預

る場所の品物をそっくり取り出して りぬくこと)を組み合わせた字。あ △11(=丸木舟のなかみをは物てく

てほかの場所に運ぶこと。

学のちしき

はぶく。「略ツ・略字・略 歴・略 式・ はぶく。「略図・略字・略 歴・略 式・ な・前・略・略 称 \*」 3 せめとる。 「攻\* 略・侵\* 略」

されている部分の内容を考えてみる。から家まての略図をかく。▼省略 から家までの略図をかく。▼省略もとの字を略したものもある。▼歌

計略をめぐらした。

▼漢字には、 めようと、

て待ち合わせをした。

使い方 ・ 弟をこらし

留学しています。マバ

▼バスの停留所 ペリカに

略ったんにする。いたですのでは、かんたんにする。

するではなりますでいます。 はた、とどまる。「留す・保学・留任・留意・留守・保

同じ所にとどめる。

留·残留·停留所」

便い方 ▼気付いたことを書き留め

いる・り考え。はかりご

哟

略

略略

**以** 

以几日

公田

紹

あるヨウ

10画

りかを入れる。ま 容容容容容容

[一·7画 うかんむり

るす。「容認・許容」●たやすい。「容な・容体・美容・形容」③ゆ 容積・内容」ですがた。か た、なかみ。「容器・容量・

る。▼話し合いの内容をまとめる。 をする。▼他人の過ちを許容する、広、▼美容と健康のために、ジョギング で (=くぼんていて、)。▼この問題は容易に解けない。

再

布

ては、 うに。 報等犯 を「犯」 の右側を 次のものがあり としな 「反」としないよ いように。 ます

で「カ」 「券」の下、「潔」の右上は「 ではあり ません。 7]

中に水がたまる谷)を組み合わせた

こと。

いらの入れ物の中に物を入れるからの入れ物の中に物を入れる

が 「灾」 となら

五年生の漢字の注意

書き順をまちがえやす 八角角角角解解 う汁汗活法減減 门門門再 漢次字

字体で気をつけておく漢字とし水 ・ ラオテ永 ・ ナオナ状状 右布 断断断

ように注意。 右側を「侖」 としない ない

に注意しましょう。「招待」を「紹待」 卒」、「成績」を「成積 を「正議」、 つじゅ 先・引率」などを「卒先・ 次の漢字の訓読みと送り く語の書き方に注意。 「謝恩」を「謝思」 としないよう 引

に出すことで、自分の考えや気もましょう。「表す」は中のものを外ましょう。「表す」は中のものを外ましょう。「現・表」の使い分けにも注意し てに出るときに使います。 める)。 れて かーらう)。「険」(けわーしい)。 仮名を確にんしておきましょう。また、次の漢字の訓読みと送り ちをしめすときに、「 「耕」(たがや-す)。「修」(おさ-「快」(こころよ-い)。 たものが見えるようにおも 「勢」(いきおしい)。 「逆」(さ はかく

がたを現す」 「よろこびをたい どに表す」

< おかりョウ 14画

[頁

• 5 画

いおおがいい

10画

(田・

5 画

おとリャ

田かリュウ・ル

くんとめる・とまる

||画

₩ • 6 画

留留 ンカ 田

りかしおさめる。「領 令 領领 領領領

領

収·受領

● 選手が本領をはっきして、大活した。 ▼仕事の要領をおぼえる。 領・本領」の受けとる。「領 土・首領・頭領・大統領② て、領収書をうけとる。▼品物はやくした。▼学芸会で使う物を買っからした。 いになるところ。「要

らわすようになった。 てきた字。きれいな首すじのことか たしかに受領しました。 種の「預」とまちがえないこと。 「たいせつなところ」のいみをあ 令(=神のきよらかなことば) と頁(= ~び)を組み合わせて

学のちしき

「電」はもともと「いなずま」という意味。それて、「毎(あめかんむり)」。

五年

略·留·領

畑を切り開いて、

横に通じる近道を

たち さないてとじこめる)と田(=なり 古い守し ……

古い字は「雷」。明(=外に出

くること。

のちに、

まわりくどい

数をはぶくといういみになっ

1:

どめることをあらわす。

た)を組み合わせた字。

一か所にと

たちる道を組み合わせた字。田なり田(『ナノときへ オー

田(=た)と各(=横につらな

せるときに使う。

るときに、「泊\*める」は、

宿泊\*さ

るときに、「止める」は、動かなく 参考「留める」は、同じ所にとどめ

す

# 六年生の漢字学習法

た年生では、一~六年で習う漢字を読むこと、一~五年の漢字を書き、を読むこと、一~五年の漢字を書き、文中で正しく使えること、六年の新出漢字百八十一字を少しずつ書くよ出漢字については、漢和辞典を新出漢字については、漢和辞典を

いでしょう。「功」「工」があります。いでしょう。「功」「工」があります。おった漢字を集めてみましょう。漢和辞典の字を集めてみましょう。漢和辞典の字を集めてみましょう。漢和辞典の字を集めてみましょう。 さった漢字を集めてみましょう。 でしょう。 「知」という漢字を学習したら、「知」という漢字を学習したら、「知」という漢字を学習したら、「知」という漢字を学習したら、「知」という漢字を学習したら、「知」という漢字を学習したら、「知」という漢字を学習したら、「知」という漢字を学習したら、「知」に対している。「功」「工」があります。

を表すのです。います。「エ」が「コウ」という音どちらも「コウ」という音をもって

「胸」という漢字を学習したら、今までに学習した「キョウ」という音をもつ漢字を音訓さくいんを使って集めてみます。「競・共・協・境・なん出てきます。そして、同じ「キョウ」でも使い方がちがうことを確っす」でも使い方がちがうことを確っけ、「胸」の使い方をしっかり理解認し、「胸」の使い方をしっかり理解します。

「吸」という漢字を学習したら、この漢字の送り仮名「すーう」のよこの漢字の送り仮名「すーう」のよう・祝う・使う・集う・思う・従う・救う・共う・使う・集う・担う・願う」などたくさんの漢字が見つかります。そして、これらの漢字に共通するのそして、これらの漢字に共通するのよい、意味として動詞の働きをしていは、意味として動詞の働きをしている。



## 六年生で習う字

優412 郷362 株 358 異 354 暮408 俳 403 奏 390 仁 385 縮381 厳 367 討 399 誕 394 376 372 遺354 勤 363 于 358 熟 381 磁377 372 368 宝408 班 党 399 段394 垂 386 412 筋363 巻 359 純381 座372 呼368 域 暖 395 354 413 408 404 399 390 386 377 看 359 <u>뒢</u> 系364 宇 届400 装 391 処 382 捨377 済373 誤 368 七 409 否柳 値395 寸 386 盛387 署 382 裁373 敬364 乱 413 忘409 難 層 391 簡359 宙395 尺 378 后369 映 355 批 405 危360 聖387 諸 382 策373 孝 369 警 364 延 355 卯 棒 秘405 乳 忠 396 若 378 覧 <del>Ⅲ</del> 374 劇365 机 360 沿 356 腹405 認 401 著396 蔵 392 誠 387 除383 樹 378 皇 369 410 我 356 裏似 幕410 宣 388 将383 収 379 蚕374 紅 370 激 365 揮360 奮 406 約401 臓 392 降 370 律415 密410 脳 402 傷383 宗 379 至 375 穴 365 貴 361 灰 356 並 406 存392 専388 頂 泉388 私 375 疑361 潮 尊 393 鋼 拡 415 402 397 384 379 370 366 357 衆 賃 398 宅393 城 384 姿375 刻371 吸361 革 357 閉 洗 389 415 411 407 従 380 視376 穀371 憲 366 訳 片 407 痛 398 担 393 閣 357 骨 371 源 367 縦 380 胸362 割 展 398 探394 善 389 針 385 詞 376 補 412 358

心持ち、「気宇」

宇宙」

は「堂宇・一宇」②大空また、それを数えること

音・異国・異人」2へんな。

異常·異

のこす。

のこる。

また、

小・異様·奇\*異」3特色があって、

同・異質・異性・異口同いない。「異状・異論・異

異

いみ

らす、この夏は、異常な暑さだ、

かれは、異色の俳優といわれる

ちがえないこと

をあらわす わせててきた字。

里

界

異異

< 12

おかイ・\*ユイ

- 12画

六年

しんにょう

日画

· 8画

「遺失物」②死んだあとに 曹 曹 貴 貴 貴 いるりかきわすれる。 貴

5 いるくぎられた土地 おんイキ

「地域・区域・領域・声域」また、かぎられたはんい

大きな工

志(=死んだ人の残した望み)をつい 便い方▼遺失物(=忘れ物、落と遺書・遺児・遺体・遺伝・遺伝・遺言」 し物)を交番にとどけた。▼父の遺 使い方くこの地域には、

は、 は、 は、 に達した。 ・川の流域(=川の流れ に達した。 ・川の流域(=川の流れ にきった地域)に、平野がひろがっ にそった地域)に、平野がひろがっ にそった地域)に、平野がひろがっ にきいる。 ・ 一川の流れ ら、或 万全域におよんだ。

で医者をめざす >遺産を相続する

=うけつぐ)。

遺\*」(=

人をつかわす)とま

「城」とまちがえないこと、 ty · · · · 域 主(=土)

所のことをあらわす

の目につくようなものを残して去る ことをあらわす。 たち 進む)を組み合わせた字。人なり 貴(=大きく目立つ)と、(=

わせた字。

手を差し出したからだの形を組み合

書かエイ

おかけ

6 画

[一・3画



おとエン

5画

~ のびる・のべる・のばす

延延延延延延延

いる。りうつす。 映 映映

いる・長くなる

のびる。

のは 広

「映画・映写・映像・

宇宇宇宇宇宇

●大きな建物。

▼焼い方 マタ田が水面に映っている ではえる。「反映・夕映え」また、にあう。はえる。「反映・夕映え」 した山々が夕日に映える がよく映る(=にあう) が故障して、 上映ってりかがやく 映像が出ない 白い服 紅海

堂・三重のとうなど、多くの堂宇便い方とこの寺には、金堂・講

使い方くこの寺には、

(=大きな建物)がたちならんている

宇宙のはてのことを考えてみる

ぼくのおじさんは、気守社\*大(=

心持ちが広いこと)な人だ

字」とまちがえないこと

がっているようす)を組み合 い(=やね)と于(=大きく

大きくて丸いやね

分けること。 た ち り どのように、「映す」と「写す」を使い」「映画を映す」「写真を写す」な 日(=太陽)と央(=「オウ」の 音をあらわす)を組み合わせ

長・延延・延焼・順延・遅、延・延す、おくれる「延期延 た合計。「延べ日数・延べ人数」 看」②かさなっているものをふくめ くなる。

なった。 同点のまま、試合は延れため、運動会は次の日曜日に延期にため、運動会は次の日曜日に延期にため、運動会は次の日曜日に延期にため、運動会とできない。 一日に延べ十万人の人がのりおりず、会議が延々と続く。▼この駅は、で、会議が延々と続く。▼この駅は、 たなり するそうだ、 (=進む)を組み合わせた字。 (=のはす)と止(=足)と気

などにしたがってつづ 少く。そう。「沿岸・沿道・ などにしたがってつづ 少く。そう。「沿岸・沿道・ なが、水水が、水水が、水水が、水水が、水水が、水水が、水水が、海沿い」 などにしたがってつづ 少く などにしたがってつづ 少く などにしたがってつづ 少く などにしたがってつづ 少く

沿岸漁業でさかえた。▼沿道は、

の絵は、

つく)と、

もう夜だった。

我」2ひとりよがり、

し。「我流・我田引水・自 いるのじぶん。

わた

方)です。

▼無我夢中で(=

-ドを見る人たちてい ~この電車の沿線は、

っぱいに

れて)がんばった。

とく

を二ひきかっています。

が強い(=ごうじょうだ)。

。水が道すじにしたがって流れる うへ流れる)を組み合わせた シ(=水)と台(=水が低いほ

った武器の形からてきた字。

味をあらわした。

らの名所として名高

移り変わり)を調べる。 細い道が続いている。

べる。▼川沿い

たなり

于一样一我

刃口

がぎざ

ぎざにな

ことをあらわす。

し広げていくという意味をあらわす。

川・道・時の流れ

[>・5画 (さんずい)

沿沿

おん \*ガ といわれ・\*わ

7画 [戈・3画] ・ほこづくり・

年

我我我我

6画

2画

ないはい

きか\*カイ

我我我

灰灰灰

灰色・灰皿・石灰・灰じ

使い方▼ふと我にかえる(=気が 我流(=自分かってなやり ます。 学 弟 は我をわす わたし 一石灰の粉で、 ▼石灰の粉で、運動場に白いライきれいなガラスの灰皿が置いてある。▼父の机の上に、にくもっている。▼父の机の上に、 に大きな被\*害がてた。>空が灰色 使い方 ▼落ち葉を燃した灰に水を

ンをひく

(=火)を組み合わ

の意味になった。 燃え残ったかすのことから、出しているようすをあらわり せててきた字。 は

手で燃えかすをかき している。

たちりラリー

14画 [門・6画] (もんがまえ)



のとカク

るかカク 8画 [才・5画 くてへん

きしカク

9画 [革・0画]

(かくのかわ)

V2 \*かわ

が大・拡張・拡散・拡声がなかった。 拡拡

かわの、

毛やあぶらを取

いめのはいだ動物の

りつばな建物。「天守い

天守閣・

閣

神社仏閣。2「内閣」の

略。閣議。組閣。

入閣

草草草草

革

革革

日

閉

ってやわらかくしたも

る。あらたまる。「革新・革命・変革」

かわ。「皮革・牛革」であらため

他い方 マ皮革製品をあつかう店。

社やお寺)をめぐり歩く、▼総理大四方をながめる。▼神社仏閣(=神四方をながめる。▼神社仏閣(=神田)をながめる。▼神社仏閣(=神田)をながめる。▼神社仏閣(=神田)をながめる。

新しい革ぐつをはいて出かけた。

器·拡充\* 使い方
▼もとの図を二倍に拡大し

設備の拡充\*(=設備などを増やし、サラウンドを拡張した。▼学校のグラウンドを拡張した。▼学校の 豊かにすること)につとめる。 のを大きくして見る器具)で、花のまま 大する。 つくりを観察した。 ▼生徒の数が増えたので、観察した。▼会のきぼを拡 ▼学校の

ー七八九年、

フランス革命がおこ

臣が、

新しい内閣をつくる。

大だした

悪いとこ

せててきた字。 に空間が広がるようす)を組み合わ 廣(=家のわくの中 もとの字は「擴」。 キ(=手)と 手てわくいっぱいに っぱい

をなめしたもののこと。 单-草-草

のおおいのこと。「革」は動物のかりでは動物・植物のかわ、

物的 わ

とを、

組閣といいます。

たなり

門(=もん)と各(=足がかた

ろをあらためること)する。 った。 |児童会を改革(=

びんとはった形からてきた字。 動物のか

ことて、

のちに、

る)を組み合わせた字。

のある、

高いごてんをあらわし

上部をささえる足

を集めて閣議(=大臣が集まってす

る会議)を開く 一内閣をつくるこ

使い方 ▼巻き尺でははとびのきょえることは。「一巻」

見やぶる)。▼それは看過する(=見なるを看板が、わたしの家の目印で大きな看板が、わたしの家の目印で

います

書物。「巻頭・巻末・上巻紙」②まきもの。また、

せわをする。「看護・看病」

看

使い方 となりのビルの屋上の

いる・「るない、看板・

看看看看看看看

いるりまく。「巻き尺・

卷卷卷卷卷卷卷

書物の「巻頭・巻末・

● はいる。▼古い巻き物が出てきた。 りをはかる。▼古い巻き物が出てきた。 りをはかる。▼古い巻き物が出てきた。

を、一晩じゅう看病してくれた は、かぜて熱が下がらないわたしなは、かぜて熱が下がらないわたしています。

集が出版された。

まね\*カツ 12画

[小・10画

リっとう

N わる・わり・われる・\*さく

害害

いるのいくつかに分 害害害害

いるり木を切りたお

割り算・割り当て・日割りる。また、きりさく 害

ける

▼バーゲンで、全品で割引きてす。とう大さじ一ばいの割合で加える。 きた字。刃物て二つに切りさくとい 割り・時間割り・割食・割りを分割・役り・時間割り・割食・割腹・分割・役 たちとり(=刀)を組み合わせててなり害(=1カツ」の音をあられず 会う。マ時間がないので、 た。

いそがしい時間を割いて人に 使い方▼あやまってガラスを割っ 愛(=おしいと思いながらはぶく 害(=「カツ」の音をあらわす) ▼ たまご一個に、さ 話を少し

こと)します。

株主·株式会社」 また、株券を数えることは「株券・分け・二株」の「株式」「株券」のこと たしるしの書類)を持っている。 父は株券(=その会社にお金を出し す。▼きくの株分け(=親の株から 「切り株」2草や木の根したあとに残る根もと 人のお妹(=とくいなこと)をうばう、 使い方▼木の切り株にこしを下ろ また、草や木を数えることは 木(=き)と朱(=木の切りか 株常

くわかぶ

10画

田かカン

くん ほす・\*ひる

干干干

関係する。「干渉\*」 と)するのはよくない。 行動に干渉\*(=横から口をだすこみちひき)の差が大きい。▼他人の なり っぱい梅干しを食べる。▼日照りが便い方▼洗たくものを干す。▼す このへんの海は、干満(=しおの つづいて干害のおそれがててきた いるのかわく

ソート 先がふたまたにな

う意味をあらわす

ぶ)を組み合わせた字。

「かかわる」の意味をあらわす。 てきた字一敵をついたり、 たりするどうぐのことて、「おかす」 身を守っ

簡 18画 「\*\*·12画

1 むかカン

おかカン

もかカン

9画 目

4画

9画 [己·6画]

(おのれ)

くかまく・まき

はの「簡単・簡略・簡素・簡 いるのでがる。大さっ 簡

潔りまれ。「書簡・木簡」 るべく情深に(=簡単にまとめて)書 けのない)生活を送る ▼感想はな いてください。▼外国の大統領か 「「「「「「」」」」」」。 たんたい もんだい かずまま ▼簡素な(=簡単でかざり

ずった竹のふだを、すき間を空けてる月)を組み会れず、 が日にかわって「簡」となった。 ならべてとじたものをあらわす。 る月)を組み合わせた字。 ら日本の首相に書簡が届いた。 と聞(=門のすき間から見え もとの字は「簡」。 ~ (=たけ)

組み合わせててきた字。 学用・看学(=手)と じっとよく見ることを 手を目の上

あらわす。 にかざして、

巻・看・簡

ことをあらわす

とべ(=両手)とろ(=かがんだ人)を

組み合わせた字。かがんて両手をま るめ、ちらばろうとする物を受ける

智養-卷(巻)をまと

3画 [干·0画]

ひる.

衣すことは。

あなたの。

貴兄・貴

信半疑しにている。

·貴社·貴国」

あることばにつけて、尊敬の意味を族・高貴」②相手に関係の

里・貴金属・貴婦人・貴

貴

危機・危急・危害」

また、

み合わせた字。

ようす)と見(=

たなり

肾一

と見(=お金や品物)を組とり(=お金や品物)を組まれた。

Val あぶない・\*あやう [0.4画] 安144

あぶないめにあわせる。 危危危危危危 いるあぶない。また、 あやぶ

危

あやぶむ。「危険・

使い方▼危険な場所で遊ばないこ とば)・勉強

しそうもない理 (=頭の中で考がながながないない) らんください

状態(=今にも死にそうな状態)だ。

▼病人は昨日からずっと危篤\*

を書を加える(=人を傷つける)。

危ういところを助けてもらった。

たなり る台をあらわす。 木(=き)と几(= み合わせた字。 書きものをす 木の台)を組

ことをあらわす

がみこむことをあらわす。

あぶないがけに来て、

と下にしゃがんだようすからてきた

なり

定-危(危)

計画の実現が危ぶまれる。

おか\*キ くんつくえ

いかつくえ。 紙で、相談机

手の名前の下にそえること・机下(=手紙で、相 妹は小学校の入学祝

た。▼机上に配布したブリントをごに、新しい学習 机を買ってもらっ

6 画 2 画

[ ‡ 9画

2画

おかき

### た字。 ガソリンなどの液体がふつうの温度して(=表に出して)優勝した。▼ なり マベンジンは揮発性の強い液体だ。 て気体になることを揮発とい ▼自分たちの力を思うぞんぶん発揮 地の復旧作業がすすめられている す。また、外にとびちる。「発揮・揮発 る。「指揮」②外にあらわ 手をまわしてさしずす いるのふりまわす。 ▼市長が陣頭指揮をして、水害いた。▼ホーケストラの指揮をす 才(=手)と軍(=ぐる わりをかこむ)を組み合わせす(=手)と軍(=ぐるりとま 円をえがく 揮揮揮揮揮 ように手を動かす ます。

るかギ 14画 [疋・9画] 信 252 くひき

疑疑疑疑疑 くいうたがう 疑疑

口

すいこむ。

くんすう ありキュウ

6画

口·3画

(くちへん)

**▼№**\*たっとい・\*とうとい・\*たっ

12画

[貝·5画

貴貴貴貴貴貴

しむ。「疑問・疑心・疑心・疑問・疑心・疑問・疑心・疑問・疑心・疑心・疑い・疑い・疑い・疑い・疑い・ まぎらわしい

収·吸引

とりい

「疑似」 たら、疑似赤りとしんだんされた。 ▼おなかをこわして病院に行

**貴重な選手だ。▼貴** 

かっている店。

冬山登山で、貴い をかとれる

実に黄貴

ムにとって

(=あなたの会社)の製品は、体験をした。 真理を食ぶ。

子どもが気になって進めないことで も)と火(=足)を組み合わせた字。 を振り返るようす)とり(=子ど ちりかせ、ままって、うしろなりのせ、まれに一人が立ち うたがいためらうことをあらわす。

吸いいいるの「吸 いるすう。

い知識を吸 見てこわくなった。▼大自然の中でを吸入する。▼吸血鬼\*の映画を よく吸います。▼本を読んて、新しよく吸います。▼本を読んて、新したがないます。▼本を読んて、新したがない。 思いきり深呼吸をする 機は吸引力が強い。 あるものにとどいて、 組み合わせててきた字。 口(=くち)と及(=とどく) 着。呼吸」 収する。 ~このそうじ 大病人に酸素 口

をあらわす。「及」は、

また、その人。とも

供述・自供、4人につきしたがう供給・供養」。2さしだす。

いる。「そなえる。「供

供

に勤めています。▼この会社の勤務を使い方 ▼父は、食品関係の会社の情報の会社の情報の会社の情報の会社の情報の会社の情報の表社の情報の表社の情報の表社の情報の表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を

に勤めています。

こなごなになること)と力(=ちか

ね)を組み合わせててきた字。

ひきしまったきんにく

を出しつくしてかわききり、 もとの字は「勤」。董(=

水

ら)を組み合わせた字。

力を出し

してこまめに働くことをあらわす

をあらわす。 すじばって、 供供 供

供供

胸胸胸胸

胸胸胸

V むね・\*むな おかキョウ

10画

[月

(にくづき)

• 6画

あかき

3

ウ・\*ゴウ

||画

[ ]3

(おおざと

8画

気持ち『胸中・度胸・胸囲・胸像・胸元』2小で

いなか、

郷

いめ・地方

学校には初代の校長先生の胸像 ▼身体測定で胸囲をはかったり ▼胸いっぱいに息を吸いこ ▼事故て子どもをなくした遺 ~胸元にペンダント しこと から る土地の習慣にしたがうのがよい、に入っては郷に従え(=住もうとす

んだ。

があります。

胸さわぎ」

たなり 育った故郷をなつかしむ 育った<mark>故郷</mark>をなつかしむ ▼正月だいう意味のことわざ)。▼生まれ には帰郷する予定です。

界-鄉(郷)

々の意味になった。

れたからだの中の大きなあなて す)を組み合わせた字。骨にかこま

むね」をあらわす

をあらわす。

ててきた字。「そなえる」という意味をち えてささげる)を組み合わせ

イ(=人)と共(=両手をそろ

なり んは、 族の胸 光る。

だあなを外からつ 月(=からだ)と匈(=

つんだよう

くぼん

店に行った。

→日曜日に、

父のお供て理髪\*

度胸がすわっている。 中を思いやる。」よ

のした悪いことを白状すること)す

んて向かい合う二人から、向かい合もったうつわ)との(=二人の人) ちそう を

ことばの知

・ニ字の熟語のできかた。 漢字三字の熟語のできかた。 漢字三字の熟語のできかた。 漢字三字の熟語のできかた。

たもの 字をつけ 0

宇宙人

にすること) な性に質っ な性では、 がんできせい がんできせい がんできせい

無む未み不ふ非ひ打テ の字 消け記書 たれし 録で 無む未み不止非ひし録る意い完ま可か公うの識し成芸能の式を漢れ高う 

漢)字クイス 🛂

「少ない石」を何という?

12画

(ちから

[カ・10画

きんキン・\*ゴン

Va つとめる・つとまる

くかすじ あやキン

12画 [44.6画] (たけかんむり)



MA 筋筋筋筋

●からだのすじ。 角力

②細長、もの「筋金・鉄 「筋肉・筋骨・筋力・腹筋」 いみ

「勤務・勤労・勤勉・通勤」「勤務・勤労・勤勉・通勤」

堇

●つとめる。

は

节

華

華

華

勤

語の続きぐあい「筋書き」 筋」4ものごとの道理。 筋」3ものごとの道理。「筋道」3物筋」3長くうけついているもの。「血

動にがんばっています。▼筋道 リート建ててす。▼かれは野球一内がいたむ。▼校舎は、鉄筋コンクでは、大阪ののあとて筋になった。 物語の筋(=あら筋)をまとめる。 が(=たけ)と助(=あばらぼ れは野球ー

電車は、通勤客でひじ れはとても勤勉な人です。 時間は九時から五時までです。

▼おじが、北海道に転勤 客でひじょうに混み

▼朝夕の

することになりました。

合います。

③二字の熟語の

一字をつけ

演劇・悲劇・喜劇・新劇」

・劇化・劇的・劇作家・

康

劇

家康康康康

康 康

もかゲキ

日かゲキ

るん\*ケツ

5画 〔穴・0画〕

(あな)

VM あな

16画 [>·13画]

くさんずい〉

んはげしい

15画 [1]

•13画

(りっとう)

に入っています。▼わたしは悲劇よした。▼姉は中学校の演劇クラフ

した。▼姉は中学校の演劇クラブ便い方▼新しい劇場がオーブンのはげしい。「劇楽」

あの銀行の系列(=つながりがあるだてて話してください。▼おじは、 る集まり。「太陽系・理科系・文科系 系・母系」2つながりのあ 使い方 ▼もっと系統(=すじみち)

糸)を組み合わせててきた字。 たなり あらわす。 つないていって、 るのか・「なし」とのか(=引きのはす 長くのはすことを

心に回っている。▼太陽系の星は、

太陽を

敬できる人です。

をする

敬(敬)かにの

が家の家系をたどると、昔は武家だ

こと)の会社につとめている。

: | **V** | 我ゎ

語を使う

7画 〔糸・1画〕

(V1Z)

敬敬

くんうやまう · 一 一 一 一 带

また、

敬言

注意して用心さ

苟

苟

敬敬言

敬敬

田心ケイ

〈ぼくにょう〉

12画 〔攵・8画〕

田かケイ

19画

(いう)

•12画

K h

を敬遠する。▼あの人は、心から尊日は敬老の日です、▼四番バッター いつも敬服している。▼九月十五 上の人と話すときは、敬 夜警」 報・警備・警察・警官・警護・警視庁 3 せる。 いみ 報が出た、 > 警備が厳重なビル、 使い方 ▼地しんの後すぐ、津\*波警 荷の方とある まもる、「警告・警告・警告・警告・警告・警告・

の記号)とあり(=ことば)を組み合の記号)とあり(=ことば)を組み合いようにする)とより(=動詞のののにがないようにする)とよりを組み合きにする)とより(=動詞のにないようにする)とより(=気がひ) するどい警笛を鳴らす くおじさんは警察官です。 ▼列車が

させることをあらわす。

つのにふれてはっとおどろくことか (=動詞の記号)を組み合わせた字 つの)とで(=人)と】(=口)と上入

かしこまることをあらわす。

はげしい」という意味をあらわす。 シ(=水)と敷(=強くう 組み合わせた字。 しぶきをあげることから、 水が岩にぶ を、 ゴム つ)を

とても危険です。

時代劇を見ている。▼これは劇薬で、

喜劇がすきだ。▼祖父がテレビて

す「激」を使う。「劇」を使うのは、ふつりでは、なっては、ふっている。「はげしい」の意味では、ふっぱいない。

劇薬」だけ。

はけしい。「激流・激論・はけしい。「激流・激突・激怒・ 激激激激激激激激激 激

いる。 あな。 「穴居・穴ぼみ。 あな。 「穴居・穴

いめの地面などのく

4

いきおいが強い

わってきた。

激流の中 使い方と激しい雨に、 冷えこんできた。▼夜になって、 に生きようとする主人公の姿に感激をの困難にあいながらも、必死 激励\*•感激·急激·過激 トでくだっていった。 ▼激戦の トでくだっていった。 ▼激戦の い風も

蔵・墓穴(ほけ・はか)・節穴」②

かけているところ。また、人に知られていなくて、思いがけない利益を れていなくて、思いがけない利益を うむことがらや場所。「穴場」 一度い方 > うら山にほら穴がある。 一度い方 > うら山にほら穴がある。 でがあったらよりたい(=とても でがあったらなりたい(=とても ではずかしい)。 > 墓穴をほる(=自分 はずかしい)。 > 墓穴をほる(=自分 -ムはキーパーが穴(=欠点)だ。 と自分の身をほろぼす)。▼あのチ (=家)と八

てつくった大むかしのあなぐらの家 ク(=左右に分ける) 土をほ

を組み合わせててきた字。

をあらわす

劇・激・穴

い」という意味をあらわした字。

(=刀)を組み合わ 慶(=とらとい

It

のしし)とり

ること)です。▼以前からこの地方すまは絹張り(=絹の布がはってある。▼このふ

の人の人権を尊重する。

ては、上質な絹織物が作られていた。

额

1

か

いこからとるきぬ糸が(=かいこ)を組み

- 年(=か、ことの

をさくような女性の悲鳴が聞こえた

街道(=シルクロード)という

八个運ぶ商人が通った道を、

興味を持つ。 と資源を大切にしまかのぼる。 人類の起源についてかのぼる。 人類の起源についての流れ出る源まてさ

禁・厳守・厳密」

たなり

(=がけの下の \*\*(=水)と

ちがえないこと、

合わせた字。「こ

す)を組み

「みなもと」のこと。

また\*ケン くれきぬ

絹絹絹絹絹

13画 [4 · 7画]

いとへん

絹絹

絹

その

かいこのまゆか

糸でおった布。日

糸でお

「絹糸

(いん・はぬ)・絹布・絹織物」

使い方と昔、

中国の編

をヨ

使い方 ▼正当な権利を主張する 満の人には選挙権はない、 力・権利・権限・権勢・権を自由にてきるカー「権 ▼政治の実権をにぎる ▼二十才未 威\*·実権·特権·選挙権·所有権」2

はかりのおもりの意味になり、 わせた字。木の名前をあらわしたが一種(=音をあらわす)を組み合なり。もとの字は「權」。木(=き)と たもの)のような人。 いをとる力の意味になった。 たが

あかケン・

15画

\*ゴン • ||画

16画

(こころ)

[心·12画

り人やものごと 権権

憲憲憲憲憲

憲憲

5 またケン

いみ

●基本となるき

憲

化(=仮にすがたをかえてあら 神なの権が ▼すべて わ その行為\*は達\*寒(=寒法に反す ▼五月三日は、憲法記念日です ▼とづいて行われる、立憲政治です。 るためにつくられたきまりです。 児童憲章は、 憲・立憲政治」2役人。 まり。「憲法・憲章・違\* た、警察官「官憲」 使い方・日本の政治は、

児童のしあわせを守

憲法にも

こと)だ。

もの)との(=目)

たり 像一憲

心にわくをかぶせて、わがまとや(=心)を組み合わせた字。 わがままを

させないことをあらわす。

をあらわす 合わせた字。

▼規則を厳守す きびしくとり 口 Y 0

一定と

「七日ぶ

は、

とのな

「四年ごと」は、四年では、日が間に三日入る。ない日が間に三日入る。ない。

そのこ

四年だに

厳厳厳厳厳厳

うす。「厳然・厳粛\*・尊 いるのおごそかなよ

・原泉・起源・資源・水

とても厳格な人だ。▼戸じまりを厳北国の冬は、長く厳しい。▼祖父は 使い方・厳かに式をとり行う。 かうのは厳禁てす。 重にする。▼この部屋て火をあ ▼厳密な調査を行う。

だ。マパソコンの電源を入れる。 水源地のダムの水位が下がったそう

しょう。▼何日も雨がふらないせいて、

まし「原因」「原案」などの「原」とま

たち 二つ)と版(=いかつく、なりもとの字は「巖」。四(= いかめしいことはて、 しりしている)を組み合わせた字 まることをあらわす。

日をふくまないの日をふくまない。

、まない

原

13画

[>・10画

厳

日ルゲン・ゴン

17画

[ツ・14画

くん\*おごそか・きびしい

(さんずい)

くれみなもと

源

源源

■まちがえやすい数えかた
は、数えかたに注意しましょう。
には、数えかたに注意しましょう。
いば、数えがたに注意しましょう。
・以後(=以降) 「十日以後」は、
十日をふくむ。
・以前 「十日以前」は、十日を 以いふ う前まぶ t t 「今日から三日 五 以い内容 は 前表 五人を は、 今ま

たななで 今によった。 うこともの 漢字クイス

\*変をアラワすは「現」。では、本をアラワすは?

未満に

「二十才未満」

は、

二にじっ

オをふく おき

のことしか考えない利己的な人だ。

おはは、知己(=知り合い)をたよ

ってイギリスにわたった。

マ己の

使い方 \*皇后陛下(=今の天皇の

太だる きつ

天皇の妻。きさ

皇后・皇太后・太皇

后后后后后后

孝孝孝孝孝孝孝孝

K おかコウ

1

コウ・オウ

9画

白

4画

1 るかコウ

6画

7画

4画

[口·3画

3画 [己・0画]

(おのれ)

コ・\*キ **5心\***おのれ

いとい

己己己

おのれ。「自己・利己・知のしい」 方、新学期に、

しょうかいをした。▼かれは、自分 みんなて自己 使い方▼校門のところで、

「み」)や「已\*」(=「すでに」の意味を配し「巳\*」(=十二支のへびの 力の限界を知る。 しになる形からてきた字。 かれたもようのうち、 もつ)とまちがえないこと。 - N-N-土器にかしの とくに目じる きく深呼吸した。 へとのぼり、

10 S

8画

誤

↓ 正80

14画 [言・7画] くごんべん >







BANT

~ あやまる



語語點點點誤

いるのよぶ

呼呼呼

また、

まちが

誤

水2000をはく。「呼気・呼吸」、小2000をはく。「呼気・呼びい・呼びい・呼びい・呼びい・連

やまる。 いる まちがえる。あ

となりのクラスでも運動が開始されている。 遠足で、集舎したあとないのクラスでも運動が開始されてなりのクラスでも運動が開始され ▼わたしたちの美化運動に呼応して、てくれるよう、みんなに呼びかける。 い人に呼び止められた。

協力し マーザ (=息が下から上)となる 知らな 思わぬ誤算(=みこみちがい)だった。 です。▼この作文には誤字が多い答えを誤る。▼それはあなたの誤解 悪かったと、わびる意味の ことばの誤用を集めてみた。 した。 きのうの事故のニュースは誤報で 便い方・問題を読みまちがえて、 誤報·誤算·誤植·誤用」 「誤解・誤字・誤差・ >五人しか集まらないとは、

を | 世大 | 日、| 100 (= ことは) あやまる」は「謝る」と書く。

ハの字のように、

ちら

ちがうことを言う)を合わせた字。

ばるようす)を組み合わせた字。

ることが多い。だから、親は生きて思うころには親は死んでしまってい持ちがわかり、親を大切にしようと 親はなし(=少し年を取って親の気評判です。▼孝行のしたい時分に評判です。▼孝行のしたい時分に う教え)。 又母に孝養をつくす。 いるうちにだいじにしなさい、とい 「考」「老」とまちがえやすい。 い方

かれは親孝行だと近所で 親を大切にしようと

くさま)のおすがたに接する。▼天ただく)。▼皇太后(=前の天皇のおただく)。▼皇太后(=前の天皇のおただく)。▼皇太后(=前の天皇のおんだく)。

あたる方を、太皇太后という。あたる方を、太皇太后という。

皇陛下(=今の天皇)のおばあさんに

るという意味をあらわす。 老(=年寄り)をりゃくした少 と子(=こども)を組み合わせ 年をとった親をたいせつにす

后・孝・皇

に「きさき」の意味になった。 こから「うしろ」の意味になり、 にあるおしりのあなをあらわす。 せててきた字。人のからだのうしろ

すること。「孝行・孝心・

孝養・親不孝」

2 皇族・皇后・皇子・皇女・ 皇皇皇皇 「皇居・皇位・皇室・



皇皇皇

の広場は、 皇太子。天皇。上皇·法皇」 客てにぎわっていた。 使い方 ▼皇居(=天皇のす 外国人も混じった観光 天皇になった。 ▼皇太子が

参考「天皇」のときは、 皇位をうけついて、 り、「テンノウ」と読む。 レビ番組を見た。 ▼皇室の最近のニュースを伝えるテ 発音が変わ

人)を組み合わせた字。 自王・皇と王(=い大な いちばんは

じめの王のことをあらわす

ぎり、とき。

時刻·定刻·夕

使い方▼ぼくのおじは彫

\*刻家で

苦・深刻」3時間のひとくぎりひとく

きざむ「刻印・彫\*刻」2

いみ

りはりつける。

亥

亥亥

刻刻

くかきざむ 田心コク

8画

[1] •

6画

きびしいっらい。「刻

う遅\*刻した。

刃)を組み合わせててきた字。

ちょうど正午だった。マ会

目を入れることをあらわすかたいものに、刀でかどば

刀てかどばった切れ

こくもつの実をあわらす。

合わせた字。

かたいからをかぶ

いから)と禾(=作物)を組み もとの字は「穀」。 製(=かた

ヨショウ・\*ク Va べに・\*くれない

糸 糸 糸 糸 1あざやかな赤

花・真紅」2~ちびるやほおにつける ·紅顔·紅茶·紅潮·紅、色「紅白·紅葉(110·41

ときだけに使う。 たかう いた。 多考「ク」の音は、 けて母の口紅をつけて、 真紅のはらがさいている。マふざ 使い方 > タ日が空をべに。「口紅」 ▼山の秋は紅葉が美しい。 「真紅・深紅」の 紅にそめて しかられた

の色をあらわす 糸(=いと)と工(=「コウ」の 音をあらわす)を組み合わせ べに色にそめた糸、

るが、

おとコウ

10画 7画 乗177

いかりる・おろす・ふる

ランコウ

10 \*はがね

いるのおりる 降降降 降 降降

錮鋼鋼鋼

きたえて質をか

降下。降格。降板。

下降・乗降 2小る

したがう。

参考 「降」には「くだる」の意味もあ 降参した。▼六時以降は家にいます。 雪量がみこまれます。▼カつきて 「くだる」は「下る」と書く。 マパラシュートて降下 かなりの降 しきる。 は順序 降 鋼·鉄鋼 なる鋼鉄が運びだされる。▼製鋼工場から鋼材(=物をつくる材料と いこと。 りは昔から、 所のえんとつが見える。 はがね「鋼鉄・鋼材・製たくじょうぶにした鉄 「綱\*」「網\*」「鉱」とまちがえな てきた。 便い方 (頭のような肉体の人。

鉄鋼の町としてさか

▼このあた

今夜から明日にかけて、かする。▼冷たい雨が降り

よくしよう。

参・降伏\*」4のち。 雨・降雪」るまけて、

以降

方と電車の乗り降り

雪量がみこまれます。

た ち り をあらわす。 せててきた字、 金(=金属)と間(=高くて

金属のはがね て平( わ

『(=おか)と年(=下を向 た両足)を組み合わせた字。

送りがなに気をつけること



10画

(ほね)

[骨·0画]

|4画

[拜·9画





プロツ

K

るとコク

穀・雑穀・米穀」2こくも 麦など。「穀物・穀類・五 穀

量が多い、文の出身地は、 他い方 くこの地方は穀物の生産つのつぶ。また メリ をおおっているかわ)とにている。 参考「殺\*」(=動物や植物の外側 り取りながら脱\*穀する機械です。 ことです。

マコンバインはいねをか 五穀とは、 穀倉地帯として有名な所です。 米・麦・豆・あわ・きびの 脱業製

刻みにバスがくる。▼時計を見ると、割の通学時には、五分している。▼朝の通学時には、五分している。▼朝の通学時には、五分

といほね 月日 冒

りからだを形づ H 骨 骨骨

くるほね。「骨折・骨格・ 骨

骨肉・背骨・人骨・白骨・

ことを組み立てる中心になるもの 遺骨」とからだ。「骨身・老骨」るもの

骨·反骨 本たかい思いやりが骨身にしみた。▼仕事の骨体めに、温泉に行く。▼ ▼計画の骨子(=おもな内容) **大** 

たりでで- 骨 とり(=にく)を組の関節) 骨をあらわした字 み合わせた字。 骨のある(=信念をつらぬく)人。 からだのしんにある

気性。「気

「骨子・鉄骨」個人がら。

答え。〒。

16画 〔金·8画

かねへん

ガソリン代が安い、経済的な車が発に助け合う組織)に入っている。▼気は、共済組合(=おたがいる。▼

表された。

マテストが済んて、

る。

合」2おわる。すむ。ま

た、おわらせる。すます。「決済・返済」

きり決める。

さはく、「裁判・裁決

のごとのよしあしをはっ

裁断·裁縫\*·和裁」2も かかり布や紙を切る。

裁量・独裁・制裁・仲裁」の「裁判所」

「▼困っている人を救済す

の略。

「地裁・高裁・最高裁」分形。よ

者は裁判所で裁かれる。▼自分の裁して、「体裁」、「本を裁つ。▼法を破ったうす。「体裁」

いか

● かきまた 済組

斉

いう。

くかすむ・すます

済済済

済済済

きかか

おかサイ

あかサク

12画

44 .

6画

12画

〔衣・6画〕

\*たつ・さばく

一画

[>·8画

(さんずい)

たちに、

ととのってそろう意味をあらわす、 川の水量をととのえることから、 す)とシ(=水)を組み合わせた字。

とをあらわす。

なり

こぼこがなり もとの字は、

そろっ

たよう

齊(=て

全部返済した。

だぶんきいっとしている。▼借りていたお金を、

ンとこまる

くるしみなやむ。 困 困 困困

と災害にあい困っている人 と 「困難・困苦・困

惑\*・困窮\*・貧困」

こまる、

何かしてあげたいと思う。 のようにこまかいつぶ。「砂糖」 砂鉄・砂利・土砂2すな砂山・砂浜・砂上・砂金・ 1まなで「砂場・砂金・砂金・砂金・砂金・砂金・砂金・砂金・砂金・砂金・

さいだ。 さんついた、一、砂時計で時間をはかれたら、砂鉄がたく さいだ。▼コーヒーに、砂糖をスプ大雨でがけがくずれ、土砂が道をふままま。 ちがままごと遊びをしている。 使い方▼公園の砂場で、 ンて二はい入れる。 ▼美しい砂浜\*を散歩する。 子どもた 磁

界には、まだ貧困に苦しむ人々がた ない質問をされて困惑\*した。>世

因」とまちがえないこと

木(=き)と口(=かこむ)を組

さんいる。

の栄かんを勝ち取った。▼思いがけ

困難をのりこえて、

つ

に優

勝

のつぶをあらわす。 こまかくなるまてけずった、 する)を組み合わせててきた 石(=いし)と少(= 小さく 17

とれなくてこまること。

しばったようすをあらわす。

動きが

なかにおしこんで、動かないように

み合わせた字。

木をかこいの

おとサ・\*シャ

9画





10画

くまだれい

[广·7画]

刷 砂

くいすな

座座

座座

また、

后

石

田とず 座座座 くれ\*すわる いるりすわる

集まり。また、その名前を表すこと 名前につけることば。 なまえ 「星座・白鳥座」 割団や劇場のは、「星座・白鳥座」 割団や劇場の わる場所。 座席・座談

座です。▼かぶき座へ、しばいを見楽して聞いた。▼オリオン座は冬の星座して聞いた。▼オリオン座は冬の星楽がまた。▼ に行きました。 座-座 | 座席指定の前売り券を予 が向き合って、 #E (= 土之人

(=家)を

たなり 組み合わせててきた字。 の上にすわるようす)と广

地裁(=地方裁判所)に勤めている。 ■でものごとを処理する。▼父は 組み合わせた字。 智表-裁 ▼体裁ばかり気にしていてはだめだ。 布地をたち切るこ \*(=たち切る) とくで(=布)を

裁裁裁裁裁裁裁裁裁

対策・万策・得策・失策・大流、策略・ いる 方法、「策略・ 策 策策策策

散策

回りするほうが得策だ。▼野山を散まれる。▼各党の党首が政策(= 政治による。▼いっそ遠路は、「のない」といいのでは、これでは、これのでは、こ と)にはまった 秘策」2つえをつくこと。 策する(=ぶらぶら歩く)。 使い方 | 敵の策略(=はかりご >災害の対策を立

のこと。 たちり ざしたむち、 るえだ)を組み合わせた字。 第一第一年 1 竹のたんざくに書いた計画 または、 (=とげが出てい 竹のたんざく ぎどき

「腹いっぱい」の「腹」、へんは「つきへん」か「にくづき」か?

書の意味をあらわす。

所に見られる。

▼このままでは負

使い方<br />
▼さくらの木は、全国至る うに。「至急・至近・至難・至極」 ②この上もなく。 ひじょ たる。「必至・夏至・冬至」

ひか

くれいたる

6画

くいたる

10.20 S

Par >

9画

[女・6画]

かすがた

姿姿姿

いわたくし

[至·0画

3画 [ \* .

公 93

至

至

至至

至

おんサツ・\*サク

刑

冊子・別冊・分冊・短冊 いるの書物 書きつ 書物

た。▼七夕には、別冊 録を小さな冊子にまとめた ▼雑誌でした。▼祖父は、自分の人生の記 2書物を数えることは、「一冊・数冊 いてささの枝に下げます。 学級文庫の本を五冊読んだ。 別冊の付録がついてい 短冊に願い ▼夏休み を書

終されていたです。 竹や木のふだをひもて横につないだ 字を書いたことから、 あらわす を書いたことから、書物の意味をからてきた字。むかしはそれに -册(冊)

5画 [门·3画]

室・養蚕」 かいこ、「蚕糸・蚕」

がさかんに行われて、からはすいがさかんに行われて、 が聞こえる。▼この地方は昔、養養へわの葉を食べるざわざわという音 使い方・蚕室で、 たくさんの蚕が

と書き、土地を高く、階段のようについまさ、土地を高く、階段のようについます。 る状態などを表す字を作ります。

あらわす。 こんで葉を食べる、 合わせた字。 たなり もぐりこむ)と虫二つを組み もとの字は「麩」。替(= くわの葉の間にもぐり かいこのことを

もとサン

10画 〔虫•4画



「こざと(へん)」、右側につくときは「阝」が、漢字の左側につくときは「阝」が、漢字の左側につくときは

蚕

す。生糸から絹糸ができる。 さいまいとがの幼虫が、糸を口いたまり出した糸を「生糸」といるようにはき出してつくったまゆを熱湯

ります。

郡

土」「階段」などに関係のある字を作るがだれるというない。

# 不 香 香 香 香 香

うのはなぜでしょう。 おおざと」といい、

よびかたがちが

「おおざと」は、

味を表した字です。地名や、住んでいま、王様がおさめる土地(領土・村)の意味を表した字です。地名や、住んでいまない。ま、王様などがおさめている土地と、き、王様などがおさめている土地と、 としている土地と、王様などがおさめている土地と、土様などがおさめている土地と、

村)の意

●「おおざと」の漢字… ・「こざと(へ 陽. 

防雪 際い 階か 障。

(=公共のことと個人的なこと)を混れて会議を欠席した。▼かれは私あって会議を欠席した。▼かれは私めてお宅へうかがいます。▼公和りのでは、 同(=まぜこぜにすること)しない 有」②ひそか。ないしょ 事·私用·私鉄·私製·私心·私情·私 の分をかかえこむ意味をあらわす。 たこむようす)を合わせた字。自分をち (=自分のものをうててかか うに、▼授業中の私語はつつしもう 使い方と私のほうから、 禾(=とり入れた作物)と、ム 「私語」 あらた

たなり

かがめる)と中(三女)を組み合わたり

大至急うかがいます。V至難のわざ ようす)だから、選手を代える。 けるのは必至(=かならずそうなる

(=ひじょうにむずかしいことがら)

多女-望-至が下に向は

自分だけのこと。

自分

私財。私物。私

いみ して、

1公・全体に対 · 元元

かたっ いか 態·容姿·雄\*姿·後ろ姿」 次女次女次女次女 姿見・姿勢・姿 からだつき

き)を保つ。▼祖母が、安見(=全身をうき)を保つ。▼祖母が、安見(=全身をうきしい容姿(=顔だちとからだつません。 る。▼姉の晴れ姿をカメラに収めた。つす大型の鏡)の前で帯をしめてい でい方 ▼小鳥の鳴き声がするが 出かける父の後ろ姿を見送る。 一般一姿 (=ならべる)と

せた字。

女が顔や身なりをととのえ

そのままのようすをあらわす。

ることで、全体をざっとつくろっ

至·私·姿

線)を組み合わせててきた字。矢がだかって進むようす)と【(=めあての

めあてのところまてとどくようすを

石・磁気

いること。「磁

る性質。また、その性質を

いめの鉄をひきつけ

いか

●矢をはなつ。

入」②寺や僧\*に、寄付っておく、「取捨・四捨五っておく、「取捨・四捨五

する。「喜捨」

使い方 ▼拾て身(=いのちがけ)に

石艺

磁

磁磁

身身身身身身

82

田とシャ

おとシャ

[ ‡

8画 へん〉拾

くかすてる

捨捨捨捨捨

捨捨

10画 〔寸·

(すん)

7画

とないる

|4画

[后·9画

をあらわす。

鉄を引きつけて大きくなっていく石

「滋\*」は、栄養になること。

石(=いし)と兹(=どんどん ふえる)を組み合わせた字。

||画

るみる「視察・視力・

見なす。「重視・軽視・無視、敵視」視覚・視聴\*覚・正視、②そのように 視界・視野・視点・視線・

本来の意味の「祭だん」とは関係がな る)を組み合わせててきた字。示の が開けた。▼もっと広い視野でもの に見えた、 たのに、無視されてしまった。 重視して決めた。▼あいさつをし ごとを考えよう。マみんなの意見を 他い方 ▼市長さんが、学校の視察 の音をあらわす)と見(=見 →山頂に登ると、 視界

見るる • 4画 視 神視

見 よって分けた、

章・作詞・歌詞」②性質に 0ことば 1 - Jung · 一

語

12画

言 • 5画

言

ことはの 一言 言

の名まえを表すことは。「家」「動物」 歌詞をおぼえる。▼名詞(=人や物 なるかなる。 ・ の名まえを表すことは。「家」「動物」 ・ の名まえを表すことは。「家」「動物」 ・ の名まえを表すことは。「家」「動物」 接続詞。感動詞。助詞。助動詞 詞。形容詞。形容動詞。副詞。連体詞。 まとまり「品詞・名詞・動詞・代名 るす。 記事の中)て発表します。 読をつける。▼スポーツ選手の活や 便い方 文代で、うさぎの何し。「誌面・誌上・雑誌・週刊誌」 たもの。「日誌」②ざっ

うさぎの飼育日

使い方・最近、

なり と)を組み合わせた字。大切なこと ばを書物に書きとめたり、 「紙」をまちがえないこと 雑誌の「誌」と、「新聞紙」の たちる一点をめざしてとまるこ 言(=ことは)と志(=

のの性質やようすを表すことは。

働く「話す」など)。 ▼形容詞(=も

「美しい」「白い」「広い」など)。

はたらきなどを表すことは。「行く」

花子」など)。 動詞(=物の動きや

とめておいたりすること。

音をあらわす)を合わせた字。

まっすぐみること。

■「慈\*」「滋\*」などとまちがえな いつくしむこと。 とうつ。「射殺・射撃・また、銃\*などで、たま

電磁石を作る。▼リニアモー

使い方。▼矢で的を射る。▼ロケッ射・直射・放射・噴\*射」 に反射している。▼直射日光がま予防注射をうけた。▼夕日が湖面となる。▼インフルエンザのトを発射する。▼インフルエンザの 発射・試射」②光・電波・液体などを た ち り

て矢をはなつことをあらわす。 を組み合わせた字。弓を引きしぼっ をつがえているすがた)とる(=手) 弹 射 号に矢や一

詞 詞

誌

|4画 [言•7画] (こん・ん



(A)

言言言言言言 誌誌

いるり事実を書きし また、書きしるし 計

●すめちしき 「益」の字の「べ」は、「水」を横にした形(379ページ参照)。

▼百の位を四拾五入して、千の位まなってものごとにぶつかっていく

母は、寺によく事格(=喜んでほどてのがい数で表してください。▼祖

の力をぬき、指をのはしてつかんて 場所)を組み合わせてできた字。

たち 力をぬき、のびのびとやすむなり \*(=手)と舎(=からだから

のびのびとやす

こしをすること)をしている。

「舎」が「シャ」の音をあらわす。

いた物をはなすことをあらわ

ひまとめる。 おさめる

収

拾

の団体。「宗教・宗徒・宗派・宗旨\*」

また、それを信じる人たち

宗家」②神や仏の教え。家元

宗宗宗宗宗宗宗

まれた。▼仏教には、天台宗・真とれた。▼仏教には、天台宗・したなる家)の子に生便い方▼かれは、おどりの宗家

だろう。▼六万人収容する競技場 だろう。 マンランとはいう まままでは、このかはんなら、荷物が全部収まるこのかはんなら、荷物が全部収まることが、はないでは、いまないとのでは、いまないとのでは、いまないとのでは、これでは、これでは、

言宗・浄\*土宗・禅\*宗など、

回収・収入・収支・収集・収納・収納・収録・吸収・また、手に入れる。「収ましたのでででは、からのででは、からのででは、からのででは、からのでは、からのでは、からのでは、からのでは、からのでは、からのでは、からのでは、からのでは、からのでは、からのでは、ないのでは、からのでは、

り合わせる)とち(=手)を組み合

ところに集めることをあらわす。

わせた字。

はらばらのものを、

合わせた字。

先祖のたましいがまつ

ってあるところをあらわす。

をなる

又多(三二本のひ

しかけて、

収拾がつかない。

との意味「シュウ」と読むときは、

教に関係のある意味を表す。

原-宗 (=祭だん)を組み

参考「ソウ」と読むときは、

おおも

ろな宗派がある。

切手の収集がしゅみです。と客が

鳥の声をテープに収録した。

尺尺尺尺

さの単位。一尺は約三人 法」2ものさし ・三センチ。 尺貫\* また、長さ

の一の縮尺でする善悪の尺度(=も 習をしています。▼この地図は五万分 さが一尺八寸の竹のたて笛)の練 度・巻き尺・くじら尺・縮尺」 のごとをはかるひょうじゅん)は、 使い方・祖父はよく、 尺八(=長 尺尺

たらどーパー た形からてきた字。 ボール投げのきょりをはかった。 長さをはかるよう すをあらわし

草・若君・若年・老若(ひ ない。「若者・若葉・若ない。」 ・気に)・若人」2いくらか、「若干

若干(=少し)のくいちがいがある。 桜の若木を植える。▼老若男女 りにこっている

▼校庭のすみに、 3あるいは ▼月曜若しくは火曜に来てください が輪になって、おどった、▼意見に 使い方▼祖父は、 (=年よりも若者も男も女も、みんな) または 若いころからつ

たなり やわらかい女のすがたからてきた字 毛を両手でとかしている、 學一部一若 なかみの からだの

\*ジャク・\*ニャク



若若若若若若若若

樹樹

掛

しなやか

人によってちがう。▼巻き尺を使っ

見るジュ

16画

• 12画

< A

んが、街路樹のブラタナスの枝を切れるな木が植えてある。▼植木屋さいろな木が植えてある。▼植木屋さいのはを切ります。 園の中には、りんご・なしながおいしげっている。▼朝日がおいしげっている。▼朝日 形だ、 っている。マ水泳の百メー 樹」でうちたてる。「樹立 便い方、森には、たくさん 新記録を樹立した。 水がきらきら光る。▼果樹しはげっている。▼朝日をうけ ı りんご・なしなど

やいろ

み合わせた字。 を立てたよう たなり 樹 1 (=) す)とヨー(=手)を組 = ) TOP たいこ

あんシュウ・\*ジュ • 9画

就就就就就就就就就就就 V~\*つく·\*つける 9

いるの仕事や役目な 古 成就就

夢が成就(=実現すること)した。 ます。▼この会社は午前九時に就でとれる時間)は決まって (仕事を始めること)する。 ト長年の しい先生の就任(=役目につく ▼ わたしの **い**おは

0

あんシュウ

4画 [又·

(また

2 画

くかおさめる・おさまる

1

あしシュウ・\*ソウ

8画

[一・5画

収収収

でい方。また、ある状態になる。「就業」20とける。 能になる。「就業」20とける。 ない。 をになる。「就業」20とける。 ない。 をはなる。「就業」20とける。 ないる。」。 はこの春就職した こと)のあいさつがあった。

につけることをあらわした字。 人をよびよせて、ある場所や、 よびよせて、ある場所や、役目げた右手)を組み合わせた字。

めに、東知(=みんなのちえ)を集め

でい方 とせんたくをしたら、

少し縮んだ。▼このコピー機・▼せんたくをしたら、セー

地図。

マラソンの日本記録を短

稲する。

>おみやげまて

いただい

て便利です。

(利です。 ▼縮 尺五万分の一の拡大と縮 小が自由にてきるのがない。

のち

かなづかいは、「ちぢむ」。

ちじむ」と書かないこと。

爾

~~ 縮縮

→ → ←

て恐\*縮(=おそれいること)です。

縮尺・縮図・短縮・圧縮」がめる。「縮小・縮写・ちめる。「縮小・縮写・

縮

あんシュウ・\*シュ 12画 〔血・ 〈ち〉 6画

衆衆衆衆衆衆

衆

民衆・群衆・観衆・聴\*衆・若い衆」 た、多くの人。なかま。「衆・若い衆」 た、多くの人。なかま。「衆・ガー」。 方マオリンピックの成功のた くの人なかま。「衆

る。 がもうでに、何千の群衆が集まる。べての生き物)を救わうとした。▼ 的な安い料金の店。 ▼三万人の観表が集まる。▼大 泉 ▼おしゃかさまは、衆生(=す

陽の下でおおぜいの人が働いている ました ひと はなられせた字。 **%-8M-**衆して州太

ようすをあらわす。

いる・人のあとにつ 從從從從從從從

いか

人数が多い

\* していく。また、言う通りにする。したがう。「従事・従順・従属・服従・追従(ない・)」②ある仕事につく。「従事・従い。」
いていく。また、言う通りにする。したがう。「従 も。「従者・主従」の思い通りにする 「従来」4つきしたがう人。と

使い

等する に従事する。▼従来(=今まで)通り。 -從(従)人)とよ

わせた字。 の人がついていくようす)を組み合 (=足)と (=前の人に、うしろ あとにしたがうこと。

思しジュウ・\*ショウ・\*ジュ 主 主 169

したがうしたがえる

横 148

をかたて あるジュウ

統統統統

隊・縦貫・2000 縦横・縦断・縦走・縦 が 縦断・縦走・縦

る。▼自転車で、日本列島を縦断の中心で、道路が縦横に走っていす。▼このあたりはこの地方の交通 する。「縦覧・操縦・放縦」 ってきまま)な生活を送る イロットになりたい。▼放 縦(=か 自転車で、 方しこの便せんは縦書き用て >ジェット機を操縦するパ

する

金と訓 000

ことをあらわす 合わせた字。糸が長くたてにのびる =人のあとに人がしたがう)を組み

日とジュク \*うれる 15画 […・||画]

がれる・ちぢまる・ちぢめる・ちあんシュク

17画

• ||画

縮縮縮縮縮縮縮縮縮

京京京泉 孰

り十分に、 1= 熟

熟・早熟一十分になれて る。うれる「成熟・未る。「半熟」②よくみの 使い方、卵を半熟にする。 者」自念を入れてする。「熟考·熟読」 になる。「熟練・熟達・円熟・未熟 たくみ てが

合わせた字。 等學,熟 をみせる。 まだ未熟だ。▼職人が熟練のわざ 語の意味を辞典で調べる。 す)と 15 (=動詞の記号) を組み |熱「塾\*」とまちがえやすい。 やわらかくにること。 >よく熟れたかきの実。 火がしんまで通るよう 川(三火)と全筆 (=肉にしんを通

縮·熟·純

(=せまい場所に人がちぢこまって) 糸)と(面

とまること)を合わせた字

のジュン

糸糸糸 [糸・4画]



礼が イングド

レスを着る。 マニの犬は、 はようのウエディ 日本犬です。▼蒸留水は、 を単純に考える。 ありのまま。「純真・純情・単純」 ~ものごと 純粋\*な 不純物

さがたれたようすをあらわし の色が一色であることから、 木の芽)を組み合わせた字。 をり 年(=いと)と屯(=土の中で けがない」という意味になっ 糸のふ 「まじ いんと

わりざん。「除法・乗除」 除・掃\*除」②わりざんをする。

また、

## 西シショ

出処しまつする。 いるのある場所にい 処理·処置·処分·処刑\*·対処」 また、 いるところ

非常事態にすみやかに対処する 題をてきばきと処理する。▼処女作 起こったときの行動のしかた)を明した。 出処進退(=てきごとが らかにする >けがの応急処置 =初めての作品)を出版する。

著名をしてください。

著」「暑」とまちがえやす

四時間出動態勢だ。▼この書類によいかんしゅうとうたいせい

5画 [几・3画

署署 りの役所

< hu あとシショ

一 8 画

あみがしら

署署 署署署 

田之ショ

15画

こんへん

· 8画

V.A

「署長・署員・部署・消防わりあてられた役目」 著・警察署」②書きしるす。

署名

署

について、「いろいろな」

いるあることはの上

諸

言言言言言言言言

の人々によびかけることば)に一言いるとなる。 はの「諸国・諸島・諸説・諸君・諸問題」 南西諸島の島々をめぐり歩く **使い方** マヨーロッパ諸国を旅する

の場所)につく。▼消防暑は、二十のおいさつをする。▼係員がそれのおいさつをする。▼係員がそれのおいさつをする。▼係員がそれのおいさつをする。▼係員がそれのおいさつをする。▼係員がそれのおいさのをする。 という意味を表すこと

る諸問題について、話し合う お話ししたい。 「緒\*」とまちがえないこと ▼校内で起こってい =)046

野湖-諸(諸)

と地(二こんろにまきをつめて燃 一か所に多く (ことば)

のものが集まることをあらわす。 やす)を組み合わせ、

れた持ち場に、人を配置すること。み合わせた字。あみ目のように分か (=「ショ」の音をあらわす)を組をり、一をり、一をり、一をうと、これの音をあらわすのを組まる。

味をあらわす。

V2

あんジョ・\*ジ

10画 [『・7画]

(こぎとへん)

いかのぞく

除除除除除

あとショウ

10画



きんショウ

きず・\*いたむ・\*いためる

与列

13画 〔イ・11画〕

(にん・らん)

将将将将将

主将」②軍人の階級をあ をひきいる人。 いるの軍隊やチーム

らわすことは「将官・大将」るこれ

草・除雪・除名・除湿\*・解、 ・除雪・除名・除湿\*・解、

除

使い方 ▼兄は、中学のバレから…しようとする。「将来」 グの選手になりたい。 たそうだ。」ぼくは将来、 たそうだ。▼ぼくは将来、Jリー大将という階級がいちばん上だっ て主将になった、▼昔の軍隊では、 レー

字。 らの意味をあらわす。 写料。将(将)H(=長 す。大ぜいの人々をさしずするかし =にく)とず(=手)を組み合わせた りいるの筆順に気をつける

除・将・傷

ことをあらわす

じゃまになる土を、

おしのける

をかたづける。

は、「徐\*」とまちがえないこと。

B(=もり上げた土)と余(= おしのける)を組み合わせた

越\*しそばを食べる。▼掃\*

はを食べる 様常除道具

雪作業がたいへんてす

> おおみそ

質成です。

見成です。▼雪の多い地方では、除してす。▼雪の多い地方では、除り使い方。▼常の人を除いて、全員でいて、全員

乎

いるりからだや品物

傷傷傷傷傷傷傷

いため 自勿

る。▼野球の試合て負傷した ▼秋のはいのでは、「いった」では、「いった」では、「いった」では、「いった」では、「いった」では、「いった」では、「いった」では、「いった」では、「いった」では、「いった」では、 傷・中傷・損傷・軽傷・重傷・死ず「傷害・負傷・軽傷・重傷・死しょうなど」 をきずつける 使い方とはらのとげて、 傷心感傷 手が傷だ

する。

たち組み合わせた字。物に強くあなり イ(=人)と易(=きずつく)を を感じること と。「痛む」は、 になると、感傷的な気分になる。 **多者**「傷む」は、物がわるくなるこ からだや心にいたみ

「難(ナン・むずかしい)」は、もとは、鳥の名を表す字だった。

たって、

きずつくことをあらわす。

▼多くの障害をの

計の短針は「時」を、

りに、

南にとる。▼松やすぎなどのよう

葉が針のような形をしている木

針・短針・砂針・針金」

はり。

また、はり

全

金金金

Ve はり

るとシンン

10画

[金·2画

わせた字。

た字。布や皮をぬうはりをあらいう音をあらわす)を組み合

ぼう)にかみなりが落ちた。

みなりのひがいを防ぐための金属の を針葉樹という。 | 遊\*雷\*針(=

じゃまになる。 障障障障

障・支障・保障・障子」 えぎるもの。「障害・故また、じゃまをする。さ

障子のはりかえをしている。 ておくれたため、 とゃまになるもの。「傷害」は、 の者」「障害」は、何かをするの 障りがないていどにする。 ヘレン・ケラー。 マテレビゲ. ちこくしてしまっ どにする。マ母は、勉強に差 ▼電車が故障

組み合わせた字。 たち「ショウ」の音をあらわす)を 阝(=かべや土べい)と章(= をきずつけること。

しゃまになるもの。

暲

くかしろ

町・古城・落城・築城・宮とりて。しろ。「城門・城下主・城壁\*・城塞\*・城下 いる一般をふせぐ

の土地に住んているすべての人が入める)を組み合わせててきた字。そ てさかえたそうです。 れるような、 もに多くの武士が死んだ。 くとざす。▼この町は昔、城下町あとが残っている。▼城門をかた極い方。▼おたしの町には、古い城 雪城一城土(=土)と成 =城を中心としててきた町)とし 土てかためてつく (= かためてまと 落城とと

あんジョウ

9画 [ + 6 画

(つちへん)

城

城 城城

田心ジョウ

13画

[++・10画 くさかんむり

V~ \*むす・\*むれる・\*むらす

蒸菜菜菜 蒸蒸蒸

蒸

ためられて気体になる。 蒸発・蒸気・蒸留 2ゆ いるのななどがあた

ん蒸し」 父はSL(=蒸気機関車)のファンで作った水を蒸留水といいます。▼ 使い方 けをあてて熱する。むす。 水を熱して、その蒸気をひやしていつのまにか蒸 発してなくなった。 蒸し焼き・蒸しぶろ・蒸し器・茶わ ▼ひなたの水たまりの水が 留水とい むらす

たなり べらしてから食べる。 が上へたちのぼる) み空気 会気き

▼蒸し暑い日が続く。

を

わせた字

しろ」をあらわす。

4 画 [1・2画]

くにんべん

きとジン・\*ニ

行わなければならない道理)を重んでいてある)。▼仁義(三人として行いてある)。▼仁義(三人としては、情け深いには頭が下がる。▼医は仁(情なりには頭が下がる。▼医は仁(情なり れた。 に対して、ノーベル平和賞がおくら しる。▼門の両側に仁王の像がある。 ▼あの人の仁徳あふれる行い

わした字。 組み合わせててきた字。 いやりをもってつきあうことをあら 一仁 (=二のしるし)を 入 (=人)とこ ふたりが思

漢字の知

態な能の質ら資し熱な熟で拾き捨る因が困え深な探え糸し系は城を域がります。 ままき においる から物の熱な熱な治を治している は、一般ないないない。 ままり、一般ないでは、一般ないないでは、一般ないでは、一般ないでは、一般ないないでは、一般ないでは、一般ないないでは、一般ないでは、一般ないでは、一般ないでは、一般ないでは、一般ないでは、一 たりして、 形が似ていたり、

高くつみあげる。「山盛

盛

□うつわにもる。

り・盛り土」のさかん。ま

る)と皿(=さら)を組み合わせた字。 入れものを山もりにすること。

とんとんとたたいてかため

成(=大きくもり上げた土を

# 垂垂垂垂垂垂 くれる・たらす

線・懸\*垂・胃下垂」 いか たらす。「垂直・垂 たれさがる。

る。マ学芸会のために垂れ幕を作っ 方と牛がよだれを垂らしてい

推定・類推」の人にすすめる。「推挙・推



推進・推選・推察・推理・

ほうから地上にたれさがるという意 を一手手(=ほがたれて が垂れ下がる病気)だとわかった。 ゲンをとってみたら、胃下垂(=胃時間に懸\*垂をした。>父はレント 土)を組み合わせててきた字。上の の直角三角形ができる。▼体育の 直な線(=垂線)を引くと、 ▼三角形の頂点から、 るようす)と土(= こ、 底で 辺ん 

着ている物からも、

時代の推移が感

じられる。

上君をクラス委員に推した。▼人の 説が好きて、よく読んでいる。▼川

きんスイ ▼ \* おす

• 8画

日画 ( ‡ てへん

3画 [寸·0画

すん.





< h も他スン

推推推推推推推

推 寸寸寸

いるのおしすすめる。

の十分の一て、 の十分の一て、約三・〇 三センチ。「一寸」をきさっ

す」のわずか。 寸分・寸時・寸評」 すこし。「寸前・寸志・

るいもなく作り上げる。▼寸時(=二着になった。▼設計図と寸分のく らった。マゴールす前でぬかれて、 方マ洋服の寸法をはかっても

げむ。▼大雨で鉄道が寸断された。 およれな時間)をおしんで練習には 一十一のしるし」を組 指一本のはばの長さを

あらわした字。 み合わせて、

と重みをかけておすこと。 た鳥)を組み合わせた字。 ≇ # (=ずんぐりとし ずっ

味をあらわす。

## [耳• 7画 122

13画



訪

13画 [言·6画

こんべん



るかセイ

くん まこと

誠誠

あん\*セイ・\*ジョウ

11画

くさら

[四·6画

くれもる・\*さかる・\*さかん

路底成成路路路

ぐれた人。「聖人」をおご そかなようす。また、き 聖

すぐれた人)。▼オリンピックの聖代の方、▼ とれた人)。▼オリンピックの聖代の方、「一知識や徳が することにつけることは。「聖書・聖母」 人。「楽聖・詩聖」るキリスト教に関いていまいますがれたりないましょう。 聖母マリアの像。 よらかなようす。 聖城・神聖・聖

ってきた。▼全国的にサッカーが盛んになす。▼全国的にサッカーが盛んにな

供える。▼庭の草花は、

今花盛りて

使い方
▼かごに盛ったくだものを た、さかり。「盛大・盛夏・全盛・繁

の店は繁\* さしている。 の店は繁\* さしている。 の店は繁\* さしている。 の店は繁\* さしている。 の店は繁\* さしている。

がよいことをあらわす。 耳の通りがよいことから、 にさし出す)を組み合わせた。 耳(=みみ)と呈(=まっすぐ

> ませんが、 母は、かん者さんに対して成立成態通じたようだ。▼看護師をしている 「誠意・誠実・忠誠・至誠」た、ほんとうのこと。 N 直てまじめな)人です。▼誠にすみ →山下さんは、とても誠実な(=正 (=まごころをこめて)つくしている。 使い方マこちらの減意が、 部部部 うそいつわりの まごころ。ま 座席を少しずつつめてく

先方に

ださい。 を組み合わせた字。 いことばやおこないをあらわす。 たちくいちがいがなくまとまる) 言(=ことは)と成(=欠点や 欠点やうそのな

選手のちしき ②

誠

眼・洗濯\*・洗剤\*」②かく める。「洗顔・洗面・洗

りあらう。

きよ

洪

洗洗洗

便い方 ▼キャンブに持っていく洗れていることを調べて明らかにする

官官官官官宣

りはっきりつ 宣

を行う。

を行う。もっぱら。「専業がない」

る。

0)

べる。

S.

告・宣戦・宣誓\*」②ひろ しらせる。「宣伝・宣教師」 「宣言・宣

めにする。「専有・専制・専売」自分ひとりてする。また、ひ

母は、

去年生まれたいる

自分ひとりてする。 念・専門・専属・専任」②

ひとりじ

▼新製品の宣伝を大々的に行う。▼のことは)の声がひびきわたった。 キリスト 選手宣誓\*(三選手代表のちかい 大会の開会を宣言する。 教は宣教師によって世界の宣伝を大々的に行う。▼

聞社の専属カメラマンをしている。

「専問」と書かないこと。

ている。 マ泉水 (=庭にほった池)の

もとの字は「專」。 虫(=糸に よりをかけるおもり)と寸(=

の国々に広められた。

言う」などの意味になった。 ここから、「みんなにわかるように なり 「宜\*」とまちがえないこと。 りまくかきね)を組み合わせ心(=家)と亘(=まわりをと 王さまのごてんをあらわし

たなり

手)を組み合わせた字。手でまわす

つにまとまる」意味をあらわす。 本のより糸になることから、

あっセン \*もっぱら

、すん,

9画 〔寸・6画

9画 [水·5画]

みず







· 市 · 市 · 車 · 車 · 車 いずみ あんセン

専 水がわいている所の 泉泉泉

泉光

泉泉泉泉

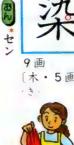
水・温泉・源泉・鉱泉」いずみ。みなもと。 す。▼毎朝飲む特製の野菜ジュースに、家族みんなて温泉に行く予定でに、家族みんなて温泉に行く予定では、またの本がけて休んだ。▼週末 泉(=鉱物質をふくんだ泉)がわき出ている。▼あの山の中腹には、鉱 使い方と歩きつかれたので、 ぼくのエネルギーの源泉になっ ▼あの山の中腹には、 泉 ▼週末の

ある日本庭園。 乳--小泉 の鬼のれい間に

たなり あなのおくから、 水がわき出て

形からてきた字。

9画 5画



もやセン

9画

[>・6画

、さんずい

くんあらう



くるそめる・そまる・\*しみる・\*しみ 宋沈染染染染染染

「染料・染色・染織」2 病気などがうつる。「感染・汚\*染 1色をつける。 そまる。

スカー 伝染 て空気が汚れ染されがちだ。 めている。 便い方マタ日が山々をまっかに染 通量の多い場所は、車の排\*気ガス インフルエンザに感染した。 トに染みがてきてしまった。 マこぼしたジュー えて、 交

ます。

洗った。

▼あの人の身のこなしは、

洗濯\*機を使わずに、手で注意深く

面道具を用意した。マセー

9 を

とを、友だちに洗いざらい(=何も

洗練されている。▼かくしていたこ

かも)しゃべってしまった。

シ (=水)と先(=指の間に細シン(=水)と先(=指の間に細

いすきまがあいている、

中の色のついた水に、布や糸をつけたり、変組み合わせた字。うつわの とをあらわす。 ゆっくりと色をしみこませるこ

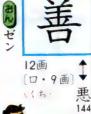
洗・染・善

足先の形)を組み合わせた字。

よごれを取った字。せま

いすきまに水を通して、 ることをあらわす。

善





よい



善悪・善人・改善・最善・ てしまった。▼親善試合を行った。 る。マ改善すべき点がたくさんあり った。▼ものごとの善悪をわきまえ 使い方と多くの善意の寄付が集ま する。「善戦・善後策・親善」 \* 善戦したが、 こと。 良・善意・ おしくも敗れ なかよ

(漢)字のちしき (の)

独善」②う

っぱてあることをあらわす。

組み合わせた字。

たっぷりとしてり

そなえもの)と子(=はっきりとけ

たものの言い方を二つ

一善年(=お)

くてりっぱな

391

使い方 ▼装いも新たに劇場がオける。「装置・装備」

レゼントを包む。▼遠足には、歩きーブンした。▼きれいな包装紙でブ

高層ビルのたち並ぶ新しい町です。地層があらわれた。▼このあたりは、

会社の上層部の意見をうかがう

らが層をなしている。

らが層をなしている。▼赤土や砂の便い方。▼大 昔の人が捨てた貝が

盛装・変装・仮装・武装」②そなえつ

装束·包装·服装·衣装· た、よそおい。「装飾・ いる・しょそおう。ま

装

さなる。「地層・高層・断

層

いるのたくみに動か

あやつる。「操縦・

品架

層

層層

層

操操操

操操

操操

階級。「上層・若年層・中堅\*層」②人々や社会の区分。

②態度や

心をかえない

みさお

操作·操車·操

業。体操

あとソウ・\*ショウ

12画 〔衣・6画〕

ころも

14画

るとソウ

16画

[ 才 • 13画

VM\*みさお·\*あやつる

[尸•川画

しかはね

V2\*よそおう

装装装装装装

た字。身なりをきちんとすることを い男)と (=衣服)を組み合わせ

あらわす。

9画

るとソウ くん\*かなでる

李 奏 奏 奏 奏

[大・6画] ナーい

いるの天子や天皇に

合奏・独奏・伴\*奏・四重奏」
・なった。またいなでる。「演奏・ し上げる。「奏上」

を買った。 との際の席にすわる。 との方とのできないの窓口で特急券(使い方)とみどりの窓口で特急券

2きずをつける。また、きず。「創傷」

刊・創作・創造・創意・創始者・つくる。「創業・創立・創立・創

独創

3

●ものごとをは

台

倉

しめる。

また、

はじめて

倉

同窓

をひろうする。▼作戦が功を奏した 申し上げる)。 又がギターを奏で げる。よい結果をあらわす。「奏功」 →音楽会で、 い方 下皇陛下に奏上する(= マオーケストラの演奏をき クラス全員の合奏

ていった、

ている。

た字。 う意味をあらわす。 まぐし)とハ(=両手)を組み合わせ ちがなー奏はささげるた (=ききめがあった)。 ものをそろえてまとめるとい

> 窓 曲とソウ くんまど

一画

あなかんむり

「元・6画





有有

倉 もとソウ

12画

[小・10画] りっとう



いる。「窓で・車窓」2へや。 空。空空空 窓窓窓

▼母は、小学校の同窓会に出かけ車窓から外のけしきをながめている 「窓」は、「究・空」などと同じ 7 されてから五年になる。 創傷(= 刊された。▼かれは、物 念日です。 がとくいだ。、このクラブは、 

(=うかんむり)の部ではない。

たちとり(=刀)を組み合わせた字のなり(=「ソウ」の音をあらわす) はものなどでうけたきず)を負う。 ここから、 刀)を組み合わせた字。 「はじめる」という

意味になった。 はもので材料に切れめを入れるこ

組み合わせた字。風通しのよいまど��(=空気ぬきのまど)と��(=ご)を **管**のででで、変)かな)と

組み合わせた字。

をあらわす。

智一層(層)かに皆

∨このゲームは、著年層(=年が若

れないように安全装置がついている。装合わせをした。▼ガス管がはず やすい服装て行く。▼学芸会の衣

野比令-裝(装)比(=せ

重なっている家をあらわす。を組み合わせた字。やねがいくつも (=いくつか重ねて米をふかす道具)

漢字のちしきの

高い木に鳥が集まって鳴きさわぐ)

等学》第一

操步(=手)

٢ 🕌 🗎

こと)をまげない

を組み合わせた字。手の先をせわし

動かしてたぐりよせること。

「冷」の中の「冫」は、「氷」を表す部首(389ページ参照)。

中は、毎朝広場に集まってラジオで、大量の計算を行う。▼夏休みで、大量の計算を行う。▼夏休み

便い方・コンピュ 操行。節操。情操」

7

夏休子

(=自分の考えや立場をかたく体操をする。▼どんな時にも

く守る

重・尊敬しるることはた、とうとぶ。「尊敬・尊

尊

いるのとうとい。ま

首首首

首 首 尊

とうとぶ

たっとい・とうとい・たっとぶ・

393

につけて、

尊敬の気持ちを表すこと

は。「尊父・尊顔・釈・尊」

(尊)

酒つぼ)

てとう

とい」という意味をあらわした字。 と当(=手)を組み合わせて、

まう。

苊

たできる。とそう ちない。 とそう ちないの とそう ちないの 内蔵・貯蔵・秘蔵・冷蔵 っておく。「蔵書・所蔵・

上蔵が三つもある。▼道はたにお地と繋がなった。▼酒屋さんにはい蔵の中に入った。▼酒屋さんにはく歳庫の中を整理する。▼うす暗 建物。くら。「土蔵・穴蔵」 使い方・父の蔵書を借り いろいろな品物をしいろいろないのないのではありません って読む。

もつなべを作る。

存する。▼別に異存はありません。

きをする。▼ぶたの臓物をにこんで

酸素をとり、

血液にあたえるはたら

た。

・
肺臓は、すいこんだ空気から

てもらう。、心臓の手術に成功してもらう。、心臓の手術に成功したが、気を

心臓・じん臓・肝・臓

まっておく所。 まっておく所。「倉」は、いろいる 蔵さんが立っている。 と滅(=「ゾウ もとの字は「藏」。 0 音が 米などをし (=植物) をあら

ろいろな器官。 50 アグソウ k 「臓器・臓物・内臓・

19画

[月·15画]

くにくづきり



臓臓

脯 臓

からだの中のい

臓

6画 〔子·3画〕

存存 (2)



想とソン・ゾン K

かい **1**ある。 また、 存存

る。
・食べ物を、冷蔵庫に入れて保は、いろいろな生物が共存してい 考え。「存外・存分・一存・所存なが、そんが、そんが、そんが、そんが、これがしている。 って重要な存在です。 >地球 在・現存・生存・共存」2 使い方・かれは、 このチー いる。 存 ムにと 上て また、

ども)を組み合わせた字。大切にとたりをりゃくした。ため、ためにこれ っておくという意味をあらわす。 なり ▼存分に(=思うままに)楽しむ。 「在」とまちがえないこと。 をりゃ 在(=じっとそこにとどまる)

からだの中に のをあらわした字。 たり 月(=からだ)と蔵(=しまっなり) 内蔵」は、内部に持つという意味。 内臓」は、内部に持つという意味。 はいる しまいこまれているも

す)を組み合わせた字。

コルタク 6画

12画 [寸·9画]

(すん)





日とタン

8画

[才・5画] (てへん)

www.かつぐ・\*にな

打扎扎

担担

すまい。 宅宅宅宅

使い方 ▼あした、先生のお宅へう家宅・新宅・別宅・帰宅」 宅地・住宅・自宅・社宅・

分だなた

けが人を担架。て運ぶ。 ~くわしく 便い方 ▼若者が将来を担う。

は担当者がお答えします。

六年生

る。うけもつ。「担当・担任・負担

2仕事や責任をひきうけつぐ。になう。「担架\*」

1 日

●荷物などをか

院して、 最近できた住宅街です。▼母は退おくり物が届いた。▼このあたりは、かがってもいいてすか。▼宅配便で 宅がとてもおそい。 ▼父はこのところいそがしくて、帰くの家は、新しい社宅にひっこした。 父はこのところいそがしくて、 自宅で静養している。」ぼ

する偉\*人のことを調べる。

ってしまう。 祖先を尊ぶ。 を使い方 戦争は、尊い人命ををなるとなる

の意見を尊重して、

に、古くから伝わるご本尊がまつら発するのはやめます。▼お寺の本堂

れている。

とをあらわす。 るようす)を組み合わせててきた字。 たち 地中にしっかりと根づいていたり 一(=家)とモ(=草の根が、 じっとこしを落ち着けて住む家のこ

かたにかつぐ

合わせててきた字。ずっしりと重い

てもらった。▼仕事を分担する。

もとの字は「擔」。才(=手)と 詹(=重くのしかかる)を組み

▼送料は会社負担で、

商品を送

になって、

担任の先生が代わった。

ことをあらわす。 ものを手で持ち上げ、

の秘境を探検する。

人工衛星。

の秘境を探検する。▼わく星探査のりきわめること)する。▼アマゾン

を探究(=明らかにするためにさぐ

こと)する。▼かくれた歴史の真実故の原因を探求(=さぐりもとめる

たちょ

像≻%-

探

あなのおくの火を、

手てさぐり出す

と意 +(=手)

=

ようす)を組み合わせた字。

使い方 ▼窓から暖かな日ざしがさまだん。寒暖計

流・暖色・暖冬・暖房・

暖龙

いるあたたかい。

ŧ

● Dねだん。

あた

また、

ねうち。「値段・

直

空。

暖暖

值值

直直直

が悪い。

らいだ。▼ここは、気候が温。▼暖房\*がききすぎていて

しこむ。

▼日本海流は暖流です。

いので値切って買った。て質のいいものを買う。

かれのし

方・よく選んて、

値段が安く ▼あまり高

暖冬のため、防寒衣料の売れ行き

にゆとりがあるようす)を組 日(=太陽)と爰(=両手の間

ねうちがわかること。

人が物をしっかり見ることから

心のぬくもりなどのときに使う。きに、「温かい」は、ものの温度

温かい」は、

ものの温度や

すぐに見る)を組み合わせた「価値」を、「値価」と書かない。

参考 暖て、

暖かい」は、気候や気温のと

「住みやすいところです。

では、 の近似値(=ある数にひじょうに近の近似値(=ある数にひじょうに近いによったである。) で値は、三・一四一六である。 ▼これ

おんタン ||画 [扌· 8画

\*さぐる・さがす

探探探探探探 くてへん

探査」探検・探知・探訪・探査」 さがしもとめる。

U de

使い方 ▼明日は妹の

年を記念する展覧会が開かれた。 誕生した。 に行った。▼イエス·キリストの**疑**と日なので、ブレゼントを買い 終生日なのて、プレゼントを買 ▼著名な画家の生誕 百

た字。 にも使われるようになった。 から、「赤んぼうが生まれる」の意味 意味する字だったが、発音の「タン とん(=長くのはす)を組み合わせ 野歌一談(談) 之及は もとは、「てたらめ」「うそ」を

ラシタン

15画 [言·8画











9画

(るまた

5画]



K もんダン

F

段

段

拉 段 段

か

だん。

段

うまれる。うむ。 証 証 誕 誕 誕

V

言言

誕

いる

有段者」《やりかた。方法。「手段・なんと、一般落」。「段階・段位・値段・なんと、「というないない」のは、は、なんないない。」のは、これないない。 段取り」 上段・下段・石段・段段

▼勝つためには手段をえらばない。やすく説明する。▼じゅう道の段位。から成る。▼段階をおって、わかりから成る。▼段階をおって、わかり この文章は五つの段落

記号)を組み合わせた字。上から下はしをたらした形)とる(=動詞の た なり だんをあらわす。 科 々に降りることができるか 即 -段 布のの 布の両

うかんむり

爱

冷 283

Na あたたか・あたたか

い・あたた

Vala·\*あたい

13画 [日·9画

.ひへん

10画

[1.8画

にんへん

まる・あたためる

あしチュウ 8画 [一・5画



宙宙宙 宇宙・宙返り・宙の中の空間の 宙 宙宙宙

亩

ku

づり」 宇宙飛行士になるのがわたしの夢で 足が宙にういてしまった。 ▼満員電車で、人の間にはさまれてせるとなってもで、 ないなるところでした。 す。▼ジェット戦とう機が宙返り をする。▼岩場で足をすべらせ、 便い方、限りなく広大な宇宙。 一(=やね)と由(=ぬけ出る、 あ

ようになった。 ぬけて広がる大空の意味に使わ あらわす。のちに、はてしなくつき てきた字。家をおおうやねのことを つきぬける)を組み合わせて

漢字のちしき のか

忠臣·不忠

にのせる。

いただく。

3 もらう」 だった言い

「食べる」「飲む」のへりく

「頂点・絶頂・登頂」②上高いところ。いただき。

り物のいちばん

頁

Ve いただく いただき

顶頂頂頂

ましチョウ

回川

頁 •

(おおがい)

2画

方。

いただく。

使い方▼人々の

いかりが頂点に

の果庁所在地を調べました。▼気

象庁が台風の情報を知らせる。

参考「丁」がつく「町」「頂」「庁」など

有頂 天になる (=喜んてむちゅうに

雪を頂いている。

の字は、すべて「ちょう」と読む。

もとの字は「廳」。

广(=いえ)

きました。

ていました。▼地図で、九州地方の)は、ひっそりとしずまりかえっ

達した。

▼展覧会で金賞をとって、

府庁・県庁・文化庁」

一

宁宁

庁庁

ロシチョウ

5 画

-

まだれ

2 画

Ш

(ごころ)

忠忠忠忠忠忠

著著著著著著

\*あらわす・\*いちじるしい

中 ð また、 いま

主人に、

こと。

忠告。忠実」2 りまごころ。

S

ŧ

る。▼武士は主君に忠誠をつくすこまかいところまで忠実に写生すこまかいところまで忠誠に を持ってくればよかった。▼風景を、 のだったら、母の忠告通りにかさしい方とは、ないないがしい雨になる (=まごころをこめてつくす)ことを 中(=からだのまん中)と心 本に着す。▼この本の著者は、ぼく **使い方** ▼研究の結果をまとめていちじるしい。「著名」 上がっている。

たな ちり 等的一著中(=植物)と水面

なり

心がどちらにもかたよらないこと

「まごころ」の意味になった。

(=こころ)を組み合わせた字。

ほこりとしていた。

アルチョ









名著・著述家」2はっきりしているがちょりょうかいちょうにゅつか

▼西村さんは最近、成績が著しく 名著といわれる作品を読んでみた。 作権という権利がある。▼夏休みに、\*\*では、「ないない」である。▼本の著者には、著も知っている。▼本の著者には、著

み合わせててきた字。 火の熱を一か所に集める)を組むいった。 (=しばをもやし

著書・著者・共著・ 書きあらわした ●書きあらわす。

筆者…その文章 や本などを書いた人。

著

■「項\*」とまちがえないこと。 ん)を合わせた字。 頁(=あたま)と丁(=て っぺ

庁·頂·潮

字。

住民のいろいろな問題やよう

と聴(=きく)を組み合わせた

すをきく役所をあらわす。

# ことばの知

意味のよく

似に語さてといい があります。 しょう ても、 Ļ, s ます。 きがいを考えてみま 使かい 表語は、 意い えてみま 意味為類的 義者 から

発行…新聞やないという。 という しんばん ほかい かんき 聞やなな 発りかん などを、 券など

ロ外…口に出して言うこと。人とない。ないはかの人に話すこと。など に話すこと。 を、 印んさつ 人として に話すこと。にはますこと。

満身…(心も肉体もふらだ全体。 著者…その本を書きあらわしたをよい。 めた) か

かチョウ くんしお 15画 シ・12画 (さんずい)

カによって、海面が一大陽と月の引 淖淖 淖

潮潮 潮

とをするのにちょうどよいとき。 定の時間ごとに高くなっ カによって、 のうつりかわり。「風潮」3ものご

潮時 話を切り出すなら今が潮時だ。 ~世の風潮に流されない。 方・潮が満ちたり引いたりす

せた字。 てくるしおのこと。 をう 日が出るようす)を組み合わなり シ(=水)と朝(=草の間から 太陽がのぼるにつれて満ち から

上げ・労賃・運賃・家賃・賃貸し」とに対してしはらうお金。「賃

「賃金・賃

ったむ。

お使いをしてお駄を養をもらった。

世い方 一従業員に賃金をはらう。

対してしはらうお金。ま

物などを利用したこ

へる。「討議・討論・検討」

一日

見を言い合う)。▼もう一度よく検ける。▼はげしい討論をする(=意

おかチン 任任任 13画 [貝・6画]

賃賃賃賃

こかいい

人のはたらきに 任月

展展展展展展

ラツウ

12画

痛痛痛痛痛痛痛 くれいたいいたむいためる

もやテン

10画 [尸·7画]

しかばね

痛・腹痛・悲痛」②ひどく。 いかりだに苦し 「苦痛・心痛・頭

さ・つらさを感じる。

ひじょう

いるの広げる。また、

ム・ソーヤーの物語は、実に痛快だ平和のありがたさを痛感した。▼トへいた 切に感じた。マ戦争の話を聞いて、 になやまされている。▼病気になっ 健康のありがたみを痛 っと頭痛 に行った。▼車窓には美しい景色が してある。▼父と、絵の展覧会と見してある。▼父と、絵の展覧会と見いた。● 自由研究の作品が展示 覧会」②広がりさかんに 覧会」②広がりさかんに でる。「展開・発展・進展」③広くなが 広げならべる。「展示・展

朝からず

使い方 ▼母は、朝からに。「痛切・痛感・痛快」

海をながめた。 「ない(=進まない)。▼展望台から なない(=進まない)。▼展望台から なながめた。

組み合わせた字。着物の上にからだ と食(=着物をおもしてのばす)を 智食/展ー展からだ

をのせて、平らにのはすこと。

味をあらわす。 つきぬけるようなひどいいたみの意 たち気を組み合わせててきた字。 南(=つきぬける)とず(-ナ 角(=つきぬける)とす(=

金)を組み合わせた字。お金をはら物をかかえこむようす)とりに

人をやとうことをあらわす。

管具と 1 - 賃 M(=

(=非常にゆかいだ)。

ンションが近くにてきた。

(一的金をとって貸すこと)のマ

てはじめて、

一点

[言・3画]

8画

10画

対・夜討ち、2くわしく調がない。「討伐\*・追討・征\* 言言言言言言言言

V~\*うつ

おとトウ

10画

るとトウ

16画

[\*・10画] (こめへん)

大々のあつまり。なかま。 人々のあつまり。なかま。 とうはとないとなり。なかま。 (にんにょう)



でする。▼新しい政党をつくる。 選ばれた。▼新しい政党をつくる。 またのでは、またのでは、大学では、大学では、力する。▼新しい党首がまた。▼新しい党首がまた。▼新しい政党をつくる。 ▼徒党(=悪いことをたくらむ人の

参考「悪党(=悪人)」は、大ぜいの集まりを組んていたずらをする。 り引きをすることをあらわす。 字。多くの人が集まって、不正な取た)と黑(=わるい)を組み合わせた をう「トウ」という音とちらっているとの字は「薫」。尚(=もと 人てはなくひとりのときにいう。 「トウ」という音をあらわし

「打つ」はたたく。

「撃\*つ」は鉄ぼう

などをうつ。

たちゃくした形)を組み合わせた

参考「討つ」は武力でやっつける。

表いたします。

討して(=調べて確かめて)から、

衬·党·糖

追い求めることをあらわす。字。すみずみまて調べて、ことはて

岢

2水にとかすとあまみのある炭水化 品。「砂糖・製糖・糖蜜\*」どからつくるあまい食 物。「糖類・糖分・ぶどう糖」 いる。いさとうきびな

が少ないので、あっとりした味がすが少ないので、あっとりした味がする。 ▼果物には、果糖とぶどう糖がる。 ▼ このおかしは精分がけて食べた。 ▼ このおかしは精分 行った。 る。▼社会科見学で、製精工場に 多くふくまれている。 万 ▼紅茶に砂糖を二はい入れ マホットケー -キに精蜜\*を

6 た字。米からあめをつくったことか さとうの意味をあらわす。 音をあらわす)を組み合わせ米(=こめ)と唐(=「トウ」の

「辶」は道や移動を表す部首(401ページ参照)。

第字のちしき ②

乳・離\*乳・乳液・豆乳②ちちをあいえき。「乳牛・母乳・牛乳・投いえき。「乳牛・母乳・牛乳・投

認知知

る。「説可・承認・公認・自認・認定、誤認」②ゆるす。みとめる。「認識・確認・

言思

たえてやしなう。また、ちちを飲む。

乳児・乳歯・乳母」るちぶさ。「乳首」

から出る白いえき。ちのおいえき。ち

剪丁等

乎

爭乳

言忍言

認認

認認

斜

りはっきり知る。

更少\*ニン

|4画

(ごんべん:

いみとめる

ちち・\*ち カルニュウ

8画

• 7画

認

• 7 画]

(おつにょう)

子どもを育てるよう を組み合わせた字。

「ちち」の意味になった。

をかばう

よう

すと

(=つばめ)

つばめが大切に

すをあらわす。

ぎみつけること。じっくりと見て、

人のことばなどをねばり強く心にき

心にとどめることをあらわす。

たなり

等

一乳乳子ども

▼乳飲み子(=赤んぼう)。

使い方マチ

ーズやバターなどの

築の認可がおりた。▼ここに認めれ話しします。▼県から保養所の建設してからは、▼事実関係をよく確認してから

認め印)をおしてください。

言(=ことは)と忍(=ねばり

強い心)を組み合わせた字。

▼問題の重要性をよく認識しなさ

方と自分のあやまちを認める。

30

くれとどける・とど・

届届届届届届届

どける。また、先方につ物がつくようにする。と ●あるところに

聞き届ける。▼ごづかいが行き届く。 また、その書類。「欠席届」
所やかんとくする人にもうしてる。
がないませんとこうしてる。 る。、遠くの電波が届く。 け」を送らない。 → 拾ったお金を交番に届け ▼願いを

てとどいて止まることをあらわす。 組み合わせた字。 人は動きがにぶいのて、 だ)と世(= もとの字は「屆」。 ふとっ 土のか たからだの ある場所ま ア(=から たまり)を

世とナン 18画 隹・10画 易290

(ふるとり)

\*かたい・むずかしい

四は四は四字の変素語

ることばや、

慣用句を、い

四字熟語

11

草葉葉難 難難

難・盗\*難・避\*難・②むず 難

職難」の大点をせめたてる。「非難いない。「難解・難問・難題・難関・ 非難

は、弟のいたずらを許し難い。▼ は、弟のいたずらを許し難い。▼ は、弟のいたずらを許し難い。▼ は、弟のいたずらを許し難い。▼ てしまい、みんなに非 だ。▼学芸会のけいこを忘れて帰 今日じゅうに目的地に着 英(=動物を火で焼く) 難された。 なっている。マ と隹 0

火て焼くことをあらわした字。 焼かれるようにつらいこと。 (=鳥)を組み合わせて、

たがちがうといれたがちがっとい

しているこ

うこと。

人とは

好みや

80

鳥を

一長一短 よいところもあるが、 「石二鳥 「一挙両得」に同じ。 つのよいことがあること。

よいところもあるが、

十人十色 完全無欠ななる。 日進月歩 右往を打ちる 空前絶後にいへんめずないこと。

たいへんめずら

かけたところや、

たり

異口同音 多くの人が、口を まな まな ひと くち

一つのことをして、

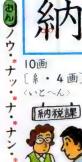
口をそろ

ら、動き回ること。 任 多くの人々が、ち する まま ひとばとが、ち がいところもあること。

ちつじ

4画

10画





■ ● さしだす。ま 約約約約約

「納税・納入・納期・納屋・た、しまう。おさめる。 納戸・出納」でおわりにする「納会」 方 国民には納税の義務があ

の中をしずめる。「修める」は勉強める」は取り入れる。「治める」は世といる」は中に入れる。「治める」は世といる。「収 仕事をしている。▼納得がいかない。 市役所で出納(=お金の出し入れ)の中を整理する。 V父は、 ▼納戸(=衣服や道具をしまってお ▼納屋(=物置)に農具をしまう。

する。または、悪いところをなおす の中をしずめる。「修める」は勉

糸(=いと)と内(= う)を組み合わせた字。

「述」は「後についていく」という意味。それて「シ」がついている。

ずはいい

は山がせまっていました。▼富士山重い荷物を背負う。▼旅館の背後に使い方▼かべを背にして立つ。▼

を背景にして写真をとった。マ父の

言いつけに背いて、しかられた。

呼吸のはたらきをする器

胸の左右にある

肺肺肺

くとせ・せい・\*そむく・\*そむける

9 画

[月·5画

肺

5画

9画

にくづき

[月

かハイ

・にくづき

土

节节节背

[月・7画]

(にくづき,

とり(=からだ)を組み合わせた字。 の人がせなかを向け合ったようす)

せなかを向けるこ

と開いたりとじたりして呼吸をする

「はい」をあらわす。

うす)を組み合わせた字。ばっぱっと→二(=草の芽が、ばっと開くよ

ばっぱっぱっ

とをあらわす。 せなか、または、 たち ちか

Y MA

背ふたり

<u>|</u>

智州-肺(肺)

からだ) (m) 呼吸から肺呼吸にかわる。

ゃくしからかえるになるとき、

えら

俳人としての名)です。

芭\*蕉\*は、紀行文もいくつか書い

る空気の量)をはかる。▼おたまじ がある。▼肺活量(=肺にすいこめ

# るとノウ

**用浴** 用浴 脳脳

ある、 1頭の骨の中に 考えるはたらきを

大脳·小 のではなる大切なもの。「首脳」③中心となる大切なもの。「首のではならき。「脳天・脳裏・頭のあたまのはたらき。「脳天・脳裏・頭のあたまのはたらき。「脳天・脳裏・頭のあたまのはたらき。 命令を出したりするもの。 脳・脳波」をあたま。 のうみそ 脳 また、

す。「派出・派遣・特派員」

をあらわす。 ようす)を組み合わせた字。 ▼脳裏(=頭や心の中)。▼政府の首脳。使い方 ▼脳天(=頭のてっぺん)。 かくてしわのある「のうみそ」のこと たちと

(一頭に毛がはえている

なり
もとの字は「腦」。月(=にく) 「悩\*」とまちがえないこと。 やわら

||画

脳脳

かん

9画

(さんずい)

[氵·6画]

8画 〔才・5画〕

、てへん



河派派

いかおがむ 思えハイ

●もとから分か 派派派

打打打打打挥挥

おじぎをする。

丰

右派・左派・学派・宗派・

つかわ まって、 いるり神や仏をうや

本流から分かれ出て流れる支流の かれたようす)を組み合わせた字。 ちいう(=川の流れが分 特派員としてアフリ 水害地に派遣\*され \*被\*害を 二つのの とは。「拝見・拝借」 たなり を拝む。▼拝殿\*に立って、うやう 拝任」3へりくだる気持ちを表すこ参拝は、0つつしんて受ける。「拝命・たいない。「拝礼・拝殿\*・ お使り、うれしく拝見しました。 やしく拝礼した。マ神社に参拝する 使い方、お正月の朝、

初日の出

る。

文は今、

なために、

いろいろな流派がある。

力に行っている。

という意味をあらわす。 す(=手)と事(=神へのささを三日ほど拝借いたします。 を言れほど拝借いたします。 なり、としてす。▼この本 げもの)を組み合わせててき

意味をあらわす。

00

伊 田紀ハイ

10画 [1.8画] ・にんべん

併併併併併

た。 す。▼俳人(=俳句をつくる人)松尾\* からなる、世界でいちばん短い詩で 俳句は、五・七・五の十七音 万▼好きな俳優のしばいを見る 2俳句。「俳句・俳に 非

ではいぞう。「肺臓・肺炎\*・肺活量・肺がん」
炎\*・肺活量・肺がん」
やおたしは小さいころ、からになって入院したこと

芸を見せる人の意味から、役者をあた字。右と左に分かれてかけ合いの た ち り 「排\*」とまちがえないこと。 開いたようす)を組み合わせイ(=人)と非(=羽が左右に

(事)字のちしき (の)

「一ケ」はイッコと読む。この「ケ」は、本当は「个」という漢字。

内閣が条約を批准\* 見をもっている。

する(=よいとみと

について批判的な意 批評しあった。▼か

れは、

この計画

では方 ▼かきあげた絵をみんなて代表者がみとめる。「批准\*」のてしめす。「批評・批

めてしめす。「批評・批

1人にわからな

る。

班長はみんなの意見をまと

そうじをする。

放送班の人は、 めてください。▼各班で分担して、

放

」あらわす。「比」は「ヒ」の音もつき合わせてくらべて決める

あらわす。 ことをあらわす。

いように神をまつること。

入り口をしめて中がわからな

に木をそえてくくる)を組み合わせ(=ぼうが折れないように、両がわ (=ぼうが折れないように、

-秘(秘)だん)と以

たなり

キ(=手)と比(=ならべてく らべる)を組み合わせててき

10画

[3.7画]

くおうへん

いくつかに分け

班

でい方 マクラスを五つの班に分け「班長・班活動・三班」

たそれを数えることは。 たそれぞれの集まり。ま

方マ天気予報では、 今晩から

年をとってからの人生)を郷里でしいを歩く。▼おじいさんは晩年(= あわせにおくった。 ▼ 晩秋(=秋の終わりのころ)の野一晩てつ夜してがんばったそうだ。 雨になるらしい。▼兄は、世い方▼天気予報では、 試験の前、

た字。 うすをあらわす。 なり 音をあらわす)を組み合わせ 「勉」とまちがえないこと。 日(=太陽)と免(=「バ くらくて物がよく見えない ン」の

たなり

王(=玉)を二つと、

を組み合わせててきた字。玉を

分けた一つ一つをあらわす。でごつに切り分けることで、

思えバン 12画 B

· 8画

币

的 晚

日免 いる

おかと

~~\*いな

1

可293

7画

否否否否否否否

そうてはないと

は。「否決・否定・否認・拒\*否・安否 反対の意味を表すこと打ち消すことば。また、

▼住民の要求を、役所が非\*香する考えもいちがいには否定できない 賛否·可否·合否」 使い方と案は否決された。 賛成か否か、 試験の合否(=合格か不合格か)を はっきりしなさい。 役所が拒\*否する。 マその

のて、 早く知りたい。 てないか)が心配だ。 ことば)を組み合わせててき 不(=打ち消すこと)と口(= 親せきの安否(=ぶじかぶじ

▼地しんが起こった

た字。ことばて打ち消すこと。

13画 [月・9画] くにくづき

日々

10画

[利·5画]

(のきへん

秘秘 カフク

\*ひめる

BAN L

7画

くてへん

[丰・4画]

いるはら

●胸の下て、 腹腹 腹腹

や腸が入っている部分。 复 A

腹心」③物の前や中ほど。「山腹・中腹」 腹・空腹」②心の中。身う おなか。「腹部・腹痛・満 腹巻きをした。▼調子にの ・おなかをひやすといけな ち。「腹案・

いのて、 話す。▼山の中腹で一休みする。腹寒(=心の中にもっている計画)を腹寒(=心の中にもっている計画)を わ)とや(=足)を組み合わせた字。 って食べすぎて、 一覧の(=にく)と言 「復」「複」とまちがえやすい。 もう満腹です。

腸がいくえにも重なってふく

おなかをあらわす。

「个」は「個」と音も意味も同じ。「一ケー一个一一個」(403ページ参照)。

閉会·閉校」

思い出がよみがえってきます。

使い方・目を閉じると、

マロッタッの

方になったので、

ます。 ▼校長 先生が開会の辞 (=あ) でんじょうにより、本日は開店いたしいたい

本日は閉店いたし、カーテンを閉めた。

やめる。おえる。「閉店・

閉

いるのとじる。

門

日月

門

門閉

とをあらわす。

一をとじて、

人の出入りを止めるこ

金いたつ。「奮起・奮戦・ 使い方と勇気を含い起こしてあい いか 気力をこめてふ

不 在 在 奮 奮

くんふるう

書って早朝練習に参加してくださてにぶつかっていった。▼みなさん 大(=手足を大きく ナナー ームが優勝した夜は、 万円奮発 **マ**みなさん、 して

合わせた字。鳥が飛び立とうとして たなり ちり 言に発音して、死にものぐるいでが んばった。 異音してねむれなかった。▼兄の一 。マ父はお年玉を一 れた。 7 住(=鳥)と田(=地面)を組み 力を一度に出すこと。 広げる)と

8画 [一·7画]

いち



くれなみ、ならべる・ならぶ・ならび

10画

[月•7画]

こぎとへん

いるのならぶ。また、 並並並並並 並並

K.

事之へイ

11

天皇や皇后、

E

BE

BE-

厚比

陛

道」②ていどがふつうてならべる。「並行・並木

同じよう であるこ

王や女王などをうやまっ てよぶときにつけること

と。「世間並み」

あること。また、

並んでください。▼古い家並みの残されてください。▼古い家並みの残された。▼古い家並みの残ない。▼古い家並みの残ない。▼古い家がよるのでは、二列に るバス。▼電池を並列につなぐ。▼ れいな大通り。▼鉄道と並行して走 お会いになった。
をろいてデンマークの女王陛下にそろいてデンマークの女王陛下は、お は。「陛下」 た ち り 「階」とまちがえないこと。

階段のこと。そこから、宮殿\*の階級み合わせた字。きちんとならんだ 教()とり(=もり上げた土)を生(=きちんとならんだ土の

人が立っているすがたを二つ組み合 人てやるのは並たいていてなかった。 ならぶことをあらわした字 並

わせて、

なり

の下にいるけらいから伝えてもら とばは、天子に話をするとき、階段の意味になった。「陛下」というこ階段のこと。そこから、宮殿\*の階 たことからてきた。

### 4 画 [片• カナ





12画

[ \* · 7 画

ころもへん

いかかた

Valおぎなう

補補補補

さいる・\*とざす・

しめる・しま

一画

• 3画

開

151

ぼう。「片道・片手」②きになっているもののいっ いるの二つて一組み

破片・紙片・断片・一片」③不完全なはんんだんだんいでんかでんないでんないでんないでんないでんないでんないでんないできなればし、ひときれらわずかの「片時・ 他い方 ▼大きな荷物を片手で持ちようす。「片言」

あげる、 を切った。 なっています。 >ガラスの破片で手をこの先は工事のため、片側通行に ・片道だけ飛行機で行く
かない。 ▽片言の英語を話す。

> 選手が から、

水分を補給する。 補足説明します。

→台風でこ マラソン 大会の補欠選手になった。

わたし

使い方くおじは、 補充 \*•候補」

▼おじは、学費を補うため

学費を補う

形)からてきた字。うすく平らな木のをまん中から半分に切っただがわの 形)からてきた字。 の切れはしをあらわす。 \* ★ (木)

片-片 K F

りつける)を組み合わせた字。着物のできたは委員長に立候補した。

は閉口(=うんざりしていやになる

いさつ)を述べた。▼今年の暑さに

こと)した。

門(=もん)と才(=たち切 て止める)を組み合わせた字。

りつける)を組み合わせた字。

のほころびをつくろうこと。

修・補正・補助・補滑・補佐・大・補足・補給・補強・補強・補人・補発・補産・補給・補強・補一・本人・相と・補足・補給・補強・補佐・本人・相といるいところ、十月の一段りないところ、十月の一段りないところ

あとをたずねる。▼祖父は八十才でした平家(=平の姓\*をもつ一族)の

使い方 マ滅\*亡(=ほろびること)

いにげてかくれる。「亡命・逃\*亡」

使い方▼時間がたつのも忘れて読を症\*・年忘れ」

0)

でいる。▼祖母は、近ごろ物忘れがろうするかくし芸の練習にはげんない。▼父は、忘年会でひ書にふけった。▼父は、忘年会でひ書によりった。

忘我。忘年会。忘却\*·健

わすれる。「忘れ物・ 記おくがなくな

七、

亡」でしぬ。また、

ているようす。「死亡・亡霊・・亡者」で、20しぬ。また、しん

ろびる。「亡失・存亡・滅\*

いるりなくなる。

いか

あがウ・\*モウ

おと \*ボウ

わすれる

3画

なべぶたり

Va \*ない

し
亡
亡
亡

志志志志志志志

亡·忘·棒

ことをあらわした字。

あったもの

かくれて見えなくなること。

「ボウ」の音もあらわす。

さげ持つ木のぼうをあらわす。

を組み合わせた字。両手でさ

たなり

的な圧力や、

めにほかの国ににげること)する。

人をついた ててかく

み合わせた字。心の中にあったもの たち くなる)と心(=こころ)を組むり 亡(=今まであったものがな

がなくなることをあらわす。「亡」は

者がへった。

亡くなった。

▼交通事故による死亡 ▼外国に亡命(=政治 身の危険をさけるた

く知っている地名なのに、度なひどくなったとなげいている。

度忘れし

てしまった。

くれる・くらす

京京草草菜暮暮

|4画 [日・10画] (0)

生活する。くらす。③季節や年が終 日暮れ・夕暮れ・薄\*暮」② いる・日がくれる。ま 暮色・ 暮

財宝・国宝・秘宝・重宝(ほう・・たから」「宝船・宝石・宝物・宝庫・「宝船・宝石・宝物・宝庫・

いるめずらしくて価

主

111

を見たそうだ。▼いろいろな宝石を使い方▼父は宝くじにあたった夢

ちりばめたかんむり。▼神社の宝物

そのころ。

暮れのおくり物)を送る。 (=せわになった人におくる、年のい感じ)につつまれる。▼お歳\*暮 使い方 ▼暮色(=タ暮れのうす暗 わりになる。また、そのころ。「歳\*暮」

魚の宝庫だ。 殿\*を見学した。

▼国宝の仏像の展覧に、▼オホーツク海は

会があった。

しずむようす)とり(=日)を組み合 るのが「基」、布にかくれるのが「幕」。日がかくれるのが「暮」、土にかくれるのが「春」、土にかくれ わせた字。

まっホウ とから

8画

[一・5画]



川画 [言・4画]

(ごんべん)

中宁宁宇宇宝宝

言 \*おとずれる・たずねる ホウ

カの大統領が訪日する(=日本を訪らないまります。 マネ月の末に、アメリ ました。▼あしたから、 父といっしょにおじさんの家を訪ねったふるさとを訪れました、▼昨日他い方 ▼何年ぶりかに、生まれ育 とずれる。 などへ出かけていく。お れる)予定です。 訪問・訪日・来訪・歴訪・探訪」とずれる。 たずねる。 よその土地や家 家庭訪問が

左右にはり出す)を組み合わせた字。 言事と言はとり(=こと ことばてたずねま

右や左に歩いて、 わることをあらわす。

のをやねの下にしまっておくこと。

もの)を組み合わせた字。

もの)を組み合わせた字。大切なもてつくったうつわ)と目べ(=たから

(=玉)と金(=水などを入れる、

れる、土に上

(=や

寶寶-寶(宝)

# 12画 [木·8画] (きへん)

7画 〔心・3画〕







て、馬が棒立ちになった。▼山下君録がてた。▼大きな物音におどろいでした。▼大きな物音におどろいでした。 更い方 ▼棒高跳\*びて、世界新記金棒」②変化のないこと。「棒読み」 の。また、その形をしたも ぼう。「棒磁石・棒立ち・鉄棒 細長くまっすぐなも

ても、 考えずにそのままおぼえること)してか。▼教科書を棒暗記(=意味をすか。▼教科書を棒暗記(=意味を は鉄棒の名手です。▼やぶから棒 実力はつきません

木(=き)と奉(=両手て持つ)

中国語の「摩訶不思議」は、梵語の「マハラ(おろかの意)」の訳語。

を結ぶ。マ今度、

ボー

イスカウト

盟に加盟した。

なり

%-盟

がはっきりと

たい約束)を結んだ。▼外国と同盟

▼同じ考えの仲間で盟約(=か

411

心となる人)とあおぐ人々が集まっているというとあおく人々が集まっているというないというでは、「一世間の中では、「一世間の中では、「一世」というない。

約・同盟・加盟・連盟」

をする。

また、

盟

いいまでは、

かたいやくそく

明

明

明

盟盟

200

7 バ 13画 7

[巾・10画] 1111



書とミツ

11画 [宀・8画

・うかんむり



●数える。「枚 枚枚

どを数えることば。「紙挙」の紙・板・うすい物な

ったりする広く長い布。り、しきりやかざりに使り、しきりやかざりに使

幕

まっている。

また、

くっ

いるりまさまなく集

宮客客密密

り物をおおった

とる所。

こる所。「幕府・幕末・討幕」③劇などとは、は、は、は、は、ないないないないというないないというないない。

のひとくぎり。場面。4終わり。

使い方マ卒

業式の会場に紅白の

密・密約・密告・密書」の親しい「親密」

方と密閉されたところでは、

生・密閉・密度・密接・密林」でしまかついている。「密接・密・クラン

くいきとどいている。「精密・厳密」

でい方 ▼大都市では、そんな事件に使ったことば。「大枚・銀一枚」では、そんな事件に使ったことば。「大枚・銀一枚」では、お金などを奏り さんのお金を使って)買う。
◇大枚をはたいて(=たく 0 あって数えきれない)。 持つつえやむちのことをあらわす。 枚数を数える。▼作文用紙が五枚 木(=き)と女(=手に持つ)を 組み合わせててきた字。 >試験用紙

百年近く続いた。▼ここは君の出事をはりめぐらす。▼徳川幕府は三

がある。

▼旅行の綿密な計画を立て

る。

▼このことは、二人だけの秘密

だ。▼親密な間がら。

きに使う単位として使われた。のちに、同じ種類のものを数えると

て見えなくすることをあらわす。み合わせた字。物におおいをかぶせがかくれるようす)と (一布)を組 には、あっけない裏切れだった。 幕 むこうに太陽の

せた字。

たちる)と山(=やま)を組み合め、一つで、1000円をひたりとし

わめ

宓(≡家の戸をぴたりと

訳

[言·4画]

こんべん

||画

盟

8画

13画

m .

とら

田紀メイ





あかヤク

くわけけ

から

言言言

訳

訳訳

るとも・ボ

□手本。「模範\*」 模模模

の着物を着ている。 行機をつくる。>母が、 (=まねてかくこと)する。▼模型飛 たち。ありさま。「模様・規模」 模型・模造・模擬\*」3か 2手本をまねる。「模写・ ▼大規模な工 大規模な工事で美しい模様

せた字。 をつくるための木のい型のこと。 しずんで見えなくなる)を組み合われて見えなくなる)を組み合われる たなり が始まった。 ■「膜\*」とまちがえないこと。 東一模 · (三日が草りやこ

見える)とふ(=さら)を組み合わせ

盟・模・訳

しをたてることをあらわす。

けにえの血をすすって、神にあか

さらに入れた、

神にささげる

模

語訳。②わけ。理由。 「訳文・和訳・英訳・通訳・翻\*訳・現代といいないで、ないしたものとばになおす。また、なおしたもの の国のことばや現代のこ り ▼この小説は、

す場合もある。▼あなたがおこって同時通訳といって、話すそばから訳 おそくなって申し訳ありません。 いる訳(=理由)を、教えてください に訳されているそうです。 ▼最近は 五か国語

選手のちしき のこ

た人をなら

)ことは)

べてたしかめる)を組み合わせた字。

とうに一つみをおかし

部-譯(訳)·\*(=

二日 P

はや古いことばを、

ほか

●ある国のこと

て、ひとりじめにしないように。

▼欲 求を満たす。▼

欲はりが

秋になると、

食欲が増す。

勉人

無欲·私欲」

・欲深・欲張り・食欲・意欲・強欲

使い方
人間の欲望には、

む。また、 いる

また、ほしいと思うまた、ほしいと思う

欲

りない気持ちをうめたいと思うこと

をあらわす。

を組み合わせた字。

心の中のものた

をち (=からだをかがめたようす)谷(=まとう)

谷(=あながあいている)と欠

「浴」とまちがえないこと。 しようという意欲がわく。

# 垂

●以方 ▼父の会社には、野美・郵便局・郵政省」 いる手紙や小包を送る 大量の

念切手を買いに、郵便局まで製作物が送られて来るそうだ。 る役目の人たちのために、わせてできた字。命令や郷 どの仕事をしている役所です。 たちくてかこっ 郵政省は、 クイズの答えを書いて郵送した。 をててきた字。命令や報告を伝える。 ・てかこった場所)を組み合いた。 ・大地のはて)とP(=さ ▼郵便番号を忘れずに書こう。 郵便や貯金や電信な 国ざかい

なり

コカユウ

一画 [6·8画] おおさと



垂 垂 郵

特別だいことを参え優秀・優位・優勢・優位・優勢・優できまっている。 雅\*」②すぐれて うす。やさしい。「優美・優 いる。ししとやかなよ

では、運動性は、優に(=らくも優しい。▼広場は、優に(=らくも優しい。▼広場は、優に(=らくたがないた。)千人をこえる人でうまっていた。なかやまでなったができない。 3. 役者。「俳優・男優・女優・名優・声優」といいてする。「優先・優遇とのといいにする。「優先・優遇とのとなった。」といいてはなった。 ▼校内マラソン大会で優勝し

うてす。

もんしろちょうの幼虫です。

っている弟がいます。▼あお虫は、

かれは幼少のころ、病弱だったそ

▼幼児の入園料は、無料です。▼幼なじみの友に再会したそうだ。

る。

母はきょう、

町て、

ぐうぜん

のめんどうをみ

合わせた字。 たなり ふるまう役者をあらわす。 イ(=人)と憂(= ているときのすがた)を組み ゆったりとしなやかに 心がしずん

においた、

さくてかこった小屋をあ

のシュウ

にんべんり

17画



ショウ

5画 [4. 2画

いとがしら



\*やさしい・\*すぐれる 区優優優優優優 夏 では、 かい はない はない。「幼児・幼年・幼少・ない。「幼児・幼年・幼少・ない。」 かんしょう はんじょう かんかい。 おさな くれおさない

出

回「幻\*」とまちがえないこと。 さからの「無くみじ かい糸)と「井(= カの弱い、

カ)を組み合わせた字。 おさない子どもをあらわす。

いんみだれる・みだす のカラン

のショク 一画 [羽·5画]

はね

7 画

[1.6画]

おつにょう

\*ほっする・\*ほしい

谷

欲欲欲欲欲

カショク

11画

(ナー)

[欠·7画]

习 犯 羽 翌翌

舌

舌舌舌舌

舌乱

りみだれる。

乱だま

翌

むやみに。「乱立・乱読」③世の中がた、みだす。「乱雑・乱」

いくさ。「戦乱

きがてきた翌年に入学した。 全がてきた翌年に入学した。 できた翌年に入学した。 かぜをひいてしまった。 初めてブールにはいった翌日に、 使い方・翌朝は、 早く目がさめた。 新製品の

字。もう一つべつの日という意味。なるつはさのこと)を組み合わせたこと)と 習」とまちがえないこと。 1 -翌(翌) 立たってる 1

ていたのでは、光が見えす。 これの破片が散乱している。 これの破片が散乱している。 内乱・反乱・動乱」 める)て、 なり ▼動乱の時代を生きぬく。 て糸を引っぱる)とし(=おさもとの字は「亂」。 屬(=両手 ▼ 乱暴な口をきく もつれた糸を両手でとき してまぶし 駅は大混乱 両手 ガラ

ほぐすようすをあらわした字

しくしよう。 V兄は、大学でしくしよう。 「調律を使きない」 またまでは、「調子」では、「調子」では、「調子」では、「調子」では、「調子」では、「調子」では、「調子」では、「調子」では、大学では、大学で

いるのきそく。

おき

律律律律律律

カシリツ・\*リチ

書をリン

\*のぞむ

9 画

6画

臨

||画|

18画

[臣•

CLA

[1

筆てか条書きにすること。 人間のおこないの基本になることをに持つようす)を組み合わせた字。

美しい旋\*律(=メロディー)。 とのえること)をしてもらった。

律

律る(=おこない)

囟 1

さん\*ラン 7画

くれたまご 可可

卵生・生卵・産卵」でまた いるりきかなかし 人前になっていない人。 たまご。「卵黄・卵白・

母のつくる卵焼きが しろみを卵白という。▼わたしは、 使い方▼卵のきみを卵黄と 秋になると、 をのぼる。 から生まれること)の動物です。 さけは産卵のために 大すきてす。

かい

3 また、

卯 卯

(P.

(ふしづくり)

5画

あかラ

17画 [見・10画]

(みる)

臣

軒 **覧** 

B 1)

13画 〔衣・

ころも

1

表 200

7画

うら

全体を通して見かたす。

主東

审

重

東東裏

臣

臂

いか

動物のう

しろ。

「回覧・観覧・遊覧・

関\*覧・展覧会・博覧会」2見やす

「脳裏・手裏けん」

…のうち

便い方 となりの家に回覧板を届まとめたもの。「便覧(スビトムスト)」 ▼湖を遊覧船でひとまわりした。▼遊園地で観覧車に乗った。 ・六年生で学習する漢字の一覧表示をおけ、からの表覧会を見に行った。 ・行きな画家の展覧会を見に行った。 この「成功裏」にの「成功裏」になること。・ ている。」裏通りを歩く。 面・表裏・裏打ち」②物のうら。「裏側・裏地・裏 **うちがわ**。 うち。 うなことはしたくない。< 表を見分ける。▼友 表(=頭の中)をかすめた。 使い方と学校の裏はあき地になっ

初裏(=成功のうち)に終わった。 たち なり れた田畑)を組み合わせた字。 じめを

まもよう

の布地のことをあらわす。着物のうら地に使った、

る)を組み合わせた字。上から下 つした顔を見るようす)と日へ(=見をうないを)水面にうないのでは、 ものを見まわすことをあらわす。 0)

さんつらなっているようすの一部を

りいたまごが、

たく

魚やかえるの丸

を作る。

マ会は成

不安が

安が脳のよ

紙がの裏なる

あらわした形からてきた字。

たなり

アノの調律(=楽器の音を正しくと(=まじめて義理がたい)人だ。▼ピーまじめて義理がたい)人だ。▼ピー 勉強をしている。▼おじは律儀\*な 大学で法律の 聿 規律正

きやその時間にいあわせる。「臨席・臨・光臨」②あるものごとが起こると を見おろす。 いる 1高い所から下 い人が出むく。「君がわろす。また、身分

の(=その場その場にふさわしい)処の(=その場その場にふさわしい)処 七月の第三週は、臨海学校だっているととう。となったいまというないができた。 臨時・臨終」の面とむかう。「臨海」

た字。人が高い所から、下のいろいか(=いろいろなもの)を組み合わせ たなり ろなものを見おろすこと。 て下を見るようす)とり 一日日 - 路車をふせ (=人)と

台品 臣

> いてすがすがしい。明る \*ほがらか 自自自

臨

臨臨





見ロウ

10画

[月・

6画]

高くひび 良

朗報・清朗」②声が明るとなればれしている。

朗らかな性格です。▼かれは明朗快きな声で詩を朗読しました。▼母は ってよろこんだ。 知らせ)がとどいたのて、 らが明るくて元気なようす。 くようす。「朗読・朗朗・朗詠\*」多人が 良(=清らかでくもり 方 ▼合格の朗報(=うれしい だれからも好かれています。 ▼授業 中に、 こつき)を組み合 やに、大きなが

んていること

こと)と月(=

「穀」は、「こくもつ」の意味を表す部首「禾」の部にはいっている。

をあらわす。

### りょう ・さくいん

漢な漢な漢な漢な漢な 字に字に字にお る学習漢字外 430

# 15画

[言·8画

のシロン

論・理論・結論・言論・世論(はき・せき)」ないないである。である。である。である。である。意見。「持ものごとについての考え。意見。「持 の決定には、反論の余地がないないことで兄と「論になった。 使い方く議論を重ねる。くつまら

をう 書いたたんざくをきちんと整ち この辺で結論を出しましょう。 「論\*」とまちがえないこと。 理論的におかしい

てて考える。「論理・論

す)。「疑」(うたが-う)。「誤」(あ やま-る)。「従」(したが-う・した める・ちぢ-れる)。「尊」(たっと-が-える)。「縮」(ちぢ-む・ちぢ-い・とうと-い・たっと-ぶ)。「閉」 「延」(の-びる・ (おぎな-う)。「難」(むずか

漢字。

のーべる・のーば 「収」は何かの中に入れて落ち着「収」は何かの中に入れて落ち着 ったり送り入れたりう、送りこむこと、 「勤」はつとめ先にかると、「務」は力をつくして は学問やわざを身につけること。は静まる、おだやかになる。「修 にすること。 ておきましょう。 次の漢字の使い

おだやかになる。「修」 入れたりすること。「治」

は何かに

を受けれ

「郷」十一画。「縦」十六画。 「厳」十七画。「善」十二

十三画

分けに注意

習

お

ŧ

な

漢かん

字じ

### 漢字 巨乏斗井升互幻凶介与刃 セまシたゴまゲ キョウ・シ ろ ウ キとボゥし はフしせめショウカ カイ よからお 1: 例 漢字 戒朴伏肌壮旬充朱旨江仰 吉企汗污矛 くキあカンスをほん ふっは いカボク ソウ 50 おウ 漢字 沖択杉伸肖床秀寿佐攻抗坑迎狂却肝 のシショウ とシひシこジュン・ウスクラ せココウ コウ 3 = 7 ひシ かイるョ

理国 科語 やお 社よ 会び 0

学が 科か ゆう

漢かん 字也 タトが、 出で

3

の読ょ音がは配は 字は送りが は終画数です は総画数です のらんは、 す。

がなです なが訓読は、かたか です。 上意 か 2 で、な 0 数す 赤まが 字也

喫	换	奥	援	越	偉	麻	符	猫	描	販	培	排	婆	陶	添	偵	彫	室	脱	掃	漢字
キツ	かえる・かわる	おオウ	エン	エツこえる	えらい	あさ	7	ねこウ	えがウ	ハン	つちかう	1	75	トウ	そえる。そう	テイ	ほチョウ	チッ	ぬぐ・ぬける	はソイウ	音訓
哭ら	交換・換気	奥"	1000	越合	保べ 大い	麻薬・麻酔	切ら	山猫	描写・点描	自動販売機		排水・排気ガス	老婆	陶磁器·陶芸	添え付ぶ	探偵•偵察	馬利の 馬像	室素	<b>朋兄</b> 与	清掃・掃除	語例
渡	堤	塚	超	遅	弾	棚	替	葬	疎	訴	診	殖	掌	晶	湿	項	硬	墨	御	距	漢字
わたるわたす	つテイ ス	つか	こえる:こす	1 13	b ah	†: †:	かくごうかい	ほうむ	うというと	うソ た: :	<b>みシ</b> : ン	ショク	ショウ	ショウ	しめる。しめす	コウ	かたい	ケン	おんゴ	キョ	音訓
で度と	B方(1)	"	15 11	遅ん	小百 11	棚田・大陸棚	14%	Do.	F 2	4.	イエト	養殖	合掌づくり	結晶・水晶	記し	事。	硬貨・硬度	北極圏・首都圏	御かれかっ	距離り	語例
棄	勧	較	雅	暇	鉛	煙	這	腕	湾	惑	硫	揚	雄	愉	帽	募	雰	幅	普	廃	漢字
+	オすらる	カク	ガ	ひま	なまり	1-1 6 -	がう	うてン	ワン	まどう	リュウ	あいたあかん	お・おす		ボウ	つがる	フン	はフ	7	すたれる・すたる	音訓
17E V	勧告・勧誘	比較	雅楽•優雅	休暇・余暇	鉛筆 鉛色	禁煙•煙突	違反・違法	腕力・鉄腕	湾人	迷八		揭揚•抑揚	雄大・英雄・雄花		脱二	応募・募集・募金	×(.	幅	普通·普段	廃止・廃藩置県	語例

剛	貢	悟	軒	剣	兼	恵		核	華	厘	柳	盆		胞	封	赴	峠	帝	胎	俗	漢字
ゴウ	みつ・2	さとう	のケン	つるぎ	かねる	めぐむ	おそ/- い	カク	はなっケ	リン	やなぎ	ボン	おかけ	ホウ	フウ・ホウ	おもむ・・	とうけ	テイ	9	7	音訓
	貢献・年貢		一軒・軒先	剣道・真剣	兼業農家	思恵・知恵	恐怖·恐縮	結核・核兵器	単か	一割一分一厘	川だり	盆从地	冒頭・冒険	細胞・胞子	同封・封筒・封建	赴活任	時道 道	大人	胎に内含	烛,	語例
紛	浮	浜	疲	被	般	倒	唐	透	桃	途	哲	畜	租	扇	振	症	称	脂	剤	栽	漢字
0 1 1	かいかっか	はとまン	n.	こうむん	,, ,	たおんる・たおす	かトゥウ	トウ・すい	もトウ	+	テツ	チク	ソ	おうき	ふシン・ふるっ	ショウ	ショウ	あシ	ザイ	# 1	音訓
生し	浮世絵	:77	分分			倒立・倒木					学?	五方	地租改正	風	動	症状·花粉症	称号·敬称	脂に	洗剤·薬剤師	培・盆栽	語例
紳	涉	渋	釈	蛇	斜	執	斎	婚	掲	掘	偶	菌	脚	患	涯	東		竜	紡	砲	漢字
シン	ショウ	しぶい・しぶろ	1 20	びゃ	なかってい	とるツ・ショウ		コン	かかイ	ほクツ	グウ	キン	あし。キャク・キャ	ずらつ	ガイ	カ	レッツ	たつウ	つむく	ホウ	音訓
紳な	干涉·交涉	渋 滞 法茶	釈 放·解釈	大蛇·蛇足	斜面·傾斜	執権・執筆	書斎	婚約・結婚	掲示板・掲載	発掘•採掘	偶然。偶数	細菌・殺菌	脚本・脚力	患者・急患	生。	菓子・茶菓	強烈痛烈	恐 竜 竜宮城	紡績	大砲。鉄砲	語例

濁	獣	儒	還	壊	6緯	霊	黙	魅	撲	墳	舞	膚	敷	盤	範	賠	軰	踏	徹	駐	漢字
27	けものウ	ジュ	カン	こわけこわれ	1	たま・リョウ	だまる	725	ボク	フン	まう。まい	フ	しつ	バン	2	1	7	ふトウ	テッ	チュウ	音訓
獨音·獨点·獨流	野獣・鳥獣	儒学・儒教	返還・帰還		緯度・北緯	精霊・悪霊	默読・暗默	魅力・魅了	打撲・撲滅	古境人	舞台・歌舞伎	皮膚	敷、	羅り	範囲・模範	賠償金	先輩。後輩	雑踏・踏み絵	徹っ	駐車・駐在	語例
鎖	顕	騎	18	龄	療	聴	濯	霜	鮮	償	購	謙	環	錬	隣	頼	謡	壁	薄	濃	漢字
くさり	ケン	+	カク	ل 1	リョウ	き・・・ウ	97	しソもウ	あざやか	つぐなう	コウ	ケン	カン	レン	となる・となり	のもしい・たよう	うたい・うたっ	かべキ	すらいますすれる	こうウ	音訓
鎖言~	顕著・顕微鏡	騎馬•騎兵	収減種	高齢・年齢	医療·治療·診療	聴		霜害・霜月	鮮魚・新鮮	補償金・弁償	購入。購買	謙虚·謙譲語	環境·衆人環視	録んれ	近隣・隣人	信頼・依頼	童謡·民謡	障壁·壁画	薄情·薄水	濃厚・濃度	語
23	22		魔	85			智	離	譜	爆	藻	瀬	鶏		翻	覆	藩	騒	礎	瞬	渡字
カン	おそっウ	おヤク	7	カン	ゆずる	かけてかった	ひちょう	15	フ	,, 7	もソウ	t	にわとり	かてりョウ・ロウ	えるか た		7 2	さわり	いしずえ	またた。	<b>音</b>
図鑑・年鑑	襲名·空襲	活躍・飛躍	魔法•魔女	艦隊・軍艦	譲歩・譲渡	一生懸命。懸賞	交響曲・音響	別離·離陸	譜代大名·楽譜		海藻·藻類	瀬戸内海	養鶏場鶏卵	食糧・兵糧	翻訳。翻案	覆面・転覆	藩主·親藩大名	騒動·騒音	礎石·基礎	瞬間・瞬時	部

殿	稚	嘆	滝	滞	僧	摂	跡	慎					歳	債	溝	鼓	献	遣	継	傾	漢字
どの・どの デン・テン	チ	タン・なげく・	たき	タイとどこおる	ソウ	セッツ	あとキ	つつしむ	ねる・ねかす	ふんノ・さわノ	かざん	いつくしょ	サイ・セイ	サイ	みぞウ	つづみ	ケン・コン	つかう・つかわす	つかくイ	かたむける・	音訓
宮殿・御殿・殿様	稚魚・幼稚園	感嘆符・嘆願	白海湾	滞在・滞納	僧侶・高僧	摂政・摂取	奇跡•遺跡	慎をよう	寝室・寝殿・昼寝	触覚・感触	修飾·服飾	慈愛・慈悲	歳月・歳時記	国债·地方债	下水溝・流雪溝	鼓動・太鼓・小鼓	献血・献立	遣唐使・派遣	中継・継続	傾向・前掲	語例
漂	碑	罰	稲	滴	摘	徴	端	誓	需	獄	豪	綱	維	鈴	雷	誉	滅	微	漠	督	漢字
ただよっ	Ł	バツ・バチ	いねいな	たキ	つテキ	チョウ	はしはははた	ちかつ	ジュ	ゴク	ゴウ	つコウ	1	すず	かみなり	ほヨまれ	ほろはす		, , ,	17	音訓
漂白・漂流	石碑・記念碑	処罰•罰金	水稻。稻作	点滴。水滴	指摘• 摘発	特徴・徴兵令	極端。南端	五カ条の御誓文	需要・必需品	地獄・安政の大獄	豪族·集中豪雨	横綱・手綱	維持・明治維新	風鈴・呼び鈴ん	雷雨・雷鳴	名誉・栄誉	滅亡・絶滅	微笑·微生物	砂漠•漠然	監督・督促	語例
潜	請	震	審	縄	趣	撮	稿	擊	緊	儀	監	歓	縁	15		網	漫	膜	墨	腐	漢字
ひそむ・もぐる		るう・	シン	なわり	おもむき	・とサッ		うゲキ	キン	*	カン	カン	エ ちン	かまげイ	こよみ	あるウ	マン	マク	すみク	カルイセッナ フ・くさノ・くさ	音訓
潜水・潜在	請求·請願·申請		審判。審議	縄文時代。縄目		撮影	原稿•投稿	擊退 反擊	緊張。緊急	儀式·地球儀	監視·監獄	飲迎・飲声	縁日·額縁	影響・影絵	旧香·西香	鉄条網·網戸	漫画・散漫	網膜・角膜	白墨·水墨画	腐葉土・豆腐	語例

W.

¥

+

手

8

E E

足

対えなる

犬

\*:\*

米

象形文字

今出 おの 漢字が生まれた 漢な が 文字です。 学です。 子のはじまりは、今かができあがるのに千年かできあがるのに千年をかるのに千年のの骨 の甲らやけものの骨にきざまれた。 本まり前にさかえた、殷という国の遺れた時期は、はっきりしません。しかれた時期は、はっきりしません。しかれた時期は、はっきりしません。しかれた時期は、はっきので国語でもありませれた時期は、はっきりしません。しから、漢字は、発音とともに意味も表しず。漢字は、発音とともに意味も表しず。 年代らいる漢字 る漢字がま か出てきましたと考えれた、アンかったと考え 年だか ます。 った 遺せ

大の絵えが かけを 形」と ル文字 と調べてみましょう。 と調べてみましょう。 いた絵 六 から、 百字 ぐら 山道は をか いんたんにして、 の形を象る」と あり ます。 漢が 11 作でう意 ます。 字じ 意。 を る方法です。物 作? この ŋ 方号 法等 に大いの

使力 0 t= にしるしをつけて表しました。 横線の「一・二・三」で表し、 たものです。たとえば、「ひとつ ②指事に のよう 絵では表しにくい、 「指事」とは、 文はす 典 5 0 と書い なり がらを指 数学や たち」で、 てあるのが、 「ひと 位置などを、 ししめ う・ 「うえ」は、 を、点や線で、 ふたつ 象形文字です。 0

下げ上等

指事文字

・みっつ」を、 意味です。 線のう しめ え L

国の地名を書き表す、「更としたが、「くる」とで「くる」意味を表すようになりました。ほどものので、同じ音のないないないないましたが、「くる」と 用法です。 字口 11.0 麦の 加」「伊太利」などの 、同じ音の「来」の宮 絵 からで ほかに、 いう意た字 味品 7.

外が字じの

たとえば、「楽」はもともと「音楽」の意味だけを表していましたが、音楽を聞くとたのしいことから、「たっ読みもできました。「わるい」という意味の「悪」を、う読みもできました。「わるい」という意味の「悪」を、「にくむ」という意味に使うのもその例です。「はなって漢字の作りかたをまねて作った漢字を、中日本で、漢字の作りかたをまねて作った漢字を、中日本で、漢字の作りかたをまねて作った漢字を、中日本で、漢字の作りかたをまねて作った漢字を、中日本で、漢字の作りかたをまねて作った漢字を、中日本で、漢字の作りかたをまねて作った漢字を、中日本で、漢字の作りかたをまねて作った漢字を、中日本で、漢字の作りかたをまねて作った漢字を、中日本で、漢字の作りかたをまれて作った漢字を、中日本を持つことばを書き表すのに、適当なる。 使いかたをいいます。 「転注」とは、「転じて(=変化して)、注しゃっていた。これも文字を作る方法では、「転じて(=変化して)、注しゃっていた。 6転注文字 転じて(=変化 ことから、「た 味は に使う、ななく、な

b れたもので、 1I ۲ h どが 会が適なます。

で生まれた漢

きから きから 、漢字のはじま なります。 昔の中国人が、どのようにして漢字の作りかたと使いかたうことになります。

0

辞

すでにある象形 孝など 口と鳥で 口と鳥で「鳴(く)」、「(=人)」、「など、など、木を二つ組み合わせて「林」一つの漢字にしたものです。 その 会然例なく)」、 安意文字です。 にです。ほかに 文字や指事文字などを組み合意味を会(=合)わせる」という す。ほかに、「明・位・際・岩・好・」、イ(=人)と木で、「休(む)」とするりせて「林」、三つ組み合わせて「森」、わせて「林」、三つ組み合わせて「森」、 意。 わせ 味 て、 7.

この

④形はなども、 か、形声文字です。たとえば、文字です。たとえば、 発音を表す なので、 なので、漢字の八〇パーセント以れます、「清」の字では、「う」が「水には、「清」の字では、「う」が「水には、「清」の字では、「う」が「水には、「清」の字では、「う」が「水には意味、「声」は発音のことで、意 ント以上 水平に にっ意い味 上流

のいと 2 0) ーつ たもの は で 係以仮言 です。 · la がう なく、 1= つう あ 発 借か 3 音点 ŋ っ「当て字」これは作り 読みだけをかりて、 心相 11 …心に関かり う意い とよばれ かたではなく、 味品 関かし て 係にと 7 文字のも がい ほかのこ いるも う 発は 3

> はわず かです。

畑…はた 1+ 峠

…とう

# 字の読みか

① ■ 漢次三 漢次 字□種い字□絵エ

0

①漢漢字の 一漢字の音と訓 の二とお 音だと ŋ 読 みか

「カ」という読っ 字にたを知いたい。本は これに もにつたわってきたもので、 が、日本語はな」と読む。 花」の 日本語の「まな・とという」 对作 して、 「カ 前の「はな」と同じ よう  $\sqsubseteq$ のように、 みかたは、 「はな」とい になったの は な」と し意 中意読ょの 中 国でで もと 本是 ことばは、 国でみ ときは「カ つ 心味を表して で作る ます か か もとは 5 られ つた たとき、 大語かっ 日に中 2 使な本は国での 読上 11 た読ょ たの 人是 語二漢次 4 ゎ 「花」の れてき か 7. 2 7 漢な 日にを 字上 かい られたか (1) 異音音 (1) 異音音 国の異(=長江の) 紀ごろにつたわった に多くのこって がら唐の できる。

「音だ」と 語で で意味 の見 む読みを、 「花」の「はな が かた 「訓」とい 3 かみ か た 11 ます。 訓紅は 61 7 11

0)

よう

から

0

の国に来)音気の

きる。平のは、中のは、

音が音は、い

う 意い意いわ味みか 2, 7. 意。 か から か 6 ない かる t 音が あ

る

訓

7

つたえら

音だ

物がは、

0

物の名が禅が

は す 2, 7. す。

音だの 読」も ŋ

て つ した 0 よう を 0

音だった がちがうと 日の中には、ちいたわったため、 平に買き人な人は意いち 易い易を間に員に味べが が う 音だつ 7 も上海時に同意の代告 ŧ 音だに 0) 意味をも ح はもつ漢なってい から あ n ます。 すも 字じく か あ 0) ŋ きます。

ことが

かり

エキ ニン ジン 容等交流人に成だち易い易な情等人にかう

③ 漢次同数 とば 0 易 字じ じん 同意に 異い語 t の字に た が < 61 さん たく 移いい 動きます。 ち さん あ がう ŋ ます。 あ ŋ J

同ちと

改作

漢沈た 広覧字にだ 一で一定文学の 一で一定文学での で、同じ音で 一つの 以上の 漢次の 一つの 漢次上の 一つの 変次上の 外が広り分だ のはら まる 訓をも て、 2 0 次を広めかたは 大 0 部。 は分が、同様は、 つも 漢など よう 0 広がる なもの じもので まれる・ 送りり をも かい がながちがうだけで、 つも はえる・なま あり 広る 14 0 ŧ があり

3

6

0

か を

いする

昨日 今日 果物

明为特色

日十別等

熟 べてみると、 二字の熟語 0 次のように、 かた を、 11 音が って読 つも 0 む 読ょか

0)

音点

かい

①二字とも音で読む 愛読(アイドク) 圧力(アツリョク)

②二字とも訓で読む 上の字を音で、 目印(めじるし) の字を訓で読 右手(みぎて)

大の字を明で、素顔(スがお) 重箱読み 字を訓で、 湯桶読み 下於 かってを音で読む

6

か

⑤ニュー 荷物 (にモツ) かたがあることば 古本(ふるホ

色紙 東和 7. 開か買か屋や回む 可せ書きをする。 い物をするがたって して遊ぶ をする 11

今明まで字・ 景色・熟字訓

桶き湯の桶を

t.

で読ょ た t が あ か 調 る

訓》

みか

→音だ訓に表は読みみ

ます。 帰党わりた 時にい たもので 流れば < たり、 代になっ 一つんちも にか ŧ 0 現だた。 ? す。現場方かったえら 当らけて から がで 2 当 らた 商を中で漢な日にこ 0 0 0 きま 時じは 人に国を 音が 本はの 都至多数 地のた 輸入された 0 れた音にた のです。 発生で 7. 使な音があ からつ 0 教え五、 . わ る 元以 長節等 0 7. 安の留 六世共中等 こと 7 2 たえ 7 百号

発は学が漢なば

本はがいいた。

音が音が音が音が 音が音が音が表 で変が日にち

5

3

安ない時にほ まえな 宗寺音だた のことばや、 郎多外 科加 ح" 行 0 こっ 唐を漢な呉こ 7 ギ 11 ウ 3 ます。 たいま 行一銀光行 つ・ 7 11

i		エこう・え				ずすしずん	子(子)	( <del>*</del> )		_		土(ま) つち(つちへん)	ロ(ロ) くち(くちへん)					刀(リ) かたな(りっとう)	はち	(イ·人)	15	は	つ(おつに	ノの・はらいぼう			ーいち	部首とカンカ	*
(はばへん・きんべん) 市・席・布・帳	巻	左·差	州	岩·岸·島	少·当	寺·対·導·尊	字·学·季·孫	委·妻·姿·好	天·太·失·夫	外·多·夜·夢	声·売	型·堂·圧·增	右·台·問·味	友·反·取·受	去·参	千·半·協·卒	加·努·労·勤		六·公·具·共	以·仕·会·今		予·事·争	九·乱·乳	乗·久	丸·主	中	上下丁世	海与多	かんじれい
肉(月)	耳(耳)	77	羊(羊)	糸(糸)	立	示(主)	目(目)	白	田(田)	生	玉(王·王)	母(母)	片(片)	火(大心)	水(シ・米)	氏	犬(犭)	止(世)	木(木)	月(月)	日	日(日)	方(方)	手(寸)	戸	ジ(十・4)	号(号)	*	干
にく(にくづき)。	みみ(みみへん)	はね	ひつじ	いと(いとへん)	7	しめす(しめすへん)	め(めへん)	しろ	た(たへん)	うまれる	たま(おう・おうへん)	なかれ・ははのかん	かた(かたへん)	ひ(ひへん・れんが・れっか)	みず (さんずい・したみず)	うじ	いぬ(けものへん)	とまる(とめへん)	き(きへん)	つき(つきへん)	ひらび	ひつん	ほう(かたへん)	て(てへん)	と(とかんむり)	こころ(りっしんべん・したごころ)	ゆみ(ゆみへん)	いとがしら	いちじゅう・ひる
育·胃·能脳	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	智、翌	美·着·群·義	素・系・組・約	章·童·競	祭·票·禁·祖	直·県·相·眼	百·的·皇	男·画·番·町	産	班	毎・毒	版	災·灰·無·熱	氷·永·池·求	民	状·犯·独	正·歩·歴·武	本・未・東・板	朝·有·望·服	書·曲·最	早·星·昔·映	旅·族·旗	才·举·承·折	所	必·応·快·忘	弟·弱·引·強	幼	年·平·幸·幹
黒 黒			面(面)	辰[農]			73		文(文)	入		*	鳥	食(食)	青	隹	臣	里(里)	酉(首)	車(車)	足(星)	貝(貝)	豆	角(角)	見	西(西)	血	虫	在(本)
更		[骨] 高[高]	革[革] 音[音] 風	[身] 麦[麦]	季 象	至一台便	10000000000000000000000000000000000000	用」と「浸」		処〕」[出]	No mail Trib	その他の部首(一一大は	とり	しょく(しょくへん)		ふるとり	しん	さと(さとへん)	ひよみのとり(とりへん)	くるま(くるまへん)	あし(あしへん)	こかい・かい(かいへん)		かく・つの(つのへん)		にし(おおいかんむり)		むし	ころも(ころもへん)
						大(元) E			[毛] 父[父]		100	内は英字列)	미	養·館·館·館	静	集·雜·難	脏	重・量・野	酒配酸	軍・輪・輪	路	質·貨·貨·則	费	所	親·覚·衞·規	要	衆	蚕	早 等 市 本

429

	へん		位。置
* 禾 ネ 石 矢 目	1 田王才牛火;歹木 1 **	日方才个下彳弓子女士!	中 7 イ 勢業
こ の ぎへん い し へ ん い し へ ん ん ん	へうもしへんばへき	かかたへん けっしんべん でへん でへん でへん でへん でへん でへん でんん でん	1114 0
粉秋社研知眼精科神確短糖種福砂積祝磁	略球独物焼波残柱 明明 特燃流 材 明	月族持性院後引孫姉地写寺旅指快陽徒強 妹場唱旗投情階待張 始坂區	木。昌、乎·及 <b>漢次 例</b>
かんむり	つくり [		
ペタサウット	一	P 上 力 リ 馬 食 金 華 言 :	市 用 用 角
はつがんむりくさかんむりくさかんむり	おるまつのぶおんざいがと	くりんへんへんへん	こ ふ に <b>み い</b> ろ ね く み へ も へ ん し
発考·養子·華·華·常·當· · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	京 東 報 殺 次 新 数 部 形 京 瀬 難 段 歌 断 教 都 亦 放 郡 面 願 面 取 郵		复船 腸 職 紙 浦 航 腹 胸 脈 緩
かまえ	ここ にょうし	たれ  あし   あし	
口口門行	气 七戈 口门 走 主 支 久	. 扩广尸厂心井儿	赤竹四穴
せい かいまえ かいくしがまえ かくしがまえ かくしがまえ からしがまえ からしがまえ からしがまえ からしがまえ からしがまえ からしがまえ からしがまえ からしが しゅう からしが しゅう かんがん しゅう かんがん しゅう かんがん しゅう かんがん しゅう	すう しんにゅう よう しんにゅう よう しんにゅう よう よう よう よう がまえ がまえ がまえ まえ まえ きょう しんじゅう	ひとあし・にんにょう こころ こころ さら がんだれ しかばね まだれ もまだれ	あめかんむり おかかんむり
国区 間 術·衛·衛·衛·衛·衛·衛·衛·衛·衛·衛	気式我包円 成 再 戦 冊 追過	病·痛·虚·虚·感·患·患·患·患·患·患·患·患·患·患·患·患·患·患·患·患·患	

\*「つきへん」と「にくづき」の形はよくにていますが、「にくづき」の「月」は、「肉」の形が変化したものです。

表裁 可或

医

2

正武

成

2

(3)

はあとに

闲困

医医

万

成

点面のならびかたや、 かったが

上言の

上下にならんだ点画は、いまがありまっなきまりがありま

ます。

# 順な

ています。 漢字は、いろいろな漢字の点画と画数 これらの点や線をまといろいろな形の点や線 や線だの め て「点な べ とよび いわせででき

を、「画数」といいます。画数を数えーつの漢字や漢字の部分を組み立ます。 立た ててて 11 る点 雑ぎのない数等

■漢字の筆順 で数えます。 て数えます。 で数えます。 えるときは、 ものは 画な複な画な 2

とか ます。 のことを、 とき、どん 火 書かな 0 順調 番だに

ます がっ しか さやすい書がいまから、筆いる 漢なかすい きかたとして、 文字のさよ きくうえで、大いかまってきたものを中の中で、い 歴史の中なり、 くうえで、 中なえる るだれ 切なこ ŧ ちば いま

「火」の字を 形容な に順 1= ても も読ょき とか

国漢字の組み立てと筆順 二つの部分が組み合わさってできている 上の部分を先に書く。 上の部分を先に書く。 上の部分を先に書く。 上の部分を先に書く。 上の部分を先に書く。

活

1 2 14

次言

型上之上を例の下げ

客

1

2

1= 書か

書かき

③たれのある字 たれの部分を先に書 たれの部分を先に書 のある

病

2

1

先に書く に書く。 あとに書か

ものとがある。

起

①

2

②左右に このきまりには ならん だ点画は、 左 か 6 右言 ^ 0 順

⑤かこむ形

のある字

(2)

適なあ

連

1

川丁勺

司 =

つ 句 包 気 同

(2)丁弋

戈戈戊口行

口は、

初き向う

同

2

司

2

りに

けて書く

百可

可

3

2

三式

3外側の点画と内側の点画と内側の点画と内側の点画と内側の 内側の点画では、 外だっ。 が

先

例 一十 一十 (花)

ユ 川 川 月 月 月 青 月 青

⑤字や字の部分全体をつらぬく横画は最 このきまり して日本 には例外が多

後二

1=

⑥左はらいと右はらい 一世」は例外。 门用册 か 交十 わるときは、 -# -#

左

はら

61

が

ロ・若・有・布 をはらいが短いが短いが短いがった。 11 希き字に では、 左 は

5

11

を

・存・在・大・夫・春 左はらい

組み合わさり 上から下 0) かたによ 0

凶語 2

困 2

術 023

(2)

画がく

を先に

書か

友等・

本是 本社 ②横画の基本 い左はらい

③縦画の基 ①、点流 基。 8右はらいの基本 ⑤右上へのはね上げ ⑥左はらいの基本 ④はねの基本 る漢字

からいお

### 別の書き表しかた

●一つの音に二通りの書き表しかたがある場合がある。

L si-shi L sya-sha Lp syu-shu Lz syo-sho

ち ti-chi ちゃ tya-cha ちゅ tyu-chu ちょ tyo-cho

tu- tsu

hu- fu

zi- ji l'o zya- ja l'o zyu- ju l'z zyo- jo

zi- di ぢゃ zya-dya ぢゅ zyu- dyu ぢょ zyo- dyo

zu- du

0 - WO

は、ヘポン式(英語に近い形)

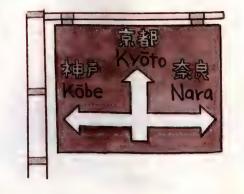
など

syasin — shashin (写真) tizu - chizu (地図) tume — tsume (つめ) zyūdô - jūdô (じゅう道) Huzisan - Fujisan (富士山)

へボン式の書き表しかたは駅名のけいじや案内板などに使われている。

#### 町で見かけるロー





#### ワープロ・パソコンで、ローマ学入力するときの注意

パソコンなどで、文字をローマ字で入力する場合、今まで学習し てきたことがらと、多少ちがうところがある。

● 「お」と「を」、「じ」と「ぢ」、「ず」と「づ」は、それぞれ別。

·「お」→ (O) 「を」→ (W) (O)

·「じ」→ Z | / J | 「ぢ」→ D | 1

・「ず」→ ZU

「づ」→DU

★このように、別の入力のしかたをするので、注意しよう。



言葉の終わりの「ん」、ひらが な」字の「ん」を表示したいとき は、「nn」とnを重ねて打つ。 例ありません - ARIMASENN



## ローマ字の書き表しかた●

#### 一つの音を、1字から3字で書き表す

- | 字で表すもの
  - ・母音 (あ行の音)……a(あ)・i(い)・u(う)・e(え)・o(お)
  - · はねる音……n(ん)
- 2字で表すもの
  - 例 ka(か)・ki(き)・ku(く)・ke(け)・ko(こ)・  $wa(h) \cdot ga(h) \cdot za(h) \cdot da(h) \cdot ba(h) \cdot pa(h)$
- 3字で表すもの 小さく書く「や・ゆ・よ」をふくむ音
  - 例 kya(きゃ)・kyu(きゅ)・kyo(きょ) tosyokan(図書館)・ omotya(おもちゃ)・ sanmyaku(山脈)







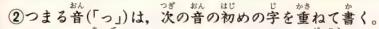
- 書き表しかたのきまり
  - 「長音(のばす音)は、「a・i・u・e・o」の上に「^」をつけて表す。
    - okâsan (おかあさん) ozîsan (おじいさん)

vûgata (ゆうがた)

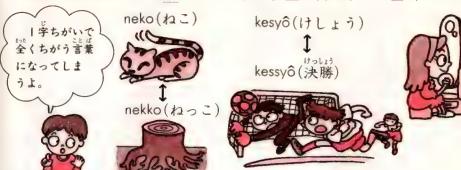
onêsan (おねえさん)

otôsan (おとうさん)





kitte (切手) sippo (しっぽ) gakkô (学校) zassi (ざっし)



③読みまちがえをふせぐため、切れるところをしめす「'」をつける。 ・はねる音(n)の次に、a·i·u·e·o、またはyがくる場合には、 nの次に「'」をつける。

sin'yô (信用) hon'ya (本屋)

sinyôだと「しにょう」、honyaだと 「ほにゃ」とも読めてしまうので、nの 次で切って読むことを「'」でしめす。

4xの初めや、人名・地名などは語の初めを大文字で書く。

例 Kyôto (京都)

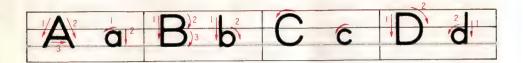
Yamada-Hazime (山田はじめ) →「-」は、言葉をつなぐ印。

例 4 nen-2 kumi / Naha-si (那覇市)

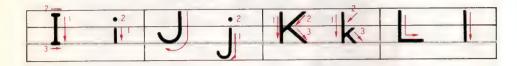
♣地名などは、全部を大文字で書くこともある。

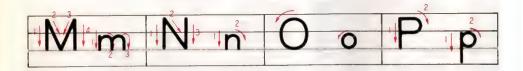


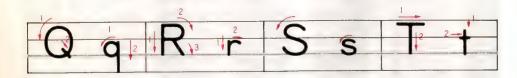
## ローマ字の書きかた アルファベットの筆順















アルファベットの筆順にはいく種類かあり、これはその一例です。

#### ローマ字表

の部分は、大文字。表の中の( については、P.433 を参照。

	Α	-1	U	E	0			
	a	i	U	е	0			- Table Company
K	ka	ki	ku	ke	ko	kya	kyu	kyo
S	sa	Si (shi)	SU	se	SO	sya (sha)	Syu (shu)	syo (sho)
Т	ta	ti (chi)	tu (tsu)	te	to	tya (cha)	tyu (chu)	tyo (cho)
Ν	na	ni	nu	ne	no	nya	nyu	nyo
Н	ha	hi	hu (fu)	he	ho	hya	hyu	hyo
M	ma	mi	mυ	me	mo	mya	myu	myo
Υ	уа	(i)	γυ	(e)	уо			
R	ra	ri	rυ	re	ro	rya	ryu	ryo
W	wa	(i)	(u)	(e)	(o) (wo)			
	n							
G	ga	gi	gu	ge	go	gya	gyu	gyo
Z	za	zi (ji)	ZU	ze	ZO	zya (ja)	zyu (ju)	zyo (jo)
D	da	(zi) (di)	(zu) (du)	de	do	(zya) (dya)	(zyu)	(zyo)
В	ba	bi	bu	be	bo	bya	byu	byo
P	pa	pi	рu	ре	ро	pya	руи	руо

						_						
(	1 HJ	76	6看	359	⑤程	334	④料*	281	⑤ 義	299	127.	,
	②画	109		161	<b>④</b> 種	247	⑤精		④養*	279	【臼 ;	,
(	④胃*	218	③真	179	4 積	254	⑥糖	399	[羽 <sup>11</sup>		⑤舆	309
	3 界	150	⑤眼	297	6穀	371	[糸::	2 7	[44]	4)	[舌山	1
(	③畑	196			[六数2	7			2 77	128	「日」	٠,
(	②思*	103	(矢和	4)	しノしあなさ	トんむりょ	① <b>糸</b>	70	③ 習	172	⑤舌	327
	⑤ 留	351			<b>⑥</b> 穴	365	⑥ 系	364	6 翌	413	⑥乱*	413
(	5略	351		116	③ 究	154	<b>⑥紅</b>	370	(未な	145	<b>④辞*</b>	246
	6 異	354	③短	186	① 空	63	<b>④</b> 紀	227			(舟流	. 1
1	②番	118	[石北]		⑥ 窓	390	④約		⑤耕	308		
ı	[疋0	11			(立:	[0]	③級	155	[耳34	ر ا	<b>④航</b>	238
ı			①石	68			<b>⑥</b> 納	401			②船	125
1	<b>⑥疑</b>	361	-			82	., .	381		55	[艮=10	(1)
	(ナヤま)	·だれ]	(6 F)	372		177	②紙	111	③取*			
L			③研	161	③ 童	194	5 素	328	⑥聖		④良	281
		201	⑤破	338	4 競	232	②細	135	②聞		[色…	5]
ľ	⑥痛	398	-	296	(m & & & & & & & & & & & & & & & & & & &	#L6]	3終	172	- 100 4			
ı	「外はつか	(16)	6磁	377			②組	119	( )	()	②色	111
١	@ <b>3%</b>	100	[示Lo	+)	②買*	140	⑤ 経 ④ 結	303 235	( A	73)	【虫む	١)
	<ul><li>③発</li><li>③登</li></ul>		(ネレめナ		⑤罪	312 261	5絶	327				
ı			⑤示	316		382	④給	230	③有*	207	6蚕	
ı	〔白し	3)	<b>④</b> 票	271	_		⑤統	335	③育	146		
		78		164	【竹群	かんむり	②絵	110	6背	403	[血*	. ]
	①百	45	<b>⑤禁</b>	302	①竹	66	~ AV2	366	4 胃	218	③ 加	160
		264	③礼	212	④笑	249	4 続	258	6肺	403	<b>⑥衆</b>	
	-	369	②社	108	③第	185	3緑	211	⑤肥	340		
ı			⑤祖	328	③ 笛	190	⑤綿	348	⑤能	338	【行》:	がまえ
ı	[皮けた	orb)	④祝	248	②答	115	③練	212	④脈	277	②行	138
ı	③皮	198	_	179	③等	194	多総	328	⑥ 胸	362	⑤術	319
	(m. :		⑥視*	376	③筆	200	2線	113	<b>⑥脳</b>	402	<b>④街</b>	223
		")	③福	203	⑥策	373		344	⑥腹	405	5衛	289
		164	【禾のぎ	, ]	⑥筋	363		380	4腸	262		[ 30
	⑤益	290			2 1	106	5績	326	70774		( 文 ころも	
	⑥ 盛	387	<b>⑥私</b>			255	⑥縮	381	2. 1	1.6]	1 ' '	-
1	6 盟	411	4利*		4 管	224		322			④衣	217
ı	[目的	()	③和*			196	[羊	(יורט	②自		④初*	
			②秋	86	⑤築	333			③息*	183		200
	①目 ①日*	55	②科	107	⑥簡	359	③羊	208	3 <b>#</b> *	199		373
	①見*	83	③秒	201	[米]	めへん	③美 ④差*	199	(至"	(8:	⑥装 ⑥衬	391 407
	②直	114	<b>⑥秘</b>	405			3着		62	275	6補	414
	③相	182	<b>⑤移</b>	288 325	②米	129 273	5群	187 302	⑥至	375	⑥ 裏	344
	④省	252	⑤税	323	477	213	7.07	302			⑤ 複	344

										_		
	⑤製	325	③調	189	⑤替	313	〔臣に		②雲	88	③飲	147
ı		1	③談	187	(±	144	LEC		②電	116	④ 飯	269
ı	[西に	٠,	④課	221	【赤	20.	④臣	251	(主,		⑤飼	315
	②西	94	⑥論	416	①赤	78	⑥ 陰	415		ره	4 養	279
ı	④要	279	60 0-0	382	[走世	16 ]	[麦也	18	①青	79		153
ı	④票*	271	⑥ 誕	394			12	,	4静	253	【首	(17)
ı	[見48	5]	5講	309		138	②麦	129	(非s)	5+)		
			⑤訓	317		153	(金かな	1004		3	②首	102
	①見		⑤識	316	1	86]			⑤非	340	CI-3	*~6.]
	⑤規	298	100	364	19.	(مما	①金		③悲*	199		
ı	④覚	223		228			6針	385		312	②馬	127
ı	⑥視		⑤護	307	① 走	54	3鉄	191	(面)	6	③駅	148
ı	②親	97	[谷	to [ ]	3 1	213	⑤鉱				4 験	
	<b>⑥</b> 覧	414	04	92	[身	13]			③面	205	[骨	iin)
	4 観	225	②合	92	@ <b>4</b>	150	<b>⑤</b> 銅		【革かく	のかわ		
	[角つの	(۸	[豆		3 5	178	⑤銭				6 骨	3/1
						377	<b>④録</b>	285 370	⑥革		[高	きかい
	- / 4	114 295		192 346	120	(人人主な	<b>⑥鋼</b>		[音档	(ع	②高	127
1	⑤解			101			4 3×	231				
	【言以	· ( )				233	【長女	n" )	①音 ③意*	145	〔魚	) is ]
	②言	104	[系出	のこへん		191	②長					127
	②計	115	4	250		160				inter]		
	②記	104				282		333	6頂	397	〔鳥	۲ )
	6討	399	【貝が	(い・かい)		349			4順		②鳥	
	4訓	232	① <b>目</b>	68			「門もん	がまえ	⑤預			128
	⑤許	301	3負			からい	2 19	124				
	<b>⑤</b> 設	326	③員*			246	③問*				【黄	
	6訳	411	5財	312			6開				1	112
	⑥訪	408	4 貨	221	【依し	んのたつ	② 唱		⑤額			
	5評	341	5貧	342	③ 農	195	3開		②顏		一【羔	(5]
	⑥言司	376	⑤ 黄	325			④ 関				②黑	112
	多証	321	② 買	140	[四vi	へん みのとり]	(6) BJA	357	④ 酒香	226		
	② 話	104	4 費	270	3配	195	②聞*	105	[風力	, ar )		u)
	3詩	167	5 賀	294	③酒	171	「住、	[ 142	()里(**		③ 歯	166
	④試	245	4 貯	262		313	【隹ふ	0 2 7 ]	②風	87	(鱼	137:
ı	⑥誠	387		332	「甲:	1 3	③集	173	(飛:	(8)		
	②読	105	-	347	(土:	ミとへん」	5 雜		1	)	③ 鼻	199
	② 語	106		361		122	⑥難	400	④雅	269		
	④說	255	- 4	398		173	(雨あめ	1	[食し	[):		
	⑥誤	368		315	7	91			14.			
	⑥ 認	401	4 賞	251	4量	281	①雨	63				
	<b>⑥</b> 誌	376	⑤質	317	③童*	194	②雪	88	②食	130		
											1	

			-								
④希	226	③代* 1	85	⑥蒸	384	6除	383	⑥我	356	⑤故	306
⑤師	315	③式 1		6 蔵	392	4 陸	280	④戦	256	②教	116
4席	254	[号ゆみへん]	1	③薬	206	⑤険	304	۲۲	5 c]	④ 救	229
4带	260	し りゅみへん	۱ ۱	C .	んにょう]	③陽	209		- )	④ 敗	268
②帰	139	②号 !	26	()-	~ · · · · · · · ·	4隊	260	②戸	124	④ 散	243
3帳	189	231	40	④ 辺	274	③階	151	3所	174	6敬	364
⑤常	322	②弟	99	②近	133	6 障	384	1 -	F-7)	②数	107
⑥幕	410	2 35 I	36	③返	204	⑤際	311	-		⑤敵	335
(IV	る ちじゅう】	⑤張 3		⑤述	318	r.	12]		T~h)	③整	181
	ちじゅう』	②強		⑤迷	348		/ - )	①手	54	⑥厳*	367
⑥干	358	[ うきんづくり		③追	189	④ 単	261	⑤承	320	(文.3:	()
③平	203			⑤退	331	④ 巢	257	④ 挙	230		٠,
⑤刊*	296	②形		③送	182	⑤ 営	289	③打	184	①文	74
①年	59	[1827		⑤逆	299	6 厳	367	<b>⑤技</b>	299	③対*	184
③ 幸	163		- 1	②通	120	[a	223]	③投	192	(3+ × 3	7)
5幹	297	- 14		③速	183		っしんべん)	4折	254		
140	とがしら]	10.00		⑤造	329	, ,	5 ( N-N )	⑤招	320	②科*	107
	,	- Imper		4連	284	213	102	6 拝	402	<b>④料</b>	281
<b>⑥</b> 幼	412	4 00-00		②週	96	④ 必:	270	⑥拡	357	[ / Bo	5(1)
1	1 tin ]	- 4		③進	180	⑤志	314	⑥批	405	,	
		4.1		③遊	208	⑤応	291	<b>⑥担</b>	393	③所*	174
②広	137	12-		③運	147	⑥志	409	③拾	172	⑤断	333
6庁	397	- 00		5過	294	⑥忠	396	③持	168	②新	135
⑤応*				②道	120	④念	268	③指	166	[方照	( ۵۰
⑤序	320			④達	260	②思	103	- 165	377		
④底	263	120		②速	133	③急	155	- 4.1-	394	②方	121
②店	123	⑤徳 3		⑤ 適	335	⑤思	292	⑤授	318	③放*	204
④府	272	【+・くさかんむ	7 1 1	④選	256	③息	183	⑤採	311	③旅	211
③度	192			⑥遺	354	③悪	144	⑤接	326	③族 ① #	183
③庫	162	10	65	[ ]3	おおざと ]	③ 悲	199	⑥推	386	① 旗	227
④席*		-	234			③想	182	⑤提	334 360	[日か	· L ]
③庭	190	4		<b>④郡</b>	233	③意	216	⑤損	331	① P	1.6
⑥座	372 238			③都	191	③感	152	6操	391	① 日 ⑤ 旧	46 300
④康		-		⑥郵	412	多態	332	②才	103	①早	80
[美元	LE 2 3			⑥郷	362	6憲	366			③昔	181
6延	355	·	66			⑤快	295	【支	L (: : )	②明	90
			150	[ ] 3	ざとへん ]	⑤性	323	⑤支	314	1000	290
④建				⑤防	346	⑤情				②東*	94
[ # 10 t	:ゅうあし]		1	⑤限	305	⑤慣		【欠》	ではよう 】	②星	90
(5) <b>4</b>	345			⑥陛	406			④改	222		86
971				③院	146	【戈	まこづくり }	③放	204	4昨	241
(t,	30122]	1		6降	370	④成	252	⑤政	324	3 83	176
				-17		111	202		024	- H	. , 0

6映	355			3様	210			③港	163		
②昼	89	【木訓	· h ]	③横	148	(氏	) t	③湖	162	【牛	(۱۸
②時	95	①木	48	6権	366	<b>④</b> 氏	244	③湯	193	24	127
④景	234	<b>④</b> 札	241	4標	271	<b>④民</b>	278	⑤測	330	④牧	276
②晴	88	①本	75	4機	228			⑤减	306	3物	203
③暑	174	④末	276	③橋	156	[=7:	*###	③温	149	<b>④特</b>	266
6晚	404	④未	277	6樹	378	① <b>负</b>	64	① 満	277		
③暗	144	⑥机	360			-		⑤ 準	319	[犬	-
4 H3 *	251	<b>④材</b>	240	【大	けつあくび		24)	③ 漢	152	( 1) 17 8	のへん)
⑥暖	395	⑤条	321	①欠	235	():	さんずい)	4 漁	230	①犬	67
⑥幕	408	④ 束	258	③次	167	①水	47	⑤演	291	⑤状	321
⑤暴	347	①村	76	6 欲	413	③冰	200	⑤潔	303	⑤犯	338
②曜	96	②来	139	②歌	110	⑤水	289	⑥潮	397	⑤独	337
(日vs	7.5	④果	220	1.1	216]	④ 求	229	⑥激	365	(少部)	h/ tin ]
( 100	,	⑤枝	314	ا لیلہ	-10)	6泉	388	(火0	1		1,001
③曲	157	4松	249	②止	139	②池	93			④老	285
②書	105	② 東	94	① I	80	②汽	125	(wh.	hs')	②考	103
4 最	240	③板	198	②步	138	③決	160	①火	47	③者	169
④量*	281	6枚	410	⑤武	343	③注	188	④灯	265	[玄	17.A. ]
[月33~	()	①林	61	④歴	283	③波	195	<b>⑥灰</b>	356		
		④栄	219	[万办	ばねへん】	③油	207	⑤ 災	310	⑤率	331
①月	46	⑤ 查	310			④治	246	③炭	186	王	t. ž ]
③有	207	⑥染	389	③死	165	④法	275	③畑*	196	(王声	-
③育*	146	③柱	188	③列*		③泳	147	<b>④焼</b>	250		
④胃*	218	③相*	182	④残	243	<b>⑥沿</b>	356	⑤燃	337		69
⑥ <b>背*</b> ②明*	403 90	<b>④</b> 案	216	[ 2	611:	④ 泣	229	② 点	113	① <u>王</u>	69
6朗	415	⑤桜 ⑤格	292 295	<b>⑥段</b>	394	②活 ⑤河	130 294	<b>①無</b>	278	⑥班 ⑤理	404
②朝	89	6株	358	<b>④</b> 段	242	③洋	209	<ul><li>④然</li><li>④照</li></ul>	256 251	⑤現	305 156
③期	154	① ① 校	72	⑥穀*		④ 浅	255	⑥蒸*	384	③球 ②理	107
⑤能*	338	③根	164			6洗	389	<b>④</b> 熱	267		
4望	276	4梅	268	【母篇	かれはのかん	⑥派	402	<b>⑥</b> 孰	381	[生;	± 11 6
③服	202	4械	222	②母	98	②海	92			①生	73
⑤肥*	340	4極	232	② 每	117	③流	210	(川(四	(00)	4 産	243
6肺*	403	5検	304	4 毒	267	④浴	280	③受*	171		
⑥胸*	362	③植	178			③酒*		④爱*	216	[用も	ちいる
④脉*	277	①森	61	(tt	usuv)	③消	176			②用	131
⑥脳*	402	- 1.5-	409	多比	340	⑤液	290	〔父:	55		
③勝*	177	③集*	173		7	⑥済	373	②父	98	【田芬	~~ )
⑥腹*	405	②楽	110	1 1	E17)	③深	179		. 1	① <b>田</b>	62
④腸*	262	③業	157	②毛	101	⑤混	309	[片禁	~~ }	③由	207
⑥臟*	392	⑤構	308			4清	253	6片	407	③ 申	178
		6模	411			6源	367	⑤版	339	①男	58

## 部首さくいん

- ●このさくいんは、漢字を部首別になら
- べたものです。 ・丸数字は、その漢字を学習する学年 をあらわしています。

								が漢字は、	本来に	はほかの部	首
-	*						入るもの		1 7/210	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
		⑥乱	413	③化*	150	<b>⑥俳</b>	403	②内	132	⑤制	323
(-ns	]	6乳	401	6仁	385	④停	263	⑤再	310	②前	132
1 -	40	, -		54	344	④健	236	<b>⑥</b> ₩	374	⑤則	330
37	188	[ ] <i>i.</i>	14137	③仕	165	4側	258	②同*	137	6 刻	371
1+	43	③ 子	208	③他	184	⑤備	341	④周*	248	4副	273
1 =	41	4争	257	④付	272	6 傷	383			6 創	390
①上	50	③事	167	3代	185	4働	266	(mhh)	ter j	⑥割	358
①下	50		<u>_</u> r:]	①休	82	⑤像	329	③写	169	⑥劇	365
②万	117	(-	)	<b>⑤件</b>	303	④億	220	④軍*	233	[力50	)
②才*	103	1	40	⑤仮	293	⑥優	412	( ) 101			ر د.
④不	271	① <b>五</b>	42	<b>④</b> 伝	264	[儿5	んにょう		,,,	① <b>力</b>	70
③世	180	1	resiste]	⑤任	337		est j	2 %	87	<b>4</b> to	220
③両	211			④仲	261	②元	97	③次*	167	<b>④功</b>	237
②来*	139	<b>⑥</b> 亡	409	②何	115	②兄	98	4冷	283	<b>⑥</b> 幼*	412
⑥並	406	②交	120	②作	109	①先	73	[几]	(2)	③助	175
②画*	109	②京	122	②体	100	②光	87			④努	265
[](#)	1	②夜*		③住	173	④兆	262	<b>⑥</b> 処	382	④ 労	285
		④卒*		④位	217	④ 児	246	[1]	uz ]	⑤効	307
①中	52	④変*		④低	263	6党	399			④ 勇	279
⑤旧*	300	③商*	176	⑤似	316	$[\lambda]$	118	①出	81	③勉	204
③申*	178	[人	ve ]	③使	165			②画*	109	③動	194
② 半*	118		とやね)	④例	283	①入 ② 力 **	81	[刀か	22	⑤務	347
[ \ Th	)		: ~ ~ ~ )	⑤価	293	②内*	132	(1) 90	(+3	③勝	177
②丸	112	①人		⑥供	362 252	[/	45]	27		<b>⑥勤</b>	363
③主	113	②今	57 96	<b>④信</b> <b>④便</b>	275	1)1	43		126 95	⑤ 勢	324
⑤永*	289	④少	216	③係	159	②公	93	②切	141	(力つつみ	がまえ)
3 1/	207	49	282	5保	345	①六	42	4初	249	⑤句*	302
[/0]		②会	108	<b>④</b> 借	247	①共	231	⑤券	304	4包	275
<b>⑤久</b>	300	②合*		⑤修	318	<b>④</b> 兵	273	⑤刊	296		
③乗	177	③全	181	5個	306	3 具	159	3 51	212	(K	"]
		⑤余	349	③倍	196	④典	264	④ 另门	274	315	150
[ ]		⑤舎	317	⑤俵	341			4利	280	2 1 2	95
( ि इंग्लि	(1)	③命*		4候	237	[ ] 8	うがまえ	⑤判	339	⑤比*	340
①九	44	④倉	257	⑥值	395	①円	79	4 刷	241	③死*	165
		-0	_								

	. –	,	10	56	2 🕱	108	( "	,	③安	144	⑥党*	399
	【□かくしがまえ	J	②古	134	⑥困	372	[9n	<sup>3</sup> )	③守	170	④堂*	266
	③区 !!	58	②台	125	④ 固	236	19	65	⑥宇	355	⑤常*	322
в		45	⑤句	302	2 1	106	27	133	⑥宅	393	④賞*	251
			⑤可	293	2 🕏	93	①名*	59	④完	224		
	(+tmi)		4 hu*	220			②多	134	③実	168	【尤だいの	all
	1+	44	3号	163	(土っち	~~!	②夜	89	④官	224	6就	379
	①÷	45	④史	244	①土	49	⑤夢	348	③定	190	[Pin	
	②午	90	①右	51	⑤圧	288	( +	. 1	6宗	379	[ ] Co.	I Pa
	②半 1	18	4 5	245	③去*	156	【大だ	" J	6亩	395	⑥尺	378
	④卒 2	59	④各	223	②寺*	123	①大	52	⑥宝	408	③局	157
ı	④協 2	31	②合	114	⑤在	312	①天	64	②室	124	⑤居	300
	②南	94	②同	137	③ 辛*	163	②太	135	③客	154	⑥届	400
		61	①名	59	⑥垂	386	④夫	272	⑥宣	388	③屋	149
	④博 2	69	6后	369	①型	234	③央	148	②家	123	②昼*	89
	[ ] 3.25(1	1	③向	162	④堂	266	④失	247	③宫	155	6展	398
		,	③君	159	⑤基	298	⑥奏	390	④害	222	⑤属	330
		18	⑥否	404	<b>⑤</b> 報	346	<b>⑥</b> 奮	406	④案*	216	6層	391
	_	60	④告	238	⑤墓	345	[女影儿		⑤容	350	(4)4:	1
	- / 1	14	④周	248	②地	121			③宿	174		
	⑥卷* 3	59	③命	205	③坂	198	①女	58	⑤寄	298	11	60
	[ Touken]		③和	213	⑤均	301	④努*	265	⑥密	410	②岩	92
			②知*	116	⑥城	384	<b>④好</b>	237	③寒	151	③岸	153
	- / Galleria	88	3 6	201	⑥域	354	②妹	99	⑤富	343	③炭*	186
		56	③員	146	②場	121	②姉	99	④ 察	242	③島	193
		07	③商	176	④塩	219	③始	166	⑥ 憲*	366	[]]	b)
	24	91	③問	206	⑤境	301	⑤婦	342	(寸+)	()		
	④歷* 2	83	⑥ <b>善</b>	389	⑤增	329	3 4	145			1)]]	60
	[40]		④喜 ⑤営*	227 289	(±30	611)	⑤妻	311	⑥ (6) 寸	386	3 44	171
	③去	56	④ 器	228	@ L	244	⑥姿	375	②寺 ③対	123 184	[I=	<sup>3</sup> )
		25	6吸	361	④士 ②声	102	【子記	· L )	<b>⑥射</b>	377	2 I	109
		45	③味	205	②売	140	①子	57	⑥専	388	①左	51
		42	6呼	368	⑤志*	314	①字	74	6 9	393	④差	239
		.72	4唱	250	④喜*	227	6存	392	<b>⑤</b> 導	336		- 1
	【又また】		②鳴*	128			6孝	369	6将	383	[己詩の	h ]
	②友	00			【欠かり	[ f 1 s	①李	226			6己	368
		97	(1:00)	12]	<b>⑥</b> 処*	382	0 112	72	[/]162	1	④改*	222
	The second second	379	1 29	41		223			1.1	53	- 124	359
		70	20	117		129			24	134		
		71	⑤因	288		274			④省*	252	中部	× h }
			<b>5 T</b>	332	②夏	86	١٠٥ و دسا	んむり	③県*	161	②市	122
	「口信かん」		<b>4 H</b>	217			①字*	74	②当	118	⑤布	342
					L						,	

ı	4 胃	218	②帰	139	④料	281	6秘	405	③終	172	⑤経	303	③勝	177
ı	④飛	269	②弱	136	④案	216	⑥ 到王	404	③習	172	⑤術	319	③寒	151
ı	⑤保	345	②時	95	④梅	268	⑥純	381	3転	191	⑤規	298	③落	210
1	⑤則	330	②書	105	④残	243	⑥納	401	④停	263	5許	301	③葉	209
١	⑤厚	307	②通	120	4 殺	242	6胸	362	④健	236	⑤設	326	③運	147
١	⑤逆	299	②紙	111	④浴	280	6 蚕	374	④侧	258	⑤貧	342	③階	151
١	多退	331	②記	104	④特	266	⑥討	399	4副	273	⑤責	325	③游	208
ı	⑤迷	348	②馬	127	④笑	249	6針	385	④唱	250	⑥域	354	③陽	209
ı	⑤限	305	②高	137	④粉	273	6骨	371	④堂	266	6密	410	③悲	199
ı	⑤政	324	③倍	196	④脈	277			④康	238	⑥著	396	③暑	174
ı	⑤故	306	③勉	204	④航	238	110	画	④得	267	⑥捨	377	③期	154
ı	⑤ 查	310	③ 員	146	4割	232			④菜	240	<b>⑥</b> 郷	362	③植	178
ı	⑤独	337	③宫	155	⑤修	318	②強	136	4陸	280	⑥郵	412	③温	149
١	⑤祖	328	③島	193	⑤個	306	②週	96	④ 巣	257	6推	386	③湖	162
ı	6卷	359	③庫	162	⑤俵	341	②教	116	④救	229	6探	394	③港	163
ı	⑥城	384	③庭	190	⑤容	350	②細	135	④敗	268	<b>⑥</b> 欲	413	③湯	193
١	6奏	390	③荷	150	⑤師	315	②理	107	4望	276	⑥済	373	③登	193
ı	6 姿	375	③速	183	⑤造	329	②組	119	④械	222	6 異	354	③短	186
ı	⑥宣	388	③息	183	⑤恩	292	②船	125	④清	253	6盛	387	③ 童	194
ı	⑥ 専	388	③院	146	⑤桜	292	②野	91	④産	243	6翌	413	③等	194
ı	6律	415	③旅	211	⑤格	295	②雪	88	④票	271	6窓	390	③筆	200
ı	6映	355	③根	164	⑤ 留	351	②魚	127	④貨	221	⑥脳	402	③着	187
I	⑥染	389	③消	176	⑤益	290	②鳥	128	⑤務	347	6視	376	③軽	160
ı	6段	394	③流	210	⑤破	338	②黄	112	⑤基	298	⑥訪	408	3開	151
ı	⑥泉	388	③病	201	⑤素	328	②黑	112	⑤婦	342	6訳	411	③集	173
١	⑥派	402	③真	179	⑤耕	308	③動	194	⑤寄	298	6閉	407	③飲	147
1	⑥洗	389	③起	153	⑤能	338	③問	206	⑤常	322	⑥頂	397	③ 歯	166
١	6 皇	369	③酒	171	⑤財	312	③商	176	⑤張	333			④博	269
ı	6看	359	③配	195	⑥值	395	③宿	174	⑤険	304	120	画	④喜	227
ı	<b>⑥</b> 於	372	④借	247	6 俳	403	③帳	189	⑤情	322			④達	260
ı	⑥紅	370	④候	237	6党	399	③進	180	⑤授	318	①森	61	④隊	260
ı	6 背	403	④孫	259	6射	377	③都	191	⑤採	311	②場	121	④散	243
ı	6肺	403	④害	222	<b>⑥将</b>	383	③ 部3	202	⑤接	326	②道	120	④景	234
	⑥ 革	357	④倉	257	6展	398	③ 悪	144	⑤断	333	②晴	88	4最	240
			④差	239	6座	372	③族	183	⑤液	290	②番	118	④極	232
	10	画	④席	254		380	③深	179	⑤混	309	②答	115	④満	277
1			④带	260	6除	383	③球	156	⑤率	331	②朝	89	④焼	250
	①校	72	④徒	265	6降	370	3 祭	164	⑤現	305	② 絵	110	④然	256
	②原	91	④ 連	284	⑥陛	406	③章	177	⑤略	351	②買	140	④無	278
	②夏	86	④ 郡	233	⑥朗	415	③第	185	⑤眼	297	②間	97	④給	230
L	②家	123	④ 挙	230	6株	358	③ 笛	190	⑤移	288	②雲	88	④ 結	235

445

	④街	223	6衆	380	⑤幹	297	4察	242			③薬	206	6 臨	415
	④覚	223	6補	407	⑤損	331	①旗	227	150	Đ	③館	153	⑥難	400
ı	4象	250	⑥裁	373	⑤準	319	4歷	283			4機	228		
	④ 貯	262	⑥装	391	⑤禁	302	④漁	230	②線	113	4積	254	19Ē	
	④ 費	270	6詞	376	⑤罪	312	4種	247	③横	148	<b>④</b> 録	285		_
	4量	281	6 貴	361	⑤群	302	④管	224	③箱	196	⑤燃	337	④鏡	231
	4順	248			⑤ 義	299	4 説	255	③談	187	⑤築	333	4願	226
	④飯	269	131	画	5解	295	4関	225	③調	189	⑤興	309	⑤識	316
	⑤備	341			⑤豊	346	4静	253	④億	220	⑤衛	289	⑥臓	392
	⑤ 営	289	② 園	93	⑤資	315	⑤境	301	④器	228	⑤輸	349	⑥ 警	364
	⑤報	346	②数	107	⑤鉱	308	⑤像	329	④標	271	⑥奮	406		_
	⑤富	343	②新	135	⑤預	349	⑤增	329	④選	256	⑥憲	366	201	画
	⑤復	343	②遠	133	⑤飼	315	⑤徳	336	④課	221	6操	391		
	⑤属	330	②楽	110	⑥傷	383	⑤適	335	④熱	267	6樹	378	④競	232
	5過	294	②話	104	⑥幕	410	⑤慣	297	④賞	251	⑥激	365	4議	228
	⑤提	334	②電	116	6暖	395	⑤態	332	<b>④輪</b>	282	⑥糖	399	⑤護	307
	⑤検	304	③感	152	⑥蒸	384	5際	311	④養	279	⑥縦	380		
	⑤减	306	③想	182	⑥源	367	⑤構	308	⑤導	336	⑥鋼	370		
	⑤測	330	③意	145	6 盟	411	⑤演	291	⑤敵	335				
	⑤税	325	3 暗	144	6 絹	366	⑤精	324	⑤暴	347	170	蓟		
	⑤程	334	③漢	152	⑥署	382	⑤綿	348	⑤潔	303				
	⑤統	335	③業	157	6里	387	⑤総	328	⑤確	296	⑤績	326		
	⑤絶	327	③福	203	⑥腹	405	⑤製	325	⑤編	344	⑤謝	317		
	⑤評	341	③詩	167	⑥裏	414	⑤複	344	⑤ 賛	313	⑤講	309		
	多証	321	③路	213	⑥誠	387	⑤酸	313	⑤質	317	⑥優	412		
	⑤賀	294	③農	195	⑥賃	398	⑤銭	327	⑥劇	365	⑥厳	367		
	⑤貸	332	③鉄	191			⑤銅	336	⑥権	366	<b>⑥縮</b>	381		
	⑤貿	347	4働	266	14	画	⑤雑	313	⑥蔵	392	6 覧	414		
	6創	390	4塩	219	0.70		⑤領	351	6遺	354		-		
	⑥割	358	① 愛	216	②歌	110	⑥層	391	6潮	397	18	劃		
	⑥勤	363	④戦	256	②算	106	⑥暮	408	⑥熟	381	○ =====			
	⑥善	389	4 照	251	②聞	105	⑥障	384	⑥諸	382	②曜	96		
	⑥ 尊	393	④節	255	②読	105	6模	411	6誕	394	②顔	101		
	6就	379	④続	258	②語	106	6疑	361	6 論	416	③題	186		
	6揮	360	4置	261	②鳴	128	⑥磁	377	-10		4 観	225		
	<b>⑥</b> 敬		④腸		3様		6穀	371	161	画	<ul><li>4類</li></ul>	282		
	6晚	404		245		212		368	(a) the	~	<b>④験</b>	236		
	⑥棒 ⑥序	409			3緑	211	6誌	376		97	1 1 1	322		
	⑥痛	398				158		401	②頭	101		323		
	<b>⑥</b> 策	373	-	345		148	⑥閣	357	③整	181		296		
	⑥筋	363	⑤夢	348	③鼻	199			③橋	156	6簡	359		

## 総画さくいん

●このさくいんは、漢字を画数順にならべたものです。同じ画数の漢字は、 学年順にならべています。

	11/10		<u> </u>			0	1 6	サックは数字は		いば字を	441 I m	する学	かん
		ν.						あらわ			. , 6	, 1	'
										<b>.</b> , 0			
		②丸	ual	② <sup>七</sup> 刀		1 A	5.1	③打	197	<b>⑥</b> 処	200	233	100
1 @	7		113		141	①左	51		184	6幼	382	②内	128
1 12	린	②万	117	②午	90	①目	55	③ 水 ③ 申	200	6 庁	412	②自	129
		②弓	126	②友	100	①生	73		178	-	397		100
1)—	40	② I	109	②太	135	①白	78	③由	207	6穴	365	②色	111
0.7	=	②才	103	②少	134	① I	80	③皮	198	6 7	16	②行	138
2 0	비	④士	244	231	140	① ① ① 丁	62	3 m	164	6 [		②西	94
a -		⑤久	300	2,0	102	①石 ②士	68	③礼	212	O.F.		③而	211
1 -	40	⑥亡	409	②戸	124	①本	75	<b>④以</b>	216	①百	45	③全	181
1)+	43	6寸	386	②方	121	①出	81	④付	272	①耳	55	③列	212
1)/	43	6己	368	②止	139	①立	82	<ul><li>① 令</li></ul>	282	①先	73	③向	162
①九	44	⑥干	358	②毛	101	①玉	69	<b>④</b> 加	220	①早	80	③安	144
1+	44	A 5		②父	98	②冬	87	<b>④功</b>	237	①竹	66	③守	170
①人	57	4 1	비	②牛	127	②兄	98	①包	275	①虫	67	③州	171
①力	70	0 T		③予	208	215	95	④司	245	① 気	64	③式	168
①入	81	① <u>五</u>	42	③化	150	②半	118	④史	244	①字	74	③曲	157
②刀	126	①六	42	③区	158	②古	134	④失	247	①名	59	③有	207
③丁	188	① H	46	③反	197	②台	125	4辺	274	①年	59	③次	167
		①月	46	④不	271	②外	133	④ 火	270	①休	82	③死	165
3 🗓		①火	47	④夫	272	②市	122	④札	241	①糸	70	③羊	208
		①水	47	④欠	235	②広	137	④末	276	②交	120	③ 血	160
① <u>=</u>	41	①木	48	<b>④</b> 氏	244	②母	98	④未	277	②会	108	④争	257
①千	45	①中	52	514	344	②矢	126	4民	278	②光	87	④仲	261
①土	49	①手	54	⑤支	314	②用	131	⑤刊	296	②合	114	④ 伝	264
①上	50	①犬	67	⑤比	340	③世	180	⑤可	293	2 1	137	④兆	262
①下	50	①天	64	⑥仁	385	③主	169	⑤句	302	2回	117	④共	231
①大	52	①文	74	⑥収	379	③仕	165	⑤圧	288	②地	121	4 EP	218
1)	53	①円	79	6尺	378	③他	184	⑤布	342	②多	134	④各	223
1 0	56	①王	69	6片	407	3代	185	⑤弁	345	②寺	123	<b>④好</b>	237
①女	58	②今	96			③写	169	⑤ IE	300	②当	118	④成	252
①子	57	②元	97	5		③去	156	⑤水	289	②每	117	④灯	265
11	60	②公	93			③号	163	⑤犯	338	②池	93	④老	285
1)]]	60	②内	132	1 四	41	③央	148	⑤示	316	②米	129	④衣	217
1) 9	65	②分	95	①右	51	③平	203	<b>⑥册</b>	374	②考	103	⑤仮	293

									-			_		
	⑤件	303	②言	104	⑤似	316	②歩	138	4 固	236	⑥垂	386	③度	192
	⑤任	337	②谷	92	5余	349	②画	109	①季	226	⑥宗	379	③待	185
	⑤再	310	②走	138	⑤判	339	②直	114	④官	224	⑥宝	408	③急	155
	<b>⑤</b> 团	332	②里	122	⑤均	301	②知	116	④底	263	⑥宙	395	③送	182
	⑤因	288	②麦	129	⑤序	320	②長	136	4 府	272	⑥届	400	③追	189
	⑤在	312	3住	173	⑤防	346	2 19	124	④径	233	⑥延	355	③指	166
	⑤舌	327	③助	175	⑤応	291	③事	167	④英	219	⑥忠	396	③持	168
	⑥危	360	③医	145	⑤志	314	③使	165	④芽	221	⑥拡	357	③拾	172
	⑥吸	361	③君	159	⑤快	295	3具	159	④念	268	⑥若	378	③昭	176
	⑥后	369	③坂	198	⑤技	299	③取	170	④果	220	<b>⑥</b> 拝	402	3柱	188
	⑥存	392	③対	184	⑤条	321	③受	171	4松	249	⑥担	393	③洋	209
	⑥宇	355	③局	157	⑤災	310	3味	205	④毒	267	⑥枚	410	③炭	186
	⑥宅	393	3役	206	⑤状	321	③和	213	④ 泣	229	⑥沿	356	③界	150
	6机	360	③投	192	⑥乱	413	③命	205	④治	246			③ 灶田	196
	⑥灰	356	③決	160	697	414	③ 委	145	④法	275	9 🖪		③発	197
	⑥至	375	③返	204	⑥否	404	③始	166	④牧	276			③県	161
			3 究	154	⑥困	372	③実	168	④的	264	①草	66	③研	161
	7 個		③豆	192	⑥孝	369	③定	190	⑤ 価	293	①音	71	③相	182
			③身	178	⑥忘	409	③岸	153	⑤券	304	②前	132	③神	179
	①足	54	④位	217	⑥我	356	③幸	163	⑤ 舎	317	②南	94	③秒	201
П	① 男	58	④低	263	⑥批	405	3所	174	⑤制	323	②室	124	③級	155
	①赤	78	4 児	246	⑥私	375	③放	204	⑤効	307	②後	132	③美	199
	①花	65	<b>④</b> 兵	273	⑥系	364	③苦	158	⑤妻	311	②思	103	③ 負	202
	①貝	68	④冷	283			③服	202	⑤居	300	②春	86	③重	173
	① <b>村</b>	76	④初	249	8 i	劃	③昔	181	⑤往	291	②茶	130	③面	205
	①町	76	④别	274			③板	198	⑤性	323	②昼	89	④便	275
	①車	71	④利	280	10 金	48	③注	188	⑤承	320	②星	90	④信	252
	①見	83	④努	265	①学	72	③波	195	⑤述	318	②海	92	④ 勇	279
	②何	115	④ 労	285	①青	79	③泳	147	⑤招	320	②活	130	<b>④型</b>	234
	②作	109	④告	238	① 林	61	③油	207	⑤易	290	②点	113	④変	274
	②体	100	④ 囲	217	①空	63	③物	203	⑤枝	314	②秋	86	④单	261
	②図 ②声	108	④完	224 226	①雨	63 122	③者	169	⑤武	343 294	②科	107	<b>④</b> 建	235
	②売	140	④折	254	②国	106	③表	200	⑤版	339	②計	115	④栄	219
	②弟	99	④ 芸	234	②夜	89	4例	283	多肥	340	②食	130	④浅	255
	②形	112	1	222			4典	264	- 12		②首		鱼省	252
	②近	133		240		99		241	⑥並	406		177	1 -	248
	②来	139		258		92		231	6乳	401		159		227
	②汽	125		229		123		259		362		201	<b>④</b> 約	278
	②社	108		251	②明	90	A.	242	6刻	371		154		279
	②角	114		281	②東	94		248		368		149		233
	0 /1		1			- '	101		1	500	T.		-	

音訓さくいん

t	①六 42				②矢 126		⑥遺 354
tu	①六 42		6		③屋 149	ユウ	②友 100
むかう	③向 162	_			②家 123		①右 51
むかし	③昔 181	モ	6模411	ヤク	③役 206		③由 207
むぎ	②麦 129	モウ	⑥亡 409		④約 278		③有 207
むく	③向 162		②毛101		⑤益 290		④勇 279
むくいる	⑤報 346		④望 276		⑥訳411		⑥郵3412
むける	③向 162	もうける	⑤設 326		③薬 206		③遊 208
むこう	③向 162	もうす	③申 178	やく	④焼 250		⑥優412
むし	①虫 67	もえる	⑤燃 337	やける	④焼 250	ゆう	④結 235
むす	⑥蒸 384	モク	①木 48	やさしい	⑤易 290	ゆう	①夕 65
むずかしい			①目 55		⑥優 412	ゆえ	⑤故 306
むすぶ	④結 235	もしくは	⑥若 378	やしなう	④養 279	ゆき	②雪 88
むつ	①六 42	もす	⑤燃 337	やしろ	②社 108	10 (	②行138
むっつ	1 42	もちいる	②用 131	やすい	③安144	ゆたか	⑤豊 346
むな	⑥胸 362	モツ	③物 203	やすまる	①休 82	ゆび	③指 166
むね	⑥胸 362	もつ	③持 168	やすむ	①休 82	ゆみ	②号 126
むら	①村 76	もっとも	④最 240	やすめる	①休 82	ゆめ	⑤夢 348
	⑤群 302	もっぱら	⑥専 388	too	①/\ 43	ゆるす	⑤許 301
むらす	⑥蒸 384	\$2	①下 50	やっつ	①/\ 43	ゆわえる	④結 235
むれ	⑤群 302		②元 97	45%	③宿174		
むれる	⑥蒸 384		①本 75	やどす	③宿 174		よ
	⑤群 302		⑤基 298	やどる	③宿 174		
むろ	②室 124	もとい	⑤基 298	やぶる	⑤破 338	3	③子 208
		もとめる	④求 229	やぶれる	⑤破 338		⑤余 349
	め	もの	③物 203		④敗 268		⑤預 349
			③者 169	やま	①山 60	1	③世 180
め	①女 58	もやす	⑤燃 337	やまい	③病 201		③代 185
	①目 55	もり	③守170	やむ	③病 201		①四 41
	④芽 221	もり	①森 61	やめる	④辞 246		②夜 89
*1	①名 59	もる	⑥盛387	やわらぐ	③和213	tu	④良 281
	③命 205	モン	①文 74	やわらげる	③和213		⑥善 389
	②明 90		②門 124			ヨウ	⑥幼 412
	⑤迷 348		③問 206	ks	b		②用 131
	⑥盟 411		②聞 105				③羊 208
	②鳴 128			ュ	③由 207		③洋 209
めし	④飯 269		*		③油 207		④要 279
メン	③面 205				③遊 208		⑤容350
	⑤綿 348	ャ	②夜 89		⑤輸 349		③葉 209
			②野 91	rp	③湯 193		③陽 209
		40	①/\ 43	21	③由 207		③様 210

<b>瓜姜 270</b>	ラン	@F  412		(本) 282		
	1					
				0年品 415		2
		⑥复414				@ <b>1</b>
				<u>ර</u>	7	③和 213
						②話 104
-			12	,	わ	⑥我 356
	ŋ					④輪 282
		-	ルイ	④類 282		⑥若 378
⑤寄 298		②理 107			わかつ	②分 95
⑥装 391		⑥裏 414		れ	わかる	②分 95
①四 41	リキ	①力 70			わかれる	②分 95
①四 41	117	④陸 280	レイ	④ 今 282	わかれる	④另门 274
⑥呼 368	リチ	⑥律415		③末し212	わけ	6訳411
②読 105	リツ	①立 82		④冷 283	わける	②分 95
⑤因 288		⑥律 415		④例 283	わざ	⑤技 299
⑤寄 298		⑤率 331	レキ	④歴 283		③業 157
②夜 89	リャク	⑤略 351	レツ	③列 212	わざわい	⑤災310
④喜227	リュウ	①立 82	レン	④連 284	わすれる	⑥忘 409
②弱 136		③流 210		③練 212	わた	⑤綿 348
②弱 136		⑤留 351			わたくし	⑥私 375
②弱 136	リョ	③旅 211		ろ	わらう	④笑 249
②弱 136	リョウ	③両211			わらべ	③童 194
①四 41		④良 281	D	③路 213	わり	⑥割 358
		④料 281	ロウ	④老 285	わる	⑥割 358
9		④量 281		④労 285	わるい	③悪 144
		⑤領 351		⑥朗 415	われ	⑥我 356
③礼212		④漁 230	ロク	1 42	われる	⑥割 358
②来 139	リョク	①力 70		③緑211		
③落210		③緑211		④録 285		
②楽 110	リン	①林 61	ロン	⑥論 416		
	①四 41 ① 10 41 ⑥ 368 ② 298 ② 298 ② 298 ② 298 ② 298 ② 298 ② 298 ② 298 ② 298 ② 298 ③ 36 ② 298 ③ 36 ③ 36 ③ 36 ③ 36 ③ 37 ④ 37 ③ 37 ③ 37 ③ 37 ③ 37 ③ 37 ③ 37 ③ 37 ④ 37 ⑥ 37 ⑥ 37 ⑥ 37 ⑥ 37 ⑥ 37 ⑥ 37 ⑥ 37 ⑥	②曜 76 ① 1 280 ⑥ 3 413 ⑥ 3 6 413 ⑥ 3 6 413 ⑥ 3 6 5 207 ⑤ 5 88 ⑥ 9 1 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	②曜 96 ① 1 43 ④ 1 43 ④ 1 43 ⑥ 280 ⑥ 6 3 413 ⑥ 3 横 148 り 41 220 ② 2理 107 ⑥ 5 表 391 ① 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	②曜 96 ① 1 43 ④ 1 6 1 4 1 4 6 1 4 1 4 6 1 4 1 4 6 1 4 1 4	②曜 96 ①八 43 ④浴 280 ⑥欲 413 ⑥愛 413 ③横 148 リ ④利 280 ②里 122 ②理 107 ⑥装 391 ①四 41 リキ ①力 70 ①四 41 リク ④陸 280 ⑥呼 368 リチ ⑥律 415 ②読 105 リツ ① 金 282 ⑥ 415 ② 5 388 ⑥ 3 351 レイ ④令 282 ⑥ 6 415 ② 5 388 ⑥ 7 298 ② 7 リュウ ① 立 82 ② 89 リャク ⑤ 略 351 レキ レツ ④極 283 ② 夜 89 リャク ⑤ 略 351 レウ	②曜 96 ① 1

ハン	③反 197	ひくまる	④低 263	ヒン	③品 201	ふた	① _ 40
	②半118	ひくめる	④低 263		⑤貧 342	ふだ	④ 木し 241
	⑤月已 338	ひける	23   140	ピン	④便 275	ふたたび	⑤再310
	⑤半月 339	ひさしい	⑤久300		⑤貧342	ふたつ	1 _ 40
	③坂 198	ひたい	⑤額 296			ブツ	5/4 344
	③板 198	ひだり	①左 51		કે. <u> </u>		③物 203
	⑤版 339	ヒツ	④火 270			ふて	③筆 200
	⑥到王 404		③筆 200	フ	④不271	113.6	②太 135
	④飯 269	ひつじ	③羊 208		④夫 272	3.23	②太 135
バン	②万 117	ひと	1 40		②父 98	ふな	②船 125
	⑤半1] 339		①人 57		④付 272	sita	②船 125
	③板 198	ひとしい	③等 194		⑤布 342	3.24	①文 74
	6晚 404	ひとつ	1- 40		④府 272	ふやす	⑤增 329
	②番 118	ひとり	⑤独 337		②歩 138	طارني	②冬 87
		ひめる	⑥秘 405		③負 202	3.3	⑥降 370
	O	U43	④冷 283		②風 87	3.311	②古 134
		ひやかす	④冷 283		⑤婦 342	ふるう	⑥奮 406
t	⑤比 340	ヒャク	①百 45		⑤富343	ふるす	②古 134
	③皮 198	ビャク	①白 78	ブ	④不271	フン	②分 95
	⑥否 404	ひやす	④冷 283		②分 95		④粉 273
	⑥ 排比 405	ヒョウ	③ 方人 200		②歩 138		⑥奮 400
	⑤肥 340		④兵 273		⑤武 343	ブン	①文 74
	⑤非 340		③表 200		③部 202		②分 95
	④飛 269		⑤俵 341		④無 278		②聞 105
	⑥秘 405		④票 271	フウ	④夫 272		
	③悲 199		⑤評 341		②風 87		^ T
	④費 270		④標 271		⑤富343		
v	①日 46	ビョウ	③平 203	ふえ	③笛 190	~	④辺 27
	①火 47		③秒 201	ふえる	⑤增 329	~1	③平 200
	③水 200		③病 201	ふかい	③深 179		④兵273
	④灯 265	ひら	③平 203	ふかまる	③深 179		⑥並 400
Ľ	③美 199	ひらく	③開 151	ふかめる	③深 179		⑥陛 40
	⑤備 341	ひらける	③開 151	フク	③服 202		③病 20
	③鼻 199	V3	⑥干 358		④副 273		⑥閉 40
ひえる	①冷 283		②昼 89		⑤復343	~1	②米 12
ひがし	②東 94		②広 137		③福 203	ベツ	④另1] 274
ひかり	②光 87		③拾 172		⑥腹 405	~1=	⑥紅 370
ひかる	②光 87	ひろがる	②広 137		⑤複 344	へらす	⑤減30
ひきいる	⑤率 331	ひろげる	②広 137	ふける	④老 285	~3	⑤経30
V (	23   140		②広 137	s.L	④節 255		⑤減 30
ひくい	④任 263		②広 137	ふせぐ	⑤防 346	ヘン	⑥片 40

	4 27 274	ほす	⑥干 358	まじる	②交 120	みえる	①見 83
	③远 204	ほそい	②細 135		⑤混309	みき	⑤幹 297
	④变 274	ほそる	②細 135	まじわる	②交 120	みぎ	①右 51
	⑤編 344	ホツ	③発197	ます	⑤增 329	みさお	⑥操 391
ベン	⑤弁 345	ホッ	④法 275	まずしい	⑤貧342	みじかい	③短 186
	④便 275	ほっする	⑥欲 413	まぜる	②交 120	みず	①7K 47
	③勉 204	ほど	⑤程 334		⑤混 309	みずうみ	③湖 162
		ほとけ	5/4 344	まち	①町 76	みずから	·②自100
(	<b>.</b>	ほね	⑥骨 371		④街 223	みせ	②店 123
		ホン	③反 197	マツ	④末 276	みせる	①見 83
ホ	②歩 138		①本 75	まつ	④松 249	みたす	④満 277
	⑤保 345			まつ	③待 185	みだす	⑥乱 413
	⑥補 407	3	<b>*</b>	まったく	③全 181	みだれる	⑥乱 413
II	①火 47			まつり	③祭 164	みち	②道 120
ボ	②母 98	ŧ	①目 55	まつりごと	⑤政 324	みちびく	⑤ 導 336
	⑤墓 345		③真179	まつる	③祭 164	みちる	④満 277
	⑥暮 408		②馬 127	まと	④的 264	ミツ	⑥密 410
	6模411		②間 97	まど	⑥窓 390	20	①三 41
ホウ	②方 121	71	②毎 117	まなこ	⑤眼 297	みつつ	①三 41
	④包 275		②米 129	まなぶ	①学 72	みとめる	⑥認 40
	⑥宝 408		②妹 99	まねく	⑤招 320	みどり	③緑 211
	③放 204		⑥枚 410	まめ	③豆 192	みなと	③港 163
	④法 275	まいる	④参 242	まもる	③守170	みなみ	②南 94
	⑥訪 408	まえ	②前 132	まよう	⑤迷 348	みなもと	⑥源 367
	⑤報 346	まかす	③負 202	まる	②丸113	203	③実 168
	⑤豊 346	まかす	⑤任 337	まるい	②丸113	2,2,	①耳 55
ボウ	⑥亡409	まかせる	⑤任 337		①円 79	みや	③宮 155
	⑤防 346	まがる	③曲 157	まるめる	②丸113	ミャク	④脈 27
	⑥忘 409	まき	④牧 276	まわす	②回117	みやこ	③都 19
	④望 276		⑥巻 359	まわり	④周 248	ミョウ	①名 59
	⑤貿 347	マク	⑥幕 410	まわる	②回117		③命 205
	⑥棒 409	まく	⑥卷 359	マン	②万 117		②明 90
	⑤暴 347	まける	③負 202		④満277	43	①見 83
ほか	②外 133	まげる	③曲 157			ミン	④民 278
ほがらか	⑥朗 415	まご	④孫 259	3	<b>*</b>		
ホク	②北 95	まこと	⑥誠 387				5
ボク	①木 48	まさ	①正 80	1	④未277		
	①目 55	まさる	③勝 177		③味 205	4	⑤武 34
	④牧 276	まざる	②交 120	4	①三 41		⑤務 347
ほし	②星 90		⑤混309		③身178		④無 278
ほしい	⑥欲 413	まじえる	②交 120		③実 168		⑤夢 348

	③定 190	トウ	②刀 126		⑤徳 336		⑥納 401
	④底 263		②冬 87		②読 105	な	①名 59
	③庭 190		②当 118	٧ <	⑤解 295		④菜 240
	④停 263		④灯 265		④說 255	ナイ	②内 132
	⑤提 334		③投192	24	③研 161	ない	⑥亡409
	⑤程 334		③豆 192	ドク	①毒 267		④無 278
テキ	④的 264		②東 94		⑤独 337	なおす	④治246
	③笛 190		③島 193		②読 105		②直 114
	⑤適 335		⑥党 399	とける	⑤解 295	なおる	④治246
	⑤敵 335		⑥納 401	23	⑤常 322		②直114
テツ	③鉄 191		⑥討 399	ところ	③所 174	なか	①中 52
てら	②寺 123		③湯 193	とざす	6閉 407		④仲 261
てらす	4 昭 251		③登 193	21	①年 59	ながい	⑤疗 289
てる	④照 251		③等 194	とじる	6閉 407		②長 136
でる	①出 81		②答115	224	⑥届 400	ながす	③流 210
てれる	4照 251		②道 120	とどける	⑥届 400	なかば	②半 118
テン	①天 64		⑤統 335	ととのう	③調 189	ながれる	③流 210
	④典 264		⑥糖 399		③整 181	なく	④ 注 229
	②店 123		②読 105	ととのえる	③調 189		②鳴 128
	②点 113		②頭 101		③整 181	なげる	③投 192
	⑥展 398	とう	③問 206	となえる	④唱250	なごむ	③和213
	③転 191	ドウ	②同 137	とばす	④雅 269	なごやか	③和213
デン	①田 62		③動 194	2.3:	④飛 269	なさけ	⑤情 322
	④伝 264		④堂 266	とまる	②止 139	なす	④成 252
	②電 116		③童 194		⑤留 351	なつ	②夏 86
			②道 120	とみ	⑤富 343	ナッ	⑥納 401
	ح		④働 266	とむ	⑤富 343	なな	①七 43
			⑤銅 336	とめる	②止 139	ななつ	①七 43
1	①土 49		⑤ 導 336		⑤留 351	なに	②何115
	②図 108	とうとい	⑥ 尊 393	28	②友 100	なの	①七 43
	③度 192		⑥貴 361		④共 231	なま	①生 73
	④徒 265	とうとぶ	⑥ 尊 393		⑥供 362	なみ	③波 195
	③都 191		⑥貴 361	27	②鳥 128		⑥並 406
	③登 193	とお	1+ 44	23	③取 170	ならう	③習 172
	②頭 101	とおい	②遠 133		⑤採311	ならす	②鳴 128
2	①十 44	とおす	②通 120	トン	⑤ 団 332		⑤慣 297
	②戸 124	とおる	②通 120	とん	③問 206	ならびに	⑥並 406
F	①土 49	とかす	⑤解 295			ならぶ	⑥並 406
	④努 265	とき	②時 95	7.	1	ならべる	⑥並 406
	③度 192	トク	④特 266			なる	④成 252
211	③問 206		④得267	+	②南 94		②鳴 128

なれる	⑤慣 297	ねがう	④願 226	バ	②馬 127	はしら	③柱 188
ナン	①男 58	ネツ	④ 熱 267	ば	②場 121	はしる	②走 138
	②南 94	ねる	③練 212	111	⑥拝 402	はずす	②外 133
	6納401	ネン	①年 59		③配 195	はずれる	②外 133
	⑥難 400		④念 268		⑥背 403	はた	③灶田 196
なん	②何 115		④然 256		6肺 403		④旗 227
			⑤燃 337		⑥俳 403		④機 228
	12				④敗 268	はたけ	③灶田 196
			カ	はい	⑥灰 356	はたす	④果 220
=	① 40			パイ	②売 140	はたらく	④働 266
	⑥仁 385	0	②野 91		③倍 196	ハチ	①/\ 43
	④児 246	ノウ	⑥納 401		④梅 268	127	③発 197
1=	③荷 150		⑤能 338		②買 140	はつ	④初 249
tern	②新 135		⑥脳 402	はいる	①入 81	1 117	④法 275
にかい	③苦 158		③農 195	はえ	④栄 219	ノマツ	④末 276
にからる	③苦 158	のこす	④残 243	はえる	①生 73	はて	④果 220
ニク	②肉 129	のころ	④残 243		④栄219	はてる	④果 220
EL	②西 94	のせる	③乗 177		6映355	はな	①花 65
二千	①日 46	のぞく	⑥除 383		⑤墓 345		③鼻 199
になう	⑥担 393	のぞむ	④望 276	1	③化 150		②話 104
ニャク	⑥若 378		6臨415		⑥鋼 370	はなす	③放 204
ニュウ	①入 81	のち	②後 132	はからう	②計115		②話 104
	⑥乳 401	のばす	⑥延 355	はかる	②図 108		③放 204
==	①女 58	のびる	⑥延 355		②計115		③放 204
ニョウ	①女 58	のべる	⑥延 355		⑤測 330	はね	②羽 128
にる	⑤似316		⑤述 318		④量 281	はは	②母 98
にわ	③庭 190	のほす	①上 50	ハク	①白 78	はぶく	④省 252
ニン	①人 57	のほせる	①上 50		④博 269	はやい	①早 80
	⑤任 337	のほる	①上 50	バク	②麦 129		③速 183
	⑥認401		③登 193		④博 269	はやし	①林 61
		のむ	③飲 147		⑥幕 410	はやす	①生 73
	ぬ	03	③乗 177		⑤暴 347	はやまる	①早 80
			_	はげしい	⑥激 365	はやめる	①早 80
pl	③主 169		<b>ま</b>	ばける	③化 150		③速 183
ねの	⑤布 342		1	はこ	③箱 196	はら	②原 91
		/\	③波 195	はこぶ	③運 147		⑥腹 405
	ね		⑥派 402	はし	③橋 156	はらす	②晴 88
,	O # -:		⑤破 338	1	③始 166		⑥針 385
ね	①音 71	は	②羽 128		④初 249	はる	⑤張 333
	⑥值 395		③葉 209	1	④初 249	はる	②春 86
	③根 164		③歯 166	はじめる	③始 166	はれる	②晴 88

	0T 10				@ B 220		@ 4 10E
	①石 68	_	7.		⑤属 330		②台 125
	①赤 78		そ	2 7	④続 258		③対 184 ②体 100
	③昔 181	.,	िरंग २००	そこ	④底 263		
	④席 254	7	5祖 328	そこなう	⑤損 331		③待 185
	⑤責 325		⑤素 328		⑤損 331		⑤退331
	④積 254		②組 119		③注 188		④帯 260
	⑤績 326		③想 182		③育 146		⑤貸 332
せき	④関 225	ソウ	①早 80	そだてる	③育 146		④隊 260
セチ	④節 255		④争 257	ソツ	④卒 259	and a	⑤熊 332
セツ	②切 141		②走 138		⑤率 331	41	①大 52
	④折 254		⑥宗 379	そと	②外 133		②内 132
	④殺 242		⑥奏 390	そなえる	⑥供 362		③代 185
	⑤接 326		③相 182		⑤備 341		②台 125
	⑤設 326		①草 66		⑤備 341		②弟 99
	②雪 88		③送 182		② 東 93		③第 185
	④節 255		④倉 257	そまる	6染389		③題 186
	④說 255		④巢 257	そむく	⑥背 403	たいら	③平 203
ゼツ	⑤舌 327		⑥窓 390		⑥背 403	たえる	⑤絶 327
	⑤絶 327		⑥創 390	そめる	④初 249	たか	②高 137
ぜに	⑤銭 327		⑥装 391		⑥染 389	たかい	②高 137
せめる	⑤責 325		③想 182	そら	①空 63	たかまる	②高 137
せる	4競 232		⑥層 391	そらす	③反 197	たかめる	②高 137
セン	①千 45		⑤総 328	23	③反 197	たがやす	⑤耕 308
	①]] 60		⑥操 391	ソン	⑥存 392	たから	⑥宝 408
	①先 73		⑥沿356		①村 76	97	⑥宅 393
	⑥宣 388	ゾウ	⑤造 329		④孫 259		③度 192
	⑥専 388		④象 250		⑥ 尊 393	たけ	①竹 66
	⑥染 389		⑤像 329		⑤損 331	たしか	⑤確 296
	④浅 255		⑤增 329	ソン	⑥存392	たしかめる	⑤確 296
	⑥洗 389		⑤雑313			たす	①足 54
	⑥泉 388		⑥蔵 392		た	だす	①出 81
	②船 125		⑥臓 392			たすかる	③助 175
	④戦 256	そうろう	④候 237	9	②太 135	たすける	③助 175
	⑤銭 327	ソク	④東 258		③他 184	たずねる	⑥訪 408
	②線113		①足 54		②多134	たたかう	④戦 256
	④選 256		⑤則 330	た	①手 54	ただしい	①正 80
ゼン	③全 181		③息 183		①田 62	ただす	①正 80
	②前 132		③速 183	7	③打 184	ただちに	②直114
	⑥善 389		④側 258	91	①大 52	タツ	④達 260
	④然 256		⑤測 330		②太 135	たつ	①立 82
	. , , ,	17	③族 183		③代 185		④建 235

	⑤迷介 333		⑥段 394	チョウ	③丁 188	つくる	②作109
	⑤絶 327		⑤断 333		6庁 397		⑤造 329
	⑥裁 373		⑥暖 395		④ 沙长 262	つける	④付 272
たっとい	⑥ 尊 393		③談 187		①町 76		⑥就 379
	⑥貴 361				②長 136		③着 187
たっとぶ	⑥ 尊 393		5		③重 173	つげる	④告 238
	⑥貴 361				③帳 189	つたう	④伝 264
たて	⑥縦 380	+	②地 121		⑤張 333	つたえる	④伝 264
たてる	①立 82		②池 93		⑥頂 397	つたわる	④伝 264
	④建 235		④治246		②鳥128	つち	①土 49
たとえる	④例 283		②知116		②朝 89	つづく	④続 258
たに	②谷 92		⑥值 395		④腸 262	つづける	④続 258
たね	④種 247		④置 261		⑥潮 397	つつむ	④包 275
たのしい	②楽 110		⑤質 317		③調 189	つどう	③集 173
たのしむ	②楽 110	ち	①千 45			つとまる	⑥勤 363
たば	④東 258			ちらかす	④散 243	つとめる	④努 265
たび	③度 192		⑥乳 401	ちらかる	④散 243		⑤務 347
	③旅 211	ちいさい	①/]\ 53	ちらす	④散 243		⑥勤 363
たべる	②食130	ちかい	②近 133	ちる	④散 243	つね	⑤常 322
たま	①王 69	ちから	①力 70	チン	⑥賃 398	20	②角 114
	③球 156	チク	①竹 66			つま	⑤妻 311
たまご	⑥印 414		⑤築 333		2	つみ	⑤罪 312
たみ	④民 278	ちち	②父 98	:		つむ	④積 254
ためす	④試 245		⑥乳 401	ツ	_	つめたい	④冷283
たもつ	⑤保345		⑥縮 381			つもる	④積 254
たやす	⑤絶 327		⑥縮 381	ツイ	③対 184		②強 136
たより	④便 275	ちぢめる	⑥縮 381		③追 189		②強 136
たらす	⑥垂 386	ちぢらす	⑥縮 381	ついえる	④費 270	つよめる	②強 136
たりる	①足 54	ちぢれる	⑥縮 381	ついやす		つら	③面 205
たる	①足 54		②茶 130	ツウ	②通 120		④連 284
たれる	⑥垂 386		③着 187		⑥痛 398		④連 284
たわら	⑤俵 341	チュウ	①中 52		③使 165	つれる	④連 284
タン	③反 197		④仲 261		③仕 165		
	⑥担 393		①虫 67		①月 46		て
	④単261		③注 188		③次 167	_	04 -
	③炭 186		⑥忠 396	つく	④付 272	て	①手 54
	⑥探 394		⑥宙 395		⑥就 379	デ	②弟 99
	③短 186		②昼 89	01:	③着 187	テイ	③丁 188
ダン	⑤过 332	チョ	③柱 188	つぐ	③次 167		④低 263
1	①男 58	73	⑥著 396	013	⑤接 326		②弟 99
	①为 58		④貯 262	つくえ	⑥机 360		②体 100

	②算 106	ジ	③仕 165		②室 124	-	⑥従 380
ザン	④残 243		⑤示 316		⑤質 317		⑤授318
			②地 121	ジツ	①日 46		⑥就 379
	L		①字 74		③実 168		⑥樹 378
			②寺 123	ジッ	1+ 44	シュウ	⑥以又 379
シ	④士 244		③次 167		③品 201		③州 171
	①子 57		①耳 55		③死 165		④周 248
	⑤支 314		②自100	しま	③島 193		⑥宗 379
	②止 139		④児 246	しまる	⑥閉 407		③拾 172
	④氏 244		⑤似316	しみ	⑥染 389		④祝 248
	③仕 165		③事 167	しみる	⑥染 389		②秋 86
	④史 244		④治246	しめす	⑤示316		⑤修318
	④司 245		③持 168	しめる	⑥閉 407		③終 172
	①四 41		②時 95	Lŧ	①下 50		③習 172
	②市 122		⑥除 383	シャ	③写 169		②週 96
	⑤示 316		④辞 246		②社 108		⑥就 379
	②矢 126		⑥磁 377		①車 71		⑥衆 380
	③次 167	ľ	③路 213		③者 169		③集 173
	③死 165	しあわせ	③幸 163		⑤舎317	ジュウ	①十 44
	①糸 70	しいる	②強 136		⑥尼少 372		③住 173
	②自100	しお	④塩219		⑥射 377		③拾 172
	⑥至 375		⑥潮 397		⑥捨 377		③重 173
	⑤志 314	シキ	③式 168		⑤謝317		⑥従 380
	⑥私 375		②色 111	シャク	⑥尺 378		⑥縦 380
	③使 165		⑤織 322		①石 68	シュク	④祝 248
	②姉 99		⑤識 316		①赤 78		③宿 174
	③始 166	ジキ	②直 114		③昔 181		⑥縮 381
	⑤枝 314		②食130		④借 247		⑥熟 381
	⑥姿 375	しず	④静 253	ジャク	⑥若 378		①出 81
	②思 103		④静 253		②弱 136	ジュツ	⑤述 318
	③指 166		④静 253		③着 187		⑤術 319
	⑤師 315	しずめる	④静 253	シュ	①手 54	シュン	②春 86
	②紙 111	した	①下 50		③主 169	ジュン	⑥純 381
	⑥視 376		⑤舌 327		③守170		④順 248
	⑥詞 376		⑥従 380		③取 170		⑤準319
	③歯 166				②首 102	ショ	⑥处 382
	④試 245	したしい	②親 97		⑤修 318		④初 249
	③詩 167		②親 97		③酒 171		③所 174
	⑤資315	シチ	①七 43		⑥衆 380		②書 105
	⑤飼 315	2	⑤質 317	,.	④種 247		③暑 174
	⑥誌 376	シツ	④失 247	ジュ	③受 171		⑥署 382

	- 211		- H		01		- 15
	⑥諸 382		⑤条 321		⑥仁 385	すまう	③住 173
ジョ	①女 58		⑤状 321		④臣 251	すます	⑥済 373
	③助 175		③定 190		③神 179	すみ	③炭 186
	⑤序 320		⑥城 384			すみやか	③速 183
	⑥除 383		③乗 177	3		すむ	③住 173
ショウ	①上 50		⑤常 322				⑥済 373
	①/] 53		⑤情 322	ス	①子 57	する	④刷 241
	②少 134		⑥盛 387		③主 169	すわる	⑥座 372
	①IE 80		②場 121		③守170	スン	⑥寸 386
	①生 73		⑥蒸 384		⑤素 328		
	②声 102		④静 253		②数 107		<u>*</u>
	⑤承 320	ショク	②色 111	す	③州 171		
	⑤性 323		②食130		④巢 257	セ	③世 180
	⑤招 320		③植 178	ズ	②図 108	せ	⑥背 403
	①青 79		⑤織 322		③豆 192	セイ	③世 180
	④松 249		⑤職 323		③事 167		①IE 80
	⑤政 324	16	①白 78		②頭 101		①生 73
1	③昭 176	しらべる	③調 189	スイ	①水 47		④成 252
	③相 182	しりぞく	⑤退 331		①出 81		②西 94
	②星 90	しりぞける	⑤混 331		⑥垂 386		②声 102
1	④省 252	13	②知116		⑥推 386		⑤制 323
	⑥将 383	しるし	<b>€</b> F7 218	すい	⑤酸 313		⑤性 323
-	③消 176	しるす	②記 104	スウ	②数 107		①青 79
	⑥従 380	しろ	③代 185	すう	⑥吸 361		⑤政 324
	④笑 249		①白 78	すえ	④末 276		②星 90
	④唱250		⑥城 384	すがた	⑥姿 375		④省 252
	③商 176	しろい	①白 78	すぎる	⑤過 294		⑤情 322
	④清 253	シン	2/2 102	すく	④好 237		④清 253
1	③章 177		③申 178	すくう	④救 229		⑥盛 387
	③勝 177		④臣 251	すくない	②少 134		②晴 88
	④焼 250		③身 178	すぐれる	⑥優 412		⑤勢 324
	⑥装 391		①信 252	すけ	③助 175		⑥聖 387
	⑤証 321		③神 179		②少134		⑥誠 387
	④象 250		③真179		⑤過 294		⑤精 324
4	⑥傷 383		⑥針 385	すこやか	④健 236		⑤製 325
1	④照 251		③深 179		⑥筋 363		④静 253
	6障384		③進 180		③進 180		③整 181
	⑤精 324		①森 61		③進 180	せい	⑥背 403
	④賞 251		②新 135		⑥捨 377	ゼイ	⑤税 325
ジョウ	①上 50		②親 97		6年9372		④說 255
1	④成 252	ジン	①人 57	すべる	⑤統 335	セキ	① 9 65

	⑥勤 363	くらす	⑥暮 408		③軽 160		
	⑥筋 363	くらべる	⑤比 340		⑤境 301		<b>E</b>
	⑤禁 302	13	②来 139		⑥警 364		
ギン	③銀 158	くるしい	③苦 158		④競 232	2	⑥ 己 368
		くるしむ	③苦 158	ゲイ	④芸 234		②戸 124
	<b>&lt;</b>	くるしめる	③苦 158	ゲキ	⑥劇 365		③去 156
		くるま	①車 71		⑥激 365		②古 134
7	①九 44	くれない	⑥紅 370	けす	③消 176		⑥呼 368
	⑤久300	くれる	⑥暮 408	ケツ	④欠 235		④固 236
	① D 56	くろ	②黑 112		⑥穴 365		⑤故 306
	②I 109	くろい	②黒 112		③血 160		⑤個 306
	③区 158	くわえる	④力口 220		③決 160		③庫 162
	④ 1力 237	くわわる	④力口 220		④結 235		③湖 162
	⑤句 302	クン	③君 159		⑤潔 303	2	①子 57
	⑥供 362		4割 232	ゲツ	①月 46		①/]\ 53
	③苦 158	グン	④軍 233	けわしい	⑤険 304		①木 48
	⑥紅 370		④郡 233	ケン	①犬 67		④粉 273
	③宮 155		⑤群 302		⑤件303		②黄 112
	③庫 162				①見 83	ゴ	①五 42
7	③具 159	1			⑤券 304		②午 90
クウ	①空 63				④建 235		②後 132
くう	②食130	ケ	③作 150		③研 161		③期 154
グウ	③宮 155		⑤仮 293		③県 161		②語 106
13	①草 66		①気 64		④健 236		⑥誤 368
くすり	③薬 206		②家 123		⑤険 304		⑤護 307
くだ	④管 224	17	②毛 101		⑤検 304	コウ	① D 56
くださる	①下 50	ゲ	①下 50		②間 97		②工 109
くだす	①下 50		②外 133		⑥絹 366		②公 93
くだる	①下 50		②夏 86		⑥権 366		④ 1力 237
くち	① D 56		⑤解 295		⑥憲 366		②広 137
<1=	②国 106	ケイ	②兄 98		④験 236		②交 120
くばる	③配 195		②形 112	ゲン	②元 97		②光 87
くび	②首 102		⑥ 菜 364		②言 104		⑥后 369
くみ	②組 119		②京 122		⑤		③向 162
くむ	②組 119		④径 233		②原 91		④好 237
くも	②雲 88		③係 159		⑤現305		②考 103
16	④倉 257		④型 234		⑤眼 297		②行 138
	⑥蔵 392		②計115		⑤減 306		⑥孝 369
1611	③暗 144		⑤経 303		⑥源 367		⑤ 対 307
160	④位 217		⑥敬 364		⑥厳 367		③幸 163
くらう	②食 130		④景 234		④験 236		⑤厚307

	②後 132	こころみる	④試 245		⑤査 310	31	⑥割 358
	⑥皇 369	こころよい	⑤快 295		⑥标》372	さくら	⑤桜 292
	⑥紅 370	こたえ	②答115		④差 239	さぐる	⑥探 394
	④候 237	こたえる	②答115	ザ	⑥座 372	さけ	③酒 171
	⑥降 370	コツ	⑥骨 371	サイ	②才 103	さげる	①下 50
	①校 72	22	②言 104		②切 141		⑤提 334
	⑤格 295		③事 167		⑤再310	ささえる	⑤支 314
	⑤耕 308		⑥異 354		②西 94	さす	③指 166
	④航 238	ことわる	⑤断 333		⑤災 310		④差 239
	②高137	こな	④粉 273		⑤妻 311	さずかる	⑤授318
	④康 238	このむ	④好 237		⑤財 312	さずける	⑤授 318
	②黄112	こまか	②細 135		④殺 242	さだか	③定 190
	③港 163	こまかい	②細 135		⑤採 311	さだまる	③定 190
	⑤鉱308	こまる	⑥困 372		⑥済 373		③定 190
	⑤構 308	こめ	②米 129		③祭 164	さち	③幸 163
	⑤興309	こやし	⑤肥 340		②細 135	サツ	⑥冊 374
	⑥鋼 370	こやす	⑤肥 340		④菜 240		④木L 241
	⑤講 309		③転 191		④最 240		④刷 241
こう	③神179	ころがる	③転 191		⑥裁 373		④殺 242
ゴウ	③号 163		③転 191		⑤際311		④察 242
	②合114	ころす	④殺 242	ザイ	⑤在 312	サッ	①早 80
	②強 136	ころぶ	③転 191		④村 240	ザツ	⑤雑 313
	⑥郷 362	ころも	④衣 217		⑤財312		②里 122
	③業 157	こわ	②声 102		⑤罪 312	4	⑥裁 373
こえ	②声 102	コン	②今 96	1	③幸 163		③様 210
	⑤肥 340		⑥困 372	さか	③坂 198	さます	④冷 283
こえる	⑤肥 340		①金 48		⑤逆 299		④覚 223
こおり	③		④建 235		③酒 171	1	③寒 151
コク	①石 68		③根 164		⑤境 301	さめる	④冷 283
	④告 238		⑤混 309		④栄 219		④覚 223
	②谷 92	ゴン	②言 104	さがす	⑥探 394		③皿 164
	⑥刻 371		⑥勤 363		②魚 127		③去 156
	②国 106		⑥権 366		⑤逆 299	1	⑥障 384
	②黒 112		⑥厳 367	さかる	⑥盛 387	サン	①三 41
	⑥穀 371		-	さがる	①下 50		①山 60
ゴク	④極 232	2	ž.	さかん	⑥盛 387		④参 242
220	①九 44	12	a+ -	* *	①先 73		⑥蚕 374
ここのつ	①九 44	+	①左 51	サク	⑥册 374		④産 243
こころ	②/\(\tau\) 102		⑤再310		②作109		④散 243
こころざし	⑤志314		②作109		④昨 241		⑤酸 313
こころざす	⑤志 314		②茶 130		⑥策 373		⑤賛 313

おくれる	②後 132	おりる	①下 50		②回117		⑤確 296
おこす	③起 153		⑥降 370		⑥灰 356	かく	④欠 235
おこす	⑤與309	おる	④折 254		⑤快 295		②書 105
おごそか	⑥厳 367		⑤織 322		④改 222	ガク	①学 72
おこなう	②行 138	おれる	④扩 254		②海 92		②楽 110
おこる	③起 153	おろす	①下 50		③界 150		⑤額 296
おこる	⑤興 309		⑥降 370		④械 222	かける	④欠 235
おさない	⑥幼 412	おわる	③終 172		②絵110	かこう	④囲 217
おさまる	⑥以又 379	オン	①音 71		④街 223	かこむ	④囲 217
	④治246		⑤恩 292		③開 151	かざ	②風 87
	⑤修318		③温 149		③階 151	かさなる	③重 173
	⑥納 401		②遠 133		⑤解 295	かさねる	③重 173
おさめる	⑥以又 379	おんな	①女 58	かいい	①貝 68	かしら	②頭 101
	④治246			ガイ	②外 133	かす	⑤貸 332
	⑤修318	t	2		④害 222	かず	②数 107
	⑥納 401				④街 223	かぜ	②風 87
おしえる	②教 116	カ	①下 50	かいこ	⑥蚕 374	かぞえる	②数 107
おす	⑥推 386		③化 150	かう	②交 120	かた	②方 121
おそわる	②教 116		①火 47		②買 140		6片 407
おちる	③落 210		④力口 220		⑤飼315		②形 112
おっと	④夫 272		⑤可 293		③近 204		④型 234
おと	①音 71		⑤仮 293		②帰 139	かたい	④固 236
おとうと	②弟 99		②何 115		④省 252		⑥難 400
おとこ	①男 58		①花 65	かえる	③代 185		⑤敵 335
おとす	③落210		⑤価 293		④变 274		②形 112
おとずれる	⑥訪 408		④果 220	かえる	③		②刀 126
おなじ	②同 137		⑤河 294		②帰 139	かたまる	④固 236
おのおの	④各 223		②科 107		②顏 101	かためる	④固 236
おのれ	⑥己 368		②夏 86		④鏡 231	かたらう	②語 106
おび	④帯 260		②家 123		③係 159		②語 106
おびる	④带 260		③荷 150		③係 159	カツ	②活 130
おほえる	④覚 223		④貨 221		⑤限 305		⑥割 358
おも	③主 169		⑤過 294	カク	④各 223	かつ	③勝 177
111	③面 205		②歌 110		②角 114	カツ	②合114
おもい	③重 173		④課 221		⑥拡 357	ガツ	①月 46
おもう	②思103		①日 46		②画 109	ガッ	②合114
おもて	③表 200	ガ	⑥我 356		③客 154	かつぐ	⑥担 393
ولا دور	③面 205		②画 109		⑥革 357	かど	②角 114
おや	②親 97		④芽 221		⑤格 295		②門 124
およぐ	③泳 147	h /	⑤賀 294		④覚 223	かな	①金 48
おり	④折 254	カイ	②会 108		⑥閣 357	かなしい	③悲 199

かなし	む ③悲199		⑥簡 359	きえる	③消 176		④学 230
かなで	る ⑥奏 390	かん	③神 179	31	④利] 280		⑤許301
かなら	ず ④火 270	ガン	②丸113		⑤効 307	ギョ	②魚 127
かね	①金 48		②元 97		②聞 105		④漁 230
かぶ	⑥株 358		②岩 92	きこえる	②聞 105	きよい	④清 253
かまう	⑤構 308		③岸 153	きざし	④光 262	キョウ	②兄 98
かまえ	5 構 308		⑤眼 297	きざす	④ 沙长 262		④共 231
かみ	①上 50		②顔 101	きざむ	⑥刻 371		②京 122
-	③神 179		④願 226	きし	③岸 153		⑥供 362
	②紙 111	かんがえる	②考103	きず	⑥傷 383		④協 231
かよう				きずく	⑤築 333		⑥胸 362
から	①空 63	き		きせる	③着 187		②強 136
からだ	②体 100			きそう	4競 232		②教 116
かり	⑤仮 293	+	⑥己 368	きた	②北 95		⑥4郎 362
かりる	④借 247		①気 64	きたす	②来 139		⑤経 303
かるい	③軽 160	:	⑥危 360	きたる	②来 139		⑤境 301
かろや	か ③軽 160		⑥机 360	きぬ	⑥絹 366		③橋 156
かわ	①)]] 60		④希 226	きびしい	⑥厳 367		⑤與309
	③皮 198		②汽 125		③決 160		④鏡 231
	⑤河 294		④季 226		③君 159		④競 232
	⑥革 357		④紀 227	きめる	③決 160	ギョウ	②行 138
	④側 258		③起 153		③客 154		②形 112
かわす			②帰 139	ギャク	⑤逆 299		③業 157
かわる			②記 104	キュウ	①九 44	キョク	③曲 157
	④变 274		⑤基 298		⑤久300		③局 157
カン	⑥干 358		⑤寄 298		②号 126		④極 232
	⑤千月 296		⑤規 298		⑤旧 300		①玉 69
	④完 224		①喜 227		①休 82		④清 253
	④官 224		⑥揮 360		⑥吸 361		④清 253
	⑥巻 359		③期 154		④求 229	33	② 七刀 141
	⑥看 359		⑥貴 361		③究 154		③着 187
	③寒 151		①旗 227		④ 泣 229		②七刀 141
	②間 97		④器 228		③急 155		⑤際 311
	⑤幹 297		④機 228		③級 155		④極 232
	③感 152	*	①木 48		③宮 155		④極 232
	③漢 152		①生 73		④救 229	きわめる	③究 154
	⑤慣 297		②黄 112		③球 156		④極 232
	①管 224	ギ	⑤技 299		④給 230	キン	②今 96
	④関 225		⑤義 299	ギュウ	②牛127		⑤均301
	③館 153		⑥疑 361	キョ	③去 156		②近 133
	④観 225		④議 228		⑤居 300		①金 48

## 音訓さくいん

- ●このさくいんは、漢字を読みかたの五 十 音順にならべたものです。読みか たが同じ漢字は、画数順になってい
- ます。
  ●カタカナは音読み、ひらがなは訓読みてす。
  赤い字は送りがなてす。
  ・丸数字は、その漢字を学習する学年。

		The second					
		あげる	①上 50	あと	②後 132	the state of the s	⑥著 396
あ		8 67	④举 230	あな	⑥穴 365	あらわれる	③表 200
		あさ	②朝 89	あに	②兄 98	X 17 6	⑤現 305
アイ	④愛 216	あざ	①字 74	あね	②姉 99	ある	③有 207
あい	③相 182	あさい	④浅 255	あばく	⑤暴 347	72 3	⑤在 312
あいだ	②間 97	あし	①足 54	あばれる	⑤暴 347	あるく	②歩 138
あう	②会 108	あじ	③味 205	あびせる	④浴 280	あわす	②合114
	②合114	あじわう	③味 205	あびる	④浴 280	あわせる	②合114
あお	①青 79	あずかる	⑤預 349	あぶない	⑥危 360	アン	②行 138
あおい	①青 79	あずける	⑤預 349	あぶら	③油 207	T1	③安 144
あか	①赤 78	あそぶ	③遊 208	あま	①天 64	Marie T. James	④案 216
あかい	①赤 78	あたい	⑤価 293		①雨 63	andrest . All	③暗 144
あかす	②明 90	Jen 2. 7	⑥值 395	あます	⑤余 349		
あからむ	①赤 78	あたたか	③温 149	あまる	⑤余 349	U	
	②明 90	-	6暖395	あむ	⑤編 344	La la se de la constante de la	100
あからめる	①赤 78	あたたかい	③温 149	あめ	①天 64	1	④以入216
あかり	②明 90	1984	⑥暖 395	e n. i iii	①雨 63		④衣 217
あがる	①上 50	あたたまる	③温 149	あやうい	⑥危 360		④位217
	④举 230	4116111	⑥暖 395	あやつる	⑥操 391		③医 145
あかるい	②明 90	あたためる	③温 149	あやぶむ	⑥危 360		④进 217
あかるむ	②明 90	10	⑥暖 395	あやまち	⑤過 294		③委 145
あき	②秋 86	あたま	②頭 101	あやまつ	⑤過 294		⑤易 290
あきなう	③商 176	あたらしい	②新 135	あやまる	6誤368		④胃 218
あきらか	②明 90	あたり	43月274		⑤謝317		⑥異 354
アク	③悪 144	あたる	②当 118	あゆむ	②歩 138		⑤移 288
あく	①空 63	アツ	⑤圧 288	あらう	⑥洗 389		③意 145
	②明 90	あつい	⑤厚307	あらそう	④争 257		⑥遺 354
	③開 151		③暑 174	あらた	②新 135	いう	②言 104
あくる	②明 90		④熱 267	あらたまる	④改 222	いえ	②家 123
あける	①空 63	あつまる	③集 173	あらためる	④改 222	いかす	①生 73
	②明 90	あつめる	③集 173	あらわす	③表 200	1+	⑥域 354
	③開 151	あてる	②当 118	1-11-11	⑤現 305	いき	③息 183

	いきおい	⑤勢 324	いわう	④祝 248		⑤移 288	えらぶ	④選 256
Ŋ.,	いきる	①生 73	イン	②引 140	うつわ	④器 228	える	④得 267
3	17	③育 146		<b>4</b> € 7 218	うぶ	④産 243	エン	①円 79
	w	②行 138		⑤因 288	うま	②馬 127		⑥延 355
	いくさ	④戦 256		①音 71	うまれる	①生 73		⑥沿356
	wit	②池 93		③員 146		④産 243		②園 93
	いける	①生 73	De Kam	③院 146	うみ	②海 92		④塩219
	いさぎよい	⑤潔 303	an Ale	③飲 147	うむ	①生 73		②遠 133
	いさむ	④勇 279	00570			④産 243		⑤演 291
	we	①石 68	<b>أ</b>		うめ	④梅 268		
	いずみ	⑥泉 388	124 657		うやまう	⑥敬 364	ま ま	
	いそぐ	③急 155	ウ	①右 51	うら	⑥裏 414		
	いた	③板 198	156 14 11	③有 207	うる	②売 140	オ	③和 213
	いたい	⑥痛 398	W11-5	⑥宇 355		④得 267		③悪 144
	いただき	⑥頂 397	122 1/2	②羽 128	うれる	②売 140	お	①/]\ 53
	いただく	⑥頂 397	PREST FREE	①雨 63		⑥熟381	おいる	④老 285
	いたむ	⑥痛 398	うい	④初 249	うわ	①上 50	オウ	①王 69
	BAN	⑥傷 383	うえ	①上 50	うわる	③植 178	32 4 1	③央 148
	いためる	⑥痛 398	うえる	③植 178	ウン	③運 147	511 VI T	⑤応 291
	60.50	⑥傷 383	うお	②魚 127	ALCO V	②雲 88	1917 2700	⑤往 291
	いたる	⑥至 375	うかる	③受 171	The Thing	Asan	57 7 1	⑥皇 369
	イチ	1 - 40	うけたまわる		Ä	100		⑤桜 292
	いち	②市 122	うける	③受 171	1811	107.01	CC FILE	②黄 112
	いちじるしい	⑥著 396	うごかす	③動 194	I	②会 108	0.30	③横 148
	イツ	1 40	うごく	③動 194	Section 1	②回117	おう	①生 73
	110	①五 42	うし	②牛 127	100 To 1	②絵110	1000	③負 202
	1100	①五 42	うじ	④氏 244	え	③重 173	No military	③追 189
	112	①糸 70	うしなう	④失 247	エイ	⑤水 289	おえる	③終 172
	いとなむ	⑤営 289	うしろ	②後 132		③济 147	おお	①大 52
	いな	⑥否 404	うた	②歌 110	527	④英 219	おおい	②多 134
	11/2	①犬 67		②歌 110	477	④栄 219	おおいに	①大 52
	いのち	③命 205		⑥疑 361	1715	⑥映 355	おおきい	①大 52
	いま	②今 96	うち	②内 132	In part	⑤営 289	おおやけ	②公 93
	いもうと	②妹 99	うつ	③打 184	digita.	⑤衛 289	おかす	⑤ 犯 338
	113	①入 81	LAT SIX Y	⑥討 399	エキ	③役 206	おがむ	⑥拝 402
	1017	⑤居 300	うつくしい	③美 199	the Flori	⑤易 290	おぎなう	⑥補 407
	1662 July	④要 279	うつす	③写 169		⑤益 290	おきる	③起 153
	MILES IN	⑥射 377	THE STATE OF	⑥映 355	Pal Ve	⑤液 290	オク	③屋 149
	いれる	①入 81		⑤移 288	120	③駅 148		④億 220
	いろ	②色		③写 169	えだ	⑤枝 314	おく	④置 261
	いわ	②岩 92	The state of	⑥映 355	えむ	④笑 249	おくる	③送 182

#### 小学生の新レインボー漢字読み辞典

改訂カラー版

1970年2月20日 初 版 発 行 1990年2月10日 改訂新版第1刷発行 1996年1月10日 新 版 第 1 刷 発 行 2000年12月5日 改訂カラー版第1刷発行 2009年2月17日 改訂カラー版第13刷発行

 発 行 人
 岡 部 学

 編
 集
 学研辞典編集部

発 行 所 株式会社 学習研究社

〒141-8510 東京都品川区西五反田2-11-8

印刷 所 図書印刷株式会社製 本 所 図書印刷株式会社

この本に関する各種のお問い合わせは、次のところにご連絡ください。

●編集内容については TEL 03-6431-1603(編集部直通)

●在庫、不良品(落丁、乱丁)については TEL 03-6431-1199(出版販売部)

●それ以外のこの本に関するお問い合わせは下記まで。 文書は〒141-8510 東京都品川区西万反田2-11

文書は〒141-8510 東京都品川区西五反田2-11-8 学研お客様センター 『漢字読み書き辞典』係 電話は03-6431-1002(学研お客様センター)

© GAKKEN 1970 Printed in Japan 本書の無断転載、複製、複写(コピー)、翻訳を禁じます。 複写(コピー)をご希望の場合は、下記までご連絡ください。

日本複写権センター TEL 03-3401-2382 R(日本複写権センター委託出版物)

#### この辞典をつくった人

#### ●監修

石井庄司(文学博士)

#### ●指導・原稿執筆

永田光風(硬筆指導/元文教大学教授) 伊藤順子(東京都千代田区立麴町小学校教諭)

梅澤 実(鳴門教育大学助教授)

大村奈保美(辞典研究家)

金平純三(東京都狛江市立狛江第6小学校教諭)

北島春信(前成城学園初等学校校長)

熊谷之み子(東京都杉並区立井荻小学校教諭)

恋塚 稔(辞典研究家)

長岡 襄(漢字研究家)

西池和巳(「言語教育振興財団」理事)

本堂純子(東京都多摩市立西落合小学校教頭)

間中孝貴(元東京学芸大学附属世田谷小学校副校長)

山本茂男(森村学園初等部教諭)

#### ●装丁

吉田誠+稲垣直美(プリズマ)

●表紙・カバーイラスト

KUNTA

●紙面設計・イラスト・図版・写植

あん企画

EDメディアファクトリー

井手研二

クリエイティブ・ノア

田中晴美

ビット

#### ●写真・モデル

学研写真資料室

幸田果林

#### ●編集協力

(株)奎文館

えんぴつクラブ

莅户正人

プランナッツ

三宅真木

#### ●組版・製版・印刷

図書印刷株式会社

#### ●総括

市川俊男

#### ●編集

高田 浩

平田美穂

#### ●製作管理

近藤 肇

古代エジプトの絵文字 第 | 王朝, 紀元前3100年ごろ。ナルメル王の化粧板。



中国の甲骨文字 \* <sup>(1)</sup> \* 紀元前 1500年ごろ



アッシリアのくさび形文字 を いない 紀元前3000年ごろ

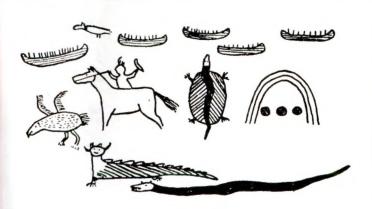


フランスのラスコーどうくつのへき画

| 万5000年ぐらい前



スペインのアルタミラどうくつのへき画



アメリカ先住民の絵文字

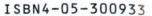






音

花



C6581 ¥1300E

531112

小学生の気がしています。

色

定価: 本体1,300円 \* 税が別に加算されます。 英和辞典





レインボー英和辞典 288ページ [増補改訂版・ワークつき]

288ページ

レインボー和英辞典 [増補改訂版・ワークつき]

レインボー英和・和英辞典

576ページ

[増補改訂版・ワークつき]









レインボー英会話辞典 [改訂新版·CD2枚つき]

176ページ

256ページ

レインボー英語図解百科



国際理解シリーズ

A5版 オールカラー・



レインボー世界の旅じてん 160ページ







新レインボー小学国語辞典 [スタンダード版] 1,392ページ

新レインボー小学国語辞典 1,392ページ [小型版]

新レインボー小学漢字辞典 864ページ [スタンダード版]

新レインボー小学漢字辞典 864ページ [小型版]













288ページ

296ページ

小学生の

新レインボー漢字書き方辞典 256ページ 小学生の

新レインボー「熟語」辞典

小学生の

新レインボー作文教室 368ページ 小学生の

新レインボー方言辞典

新レインボーことわざ辞典 304ページ

レインボーことば絵じてん 352ページ

[英語つき]

学研 出版営業部 合(03)3726-8161

装丁 吉田 誠+稲垣直美(プリズマ) カバー・イラスト KUNTA



オールカラー

監修石井庄司

